

穂高広域施設組合
新ごみ処理施設整備・運営事業に係る
事後調査報告書

令和4年6月

穂高広域施設組合

目 次

1. 事業の名称	1
2. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地	1
3. 報告対象期間	1
4. 対象事業実施区域	1
5. 対象事業の種類	1
6. 環境保全措置の実施状況	4
7. 事後調査の実施状況	6
7-1 事後調査実施時期	6
7-2 調査期間中の状況	7
8. 事後調査の結果	8
8-1 大気質	8
(1) 調査目的及び調査内容	8
(2) 調査項目及び調査地点	8
(3) 調査日及び期間	10
(4) 調査結果	10
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	14
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	18
(7) 事後調査計画の見直し	18
8-2 騒音	19
(1) 調査目的及び調査内容	19
(2) 調査項目及び調査地点	19
(3) 調査日及び期間	19
(4) 調査結果	21
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	22
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	24
(7) 事後調査計画の見直し	24
8-3 振動	25
(1) 調査目的及び調査内容	25
(2) 調査項目及び調査地点	25
(3) 調査日及び期間	25
(4) 調査結果	25
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	26
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	27

(7) 事後調査計画の見直し	27
8-4 低周波音	28
(1) 調査目的及び調査内容	28
(2) 調査項目及び調査地点	28
(3) 調査日及び期間	28
(4) 調査結果	28
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	30
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	31
(7) 事後調査計画の見直し	31
8-5 悪臭	32
(1) 調査目的及び調査内容	32
(2) 調査項目及び調査地点	32
(3) 調査日及び期間	32
(4) 調査結果	32
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	36
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	40
(7) 事後調査計画の見直し	40
8-6 水象	41
(1) 調査目的及び調査内容	41
(2) 調査項目及び調査地点	41
(3) 調査日及び期間	41
(4) 調査結果	43
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	46
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	47
(7) 事後調査計画の見直し	47
8-7 土壌汚染	48
(1) 調査目的及び調査内容	48
(2) 調査項目及び調査地点	48
(3) 調査日及び期間	48
(4) 調査結果	48
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	49
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	51
(7) 事後調査計画の見直し	51
8-8 植物	52
(1) 調査目的及び調査内容	52
(2) 調査項目及び調査地点	52
(3) 調査日及び期間	52
(4) 調査結果	53
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較	56
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価	57

(7) 事後調査計画の見直し.....	57
8-9 動物.....	58
(1) 調査目的及び調査内容.....	58
(2) 調査項目及び調査地点.....	58
(3) 調査日及び期間.....	58
(4) 調査結果.....	60
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較.....	66
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価.....	67
(7) 事後調査計画の見直し.....	67
8-10 景観.....	68
(1) 調査目的及び調査内容.....	68
(2) 調査項目及び調査地点.....	68
(3) 調査日及び期間.....	68
(4) 調査結果.....	70
(5) 環境影響評価の予測結果等との比較.....	73
(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価.....	85
(7) 事後調査計画の見直し.....	85
9. 総合的所見.....	86
9-1 環境保全に関する目標の達成状況（存在・供用による影響（施設の稼働））.....	86
(1) 大気質.....	86
(2) 騒音.....	86
(3) 振動.....	86
(4) 低周波音.....	86
(5) 悪臭.....	86
(6) 水象.....	86
(7) 土壌汚染.....	86
(8) 植物.....	87
(9) 動物.....	87
(10) 景観.....	87
9-2 供用開始後の環境保全措置に関する状況.....	87
9-3 今後の事後調査予定.....	87
9-3 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況.....	91
10. 事後調査の総括.....	92

1. 事業の名称

穂高広域施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業

2. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

穂高広域施設組合 管理者 太田 寛

長野県安曇野市穂高北穂高1589番地2

3. 報告対象期間

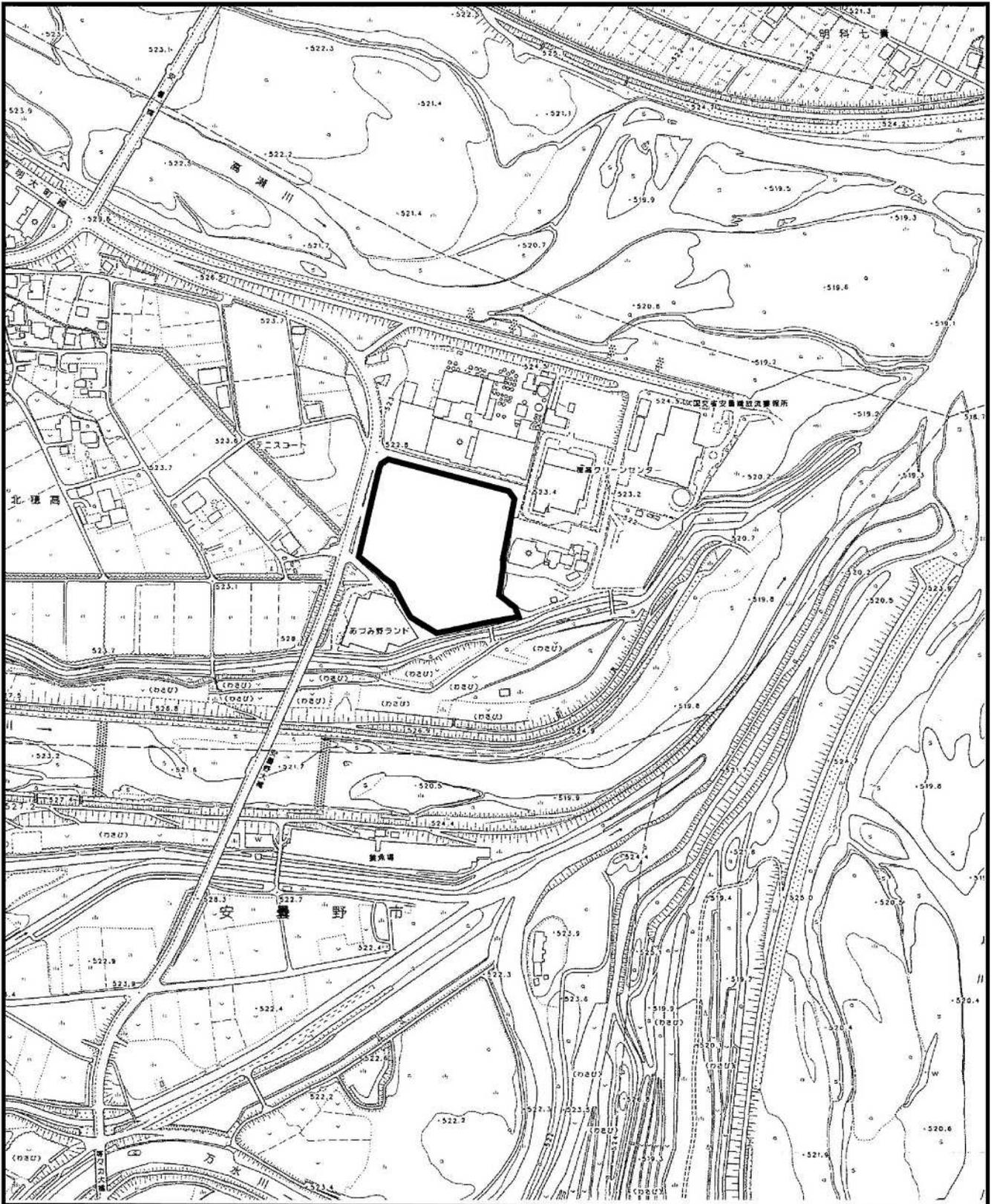
令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

4. 対象事業実施区域

安曇野市穂高北穂高1000（図4-1、図4-2参照）

5. 対象事業の種類

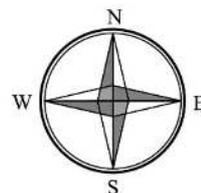
廃棄物処理施設の建設	ごみ焼却施設	連続燃焼式ストーカ炉
		処理能力 120t/日
	不燃物処理施設	破碎、選別
		処理能力 3t/日



凡例

 対象事業実施区域

図4-1 対象事業実施区域の位置



Scale 1/5,000

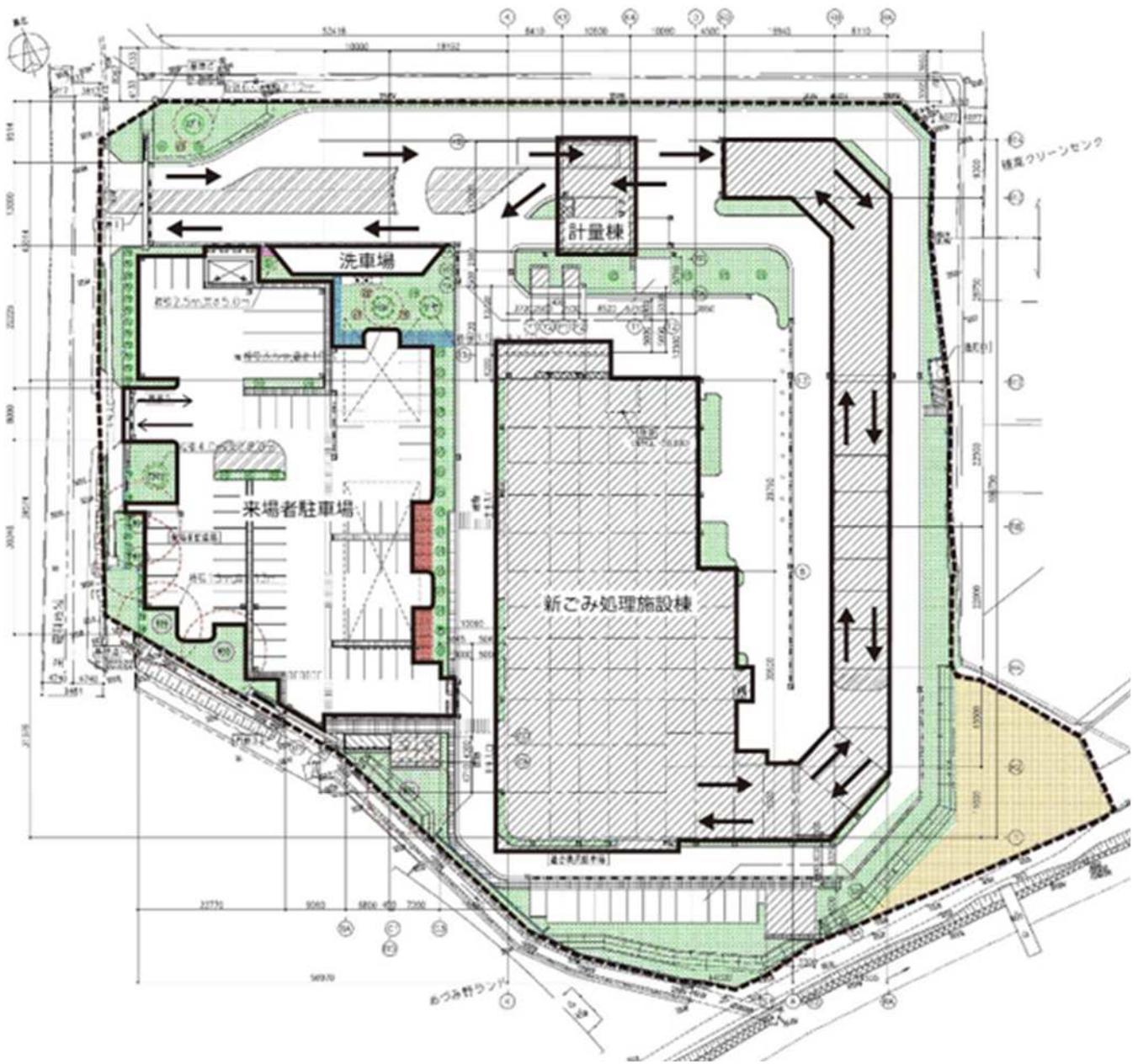



図 4-2 施設配置と動線

6. 環境保全措置の実施状況

施設供用時における環境保全措置の実施状況を表 6-1 及び表 6-2 に示す。

表 6-1 施設供用時における環境保全措置の実施状況（1 / 2）

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	評価書掲載頁
大気質	供用後	ごみ搬入車両等の走行	搬入時間の分散	P4-1-62
			交通規制の順守	
			暖機運転（アイドリング）の低減	
	供用後	焼却施設の稼働	排ガス濃度の低減	P4-1-87
			排ガス濃度の監視	
			適正な排ガス処理の実施	
			適正な運転管理の実施	
	供用後	廃棄物の搬出・処理	場内での焼却残渣の積込	P4-1-93
			天蓋付搬出車両の使用	
騒音	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-2-30
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働	低騒音型の設備機器の使用	P4-2-42
			騒音の大きい機器の屋内配置	
振動	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-3-23
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働	低振動型の設備機器の使用	P4-3-29
			制振構造等の採用	
低周波音	供用後	施設の稼働に伴う低周波音	低周波音発生機器の屋内への配置	P4-4-9
			設備機器の防振対策	
悪臭	供用後	廃棄物搬入車両の走行に伴う悪臭	収集業者の車両の洗車の徹底	P4-5-8
		供用後	焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭	適切な排出ガス処理の実施
	供用後	焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩	ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	P4-5-14
			プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置	
			全炉休止時に使用する脱臭装置	
			ごみピット内を負圧に保持	
			気密性を高めた建物構造	
廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施				
悪臭漏洩の監視				
水象	供用後	存在・供用による影響	掘削面積、掘削深度の最小化	P4-7-17
			地下水取水量の最小化	
			雨水排水の地下浸透	
			緑地面積の確保	
土壌汚染	供用後	焼却施設の稼働	排ガス濃度の低減	P4-8-9
			排ガス濃度の監視	
			適正な排ガス処理の実施	
			適正な運転管理の実施	
	供用後	焼却処理残渣の排出・処理	場内での焼却処理残渣の積込	P4-8-12
			天蓋付搬出車両の使用	
地盤沈下	供用後	施設の稼働による影響	地下水取水量の低減	P4-9-5

表 6-2 施設供用時における環境保全措置の実施状況（2 / 2）

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	評価書掲載頁
植物	供用後	存在・供用時の緑化による植物への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-11-19
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による植物への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-11-26
動物	供用後	存在・供用時の緑化による動物への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-12-32
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による動物への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-12-40
生態系	供用後	存在・供用時の緑化による生態系への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-13-18
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による生態系への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-13-25
景観	供用後	建築物・工作物等の存在に伴う景観資源・構成要素及び主要な景観	施設色彩等への配慮	P4-14-23
			施設形状等の検討	
			周辺景観と調和した緑化の実施	
触れ合い活動の場	供用後	建築物・工作物等の存在	施設色彩等への配慮	P4-15-22
			施設形状等の検討	
			周辺景観と調和した緑化の実施	
	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-15-23
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働に伴う騒音、振動、低周波音及び悪臭	低騒音型の設備機器の使用	P4-15-27
			騒音の大きい機器の屋内配置	
			制振構造等の採用	
			低周波音発生機器の屋内への配置	
			ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	
			プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置	
全炉休止時に使用する脱臭装置				
ごみピット内を負圧に保持				
気密性を高めた建物構造				
廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施				
悪臭漏洩の監視				
廃棄物等	供用後	供用時における廃棄物	ごみ減量化	P4-16-7
			分別による資源の再利用	
			焼却残渣の適正処分	
			灰の飛散防止	
温室効果ガス等	供用後	自動車交通の発生に伴う温室効果ガスの発生	搬入時間の分散	P4-17-5
			交通規制の遵守	
			暖機運転（アイドリング）の低減	
	供用後	施設の稼働に伴う温室効果ガスの発生	ごみ減量化	P4-17-8
			熱回収による高効率発電	

表 7-2 事後調査の主な変更点（施設供用時）

事後調査項目	変更内容	理由
騒音、振動、低周波音	調査の追加実施	近隣の工事の影響を避けたため、令和3年度中の調査が1炉運転時の測定となったため、2炉運転時に調査を再度実施した。
植物 (アオガヤツリ)	環境保全措置、 調査の追加	工事中事後調査の結果、移植（播種）を行うこととしたため、播種の実施と確認を行った。
動物 (ハヤブサ)	実施時期	対象事業実施区域周辺の利用が繁殖期に限らないため、調査期間を通年とした。
動物 (コウフオカモノアラガイ)	調査の追加	植物の調査に併せて調査を行ったため、記載した。

7-2 調査期間中の状況

令和3年度の事後調査期間中の施設稼働状況を表7-3に示す。

騒音、振動、低周波音、悪臭及び土壌汚染の調査時期については、評価書の事後調査計画において、「調査時期は施設の稼働が通常の状態に達した時点」としており、2炉運転時とした。令和3年度内の測定では1炉運転時であったため、報告対象期間外ではあるが、2炉運転時の令和4年4月12日～13日の調査結果を併せて記載した。

表 7-3 事後調査期間中の施設稼働状況

項目	期間	備考
2炉運転	令和3年 4月1日～6月4日 6月29日～9月2日 9月14日～11月19日 12月15日～令和4年1月16日 令和4年 2月20日～3月6日	246日間
1炉運転	令和3年 6月5日～6月28日 9月3日、12日、13日 11月20日～12月14日 令和4年 1月17日～2月19日 3月7日～3月31日	110日間
休止	令和3年 9月4日～9月11日	8日間

8. 事後調査の結果

8-1 大気質

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺の大気質が保全されていることを確認し、また施設の稼働に起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

大気質の事後調査内容は表 8-1-1 に示すとおりである。

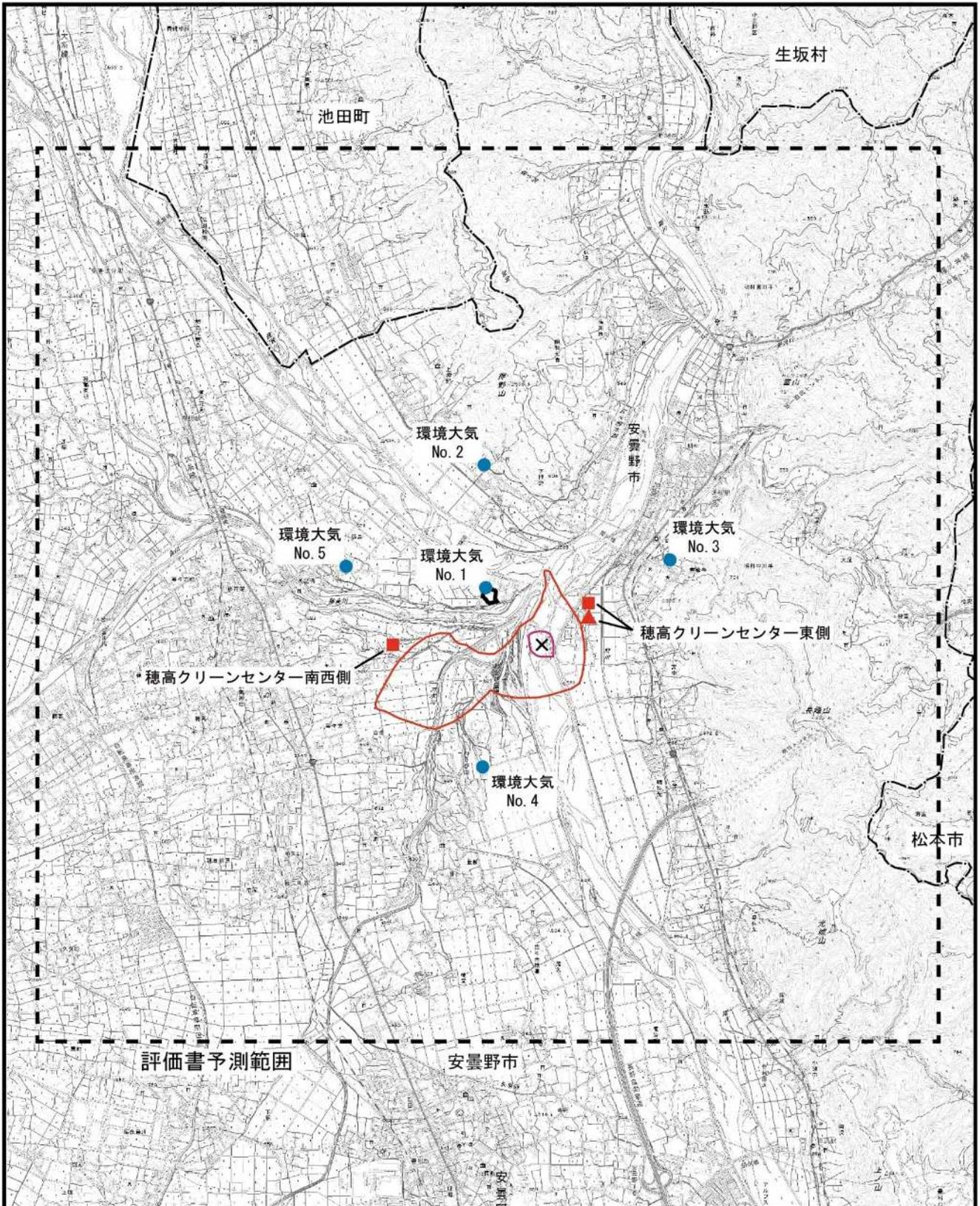
調査項目は、施設の稼働に伴う排ガスの影響とし、二酸化硫黄、一酸化窒素、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類、塩化水素及び水銀とした。

調査頻度は、施設が定常的に稼働する時期の 2 回とした。

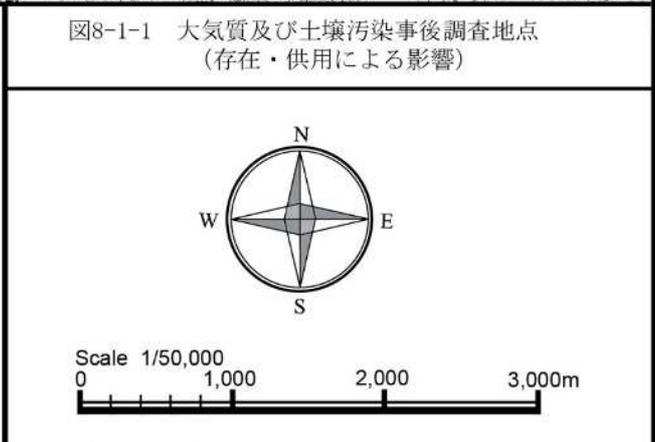
調査地点は図 8-1-1 に示す対象事業実施区域周辺の 2 地点とした。調査地点は、評価書において排ガスの着地濃度が相対的に高くなると予測された範囲を踏まえた上で、集落があるなど生活の場となっており、観測機器が設置可能な場所に設定した。なお、地上気象については、対象事業実施区域内は新施設の建屋の影響を受けやすいため、大気質の調査地点である「穂高クリーンセンター東側」で調査を実施した。

表 8-1-1 大気質の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
二酸化硫黄 浮遊粒子状物質	「大気汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年 5 月 8 日環境庁告示第 25 号）による	2 回（夏季、冬季） 各 7 日間連続 （1 時間値×24 回／日×7 日）	対象事業実施区域 周辺 2 地点
一酸化窒素 二酸化窒素	「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年 7 月 11 日環境庁告示第 38 号）による		
ダイオキシン類	「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル」（平成 20 年 3 月環境省）による	2 回（夏季、冬季） 各 7 日間 （1 検体／7 日）	
塩化水素	大気汚染物質測定法指針（昭和 63 年環境庁）に掲げる方法（ろ紙捕集、イオンクロマトグラフ法）	2 回（夏季、冬季） 各 7 日間 （1 検体／日×7 日）	
水銀	「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」による	2 回（夏季、冬季） 各 7 日間 （1 検体／日×7 日）	
地上気象 （風向、風速、 気温、湿度）	地上気象観測指針（平成 14 年 3 月気象庁）による	2 回（夏季、冬季） 各 7 日間連続 （1 時間値×24 回／日×7 日）	対象事業実施区域 周辺 1 地点



凡 例	
	対象事業実施区域
	環境影響評価時の現地調査地点
	評価書予測範囲
	大気質、土壌汚染の事後調査地点
	地上気象調査地点（事後調査）
	最大着地濃度地点
	着地濃度が相対的に高かった範囲（予測時）



この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に作成した。(5万分の1に縮小して掲載)

(3) 調査日及び期間

大気質の調査実施日及び期間は表 8-1-2 に示すとおりである。調査期間中は、夏季、冬季ともに通常稼働（2 炉運転）であった。

表 8-1-2 大気質の調査実施日、期間

調査項目	調査実施日、期間	施設の稼働状況
二酸化硫黄 一酸化窒素 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 ダイオキシン類 塩化水素 水銀 地上気象（風向、風速、 気温、湿度）	夏季：令和 3 年 7 月 30 日～8 月 6 日 冬季：令和 4 年 2 月 22 日～3 月 1 日	通常稼働（2 炉運転）

(4) 調査結果

1) 二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質

二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質の調査結果は表 8-1-3 に示すとおりである。

二酸化硫黄の日平均値の最高値は 0.001 ppm、1 時間値の最高値は 0.002 ppm であった。また、浮遊粒子状物質の日平均値の最高値は 0.018 mg/m³（穂高クリーンセンター東側、夏季）、1 時間値の最高値は 0.048 mg/m³（穂高クリーンセンター南西側、夏季）であった。

表 8-1-3 二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質の調査結果

項目	単位	調査結果				
		穂高クリーンセンター 南西側		穂高クリーンセンター 東側		
		夏季	冬季	夏季	冬季	
二酸化硫黄	期間平均値	ppm	0.001	0.001	0.001 未満	0.001
	日平均値の最高値	ppm	0.001	0.001	0.001 未満	0.001
	1 時間値の最高値	ppm	0.002	0.002	0.001 未満	0.002
浮遊粒子状物質	期間平均値	mg/m ³	0.014	0.010	0.014	0.008
	日平均値の最高値	mg/m ³	0.017	0.014	0.018	0.013
	1 時間値の最高値	mg/m ³	0.048	0.024	0.046	0.023

※ 調査期間：夏季（令和 3 年 7 月 30 日～8 月 5 日）
 冬季（令和 4 年 2 月 22 日～2 月 28 日）

2) 一酸化窒素及び二酸化窒素

一酸化窒素及び二酸化窒素の調査結果は表 8-1-4 に示すとおりである。

二酸化窒素の日平均値の最高値は 0.006 ppm、1 時間値の最高値は 0.012 ppm であった。

表 8-1-4 一酸化窒素及び二酸化炭素の調査結果

項目	単位	調査結果				
		穂高クリーンセンター 南西側		穂高クリーンセンター 東側		
		夏季	冬季	夏季	冬季	
一酸化窒素	期間平均値	ppm	0.002	0.001	0.001	0.001
	日平均値の最高値	ppm	0.003	0.001	0.001	0.002
	1 時間値の最高値	ppm	0.009	0.004	0.006	0.007
二酸化窒素	期間平均値	ppm	0.003	0.004	0.003	0.004
	日平均値の最高値	ppm	0.004	0.005	0.003	0.006
	1 時間値の最高値	ppm	0.007	0.009	0.005	0.012

※ 調査期間：夏季（令和 3 年 7 月 30 日～8 月 5 日）
冬季（令和 4 年 2 月 22 日～2 月 28 日）

3) ダイオキシン類

環境大気中のダイオキシン類の調査結果は表 8-1-5 に示すとおりである。

環境大気中のダイオキシン類は 0.0032 pg-TEQ/m³～0.0042 pg-TEQ/m³ であった。

表 8-1-5 環境大気中のダイオキシン類の調査結果

調査地点	単位	調査結果	
		夏季	冬季
穂高クリーンセンター 南西側	pg-TEQ/m ³	0.0042	0.0038
穂高クリーンセンター 東側	pg-TEQ/m ³	0.0032	0.0033

※ 調査期間：夏季（令和 3 年 7 月 30 日～8 月 6 日）
冬季（令和 4 年 2 月 22 日～3 月 1 日）

4) 塩化水素

環境大気中の塩化水素の調査結果は表 8-1-6 に示すとおりである。

塩化水素の期間平均値は 0.1 μg/m³ 未満～0.1 μg/m³、期間最高値は 0.2 μg/m³ であった。

表 8-1-6 塩化水素の調査結果

塩化水素	単位	調査結果			
		穂高クリーンセンター 南西側		穂高クリーンセンター 東側	
		夏季	冬季	夏季	冬季
期間平均値	μg/m ³	0.1	0.1 未満	0.1 未満	0.1
期間最高値	μg/m ³	0.2	0.1 未満	0.1 未満	0.2

※ 調査期間：夏季（令和 3 年 7 月 30 日～8 月 6 日）
冬季（令和 4 年 2 月 22 日～3 月 1 日）

5) 水銀

環境大気中の水銀の調査結果は表 8-1-7 に示すとおりである。

水銀の期間平均値は $0.001 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 0.002 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、期間最高値は $0.003 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

表 8-1-7 水銀の調査結果

水銀	単位	調査結果			
		穂高クリーンセンター 南西側		穂高クリーンセンター 東側	
		夏季	冬季	夏季	冬季
期間平均値	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.002	0.001	0.002	0.002
期間最高値	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.002	0.002	0.003	0.002

※ 調査期間：夏季（令和3年7月30日～8月6日）

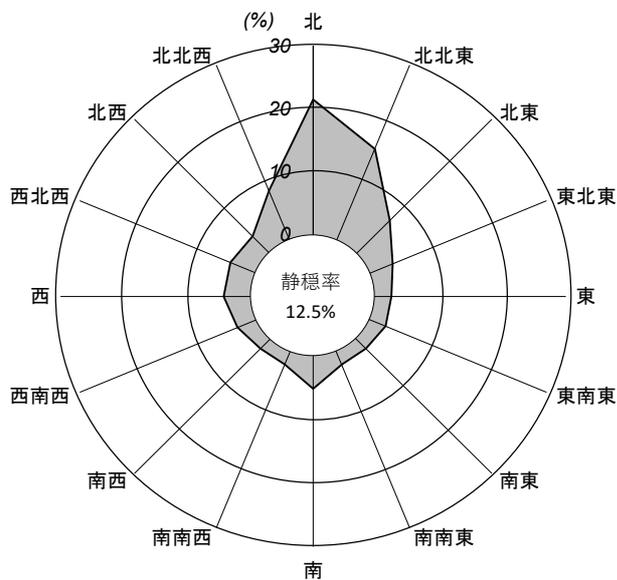
冬季（令和4年2月22日～3月1日）

6) 地上気象

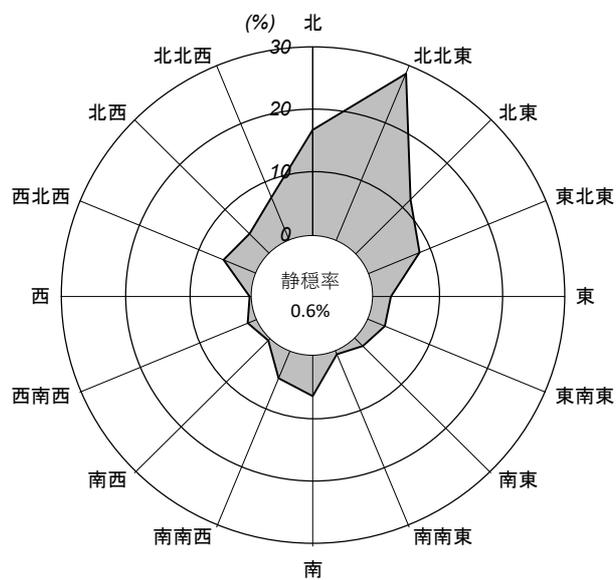
地上気象の調査結果は表 8-1-8、図 8-1-2 及び図 8-1-3 に示すとおりである。

表 8-1-8 地上気象の調査結果（穂高クリーンセンター東側）

調査日		風向	風速(m/s)		気温(°C)		湿度(%)
		最多	平均	最大	平均	最高	平均
夏 季	令和3年 7月30日(金)	北	1.0	4.4	23.9	31.8	82
	7月31日(土)	北	1.2	3.1	24.6	30.7	84
	8月1日(日)	北、北東、南、 南南西、西南西	0.8	4.4	24.3	32.3	84
	8月2日(月)	北	1.2	3.8	25.4	32.2	80
	8月3日(火)	南	1.3	3.0	26.3	31.8	78
	8月4日(水)	北、北北東	1.4	3.7	26.9	33.9	78
	8月5日(木)	北、北北東	1.5	2.0	27.1	34.2	78
冬 季	令和4年 2月22日(火)	北北東	1.7	4.3	-2.7	0.8	79
	2月23日(水)	北北東	2.2	4.5	-2.4	3.0	72
	2月24日(木)	北、北東、北北西	1.3	3.0	-2.9	3.6	68
	2月25日(金)	北北東	1.5	3.9	-1.3	7.6	66
	2月26日(土)	北北東	1.6	4.0	1.0	10.8	65
	2月27日(日)	南	3.2	5.9	3.4	8.7	60
	2月28日(月)	北、北北東	1.6	3.8	2.4	11.5	66

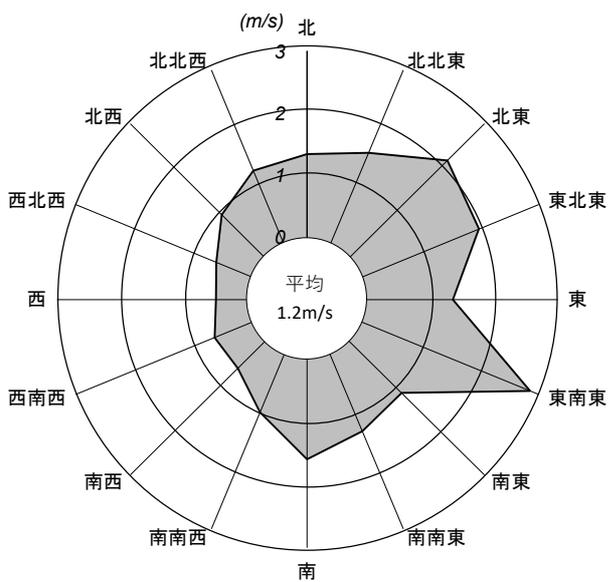


風向別出現頻度（夏季）

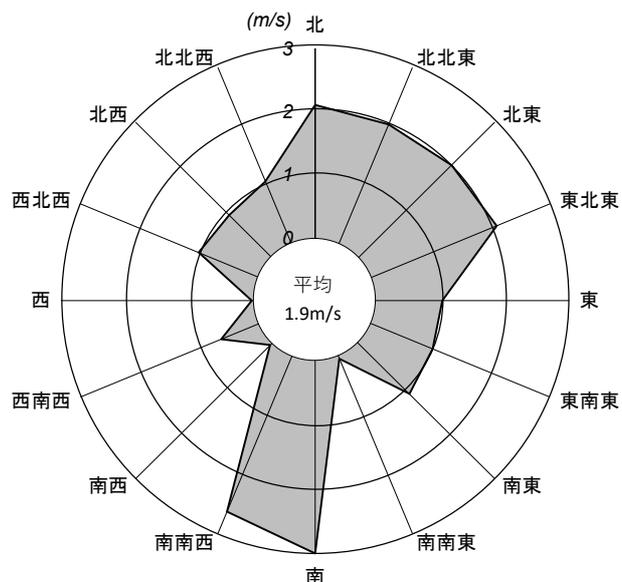


風向別出現頻度（冬季）

図 8-1-2 地上気象（風向別出現頻度）の調査結果



風向別平均風速（夏季）



風向別平均風速（冬季）

図 8-1-3 地上気象（風向別平均風速）の調査結果

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

大気質に係る環境保全措置の実施状況は表 8-1-9 に示すとおりである。

令和 3 年度中の施設の排ガスの測定結果を表 8-1-10 に示す。施設の排ガス濃度は、法規制値より厳しい公害防止基準を設定し、定期的に測定を行って監視しているが、いずれの項目についても公害防止基準値を満足していた。

表 8-1-9 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
排ガス濃度の低減	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定し、これを遵守することで環境への負荷を低減する。	低減	定期的な排ガス測定を実施し、設定した法規制値より厳しい公害防止基準値を満足していることを確認している。
排ガス濃度の監視	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視する。 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉 2 ヶ月に 1 回以上 水銀：各炉 4 ヶ月に 1 回以上 ダイオキシン類：各炉 6 ヶ月に 1 回以上	低減	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視している。 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉 2 ヶ月に 1 回以上 水銀：各炉 4 ヶ月に 1 回以上 ダイオキシン類：各炉 6 ヶ月に 1 回以上
適切な排出ガス処理の実施	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施する。	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施している。
適正は運転管理の実施	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行う。	低減	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行っている。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

表 8-1-10 施設の排ガスの計画値と管理状況

項目	単位	計画値 (公害防止基準)	法規制値	測定頻度	令和 3 年度測定結果	
					1 号炉	2 号炉
ばいじん 量	g/ Nm ³	0.01 以下	0.08 以下	2 ヶ月に 1 回	0.002 未満	0.002 未満
硫黄 酸化物	ppm	50 以下	約 80 以下 (K 値 17.5)	〃	8.9~30	3.6~41
窒素 酸化物	ppm	100 以下	250 以下	〃	49~60	46~66
塩化水素	ppm	50 以下	430 以下 (700 mg/Nm ³)	〃	6~8	1~33
水銀	μg/Nm ³	30 以下	30 以下	4 ヶ月に 1 回	0.27~0.55	0.28~0.53
ダイオ キシン類	ng-TEQ /Nm ³	0.1 以下	1 以下	6 ヶ月に 1 回	0.00000042 ~0.0044	0.0020 ~0.0044

注 1) ばいじん、硫黄酸化物、塩化水素及び窒素酸化物の計画値及び法規制値は酸素濃度 12%換算（乾き）。

注 2) 法規制値の根拠は以下のとおり。

ばいじん：大気汚染防止法施行規則第 4 条別表第 2

硫黄酸化物：大気汚染防止法施行規則第 3 条

塩化水素：大気汚染防止法施行規則第 5 条別表第 3

水銀：大気汚染防止法施行規則附則（平成 28 年 9 月 26 日環境省令第 22 号）別表第 1

窒素酸化物：大気汚染防止法施行規則第 5 条別表 3 の 2

注 3) 硫黄酸化物の法規制値の濃度は、計画施設における推定値。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-1-11 及び表 8-1-12 に示すとおりである。

2 か所の調査地点は、環境影響評価の予測において排ガスの着地濃度が周囲と比較して高濃度となると予測された場所付近に設定したことから、事後調査結果は最大着地濃度地点の予測結果と比較した。

長期平均濃度については、いずれの調査項目でも予測結果を下回り、環境基準を満足する結果となった。

短期高濃度については、二酸化硫黄、二酸化窒素及び塩化水素は予測結果を大幅に下回り、環境基準及び指針値を満足する結果となった。浮遊粒子状物質は、予測結果を上回る結果となったが、環境基準は満足する結果となった。

浮遊粒子状物質の 1 時間値の最高値が観測された時間の気象状況等は、表 8-1-13 のとおりである。穂高クリーンセンター南西側では 8 月 1 日の 19 時台に、穂高クリーンセンター東側では 8 月 2 日の 16 時台に 1 時間値の最高値が観測された。測定時の風向・風速、施設稼働状況、現場状況等を検討したが、予測結果よりも高くなった原因は不明であった。浮遊粒子状物質が最も高くなった時間帯は、風がないか、新施設の風上側となる風向であったため、新施設の排ガスの影響によるものではないと考えられる。

表 8-1-11 予測結果と事後調査結果の比較（長期平均濃度、最大着地濃度地点）

項目	単位	予測結果	事後調査結果		環境基準及び指針値 (環境保全目標)
		最大着地濃度 地点	穂高クリーンセンター 南西側	穂高クリーンセンター 東側	
二酸化硫黄	ppm	0.00243 注1)	0.001 注4)	0.001 注4)	日平均値 0.04ppm 以下
二酸化窒素	ppm	0.02213 注2)	0.005 注4)	0.006 注4)	日平均値 0.04ppm 以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0360 注1)	0.017 注4)	0.018 注4)	日平均値 0.10mg/m ³ 以下
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.04622 注3)	0.0042 注5)	0.0033 注5)	年平均値 0.6pg-TEQ/m ³ 以下
水銀	μg/m ³	0.00307 注3)	0.002 注5)	0.003 注5)	年平均値 0.04μg/m ³ 以下

注 1) 日平均値の年間 2%除外値の予測結果。

注 2) 日平均値の年間 98%値の予測結果。

注 3) 年平均値の予測結果。

注 4) 事後調査測定期間中の日平均値の最高値。調査期間が短いため、年間 2%除外値や年間 98%値は算出せず、最高値を用いた。

注 5) 事後調査測定期間中の平均値 (2 つ) のうち、高い方の値。

表 8-1-12 予測結果と事後調査結果の比較（短期高濃度、接地逆転層崩壊時）

項目	単位	予測結果	事後調査結果		環境基準及び指針値 (環境保全目標)
		1 時間値 環境濃度	穂高クリーンセンター 南西側	穂高クリーンセンター 東側	
二酸化硫黄	ppm	0.0109 注1)	0.002 注2)	0.002 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下
二酸化窒素	ppm	0.0230 注1)	0.009 注2)	0.012 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0246 注1)	0.048 注2)	0.046 注2)	1 時間値 0.20mg/m ³ 以下
塩化水素	ppm	0.0085 注1)	0.001 未満注3)	0.001 未満注3)	1 時間値 0.02ppm 以下

注 1) 1 時間値の最高値の予測結果。

注 2) 事後調査測定期間中の 1 時間値の最高値。

注 3) 事後調査測定期間中の測定値の最高値 (日平均値)。

表 8-1-13 浮遊粒子状物質の1時間値の最高値の観測状況

項目	事後調査結果	
	穂高クリーンセンター南西側	穂高クリーンセンター東側
観測日時	令和3年8月1日 19時台	令和3年8月2日 16時台
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.048	0.046
二酸化硫黄 (ppm)	0.001 未満	0.001 未満
二酸化窒素 (ppm)	0.003	0.002
観測日	令和3年8月1日	令和3年8月2日
時間	19時台	16時台
風向	静穏 (19時) 静穏 (20時)	東 (16時) 東南東 (17時)
風速 (m/s)	0.1 (19時) 0.0 (20時)	2.0 (16時) 3.7 (17時)

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-1-14 に示すとおりである。

事後調査の結果、本調査の実施期間中、最大着地濃度地点となると予測された場所付近において、いずれの物質についても環境基準を満足しており、環境保全目標を満足していた。

表 8-1-14 環境保全のための目標と現況の比較

項目	環境保全に関する目標	現況
二酸化硫黄	<p>【長期平均濃度】 「大気汚染に係る環境基準について」に示されている1時間値の1日平均値の0.04ppm以下とした。</p> <p>【短期高濃度】 「大気汚染に係る環境基準について」に示されている1時間値の0.1ppm以下とした。</p>	目標を満足していた。
二酸化窒素	<p>【長期平均濃度】 「二酸化窒素に係る環境基準について」に示されている1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であることから、0.04ppm以下とした。</p> <p>【短期高濃度】 「二酸化窒素に係る環境基準の改定について」に示されている1時間暴露値(0.1～0.2ppm)より0.1ppm以下とした。</p>	目標を満足していた。
浮遊粒子状物質	<p>【長期平均濃度】 「大気汚染に係る環境基準について」に示されている1時間値の1日平均値の0.10mg/m³以下とした。</p> <p>【短期高濃度】 「大気汚染に係る環境基準について」に示されている1時間値の0.20mg/m³以下とした。</p>	目標を満足していた。
ダイオキシン類	<p>【長期平均濃度】 「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準について」に示されている年平均値0.6pg-TEQ/m³以下とした。</p>	目標を満足していた。
塩化水素	<p>【短期高濃度】 「大気汚染防止法に基づく窒素酸化物の排出基準の改正等について」に示されている目標環境濃度0.02ppm以下とした。</p>	目標を満足していた。
水銀	<p>【長期平均濃度】 「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について(第七次答申)」に示されている年平均値0.04μg/m³以下とした。</p>	目標を満足していた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

大気質に係る事後調査の結果、いずれの項目も環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

いずれの項目も環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、大気質に係る事後調査を本年度で終了する。

8-2 騒音

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺及び敷地境界の騒音に係る環境が保全されていることを確認し、また施設の稼働により起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

騒音の事後調査内容は表 8-2-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働時の総合騒音及び特定騒音（事業所）とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 1 回とし、大気質と同様、施設が定常的に稼働する時期に実施した。

調査地点は図 8-2-1 に示す対象事業実施区域の周辺 1 地点及び敷地境界 2 地点とした。

表 8-2-1 騒音の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

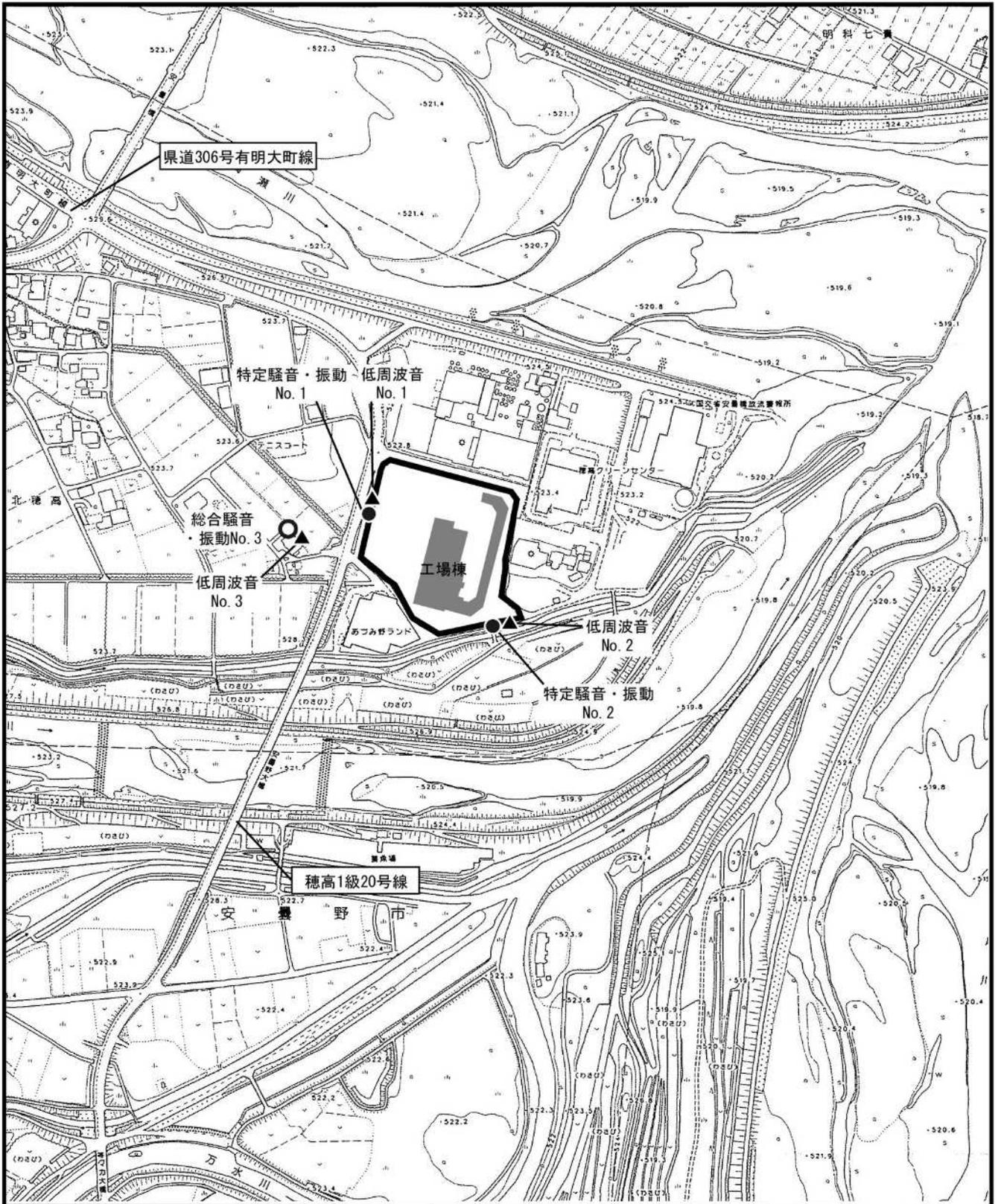
調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
総合騒音	「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年環告 64 号)等に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回 (24 時間連続)	対象事業実施区域 周辺 1 地点
特定騒音 (事業所)	「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」(昭和 43 年厚・農・通・運告 1 号)等に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回 (24 時間連続)	対象事業実施区域 敷地境界 2 地点

(3) 調査日及び期間

騒音の調査実施日は表 8-2-2 に示すとおりである。なお、令和 3 年度中に実施した調査時には、焼却施設が 1 炉運転であったため、確認のため後日 2 炉運転時に補足調査を実施した。

表 8-2-2 騒音の調査実施日

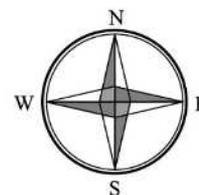
調査項目	調査実施日	施設の稼働状況
総合騒音	令和 4 年 1 月 25 日 9 時～1 月 26 日 9 時	通常稼働 (1 炉運転)
	令和 4 年 4 月 12 日 9 時～4 月 13 日 9 時	通常稼働 (2 炉運転)
特定騒音	令和 4 年 1 月 25 日 9 時～1 月 26 日 9 時	通常稼働 (1 炉運転)
	令和 4 年 4 月 12 日 9 時～4 月 13 日 9 時	通常稼働 (2 炉運転)



凡例

-  対象事業実施区域
-  総合騒音・振動調査地点
(評価書予測地点と同位置)
-  特定騒音・振動調査地点
(評価書予測地点と同位置)
-  低周波音調査地点
(評価書予測地点と同位置)

図8-2-1 騒音・振動、低周波音事後調査地点
(存在・共用による影響)



(4) 調査結果

1) 特定騒音

特定騒音の調査結果は表 8-2-3 に示すとおりである。

時間率騒音レベル (L_{A5}) は、No. 1 西側敷地境界で 59 dB、No. 2 南東側敷地境界で 55 dB であった。

表 8-2-3 特定騒音の調査結果 (時間率騒音レベル L_{A5})

調査地点	単位	時間区分	調査結果
No. 1 西側敷地境界	dB	昼間	59 (57)
		夜間	47 (49)
No. 2 南東側敷地境界	dB	昼間	55 (56)
		夜間	50 (47)

注 1) L_{A5} は 9 時～翌 9 時の間の 1 時間値の最大値である。

注 2) 時間区分は昼間：6 時～22 時、夜間：22 時～6 時である。

注 3) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

2) 総合騒音

総合騒音の調査結果は表 8-2-4 に示すとおりである。

等価騒音レベル (L_{Aeq}) は No. 3 (西側民家付近) で昼間が 56 dB、夜間が 50 dB であった。

表 8-2-4 総合騒音の調査結果 (等価騒音レベル L_{Aeq})

調査地点	単位	時間区分	調査結果
No. 3 西側民家付近	dB	昼間	56 (55)
		夜間	50 (51)

注 1) L_{Aeq} は 9 時～翌 9 時の間の 1 時間値ごとの測定値のエネルギー平均である。

注 2) 時間区分は昼間：6 時～22 時、夜間：22 時～6 時である。

注 3) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

騒音に係る環境保全措置の実施状況は表 8-2-5 に示すとおりである。

表 8-2-5 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
低騒音型の設備機器の使用	低騒音型の機器を積極的に採用し、排風機、ブロア等の設備には消音器を取り付け、蒸気復水器については、防音壁の設置、ケーシングの補強やラギング等の防音措置を講じる。	低減	低騒音型の機器を採用し、排風機、ブロアに消音器を取り付けた。 蒸気復水器には、防音壁の設置、ケーシングの補強やラギング等の防音措置を講じた。
騒音の大きい機器の屋内配置	著しい騒音の発生する機械設備は必要に応じて防音構造の室内に収納する。	低減	排風機、ブロア、蒸気タービンは防音構造の室内に収納した。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-2-6 に示すとおりである。

No. 1 西側敷地境界及び No. 2 南東側敷地境界の調査結果は、昼間は予測結果より高く、夜間は予測結果と概ね同等であった。

No. 3 西側民家付近の調査結果は、昼間、夜間共に予測結果よりやや低かった。

表 8-2-6 予測結果と事後調査結果の比較（施設の稼働）

調査地点	騒音の種類	単位	予測結果 (暗騒音＋ 施設稼働騒音)	事後調査結果	規制基準、環境基準 (環境保全目標)
No. 1 西側敷地境界	L_{A5}	dB	昼間 52	59 (57)	昼 間：65 以下 朝・夕：65 以下 夜 間：55 以下
			夜間 49	47 (49)	
No. 2 南東側敷地境界	L_{A5}	dB	昼間 53	55 (56)	昼 間：65 以下 朝・夕：65 以下 夜 間：55 以下
			夜間 49	50 (47)	
No. 3 西側民家付近	L_{Aeq}	dB	昼間 58	56 (55)	昼 間：65 以下 夜 間：60 以下
			夜間 52	50 (51)	

注 1) 暗騒音：現地調査の結果から得られた、現況の騒音レベル。時期別、平日・休日別に測定した結果のうち、最も高い値を採用。

注 2) 施設稼働騒音：焼却施設及び不燃物処理施設からの騒音レベル。

注 3) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

No. 1 西側敷地境界において、環境保全目標は満足しているものの、昼間の騒音レベルが予測結果に比べて明確に高かった。要因を検討した結果、道路交通騒音の影響と判断された。

対象事業実施区域の西側の道路（穂高 1 級 20 号線及び県道 306 号有明大町線；図 8-2-1 参照）は交通量が多く、特に朝夕の通勤時間帯に通行台数が多い。この状況は新施設建設前と変わらないものの、新施設の建設により、長さ 71m、高さ 28m の壁面（西面）ができた。この壁面は穂高 1 級 20 号線に対

しては平行であり、県道 306 号有明大町線に対しては概ね直角となっている（図 8-2-1 参照）。現場状況から判断して、特に県道 306 号有明大町線の通行車両の音が比較的長い時間に渡り反射して途切れることが少なかったことが、騒音レベルが予測よりも高くなったと主な要因と考えられる。なお、道路交通がほとんどなくなる深夜の時間帯には、焼却施設が稼働しているにもかかわらず騒音レベルが 47～51dB まで低下していることから、昼間の騒音レベルに対する施設の稼働騒音の寄与は小さいと推定される。

No. 2 南東側敷地境界においても、環境保全目標は満足しているものの、昼間・夜間とも、騒音レベルが予測結果に比べて明確に高かった。施設南東側には不燃物処理施設が位置しており、処理は建屋内で行っているものの、搬入・搬出に伴う音が発生していたことが要因となったと考えられる。



写真 8-2-1 新施設の西側壁面の状況

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-2-7 に示すとおりである。

事後調査の結果、本調査の実施期間中は、すべての調査地点において規制基準もしくは環境基準を満足しており、環境保全に関する目標を満足していた。

表 8-2-7 環境保全のための目標と現況の比較（施設の稼働）

予測地点	項目	環境保全に関する目標	現況
特定騒音 No. 1、No. 2	安曇野市 公害防止条例	対象事業実施区域の敷地境界における騒音レベルを以下のとおりとした。 昼 間：65dB 以下 朝・夕：65dB 以下 夜 間：55dB 以下	目標を満足していた。
総合騒音 No. 3	騒音に係る 環境基準	騒音に係る環境基準以下（B 類型、道路に面する地域）とした。 昼 間：65dB 以下 夜 間：60dB 以下	目標を満足していた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

騒音に係る事後調査の結果、いずれの項目も環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

いずれの項目も環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、騒音に係る事後調査を本年度で終了する。

8-3 振動

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺及び敷地境界の振動に係る環境が保全されていることを確認し、また施設の稼働により起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

振動の事後調査内容は表 8-3-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働時の総合振動及び特定振動（事業所）とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 1 回とし、大気質と同様、施設が定期的に稼働する時期に実施した。

調査地点は図 8-2-1（前出）に示す対象事業実施区域の周辺 1 地点及び敷地境界 2 地点とした。

表 8-3-1 振動の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
総合振動	「JIS Z 8735 振動レベル測定方法」等に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回（24 時間連続）	対象事業実施区域 周辺 1 地点
特定振動 （事業所）	「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」（昭和 51 年環告 90 号）等に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回（24 時間連続）	対象事業実施区域 敷地境界 2 地点

(3) 調査日及び期間

振動の調査実施日は表 8-3-2 に示すとおりである。なお、令和 3 年度中に実施した調査時には、焼却施設が 1 炉運転であったため、確認のため後日 2 炉運転時に補足調査を実施した。

表 8-3-2 振動の調査実施日

調査項目	調査実施日	施設の稼働状況
総合振動	令和 4 年 1 月 25 日 9 時～1 月 26 日 9 時	通常稼働（1 炉運転）
	令和 4 年 4 月 12 日 9 時～4 月 13 日 9 時	通常稼働（2 炉運転）
特定振動	令和 4 年 1 月 25 日 9 時～1 月 26 日 9 時	通常稼働（1 炉運転）
	令和 4 年 4 月 12 日 9 時～4 月 13 日 9 時	通常稼働（2 炉運転）

(4) 調査結果

特定振動及び総合振動の調査結果は表 8-3-3 に示すとおりである。

時間率振動レベル (L_{10}) の時間区分最大値は、No. 1 西側敷地境界で昼間 32 dB、夜間 29 dB、No. 2 南東側敷地境界で昼間 33 dB、夜間 25 dB 未満、No. 3 西側民家周辺で昼間 36 dB、夜間 32 dB であった。

表 8-3-3 特定振動・総合振動の調査結果

(時間率振動レベルの時間区分最大値 L_{10})

調査地点	単位	時間区分	調査結果
No. 1 西側敷地境界	dB	昼間	32 (31)
		夜間	29 (27)
No. 2 南東側敷地境界	dB	昼間	33 (32)
		夜間	<25 (27)
No. 3 西側民家付近	dB	昼間	36 (37)
		夜間	32 (31)

注 1) <25 は振動レベル計の測定レベル範囲 (25~120dB) 未満であることを示す。

注 2) 時間区分は昼間：7 時~19 時、夜間：19 時~7 時である。

注 3) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

振動に係る環境保全措置の実施状況は表 8-3-4 に示すとおりである。

表 8-3-4 環境保全措置 (施設の稼働) の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
低振動型の設備機器の使用	低振動型の機器を積極的に採用する。	低減	低振動型の回転式破砕機を採用した。
制振構造等の採用	独立基礎等の制振構造の採用、防振装置を設ける等、施設への振動の伝搬を防止する措置を講じる。	低減	蒸気タービン発電機には独立基礎を、タービンバイパス消音器には防振装置を採用した。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-3-5 に示すとおりである。

No. 1 西側敷地境界及び No. 2 南東側敷地境界の調査結果は、昼間、夜間共に予測結果よりも低かった。環境保全措置の効果によるものである可能性が考えられる。

No. 3 西側民家付近の調査結果は、予測結果よりも昼間はやや低く、夜間は概ね同等であった。

表 8-3-5 施設稼働振動の予測結果と事後調査結果

調査地点	単位	予測結果	事後調査結果	規制基準等
No. 1 西側敷地境界	dB	昼間 43	32 (31)	昼 間 : 65 以下 夜 間 : 60 以下
		夜間 43	29 (27)	
No. 2 南東側敷地境界	dB	昼間 60	33 (32)	
		夜間 46	<25 (27)	
No. 3 西側民家付近	dB	昼間 39	36 (37)	55 以下 (振動の感覚閾値)
		夜間 33	32 (31)	

注 1) <25 は振動レベル計の測定レベル範囲 (25~120dB) 未満であることを示す。

注 2) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-3-6 に示すとおりである。

事後調査の結果、本調査の実施期間中は、No. 1 西側敷地境界及び No. 2 南東側敷地境界においては参考とした振動の規制基準を、No. 3 西側民家付近においては人体の振動の感覚閾値を満足しており、環境保全に関する目標を満足していた。

表 8-3-6 環境保全のための目標と現況の比較 (施設の稼働)

予測地点	項目	環境保全に関する目標	現況
特定振動 No. 1、No. 2	振動に係る 規制基準	対象事業実施区域の敷地境界における 振動レベルを以下のとおりとした。 昼 間 : 65dB 以下 夜 間 : 60dB 以下	目標を満足していた。
総合振動 No. 3	人体の振動 感覚閾値 ^{注)}	55dB 以下	目標を満足していた。

注) 10%の人が感じる振動レベルでおよそ 55dB とされている【出典：「地方公共団体担当者のための建設作業振動対策の手引き」(環境省)】

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

振動に係る事後調査の結果、いずれの項目も環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

いずれの項目も環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、振動に係る事後調査を本年度で終了する。

8-4 低周波音

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺及び敷地境界の低周波音に係る環境が保全されていることを確認し、また施設の稼働により起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

低周波音の事後調査内容は表 8-4-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働時の低周波音とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 1 回とし、大気質と同様、施設が定常的に稼働する時期に実施した。

調査地点は図 8-2-1 (前出) に示す対象事業実施区域の周辺 1 地点及び敷地境界 2 地点とした。

表 8-4-1 低周波音の事後調査内容 (存在・供用による影響 (施設の稼働))

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
低周波音	低周波音の測定方法に関するマニュアルに準じる方法 (平成 12 年環境庁)	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回 (24 時間連続)	対象事業実施区域 周辺 1 地点 対象事業実施区域 敷地境界 2 地点

(3) 調査日及び期間

低周波音の調査実施日は表 8-4-2 に示すとおりである。なお、令和 3 年度中に実施した調査時には、焼却施設が 1 炉運転であったため、確認のため後日 2 炉運転時に補足調査を実施した。

表 8-4-2 低周波音の調査実施日

調査項目	調査実施日	施設の稼働状況
低周波音	令和 4 年 1 月 25 日 9 時～1 月 26 日 9 時	通常稼働 (1 炉運転)
	令和 4 年 4 月 12 日 9 時～4 月 13 日 9 時	通常稼働 (2 炉運転)

(4) 調査結果

1) G 特性音圧レベル

G 特性音圧レベルの調査結果は表 8-4-3 に示すとおりである。なお、現況における低周波音の状況を把握するため、特定の音源を対象とせずに調査を実施した。

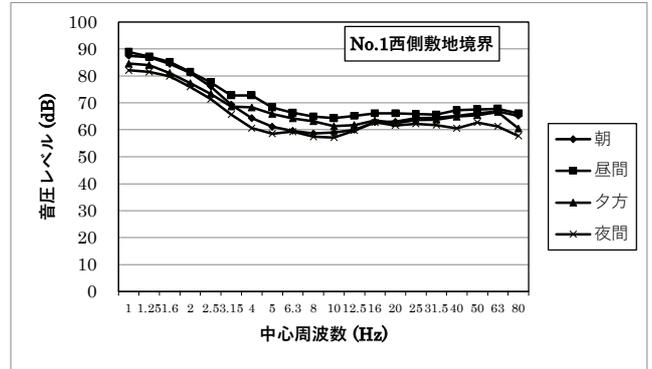
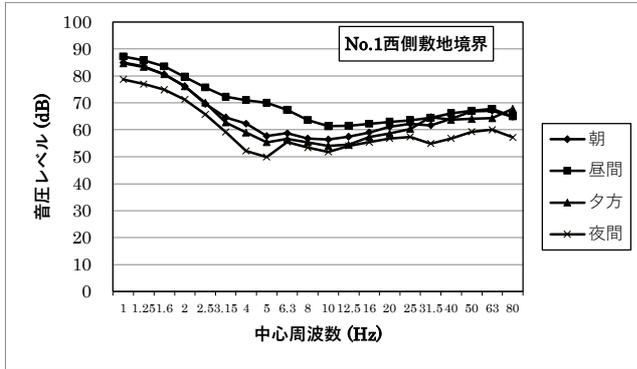
表 8-4-3 G 特性音圧レベル調査結果

調査地点	項目	単位	朝	昼間	夕方	夜間
			6 時～8 時	8 時～18 時	18 時～21 時	21 時～6 時
No. 1 西側敷地境界	L _{Gmax}	dB	91.3 (92.6)	98.5 (106.0)	93.5 (96.1)	92.9 (93.3)
	L _{Geq}	dB	73.5 (76.1)	76.0 (79.3)	71.5 (76.2)	69.2 (75.1)
No. 2 南東側敷地境界	L _{Gmax}	dB	73.2 (72.2)	87.3 (81.6)	72.4 (85.3)	71.3 (72.6)
	L _{Geq}	dB	67.7 (68.4)	70.1 (71.4)	66.0 (69.9)	65.9 (68.3)
No. 3 西側民家付近	L _{Gmax}	dB	85.4 (83.9)	86.3 (87.8)	81.2 (83.9)	85.7 (81.0)
	L _{Geq}	dB	68.0 (70.4)	72.0 (72.0)	65.8 (71.2)	64.2 (69.2)

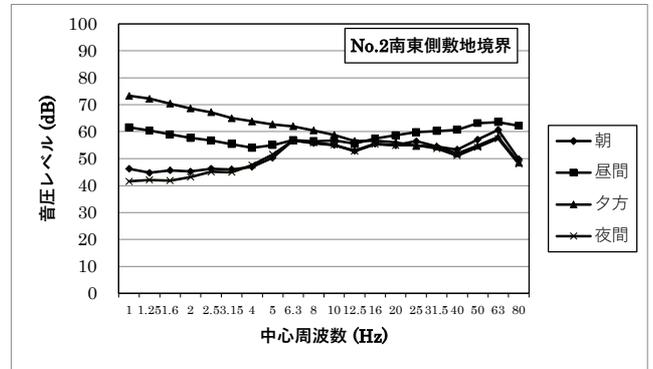
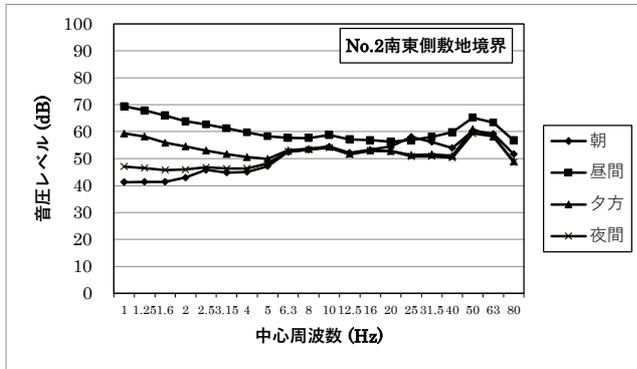
注) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

2) 低周波音圧レベル (1~80Hz)

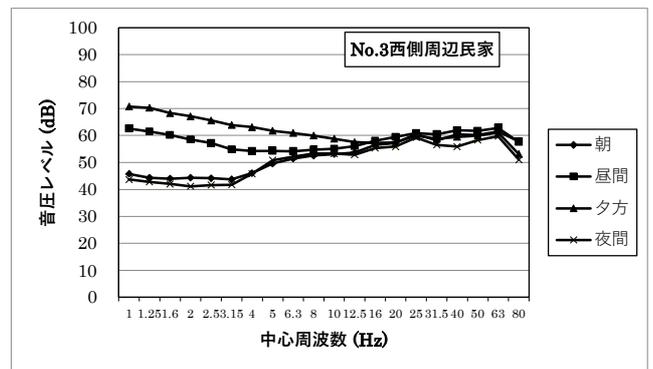
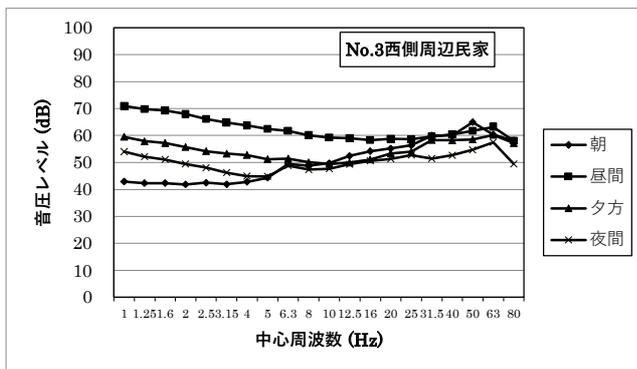
低周波音圧レベル (1~80Hz) について、1/3 オクターブバンド別音圧レベル (Z 特性) の平均値は図 8-4-1 に示すとおりである。



No. 1 (西側敷地境界)



No. 2 (東側敷地境界)



No. 3 (西側周辺民家)

注) 右図は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

図 8-4-1 低周波音調査結果 (1/3 オクターブバンド別音圧レベル (Z 特性))

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

低周波音に係る環境保全措置の実施状況は表 8-4-4 に示すとおりである。

表 8-4-4 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
低周波音発生機器の屋内への配置	タービンや発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機等の低周波音が発生する可能性がある機器は、室内に設置し、開口部が閉じた状態で稼働するよう努める。	低減	蒸気タービン、発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機を室内に設置し、開口部を閉じた状態で稼働させている。
設備機器の防振対策	低周波音が発生する可能性がある機器は、防振ゴムの設置等の防振対策を行う。	低減	低周波音が発生する可能性がある押込送風機等には、防振ゴムによる防振対策を行った。

【環境保全措置の種類】

回避 : 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減 : 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償 : 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-4-5(1)、(2)に示すとおりである。

G 特性音圧レベル及び低周波音圧レベル 1~80Hz はいずれも、どの調査地点においても事後調査結果は予測結果よりも同等か低かった。予測結果よりも低かった要因としては、環境保全措置の効果によるものである可能性が考えられる。後日測定した 2 炉稼働時（定常時）の調査結果では、No.1 にて予測結果よりも同等か若干上回ったものの、予測から大きく外れる数値ではなかった。

表 8-4-5(1) 予測結果と事後調査結果
(施設の稼働による低周波音 (G 特性音圧レベル))

調査地点	時間区分	単位	予測結果	事後調査結果
No.1 西側敷地境界	朝	dB	75	74 (76)
	昼間	dB	79	76 (79)
	夕方	dB	76	72 (76)
	夜	dB	72	69 (75)
No.2 東側敷地境界	朝	dB	69	68 (68)
	昼間	dB	72	70 (71)
	夕方	dB	70	66 (70)
	夜	dB	68	66 (68)
No.3 西側周辺民家	朝	dB	71	68 (70)
	昼間	dB	79	72 (72)
	夕方	dB	72	66 (71)
	夜	dB	68	64 (69)

注 1) 朝 : 6 時~8 時、昼間 : 8 時~18 時、夕方 : 18 時~21 時、夜間 : 21 時~6 時

注 2) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

表 8-4-5(2) 予測結果と事後調査結果

(施設の稼働による低周波音 (低周波音圧レベル 1~80Hz ; 平坦特性))

調査地点	時間区分	単位	予測結果	事後調査結果
No.1 西側敷地境界	朝	dB	99	89(92)
	昼間	dB	108	91(93)
	夕方	dB	101	88(89)
	夜	dB	100	83(87)
No.2 東側敷地境界	朝	dB	73	54(54)
	昼間	dB	81	63(59)
	夕方	dB	74	55(66)
	夜	dB	77	52(53)
No.3 西側周辺民家	朝	dB	73	69(69)
	昼間	dB	89	78(72)
	夕方	dB	77	69(77)
	夜	dB	77	64(67)

注 1) 朝 : 6 時~8 時、昼間 : 8 時~18 時、夕方 : 18 時~21 時、夜間 : 21 時~6 時
 注 2) () 内は後日実施した 2 炉稼働時の結果。

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-4-6 に示すとおりである。

事後調査の結果、本調査の実施期間中は、いずれの地点でも事業実施前の現況を下回っており、低周波音を悪化させておらず、環境保全に関する目標を満足した。

表 8-4-6 環境保全のための目標と現況の比較

(施設の稼働に伴う低周波音)

環境保全目標	現況
現況の低周波音を大きく悪化させないこと	目標を満足していた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

低周波音に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、低周波音に係る事後調査を本年度で終了する。

8-5 悪臭

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺及び敷地境界の悪臭に係る環境が保全されていることを確認し、また施設の稼働により起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

悪臭の事後調査内容は表 8-5-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働時の施設からの悪臭の漏えいについては、特定悪臭物質及び臭気指数とし、排ガス由来の悪臭については、臭気指数とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 1 回とし、大気質と同様、施設が定常的に稼働する時期に実施した。

調査地点は、施設からの悪臭の漏えいについては、対象事業実施区域敷地境界の風上、風下の 2 地点とし、排ガス由来の悪臭は、大気質と同じとした。調査地点の位置を図 8-5-1 及び図 8-5-2 に示す。

表 8-5-1 悪臭の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
特定悪臭物質	「特定悪臭物質の測定の方法」（昭和 47 年環告 9 号）に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回（夏季）	対象事業実施区域 敷地境界 2 地点 （風上、風下）
臭気指数	「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」（平成 7 年環告 63 号）に準じる方法		
臭気指数	「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」（平成 7 年環告 63 号）に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回	対象事業実施区域 周辺 2 地点

(3) 調査日及び期間

悪臭の調査実施日及び期間は表 8-5-2 に示すとおりである。調査日は、通常稼働（2 炉運転）であった。

表 8-5-2 悪臭の調査実施日、期間

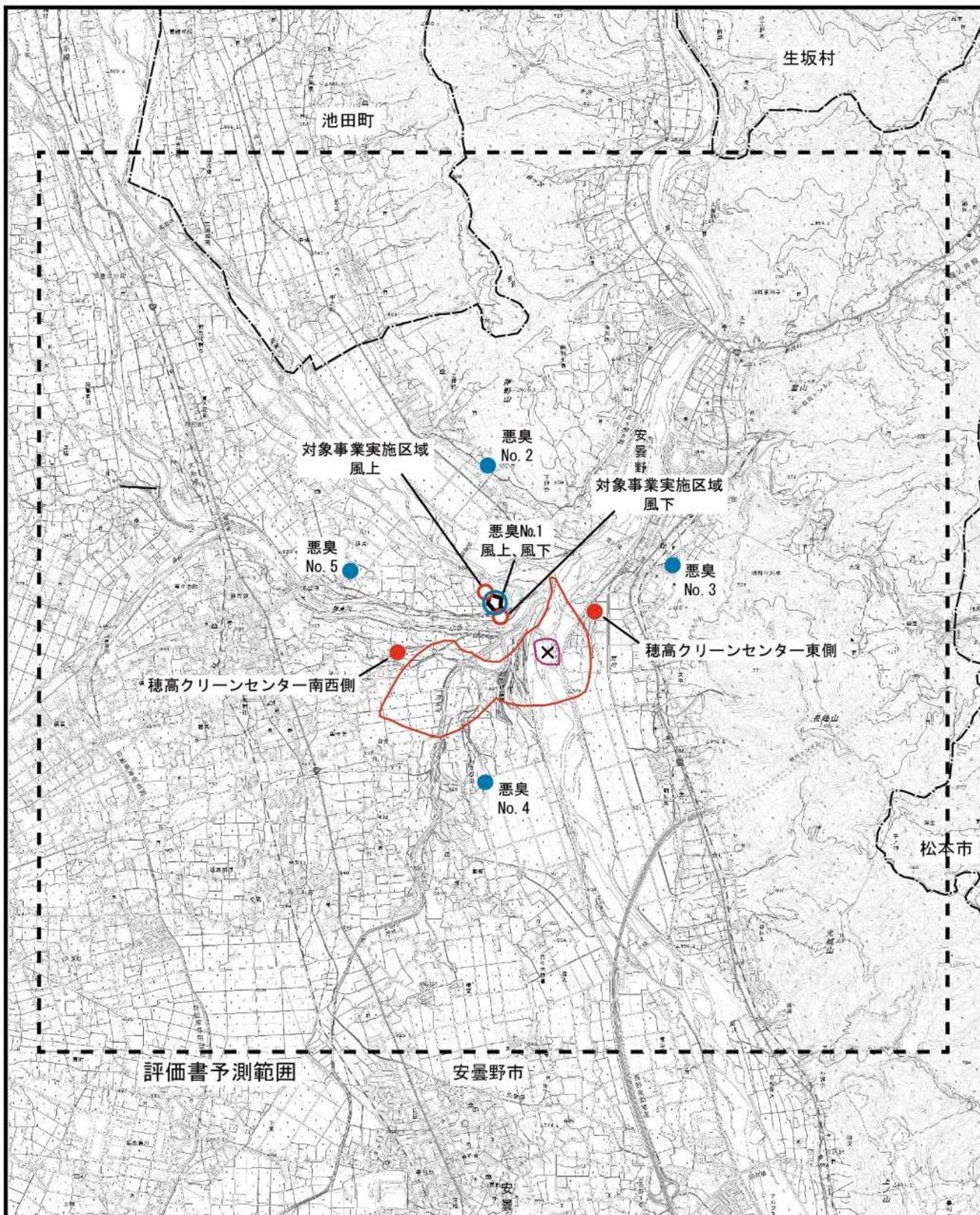
調査項目	調査実施日、期間	施設の稼働状況
特定悪臭物質（22 物質）	令和 3 年 8 月 30 日	通常稼働（2 炉運転）
臭気指数		

(4) 調査結果

1) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭の影響

対象事業実施区域周辺における悪臭の調査結果は表 8-5-3 に示すとおりである。

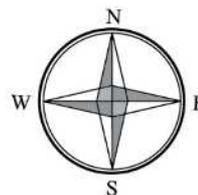
臭気指数は穂高クリーンセンター南西側の地点では 11 であったが、サンプリング時のにおいの質は「蒸れた草のにおい」であり、周辺農地での刈草のにおいであった。穂高クリーンセンター東側では 10 未満であった。



凡 例

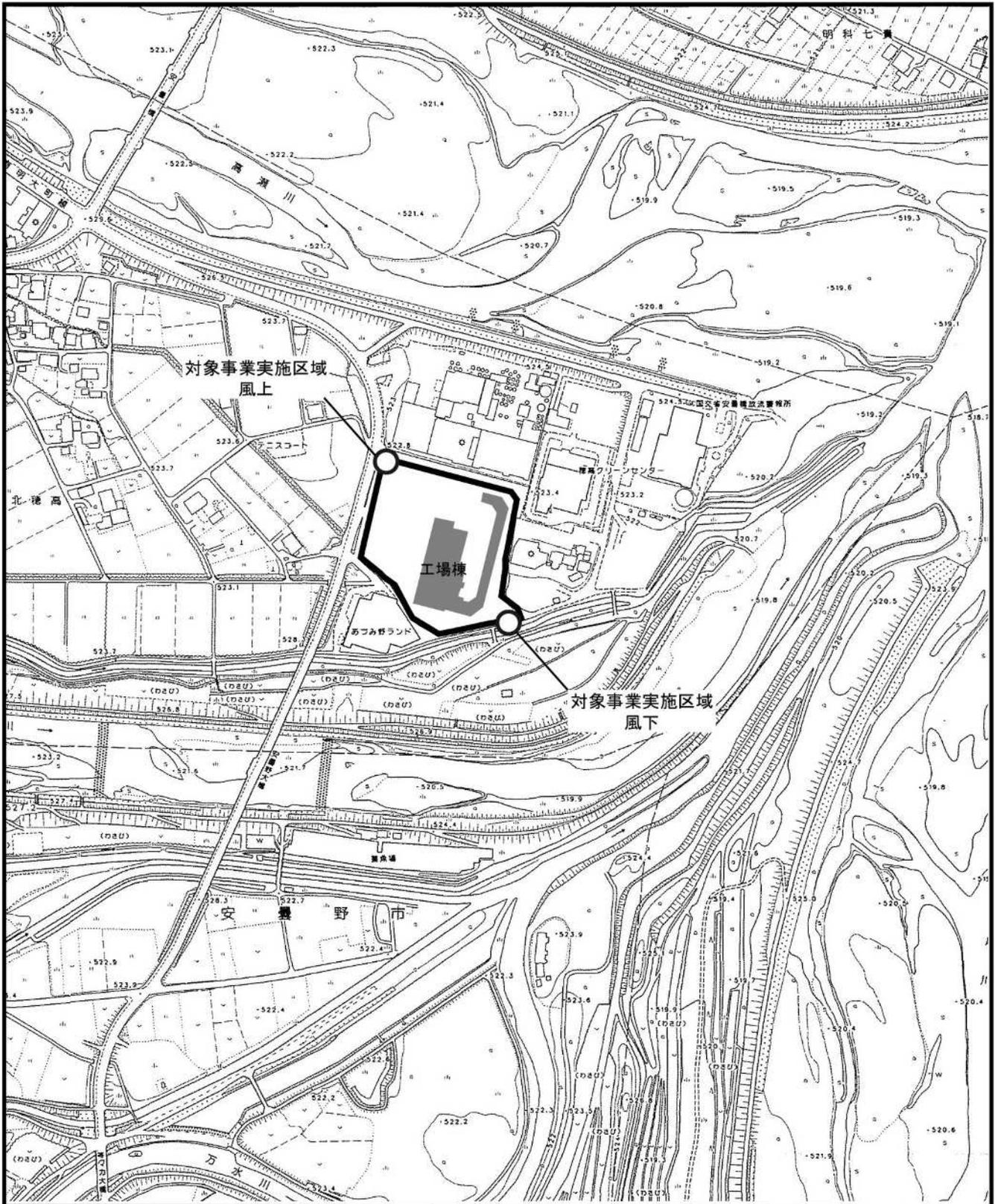
- 対象事業実施区域
- 環境影響評価時の現地調査地点 (臭気指数、特定悪臭物質)
- 環境影響評価時の現地調査地点 (臭気指数)
- 評価書予測範囲
- 悪臭事後調査地点 (臭気指数、特定悪臭物質)
- 悪臭事後調査地点 (臭気指数)
- × 最大着地濃度地点
- 着地濃度が相対的に高かった範囲 (予測時)

図8-5-1 悪臭事後調査地点 (存在・供用による影響)



Scale 1/50,000
0 1,000 2,000 3,000m

この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に作成した。(5万分の1に縮小して掲載)



凡例

- 対象事業実施区域
- 悪臭調査地点（臭気指数、特定悪臭物質）

図8-5-2 悪臭事後調査地点（存在・供用による影響）

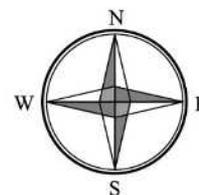


表 8-5-3 臭気指数調査結果

(焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭)

調査地点	臭気指数	においの質 (サンプリング時)
穂高クリーンセンター 南西側	11	蒸れた草のにおい
穂高クリーンセンター 東側	10 未満	芝生のにおい

2) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩による影響

対象事業実施区域の敷地境界における悪臭の調査結果は表 8-5-4(1)、(2)に示すとおりである。
敷地境界の風上、風下ともに悪臭物質の濃度は定量下限値未満であり、臭気指数は 10 未満であった。

表 8-5-4(1) 悪臭物質調査結果 (焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

項目	単位	調査結果	
		対象事業実施区域 風上	対象事業実施区域 風下
アンモニア	ppm	0.2 未満	0.2 未満
メチルメルカプタン	ppm	0.0002 未満	0.0002 未満
硫化水素	ppm	0.0002 未満	0.0002 未満
硫化メチル	ppm	0.0002 未満	0.0002 未満
二硫化メチル	ppm	0.0002 未満	0.0002 未満
トリメチルアミン	ppm	0.001 未満	0.001 未満
アセトアルデヒド	ppm	0.01 未満	0.01 未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.02 未満	0.02 未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.003 未満	0.003 未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.008 未満	0.008 未満
ノルマルバレルアルデヒド	ppm	0.004 未満	0.004 未満
イソバレルアルデヒド	ppm	0.001 未満	0.001 未満
イソブタノール	ppm	0.05 未満	0.05 未満
酢酸エチル	ppm	0.3 未満	0.3 未満
メチルイソブチルケトン	ppm	0.2 未満	0.2 未満
トルエン	ppm	0.9 未満	0.9 未満
スチレン	ppm	0.01 未満	0.01 未満
キシレン	ppm	0.1 未満	0.1 未満
プロピオン酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満
ノルマル酪酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満
イソ吉草酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満

表 8-5-4(2) 臭気指数調査結果

(焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

調査地点	臭気指数	においの質 (サンプリング時)
対象事業実施区域 風上	10 未満	アスファルトのにおい
対象事業実施区域 風下	10 未満	草のにおい

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

ア) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭の影響

焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭に係る環境保全措置の実施状況は表 8-5-5 に示すとおりである。

表 8-5-5 環境保全措置（焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
適切な排出ガス処理の実施	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施する。	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施した。

【環境保全措置の種類】

回避 : 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減 : 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償 : 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

イ) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩による影響

焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭に係る環境保全措置の実施状況は表 8-5-6 に示すとおりである。

表 8-5-6 環境保全措置（焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	臭気を含んでいるごみピット内の空気は燃焼用空気として使用し、臭気を高熱で分解する。	低減	ごみピット内の空気は燃焼用空気として使用し、臭気を高熱で分解する方式とした。
プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置	プラットホーム出入口扉にはエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩することを防ぐ。	低減	プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩することを防いでいる。
全炉休止時に使用する脱臭装置	全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ。	低減	全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ構造とした。
ごみピット内を負圧に保持	ごみピット内は常に負圧とし、臭気を含んでいるごみピット内の空気の外部への漏洩を防止する。	低減	ごみピット内は常に負圧とし、ごみピット内の空気の外部への漏洩を防止している。
気密性を高めた建物構造	特にプラットホームやごみピットの屋根や外壁の気密性を高くした建物構造とし、臭気の漏洩を防止する。	低減	プラットホーム及びごみピットの屋根、外壁の気密性を高くし、臭気の漏洩を防止している。
廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施	洗車場を設け、臭いの元となる車体に付着したごみ等を洗車することで除去し、臭気の飛散を防止する。	低減	洗車場を設け、搬入車両に付着したごみ等を洗車して除去し、臭気の飛散を防止している。
悪臭漏洩の監視	定期的な臭気測定（年1回）を行うことで、悪臭漏洩を監視する。	低減	定期的な臭気測定（年1回）を行い、悪臭漏洩を監視している。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

ア) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭の影響

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-5-7 に示すとおりである。

事後調査の結果、穂高クリーンセンター 南西側において臭気指数が 11 となり、最大着地濃度地点の予測結果を上回ったが、周辺の刈草の臭いであると判断された。なお、環境影響評価の現地調査時には、臭気指数は 10 未満ではあったが、夏季に草の臭い (No. 4 重柳あかしや館)、草、稲穂の臭い (No. 5 狐島会館) が記録されている。

表 8-5-7 予測結果と事後調査結果との比較
(焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭)

調査地点	予測結果 (最大着地濃度地点)	事後調査結果
穂高クリーンセンター 南西側	10 未満	11
穂高クリーンセンター 東側	10 未満	10 未満

イ) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩による影響

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-5-8(1)、(2)に示すとおりである。

予測結果は「種々の対策を講じるため特定悪臭物質、臭気指数は計画値を満足する」としており、計画値である敷地境界線上において臭気指数 15 未満という予測結果との差はなかった。なお、評価書では特定悪臭物質については数値での予測結果を示していないため、環境保全目標の設定の根拠とした、悪臭防止法による第 1 地域の物質濃度規制の基準値を掲載した。

表 8-5-8(1) 環境保全に関する目標と事後調査結果との比較
(焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

項目	単位	環境保全に関する目標	事後調査結果	
			対象事業実施区域 風上	対象事業実施区域 風下
アンモニア	ppm	2 以下	0.2 未満	0.2 未満
メチルメルカプタン	ppm	0.004 以下	0.0002 未満	0.0002 未満
硫化水素	ppm	0.06 以下	0.0002 未満	0.0002 未満
硫化メチル	ppm	0.05 以下	0.0002 未満	0.0002 未満
二硫化メチル	ppm	0.03 以下	0.0002 未満	0.0002 未満
トリメチルアミン	ppm	0.02 以下	0.001 未満	0.001 未満
アセトアルデヒド	ppm	0.1 以下	0.01 未満	0.01 未満
プロピオンアルデヒド	ppm	0.05 以下	0.02 未満	0.02 未満
ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.009 以下	0.003 未満	0.003 未満
イソブチルアルデヒド	ppm	0.02 以下	0.008 未満	0.008 未満
ノルマルバレルアルデヒド	ppm	0.009 以下	0.004 未満	0.004 未満
イソバレルアルデヒド	ppm	0.003 以下	0.001 未満	0.001 未満
イソブタノール	ppm	0.9 以下	0.05 未満	0.05 未満
酢酸エチル	ppm	3 以下	0.3 未満	0.3 未満
メチルイソブチルケトン	ppm	1 以下	0.2 未満	0.2 未満
トルエン	ppm	10 以下	0.9 未満	0.9 未満
スチレン	ppm	0.8 以下	0.01 未満	0.01 未満
キシレン	ppm	1 以下	0.1 未満	0.1 未満
プロピオン酸	ppm	0.07 以下	0.0001 未満	0.0001 未満
ノルマル酪酸	ppm	0.002 以下	0.0001 未満	0.0001 未満
ノルマル吉草酸	ppm	0.002 以下	0.0001 未満	0.0001 未満
イソ吉草酸	ppm	0.004 以下	0.0001 未満	0.0001 未満

表 8-5-8(2) 環境保全に関する目標と事後調査結果との比較
(焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

調査地点	環境保全のための目標	事後調査結果
対象事業実施区域 風上	15 未満	10 未満
対象事業実施区域 風下	15 未満	10 未満

3) 環境保全のための目標との比較

ア) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭の影響

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-5-9 に示すとおりである。

事後調査の結果、臭気指数は 11 であったが、においの質は刈草臭が主体であり排ガスの臭気を感じることができなかったため、焼却施設の稼働に伴う影響はみられず、環境保全に関する目標を満足していたと判断できる。

表 8-5-9 環境保全のための目標（焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭）

項目	環境保全目標	現況
臭気指数	10 未満	目標を満足していた。

イ) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩による影響

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-5-10(1)、(2)に示すとおりである。

特定悪臭物質濃度、臭気指数ともに環境保全に関する目標を満足していた。

表 8-5-10(1) 環境保全のための目標
(焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

項目	環境保全に関する目標	現況
アンモニア	2ppm 以下	目標を満足していた。
メチルメルカプタン	0.004ppm 以下	
硫化水素	0.06ppm 以下	
硫化メチル	0.05ppm 以下	
二硫化メチル	0.03ppm 以下	
トリメチルアミン	0.02ppm 以下	
アセトアルデヒド	0.1ppm 以下	
プロピオンアルデヒド	0.05ppm 以下	
ノルマルブチルアルデヒド	0.009ppm 以下	
イソブチルアルデヒド	0.02ppm 以下	
ノルマルバレルアルデヒド	0.009ppm 以下	
イソバレルアルデヒド	0.003ppm 以下	
イソブタノール	0.9ppm 以下	
酢酸エチル	3ppm 以下	
メチルイソブチルケトン	1ppm 以下	
トルエン	10ppm 以下	
スチレン	0.8ppm 以下	
キシレン	1ppm 以下	
プロピオン酸	0.07ppm 以下	
ノルマル酪酸	0.002ppm 以下	
ノルマル吉草酸	0.002ppm 以下	
イソ吉草酸	0.004ppm 以下	

表 8-5-10(2) 環境保全のための目標
(焼却施設の稼働に伴う施設からの漏洩による悪臭)

環境保全目標	具体的な数値	現況
臭気指数	15 未満	目標を満足していた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

悪臭に係る事後調査の結果、いずれの項目も環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

いずれの項目も環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、悪臭に係る事後調査を本年度で終了する。

8-6 水象

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も湧水への影響がないことを確認し、施設の稼働により起因する異常がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

水象の事後調査内容は表 8-6-1 に示すとおりである。

地下水位について、湿地に近い対象事業実施区域内に設けた観測井において、地下水位の連続観測を行った。調査地点は図 8-6-1 に示すとおりである。

表 8-6-1 水象の事後調査内容

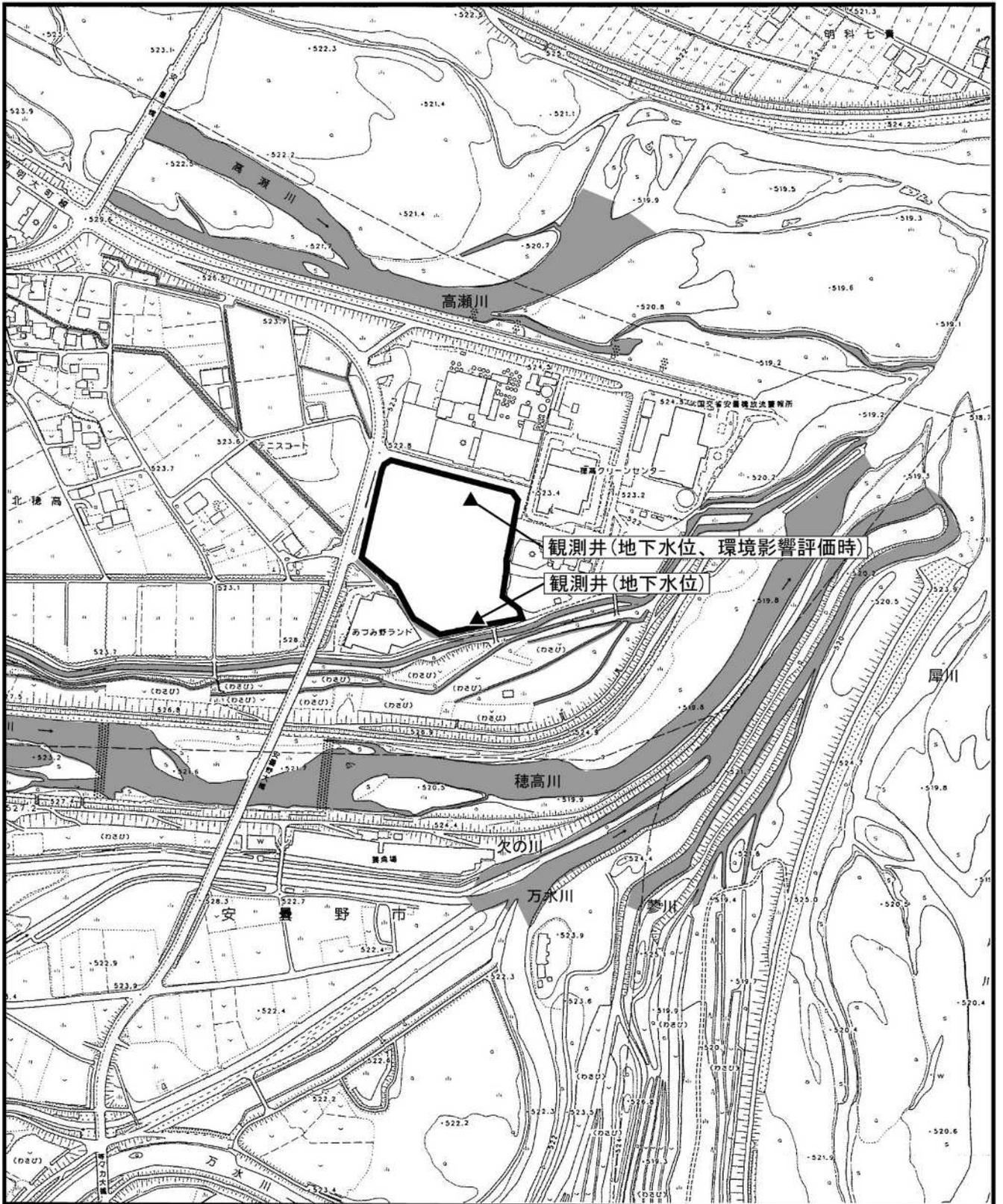
調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
地下水位観測	観測井での地下水位の観測 (連続観測)	供用開始から 1 年間	対象事業実施区域内 1 地点

(3) 調査日及び期間

水象の調査実施日及び期間は表 8-6-2 に示すとおりである。なお、供用開始後 1 ヶ月間（令和 3 年 3 月）の調査については、令和 3 年 6 月付けの事後調査報告書で報告済みである。

表 8-6-2 水象の調査実施日、期間

調査項目	調査実施日、期間	施設の稼働状況
地下水位観測	令和 3 年 4 月 1 日 ～令和 4 年 3 月 31 日	施設供用

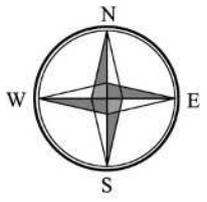


観測井(地下水位、環境影響評価時)
 観測井(地下水位)

凡例

- 対象事業実施区域
- 地下水位観測地点

図8-6-1 水象事後調査地点 (存在・供用による影響)



(4) 調査結果

1) 地下水位観測

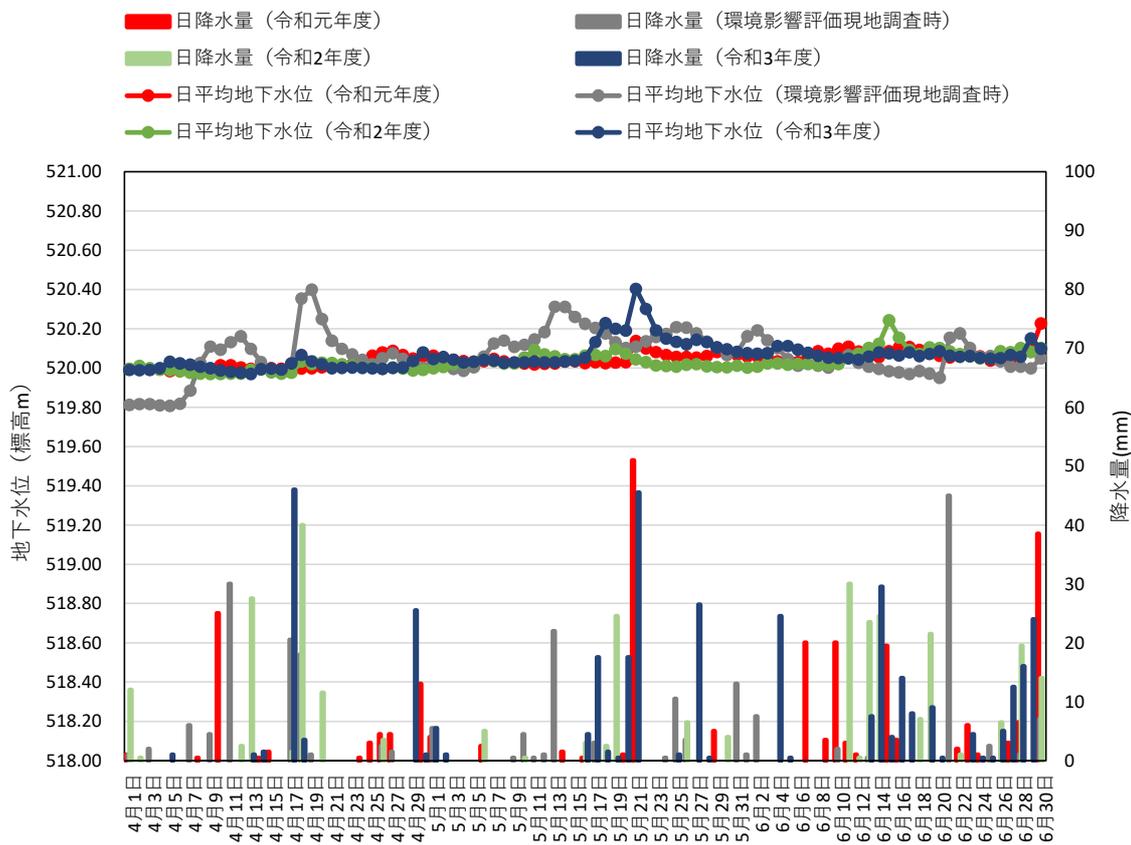
ア) 地下水位の状況

地下水位の調査結果は表 8-6-3 及び図 8-6-2～図 8-6-5 に示すとおりである。

1年間の地下水位の変動は最大で90cmであり、まとまった降水による水位の上昇と、緩やかな低下によるものであった。まとまった降水以外の要因によるとみられる水位の変化はみられなかった。

表 8-6-3 地下水位の調査結果
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

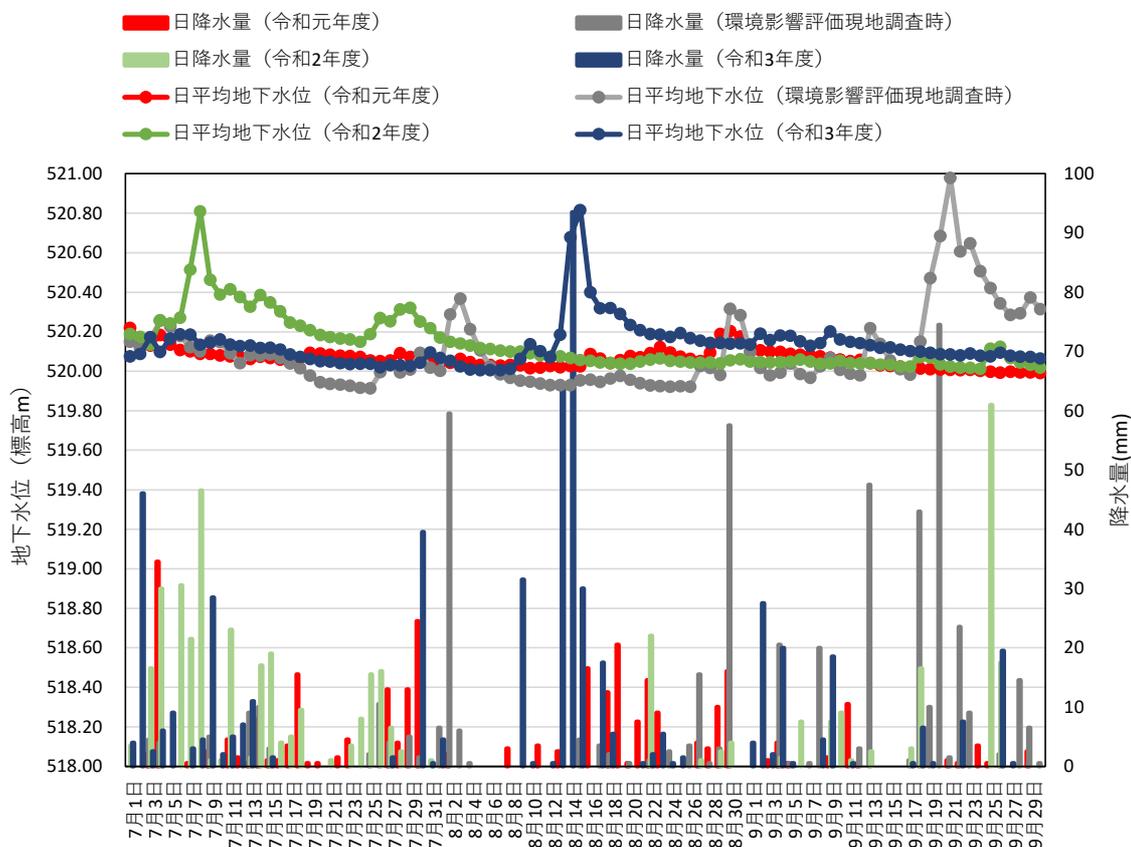
	最大(m)	最小(m)	差(m)
観測井の地下水位 (標高)	520.82	519.92	0.90
観測日	令和3年8月15日	令和4年3月11日	



2021年（環境影響評価現地調査時のデータは2017年）

注：事後調査時と環境影響評価現地調査時では、観測井の位置が異なる

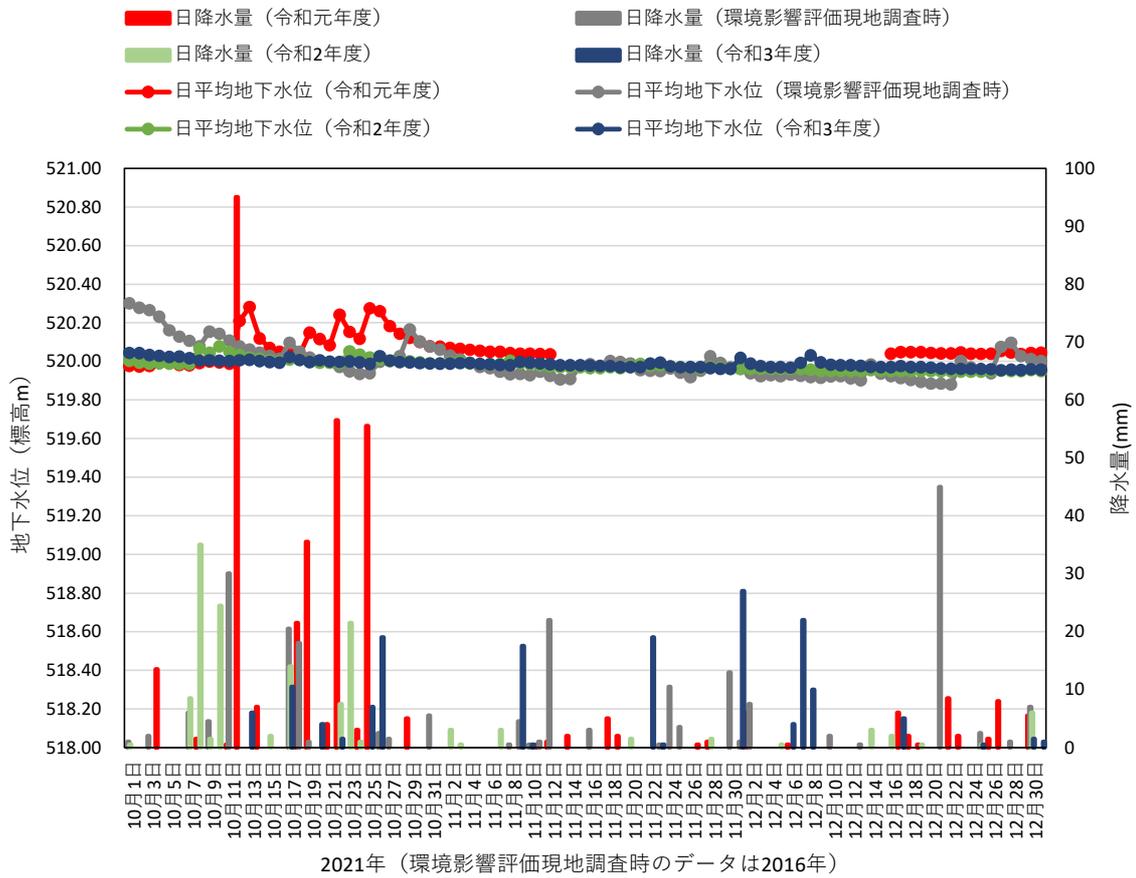
図 8-6-2 地下水水位の変動（4月～6月）



2021年（環境影響評価現地調査時のデータは2016年）

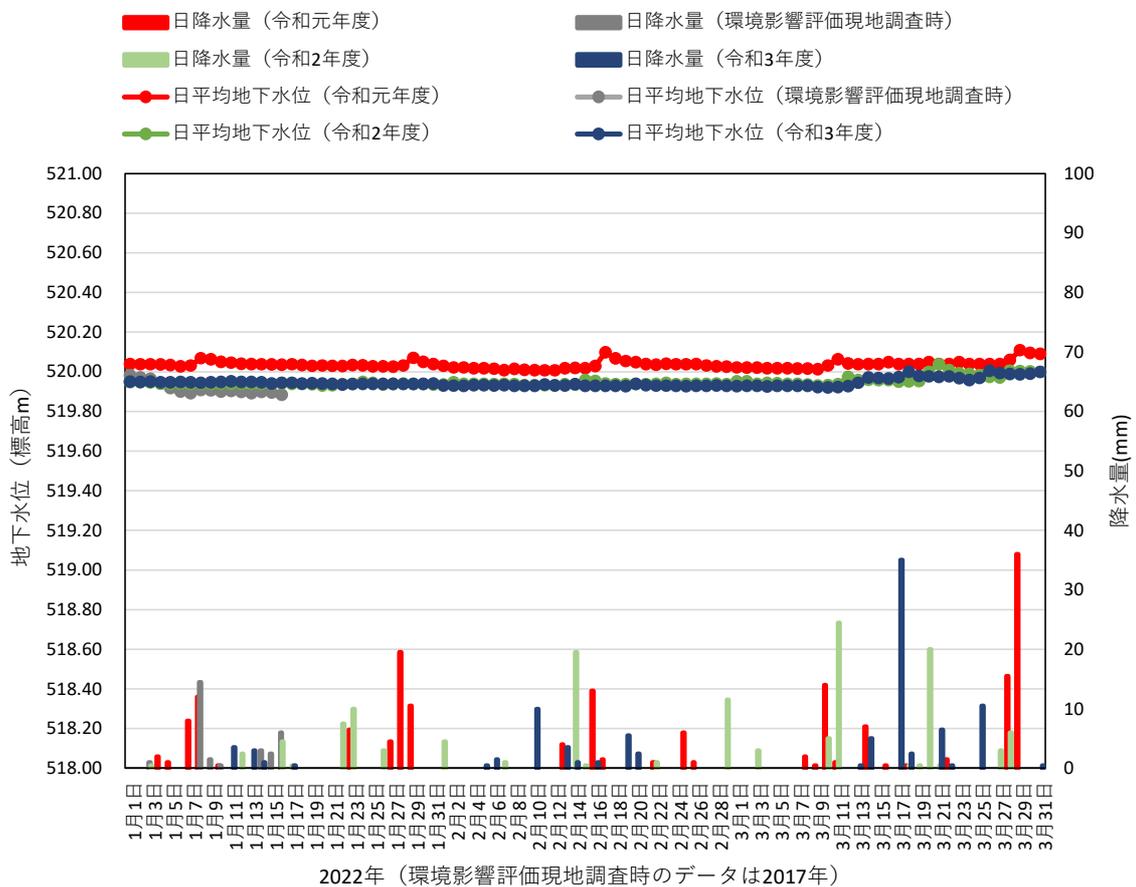
注：事後調査時と環境影響評価現地調査時では、観測井の位置が異なる

図 8-6-3 地下水水位の変動（7月～9月）



注1：事後調査時と環境影響評価現地調査時では、観測井の位置が異なる
 注2：令和元年11月13日～12月15日は、盛土工事に伴い欠測

図 8-6-4 地下水位の変動（10月～12月）



注：事後調査時と環境影響評価現地調査時では、観測井の位置が異なる

図 8-6-5 地下水位の変動（1月～3月）

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

水象に係る環境保全措置の実施状況は表 8-6-4 に示すとおりである。

表 8-6-4 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
掘削面積、掘削深度の最小化	施設設計にあたっては掘削面積及び掘削深度の最小化を図る。	低減	掘削面積及び掘削深度を最小化した。
地下水取水量の最小化	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることにより、地下水の取水量が減少する。	低減	排ガス処理を水噴霧からボイラ方式に変え、地下水の取水量を減少させた。
雨水排水の地下浸透	雨水排水は原則として地下浸透とし、地下水の涵養を妨げない。	低減	地下水の涵養を妨げないよう、雨水排水は地下浸透している。
緑地面積の確保	緑化率を敷地面積に対して 20%以上とし、蒸発散面積を確保する。	低減	緑化率は敷地面積に対して 22.56%とした。

【環境保全措置の種類】

回避 : 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減 : 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償 : 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-6-5 及び表 8-6-6 に示すとおりである。

事後調査の結果、地下水位への影響は見られておらず、環境影響評価の予測と事後調査の結果は一致していた。

表 8-6-5 予測結果と事後調査結果との比較（建築物の存在に伴う影響）

項目	予測結果	事後調査結果
水象	地下構造物が周辺の地下水位に与える影響は想定されないことから、地下水位の変化が生じる可能性は小さい。	地下水位への影響はみられなかった。

表 8-6-6 予測結果と事後調査結果との比較（施設の稼働に伴う影響）

項目	予測結果	事後調査結果
水象	地下水取水による周辺の地下水位への影響はない。	地下水位への影響はみられなかった。

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-6-7 に示すとおりである。

事後調査の結果、地下水位への影響はみられず、環境保全に関する目標を満足していた。

表 8-6-7 環境保全のための目標（存在・供用による地下水位への影響）と現況の比較

項目	環境保全に関する目標	現況
水象	地下水位等に著しい影響を及ぼさないこと。	目標を満足していた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

水象に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、水象に係る事後調査を本年度で終了する。

8-7 土壌汚染

(1) 調査目的及び調査内容

施設の稼働後も対象事業実施区域周辺及び敷地境界の土壌汚染に係る環境が保全されていることを確認し、また施設の稼働により起因する影響がみられた場合には環境保全措置の見直し等を講じることを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

土壌汚染の事後調査内容は表 8-7-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働に伴う排ガスの影響とし、土壌のダイオキシン類とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 1 回とし、大気質と同様、施設が定常的に稼働する時期に実施した。

調査地点は図 8-1-1（前出）に示す対象事業実施区域周辺の 2 地点とした。

表 8-7-1 土壌汚染の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
ダイオキシン類	「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質汚染を含む。）及び土壌汚染に係る環境基準について」（平成 11 年環境庁告示第 68 号）に準じる方法	施設の稼働が通常の状態に達した時点 1 回	対象事業実施区域 周辺 2 地点

(3) 調査日及び期間

土壌汚染の調査実施日は表 8-7-2 に示すとおりである。調査実施時点で、令和 3 年 3 月 1 日の施設供用開始から 1 年が経過していた。

表 8-7-2 土壌汚染の調査実施日

調査項目	調査実施日	施設の稼働状況
土壌中のダイオキシン類	令和 4 年 3 月 1 日	施設供用開始より 1 年経過

(4) 調査結果

土壌中のダイオキシン類の調査結果は表 8-7-3 に示すとおりである。

穂高クリーンセンターでは南西側 2.9 pg-TEQ/g、穂高クリーンセンター東側では 66 pg-TEQ/g であった。

表 8-7-3 土壌中のダイオキシン類の調査結果

調査地点	単位	調査結果
穂高クリーンセンター 南西側	pg-TEQ/g	2.9
穂高クリーンセンター 東側	pg-TEQ/g	66

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

土壌汚染に係る環境保全措置の実施状況は表 8-7-4 に示すとおりである。

表 8-7-4 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
排ガス濃度の低減	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定し、これを遵守することで環境への負荷を低減する。	低減	定期的な排ガス測定を行い、法規制値より厳しい公害防止基準値を設定し、それを満足していることを確認している。
排ガス濃度の監視	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視する。 硫酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉 2 ヶ月に 1 回以上 水銀：各炉 4 ヶ月に 1 回以上 ダイオキシン類：各炉 6 ヶ月に 1 回以上	低減	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視している。 硫酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉 2 ヶ月に 1 回以上 水銀：各炉 4 ヶ月に 1 回以上 ダイオキシン類：各炉 6 ヶ月に 1 回以上
適正な排ガス処理の実施	ろ過式集じん器、塩化水素・硫酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施する。	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施している。
適正な運転管理の実施	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行う。	低減	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行っている。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-7-5 に示すとおりである。

2 か所の調査地点は、環境影響評価の予測において排ガスの着地濃度が周囲と比較して高濃度となると予測された場所付近に設定したことから、事後調査結果は最大着地濃度地点の予測結果と比較した。

土壌中のダイオキシン類濃度は、穂高クリーンセンター南西側では予測結果より低い濃度であったが、穂高クリーンセンター東側では予測結果より高い値となった。

表 8-7-5 土壌中ダイオキシン類の予測結果と事後調査結果

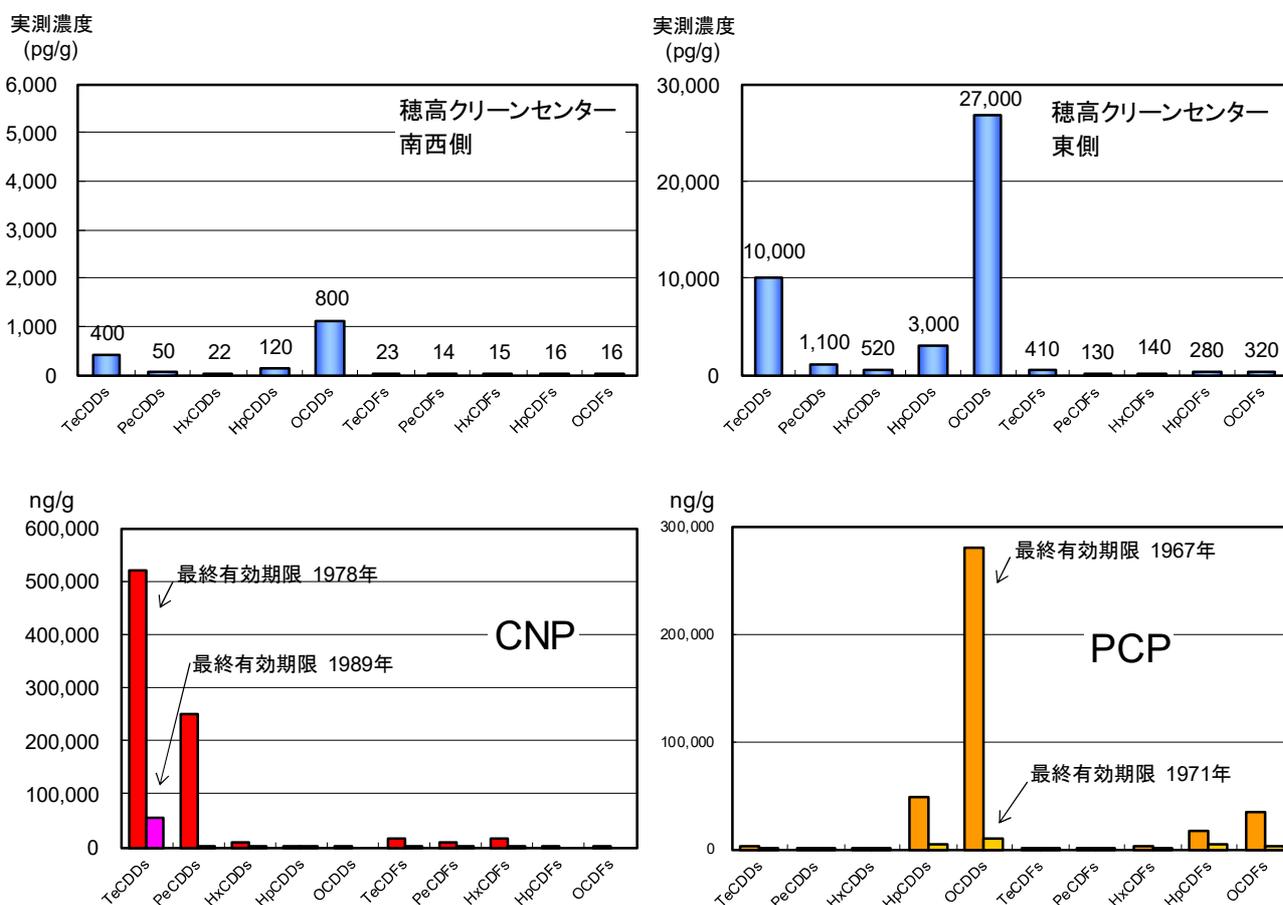
調査地点	単位	予測結果			事後調査結果		環境保全に関する目標
		現況濃度想定	寄与濃度	予測結果	穂高クリーンセンター南西側	穂高クリーンセンター東側	
最大着地濃度地点	pg-TEQ/g	12	0.2602	12.2602	2.9	66	1,000 以下

注) 予測結果は、環境影響評価の現地調査地点のうち、最も高かった地点のダイオキシン類濃度を現況濃度として計算したものの。

環境影響評価の現況調査時には排ガスの最大着地濃度地点が不明であったことから、4 か所で行った現況調査のうち、最も高い濃度を現況濃度とした影響を予測した。そのため、バックグラウンドとしての現況濃度が、事後調査を実施した調査地点の実際の濃度とは異なっていることが、予測結果と事後調査結果との濃度の違いの主要因となっていると考えられる。

なお、穂高クリーンセンター東側の土壌中ダイオキシン類濃度は、環境中の濃度としては高いため、原因の検討を行った。土壌中ダイオキシン類の同族体分布を図 8-7-1 に示す。穂高クリーンセンター東側の土壌ダイオキシン類は、TeCDD（テトラ塩化ジベンゾ-パラ-ジキシン）と OCDD（オクタ塩化ジベンゾ-パラ-ジキシン）が際立って多い特徴があり、かつて農地に使用されていた除草剤 CNP 及び PCP の影響であると推定される。

なお、周辺では他にも同様の傾向を示す場所が他の調査により確認されており、過去の除草剤の使用等に由来するダイオキシン類の寄与があると推定される。最大着地濃度地点近傍であっても、焼却施設の排ガス由来以外の寄与は小さいものと推定される。



注) CNP 及び PCP は「日本の農薬中のダイオキシン類」(益永・中西)より作図

「最終有効期限」とは、農薬取締法により定められた農薬の品質保証期限。図から、古時代のものは多くのダイオキシン類同族体を含んでいたことが分かる。

図 8-7-1 土壌中ダイオキシン類同族体分布

3) 環境保全のための目標との比較

環境保全のための目標と現況との比較は、表 8-7-6 に示すとおりである。

事後調査の結果、土壌中のダイオキシン類は環境基準値を下回っており、環境に与える影響は小さいと判断され、環境保全に関する目標を満足していると判断する。

表 8-7-6 環境保全のための目標と現況の比較

調査地点	項目	環境保全に関する目標	現況
穂高クリーンセンター 南西側	ダイオキ シン類	1,000pg-TEQ/g 現況を著しく悪化させないこと	目標を満足してい た。
穂高クリーンセンター 東側			目標を満足してい た。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

土壌汚染に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、土壌汚染に係る事後調査を本年度で終了する。

8-8 植物

(1) 調査目的及び調査内容

工事中の事後調査において、事業により改変される区域にアオガヤツリの生育が確認されたため、種子を採取した。工事中に実施した試験播種の結果を受けて、施設供用後に環境保全措置を行うこととしたため、環境保全措置の実施状況と結果の把握を行った。

(2) 調査項目及び調査地点

植物の事後調査及び環境保全措置実施内容は表 8-8-1 に示すとおりである。

表 8-8-1 植物の事後調査及び環境保全措置実施内容（存在・供用時）

調査項目	調査方法	期間・頻度・時期	地点
注目すべき種の保全 アオガヤツリ	移植作業（播種）	初夏に 1 回	移植先 （対象事業実施区域内）
	草地維持のための草刈り	2 回（初夏、秋季）	
	生育状況の確認	2 回（花期、結実期）	

(3) 調査日及び期間

植物の調査及び環境保全措置実施日は表 8-8-2 に示すとおりである。

表 8-8-2 植物の調査及び環境保全措置の実施日

内容	実施日	状況
移植作業（播種）	令和 3 年 6 月 7 日	—
草地維持のための草刈り	令和 3 年 6 月 7 日	移植作業の前に実施
	令和 3 年 9 月 30 日	生育確認の後に実施
生育状況の確認	令和 3 年 7 月 22 日	生育状況確認
	令和 3 年 9 月 30 日	結実状況確認

4) 調査結果

1) 移植作業

アオガヤツリの移植作業（播種）の状況を写真 8-8-1 に示す。

播種を行う場所を帯状の 2 区画を軽く耕起し、1 区画は砂を、もう 1 区画は砂に培養土を混ぜたものを敷いた上で、それぞれに保管していた種子をまんべんなく蒔き、灌水を行った。



写真 8-8-1 アオガヤツリの播種状況（令和 3 年 6 月 7 日）

2) 草地維持のための草刈り

草地環境維持のための草刈りの状況を写真 8-8-2、写真 8-8-3 に示す。



写真 8-8-2 草地維持のための草刈りの状況（令和 3 年 6 月 7 日）



写真 8-8-3 草地維持のための草刈りの状況（令和 3 年 9 月 30 日）

3) 生育状況の確認

アオガヤツリの生育状況の確認結果を表 8-8-3 及び写真 8-8-4、写真 8-8-5 に示す。

砂のみ、砂+培養土の区画のいずれの区画もアオガヤツリが生育し、開花・結実が確認できた。砂+培養土の区画の方が生育した数が多く、また草体もやや大きかったものの、どちらの区画も生長がやや悪く草丈が低い上、バッタの食害がみられた。対象事業実施区域内は必ずしも生育に好適な環境ではないものの、開花・結実していることから、草地として管理を続けることにより、継代的に生育していくものと考えられる。

表 8-8-3 アオガヤツリの生育状況の確認結果

確認日	播種状況	確認結果	生育状況等
7月22日	砂のみ	草体を多数確認できたが同定できなかった	生長がやや悪く草丈が低い
	砂+培養土		
9月30日	砂のみ	アオガヤツリ 56 株を確認	開花・結実
	砂+培養土	アオガヤツリ 158 株を確認	生長がやや悪く草丈が低い バッタの食害がみられる



写真 8-8-4 アオガヤツリの生育確認状況 (令和 3 年 7 月 22 日)



写真 8-8-5 アオガヤツリの生育確認状況 (令和 3 年 9 月 30 日)

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

植物に係る環境保全措置の実施状況は表 8-8-4(1)、(2)に示すとおりである。

表 8-8-4(1) 環境保全措置（存在・供用時の緑化による植物への影響）

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
周辺環境に配慮した緑化	敷地内の緑化は、周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする。	低減	工場棟建屋の周辺に高木（ケヤキ等）・中木（イロハモミジ）・低木（アオキ）・灌木（サツキ）・芝張り植栽を行った。
緑化率の確保	緑化率は、敷地面積に対して20%以上とする。	低減	緑化率は敷地面積に対して22.56%とした。
緑地の管理	施設の維持管理の一環として、緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を行う。	低減	緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を実施している。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

表 8-8-4(2) 環境保全措置（存在・供用時の施設の稼働による植物への影響）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
排水の無放流	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とすることにより、場外への排水を行わない。	回避	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とした。
地下水取水量の最小化	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることにより、地下水の取水量が減少する。	低減	排ガス処理を水噴霧からボイラ方式に変え、地下水の取水量を減少させた。
夜間照明拡散の低減	夜間照明の器具にはルーバーを取り付ける等、光の照射範囲を限定し周辺への光漏れを低減する。 場外の夜間照明は最小限とし、可能な限りセンサー式照明を用いるなど照明使用時間を短縮する。 工場棟及び管理棟のブラインド等により窓からの光漏れを最小限とする。	低減	夜間照明は光の照射範囲を限定するものを採用した。場外の夜間照明は最小限とし、センサー式照明を用いて照明使用時間の短縮を図った。また、ブラインドにより窓からの光漏れを最小限とした。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-8-5 に示すとおりである。

アオガヤツリの環境保全措置として、改変前に対象事業実施区域内の生育個体から採種し、整備後に対象事業実施区域内に播種を行うことにより、直接的影響が緩和された。また事後調査により、周辺地域での生育の継続が確認された。

表 8-8-5 植物の予測結果と事後調査結果

項目	予測結果（要旨）	事後調査結果
アオガヤツリ	<p><直接的影響> 工事により、対象事業実施区域内の 2 箇所 3 株が消失するが、対象事業実施区域周辺には他に 4 箇所 46 株が確認されており、直接的影響は小さいと予測する。</p> <p><間接的影響> 対象事業実施区域の上流側にあたる水田で確認されている。 工事による直接的影響を受けない生育地は、対象事業実施区域から離れており、粉じんの影響等が及ぶ可能性はなく、間接的影響はないと予測する。</p>	<p>対象事業実施区域内で 1 箇所 3 株、対象事業実施区域周辺で 2 箇所 18 株の生育を確認した。 対象事業実施区域内の 3 株より種子を採取し、対象事業実施区域内に残置する緑地に移植（播種）した。移植先での開花・結実が確認され、継代的に生育していくものと考えられる。</p> <p>—</p>

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

植物に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、植物に係る事後調査を本年度で終了する。

8-9 動物

(1) 調査目的及び調査内容

存在・供用における施設の稼働による動物への影響を対象とし、対象事業実施区域及び周辺で確認されたハヤブサ及びコウフオカモノアラガイについて生息状況を把握し、状況に応じて必要となる保全対策を検討することを目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

動物の事後調査内容は表 8-9-1 に示すとおりである。

ハヤブサは、定点または移動観察により、対象事業実施区域及び周辺の利用状況を把握した。事後調査計画では施設稼働後の 3 月～4 月の期間中に 6 回程度実施する計画としていたが、繁殖の兆候がないこと、対象事業実施区域周辺の利用が前年度に減少したことから、供用後 1 年間は工事中の頻度（12 回／年）とほぼ同じ 13 回／年の調査を実施する。

ハヤブサの調査範囲を図 8-9-1 に示すとおりである。なお、ハヤブサの調査範囲は人工物等の利用を詳細に把握する範囲であり、飛翔等の行動は周辺 1km 以上にわたり追跡し記録している。

コウフオカモノアラガイは、供用後の事後調査の予定はなかったが、補足的にカタマメマイマイと併せて生育確認の調査を実施した。調査範囲は、対象事業実施区域内の緑地とし、夏季に目視での確認を行った。

表 8-9-1 動物の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
注目すべき種の保全 ・ハヤブサ ^{注1)}	現地調査 (定点または移動観察)	施設稼働後の春季～冬季 12 回／年 (月に 0～2 回)	対象事業実施区域内の 確認地点及びその周辺
・コウフオカモノアラガイ ^{注2)}	生息状況の確認	施設稼働後の夏季 1 回／年	対象事業実施区域内の 確認地点及びその周辺

注 1) 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成 4 年 法律第 75 号）

国内希少野生動植物

「環境省レッドリスト 2017」（2012 年 8 月作成、2017 年 3 月改定）絶滅危惧 II 類

「長野県版レッドリスト（動物編）」（2015 年 3 月 20 日公表）絶滅危惧 IB 類

「安曇野市版 レッドデータブック」（2014 年 7 月）絶滅危惧 II 類

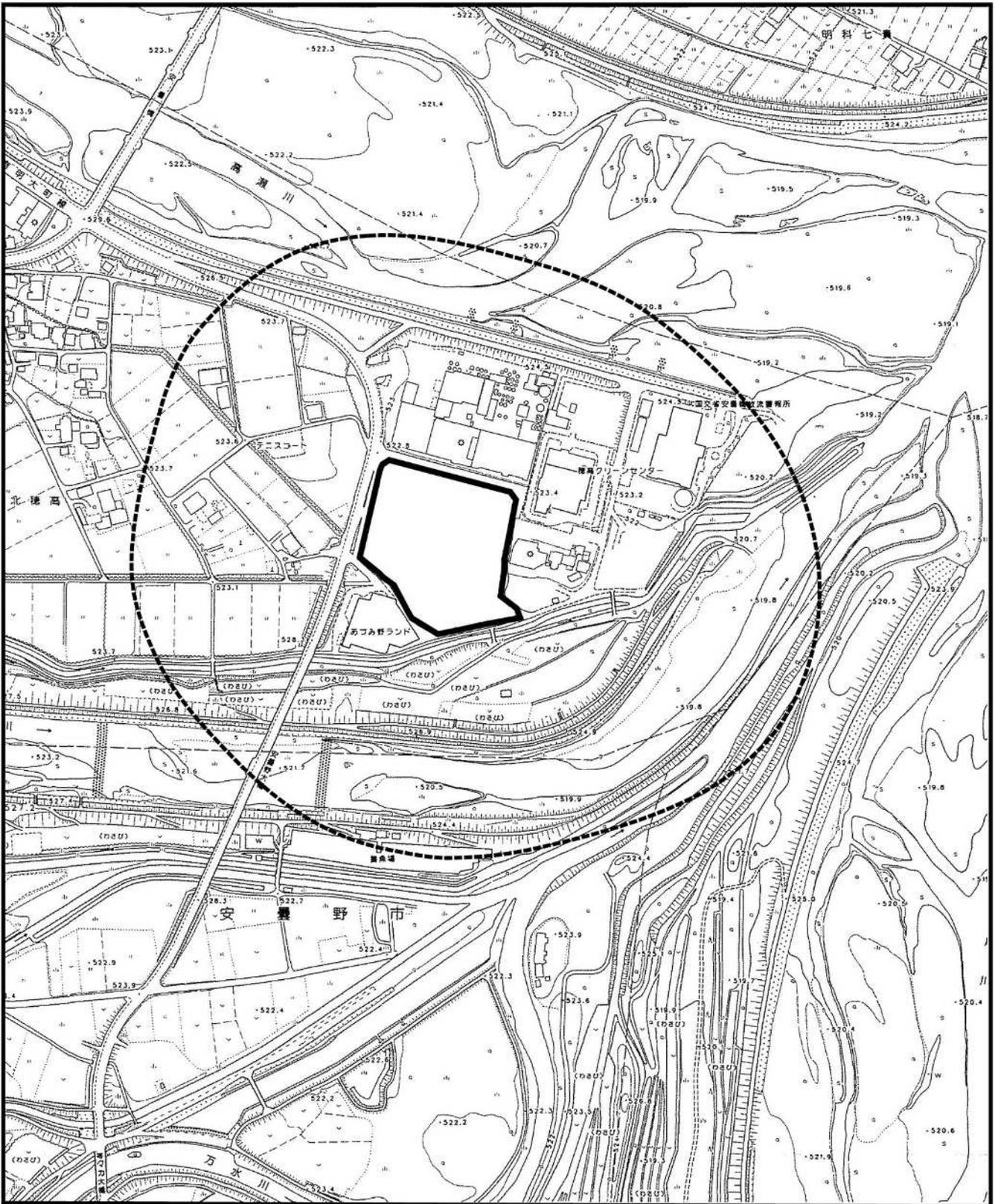
注 2) 「環境省レッドリスト 2017」（2012 年 8 月作成、2017 年 3 月改定）絶滅危惧 II 類

(3) 調査日及び期間

動物の調査実施日及び期間は表 8-9-2 に示すとおりである。

表 8-9-2 動物の調査実施日、期間

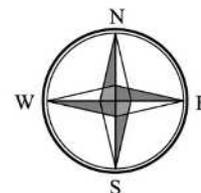
調査項目、方法	調査実施日、期間	施設の稼働状況
・ハヤブサ 現地調査	令和 3 年 4 月 2 日 5 月 22 日 6 月 12 日 7 月 6 日 8 月 21 日 9 月 20 日 10 月 22 日 11 月 20 日 12 月 11 日 令和 4 年 1 月 10 日 1 月 29 日 2 月 11 日 3 月 5 日	期間中は施設供用
・コウフオカモノアラガイ 現地調査（直接観察）	令和 3 年 7 月 22 日 9 月 20 日 9 月 30 日	



凡例

-  対象事業実施区域
-  動物調査範囲 (ハヤブサ)

図8-9-1 動物事後調査地点 (存在・供用による影響)



(4) 調査結果

1) ハヤブサ

ア) 確認状況

ハヤブサの確認状況は表 8-9-3 及び写真 8-9-1 に示すとおりである。

13 回の調査のうち 10 回の調査でハヤブサが確認されたが、対象事業実施区域周辺の利用はほとんどなく、近くの通過が 1 例みられたのみであった。

対象事業実施区域から 1km 以上離れた場所において、雌雄の成鳥が高压鉄塔やアンテナ施設を高い頻度で利用していた。雌雄同時に滞在し、摂食するなどの行動から、繁殖を開始したものの判断されたが、令和 4 年 3 月までの観察の結果、繁殖には至らなかったと判断された。

イ) 対象事業実施区域周辺の利用状況

本調査の調査期間中は、対象事業実施区域周辺の人工構造物の利用は確認されなかった。令和 2 年 12 月以降、対象事業実施区域周辺の人工構造物の利用は確認されていない。施設の建設工事が本格化した時期以降は、それまで利用していた人工構造物の利用頻度は低下したが、対象事業実施区域から離れた場所での狩りや、高压鉄塔やアンテナ施設での滞在、摂食行動がみられており、周辺地域を含めた生息状況には大きな変化はないと判断された。

表 8-9-3 ハヤブサの確認状況

調査日	ハヤブサ確認状況 (個体識別)	対象事業実施区域 周辺の利用状況	その他
令和 3 年 4 月 2 日	—	確認なし	—
5 月 22 日	性別不明 2 例 (同一個体)	—	河川～水田で狩り
6 月 12 日	不明 1 例	—	河川～水田で狩り
7 月 6 日	—	—	—
8 月 21 日	不明 2 例	—	—
9 月 20 日	若鳥 1 例	対象事業実施区域近くを 飛翔	特に利用はなく、通過
10 月 22 日	不明 1 例	—	離れた場所の高压鉄塔で 摂食
11 月 20 日	—	—	—
12 月 11 日	雌成鳥 3 例 (同一個体)	—	離れた場所のアンテナ施設に 滞在、摂食
令和 4 年 1 月 10 日	雄成鳥 2 例 (同一個体) 雌成鳥 2 例 (同一個体) 若鳥 1 例	—	離れた場所のアンテナ施設に 成鳥雄、雌が滞在、餌運、 摂食 成鳥雄が若鳥を追い払い
1 月 29 日	雄成鳥 1 例 雌成鳥 1 例	—	離れた場所のアンテナ施設に 成鳥雄・雌が滞在、餌運、 摂食、周辺で狩り
2 月 11 日	雌成鳥 4 例 (同一個体) 性別不明 3 例	—	アンテナ施設に成鳥雌が 滞在
3 月 5 日	雌成鳥 2 例 (同一個体) 性別不明 4 例	—	アンテナ施設に成鳥雌が 滞在



成鳥（メス）の飛翔（令和3年5月22日）



成鳥（メス）の餌運び（令和4年1月10日）



成鳥（オス、メス）のアンテナ施設利用
（令和4年1月29日）

写真 8-9-1 ハヤブサの確認状況

2) オオタカ

ア) 確認状況

本調査の調査対象ではないものの、ハヤブサと同様の生態的地位にあること、工事中の事後調査において調査中の確認頻度が高かったことから、オオタカにも着目して調査を実施した。オオタカの確認状況は表 8-9-4 及び写真 8-9-2 に示すとおりである。

令和 3 年 2 月～3 月にかけて繁殖の兆候がみられており（令和 3 年 6 月付けの事後調査報告書参照）、5 月までは繁殖行動がみられたが、その後巣にヒナは確認できず、5 月以降に繁殖が中断されたとみられる。令和 4 年 2 月、3 月の調査ではオオタカの繁殖の兆候は見られていない。令和 2 年 7 月豪雨の際、繁殖地の様子が大きく変化したことが関係している可能性が考えられる。

表 8-9-4 オオタカの確認状況

調査日	オオタカ確認状況 (個体識別)	対象事業実施区域 周辺の利用状況	その他
令和 3 年 4 月 2 日	成鳥雄 1 例 成鳥雌 1 例	—	—
5 月 22 日	性別不明 2 例	—	林の上部でトビを追い払い
6 月 12 日	成鳥雄 1 例 成鳥雌 3 例	対象事業実施区域近くで 狩り	成鳥雌が川沿いで狩り
7 月 6 日	成鳥雄 1 例	—	水田周辺で探餌
8 月 21 日	若鳥 1 例	対象事業実施区域とその 近くを飛翔	施設建屋付近の上昇気流 で高度を上げて移動
9 月 20 日	確認なし	—	—
10 月 22 日	成鳥雄 2 例 性別不明 1 例	対象事業実施区域近くで 狩り	成鳥雄が川沿いで狩り
11 月 20 日	成鳥雄 1 例 成鳥雌 1 例	—	ディスプレイ飛翔の可能 性あり
12 月 11 日	確認なし	—	—
令和 4 年 1 月 10 日	成鳥雄 2 例 成鳥雌 3 例	—	成鳥雌が川沿いで探餌
1 月 29 日	成鳥雄 3 例 成鳥雌 2 例 性別不明 1 例	雌が対象事業実施区域近 くを飛翔	成鳥雌が川沿いで探餌
2 月 11 日	確認なし	—	雄、雌ともにディスプレ イ飛翔、性別不明個体を 雄個体が攻撃
3 月 5 日	確認なし	—	—



メス成鳥（令和3年4月2日）



メス成鳥（令和3年6月12日）



成鳥雄の確認状況（令和4年1月10日）



成鳥雄の確認状況（令和4年1月29日）

写真 8-9-2 オオタカの確認状況

イ) 施設の存在、稼働による影響

8 月には若鳥が新施設付近の上昇気流で高度を上げる行動が観察され、施設の存在や稼働が移動に利用された事例があった。また、対象事業実施区域近くでの狩り行動も観察されており、施設の存在や稼働がオオタカの生息の妨げにはなっていないものと考えられる。

3) コウフオカモノアラガイ

ア) 確認状況

オカモノアラガイ類の確認状況は表 8-9-5 及び写真 8-9-3 に示すとおりである。

対象事業実施区域内において、オカモノアラガイ類の生息が確認された。また、周辺の水田でもオカモノアラガイ類が多数確認された。対象事業実施区域内では、水田周辺と比べてオカモノアラガイ類の生息密度は低いものの、生息は維持されている。

カタマメマイマイは毎回確認されており、対象事業実施区域内の生息場所での生息密度は低くないとみられる。

対象事業実施区域内の緑地は、水辺から遠く湿り気は比較的少ないため、比較的乾燥した砂質の場所を好むカタマメマイマイの生息に適しており、湿った水田の畔などに生息するコウフオカモノアラガイの個体数が少ないものと考えられる。

表 8-9-5 オカモノアラガイ類の確認状況

調査日	対象事業実施区域内でのオカモノアラガイ類 [※] の確認状況	その他
令和 3 年 7 月 22 日	死貝 7 個体	カタマメマイマイ生貝 3、死貝多数を確認 水田周辺でオカモノアラガイ類の生貝 25 個体以上を確認
9 月 20 日	—	カタマメマイマイ生貝を確認
9 月 30 日	生貝 4 個体 死貝多数	カタマメマイマイ生貝を確認

※) コウフオカモノアラガイの同定には解剖が必要であるため、個体保全の観点から同定は行わず、オカモノアラガイ類とした。

イ) コウフオカモノアラガイの保全措置

コウフオカモノアラガイの保全措置として、草地環境の維持のための草刈りをアオガヤツリの保全措置と併せて実施した。作業状況を写真 8-8-2、写真 8-8-3 (前出、P48) に示す。



対象事業実施区域内の生息地の状況



確認されたオカモノアラガイ類の生貝



確認されたカタマメマイマイの生貝

写真 8-9-3 陸産貝類の確認状況

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

動物に係る環境保全措置の実施状況は表 8-9-6(1)、(2)に示すとおりである。なお、存在・供用時の環境保全措置については、ハヤブサを対象とした調査との関連がないため掲載しない。

表 8-9-6(1) 環境保全措置（緑化）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
周辺環境に配慮した緑化	敷地内の緑化は、周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする。	低減	工場棟建屋の周辺に高木(ケヤキ等)・中木(イロハモミジ)・低木(アオキ)・灌木(サツキ)・芝張り植栽を行った。
緑化率の確保	緑化率は、敷地面積に対して20%以上とする。	代償	緑化率は敷地面積に対して22.56%とした。
緑地の管理	施設の維持管理の一環として、緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を行う。	低減	緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を実施した。

【環境保全措置の種類】

回避 : 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減 : 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償 : 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

表 8-9-6(2) 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
排水の無放流	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とすることにより、場外への排水を行わない。	回避	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とした。
地下水取水量の最小化	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることにより、地下水の取水量が減少する。	低減	排ガス処理を水噴霧からボイラ方式に変え、地下水の取水量を減少させた。
夜間照明拡散の低減	夜間照明の器具にはルーバーを取り付ける等、光の照射範囲を限定し周辺への光漏れを低減する。	低減	夜間照明は光の照射範囲を限定するものを採用した。場外の夜間照明は最小限とし、センサー式照明を用いて照明使用時間の短縮を図った。また、ブラインドにより窓からの光漏れを最小限とした。

【環境保全措置の種類】

回避 : 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減 : 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償 : 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-9-7 に示すとおりである。

表 8-9-7 予測結果と事後調査結果との比較（存在・供用による影響（施設の稼働））

項目	予測結果（要旨）	事後調査結果
ハヤブサ	<p><直接的影響> 人工構造物を休息や採餌場所として利用されているが、対象事業実施区域外であり、工事による直接的影響はないと予測する。</p> <p><間接的影響> 現有施設が存在・稼働している状況において、対象事業実施区域周辺の人工構造物を利用し、休息や採餌環境として利用している。 建築物及び工作物は、対象事業実施区域の隣接地にある現有施設が置き換わることになるが、その配置や形状により採餌場としての利用状況に変化が生じると予測する。</p>	<p>対象事業実施区域内を直接利用することはなく、予測のとおり施設の稼働による直接的影響はないと判断する。</p> <p>施設の建設工事が本格化した時期以降は、それまで利用していた人工構造物はほとんど利用しなくなったとみられるが、周辺地域での行動は確認されており、生息状況に与えた影響は小さいと判断する。</p>
コウフオカモノアラガイ	<p><直接的影響> 生息地である対象事業実施区域内の草地が工事により改変を受けることから直接的影響が大きいと予測する。</p> <p><間接的影響> —</p>	<p>対象事業実施区域内では、コウフオカモノアラガイの生息場所を残置することとしたため、影響を回避・低減したと判断する。</p> <p>また、対象事業実施区域外において、比較的広範囲に生息していることを新たに確認した。確認した個体が多く、面積も広いことから、個体群への影響はほとんどないと判断する。</p> <p>—</p>

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

動物に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、動物に係る事後調査を本年度で終了する。

8-10 景観

(1) 調査目的及び調査内容

施設の存在による景観の変化を確認し、環境保全措置の検証を目的として実施した。

(2) 調査項目及び調査地点

景観の事後調査内容は表 8-10-1 に示すとおりである。

調査項目は、施設の稼働に伴う景観への影響とし、景観資源及び構成要素、主要な景観とした。調査頻度は施設の稼働が通常の状態に達した時点の 2 回とし、大気質と同様、施設が定常的に稼働する時期に実施した。

調査地点はごみ処理施設が眺望できる範囲の中から選定した日常景観及び眺望景観の代表的な 6 地点とした。調査地点の位置を図 8-10-1 に示す。

表 8-10-1 景観の事後調査内容（存在・供用による影響（施設の稼働））

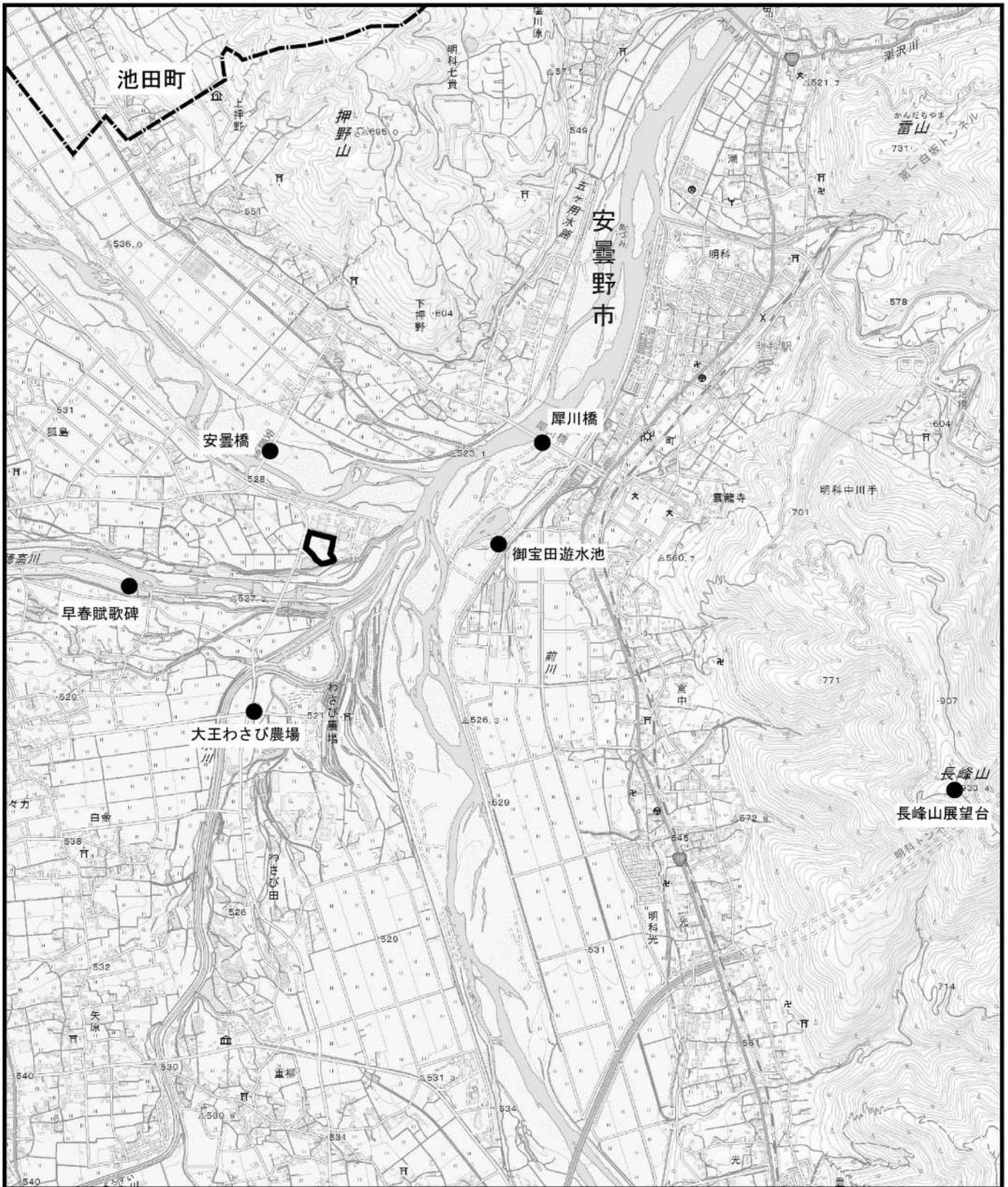
調査項目	調査方法	調査期間・頻度・時期	調査地点
景観資源 構成要素 主要な景観	現地踏査及び写真撮影	施設稼働後 2 回 (夏季、冬季)	対象事業実施区域 周辺 6 地点

(3) 調査日及び期間

景観の調査実施日は表 8-10-2 に示すとおりである。なお、冬季は太陽高度が低いため、時間帯によっては施設建屋に影になる部分が生じて目立ちにくくなる。景観への影響が大きくなる視認しやすく時間帯に写真撮影を行うため、調査は 2 回に分けて実施した。

表 8-10-2 景観の調査実施日

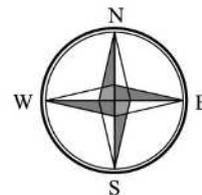
調査時期		実施期間	施設の稼働状況
景観資源及び 構成要素 主な景観	夏季	令和 3 年 8 月 20 日 (金)	すべての地点
	冬季	令和 4 年 2 月 23 日 (水)	安曇橋、大王わさび農園、 早春賦歌碑、長峰山展望台
		令和 4 年 2 月 26 日 (土)	犀川橋、御宝田遊水池



凡 例

-  対象事業実施区域
-  行政界
-  調査地点
(評価書予測地点と同位置)

図8-10-1 景観事後調査地点 (存在・供用による影響)



Scale 1/25,000
0 500 1,000 1,500m

この地図は、国土交通省国土地理院発行の電子地形図25000を基に作成した。

(4) 調査結果

調査地点からの景観の状況を表 8-10-3 及び写真 8-10-1 (1)、(2) に示す。

表 8-10-3 主要な景観の状況

調査地点	主要な景観の状況
安曇橋	<p>近隣住民が通勤・通学や買い物などで日常的に通行している地点である。</p> <p>対象事業実施区域は、安曇橋を南の方角に向かう際に南東の方角に視野に入る。環境影響評価の現地調査実施時には、対象事業実施区域の見通しは良好であったが、河川内の樹木の成長により、部分的に対象事業実施区域方向の見通しが遮られる状況となっている。</p> <p>旧焼却施設及び新施設の両方が左右に視認でき、いずれも煙突から低層階まで視認できる。</p>
犀川橋	<p>近隣住民が通勤・通学や買い物などで日常的に通行している地点である。</p> <p>対象事業実施区域は南西の方角にあたる。対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、冬季に落葉しても状況は大きく変わらない。</p> <p>旧焼却施設と新施設の両方について、煙突及び建物の一部が視認できる。</p>
御宝田遊水池	<p>コハクチョウ、その他様々な水鳥が飛来する池があり、その奥に犀川が流れ、河畔林が広がっている。また、北アルプスが南北に連なっており、眺望地点としての価値が高い場所となっている。なお、令和2年7月、令和3年8月の豪雨により水没したため、池や植生等の様子には変化がみられた。</p> <p>対象事業実施区域は西の方角にあたる。対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、冬季に落葉しても状況は大きく変わらない。</p> <p>旧焼却施設は、通年煙突が視認でき、落葉期には建物の一部が視認できる。</p> <p>新施設は、煙突のみが視認でき、落葉期にも建物は視認できない。</p>
大王わさび農場	<p>春季から秋季にかけて多くの人が訪れる観光拠点の一つである。</p> <p>調査地点は駐車場の手前に位置し、訪問者の多くが通過する地点である。対象事業実施区域との間に万水川が流れており、その堤防沿いの樹林によって視界が遮られている。</p> <p>旧焼却施設は、春季から秋季にかけては煙突の頂部のみが視認でき、落葉期にも建物の一部がわずかに視認できるのみとなっている。</p> <p>新施設は、春季から秋季にかけて煙突が視認でき、冬季には建物の上部まで視認できる。</p>
早春賦歌碑	<p>多くの人が訪れる観光地である。</p> <p>対象事業実施区域との間に穂高川が流れており、その堤防沿いに樹林があるが、冬季に落葉しても状況は大きく変わらない。</p> <p>新施設は煙突及び建物の上部が視認できる。旧焼却施設は煙突と建物の一部が新施設と重なり、視認はできるが目立たない。</p>
長峰山展望台	<p>正面に北アルプス、眼下に安曇野が広がっており、安曇野屈指の眺望地点となっている。対象事業実施区域までは距離があり、また遮るものがないため、年間を通じて見通しに大きな変化はない。</p> <p>旧焼却施設及び新施設のほぼ全体を俯瞰することができる。</p>

	夏 季	冬 季
安曇橋		
犀川橋		
御宝田遊水池		
大王わさび農場		

写真 8-10-1(1) 景観の状況（施設供用後）

	夏 季	冬 季
早春賦歌碑		
長峰山展望台		

写真 8-10-1(2) 景観の状況（施設供用後）

(5) 環境影響評価の予測結果等との比較

1) 環境保全措置の実施状況

景観に係る環境保全措置の実施状況は表 8-10-4 に示すとおりである。

表 8-10-4 環境保全措置（施設の稼働）の実施状況
（建築物・工作物等の存在に伴う景観資源・構成要素及び主要な景観）

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類	実施状況
施設色彩等への配慮	けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周囲の景観と調和した色調とする。	低減	旧焼却施設及び隣接する余熱利用施設「あづみ野ランド」と統一感のある落ち着いたデザイン、色調とした。
施設形状等の検討	煙突にあっては、施設周辺の景観に配慮して計画する。	低減	煙突は旧焼却施設と似た違和感のないデザインを採用した。
周辺景観と調和した緑化の実施	周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする。	低減	工場棟建屋の周辺に高木（ケヤキ等）・中木（イロハモミジ）・低木（アオキ）・灌木（サツキ）・芝張り植栽を行った。
	敷地南西側に位置しているあづみ野ランド等周辺建物と調和するような緑地帯を設けるなど、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮する。	低減	敷地南西側に位置している「あづみ野ランド」と統一感のあるデザインとし、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮した。

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

2) 環境影響評価の予測結果との比較

環境影響評価の予測結果と事後調査結果との比較は、表 8-10-5(1)～(2)、写真 8-10-2～写真 8-10-7 に示すとおりである。

環境影響評価では、環境保全措置として、「施設色彩等への配慮」、「施設形状等の検討」、「周辺景観と調和した緑化の実施」の対策を実施することにより、景観に係る環境影響が実行可能な範囲でできる限り緩和され、景観への配慮が適正になされると予測した。

調査の結果、施設建屋が予測条件よりも小さく収まり、また配色や形状を旧焼却施設と類似させているため、予測結果（フォトモンタージュ）と比較して違和感が少なくなっている。また、調査時点では旧施設が存在しているため建設前と比較して景観は明確に変化しているが、旧施設の解体後には、建設前と大差ない状況となり、いずれの調査地点からの景観も、建設前と大差ないと考えられる。

表 8-10-5(1) 建築物等の存在及び緑化による景観への影響の予測結果と事後調査結果

調査地点	事業実施区域からの距離と方角	結果写真	予測結果	事後調査結果
安曇橋	約 390m 北西	写真 8-10-1(1)	<p>計画施設の煙突及び建物の北面及び西面が視認される。計画施設手前側には工場があるが高さはなく、計画施設建屋が隠れるのはわずかな部分である。</p> <p>計画施設周辺には既存焼却施設や工場などの構造物がみられるが、建物が大きく、また既存焼却施設よりも距離が近くなることから、現況の景観を変化させると予測される。</p>	<p>河川内の樹木の成長により、部分的に対象事業実施区域方向の見通しが遮られる状況となっているため、場所を南にずらして撮影した。</p> <p>旧施設及び新施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。</p> <p>新施設は旧施設よりも手前にあるため、煙突は高く見え、建屋が大きいため視野に占める割合が増加する。形状、色調が旧施設と類似しているため、予測結果と比較して違和感は小さい。</p>
犀川橋	約 990m 北東	写真 8-10-1(1)	<p>計画施設の煙突及び建物の北面、東面が視認される。既存焼却施設の陰に位置するため、既存焼却施設の存在下では計画施設建屋の多くの部分が隠れる。</p> <p>計画施設周辺には焼却施設以外の人工物はほとんど見えないが、視野全体に占める割合は大きくない。計画施設の建設により現況の景観は変化するが、その程度は小さく、また、既存焼却施設の解体後には現況の景観と同等となると予測される。</p>	<p>旧施設及び新施設の両方について、煙突及び建屋の上半分が視認できる。視認できるが、新施設は旧施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。</p> <p>新施設は旧施設よりも奥にあるため、建屋は旧施設より大きいものの視野に占める割合に大きな変化はなく、また煙突は低く見える。形状、色調も旧施設と類似しており、違和感は小さい。</p>

表 8-10-5(2) 景観の予測結果と事後調査結果

調査地点	事業実施区域からの距離と方角	結果写真	予測結果	事業調査結果
御宝田遊水池	約 740m 東	写真 8-10-1(1)	<p>既存焼却施設及び計画施設について、夏季に視認できるのは主に両施設の煙突であり、冬季には建屋の北面及び東面の一部も視認されやすくなる。</p> <p>計画施設が建設され両施設が同時に存在する期間は、視認できる煙突が一時的に 2 本となり、特に北アルプスの眺望については現況と変化する。既存焼却施設の解体後は、視認できる煙突が 1 本となり、実際の煙突高は同じであるため、距離が遠くなるためやや低く見えることになり、現況の景観と概ね同等となると予測される。</p>	<p>旧施設は煙突と建屋の一部が視認できるが、河畔林の樹木の成長により、冬季においても建屋はほとんど視認できなくなった。</p> <p>新施設は旧焼却施設よりも奥にあり、また河畔林の樹木の成長によって建屋は冬季においても視認できない。また煙突も低く見えるため、旧施設解体後は景観への影響は小さくなる。</p>
大王わさび農場	約 710m 南	写真 8-10-1(1)	<p>計画施設の煙突及び南面が視認される。春季には万水川堤防の樹林により計画施設の大部分が隠れるが、冬季には見える範囲が拡大する。</p> <p>大王わさび農場に向かう観光客が通過する地点であるが、計画施設は進行方向に対して真横に位置するため、視野に入る可能性は低く、見える範囲が拡大する冬季には観光客が少ないため、景観は変化するが、その影響は限定的と予測される。</p>	<p>新施設の見え方予測通り、旧施設よりも見える部分が大きくなる。</p> <p>樹木の成長と、建屋の形状、色調により、建屋の見える範囲が予測より狭くなっている。煙突の見え方は、旧施設と同様である。</p>
早春賦歌碑	約 830m 南西	写真 8-10-1(2)	<p>計画施設の煙突及び南面、西面が視認される。計画施設は既存焼却施設より手前に位置するため、視野全体に占める割合が大きくなる。</p> <p>ただし、北アルプス、わさび畑、桜並木といった景観要素は北西から南東の範囲（計画施設に向かって左～後～右）に位置するため、これらの景観要素を見る際には計画施設は視界に入らず、その影響は限定的と予測される。</p>	<p>旧施設は煙突と建屋のごく一部が視認できる状況であったが、樹木の成長により、新施設も夏季には建屋がほとんど視認できない。</p> <p>新施設は旧焼却施設よりも手前にあるため、煙突はわずかに高く見えるものの、旧施設と大差がない。</p>
長峰山展望台	約 3,000m 南東	写真 8-10-1(2)	<p>計画施設の煙突及び建物の屋根、東面、南面のほか、ストックヤード及び破砕施設が視認される。時季の違いで計画施設の視認できる範囲に大きな違いはない。</p> <p>事業実施区域までの距離が離れているため、視野全体に占める割合はごくわずかである。遠景として安曇野の眺望の一部となり、北アルプスの眺望を阻害することはないため、現況の景観が大きく変化することはないと予測される。</p>	<p>対象事業実施区域は遠景となり、旧施設は目立たないが、新施設も同様である。</p> <p>新施設は形状、色調も旧施設と類似しており、違和感も小さい。</p>



評価書現地調査（冬季）



評価書予測結果（解体前）（冬季）



事後調査（冬季）

樹木の成長により視界が妨げられたことから、場所を変えて撮影した。

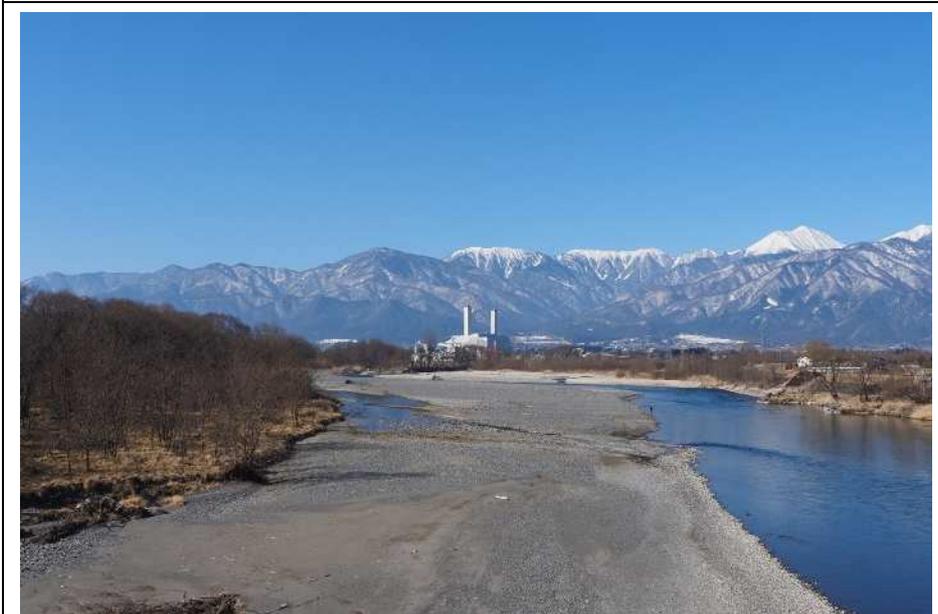
写真 8-10-2 安曇橋からの眺望状況



評価書現地調査（冬季）

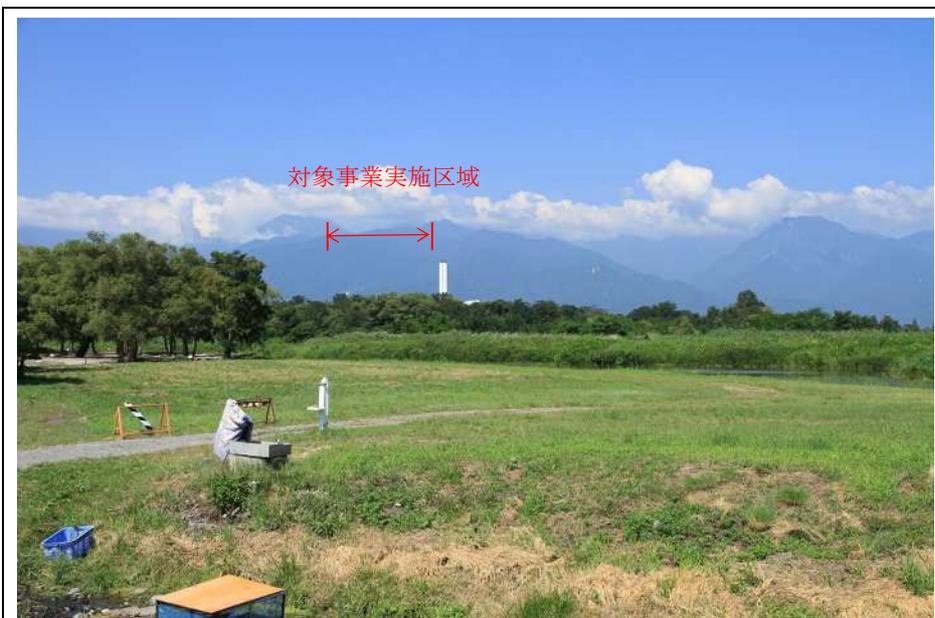


評価書予測結果（解体前）（冬季）



事後調査（冬季）

写真 8-10-3 犀川橋からの眺望状況



評価書現地調査（夏季）



評価書予測結果（解体前）（夏季）

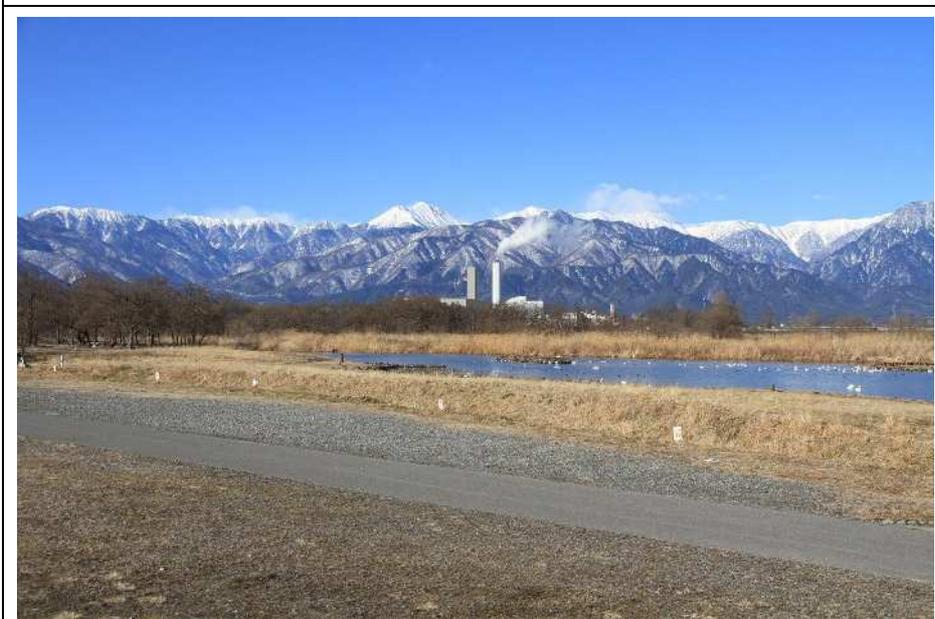


事後調査（夏季）

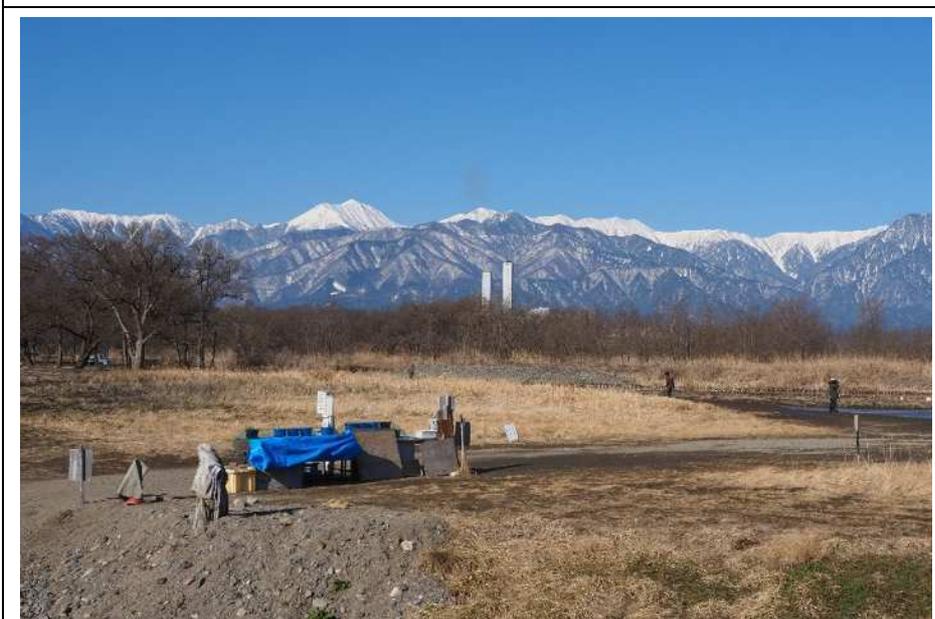
写真 8-10-4(1) 御宝田遊水池からの眺望状況



評価書現地調査（冬季）



評価書予測結果（解体前）（冬季）



事後調査（冬季）

写真 8-10-4(2) 御宝田遊水池からの眺望状況



評価書現地調査（春季）



評価書予測結果（解体前）（春季）



事後調査（夏季）

写真 8-10-5(1) 大王わさび農場からの眺望状況



評価書現地調査（冬季）



評価書予測結果（解体前）（冬季）



事後調査（冬季）

写真 8-10-5(2) 大王わさび農場からの眺望状況



評価書現地調査（春季）



評価書予測結果（解体前）（春季）



事後調査（夏季）

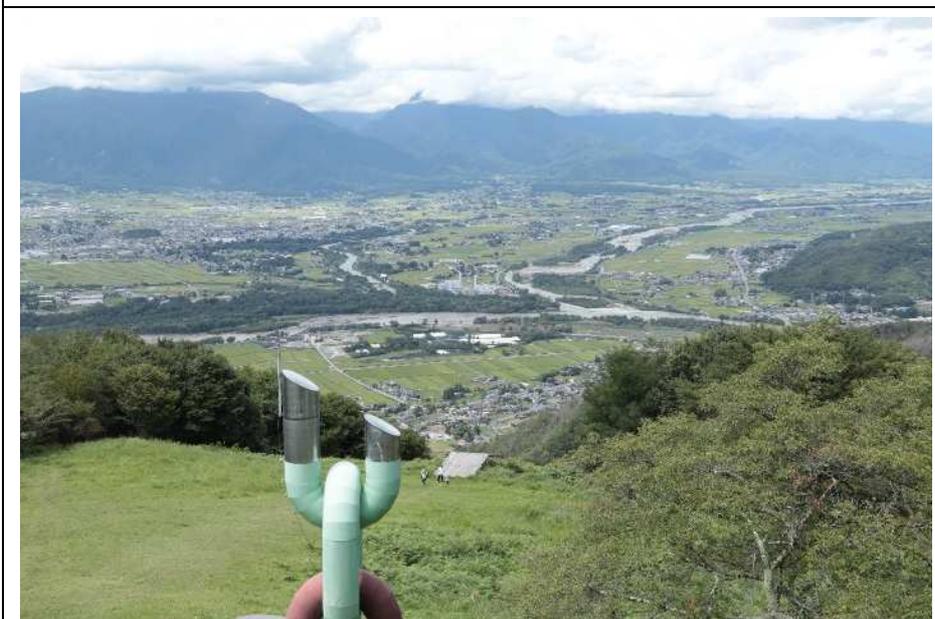
写真 8-10-6 早春賦歌碑からの眺望状況



評価書現地調査（夏季）



評価書予測結果（解体前）（夏季）

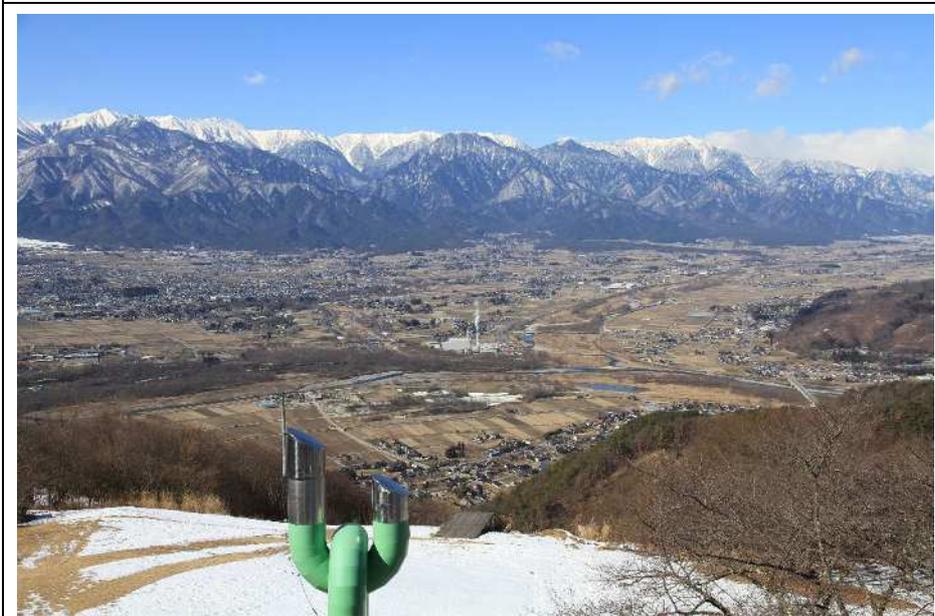


事後調査（夏季）

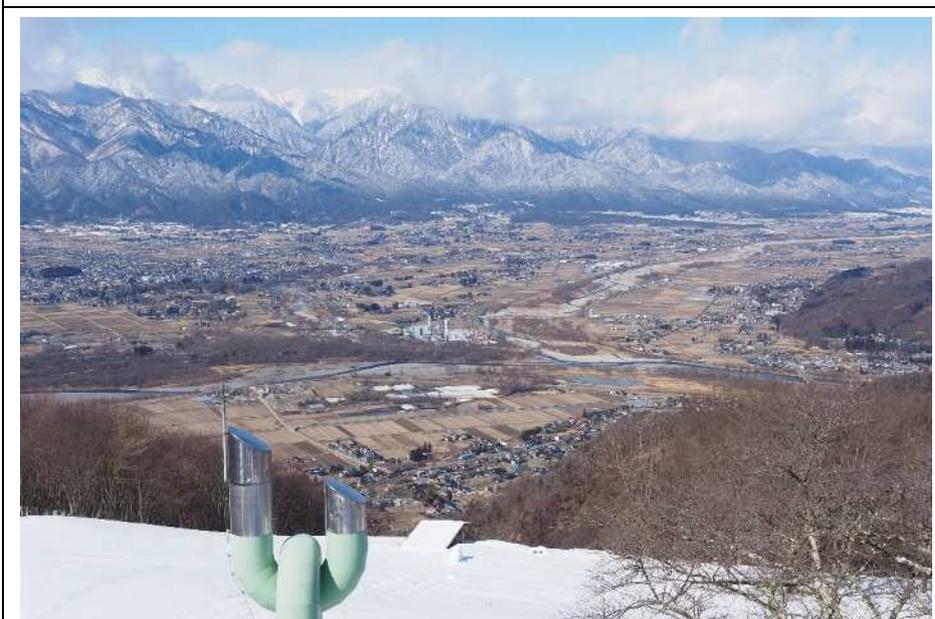
写真 8-10-7(1) 長峰山展望台からの眺望状況



評価書現地調査（冬季）



評価書予測結果（解体前）（冬季）



事後調査（冬季）

写真 8-10-7(2) 長峰山展望台からの眺望状況

3) 環境保全のための目標との比較

景観に係る環境影響が実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされることを環境保全目標とした。環境保全のための目標と現況の比較を表 8-10-6 に示す。

調査の結果、環境保全対策を講じることで予測結果（フォトモンタージュ）よりも景観上の違和感が少なくなっており、環境保全目標を満足したと評価する。

表 8-10-6 環境保全のための目標と現況の比較

項目	環境保全に関する目標	現況
景観	景観に係る環境影響が実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされること	<p>景観に配慮した環境保全対策が実施されており、環境保全目標を満足したと評価する。</p> <p>【施設色彩等への配慮】 【施設形状等の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けばけばしい色彩とせず、落ち着いた色彩を基調とし、周囲の景観と調和した色調となっていた。 ・ 施設建屋及び煙突を旧施設に似たデザインとすることで違和感を小さくする配慮がなされていた。 <p>【周辺景観と調和した緑化の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場棟建屋の周辺に、周辺環境や景観に配慮した高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽がなされていた。 ・ 敷地南西側に位置しているあづみ野ランド等周辺建物と調和するような緑地帯を設け、圧迫感を軽減する配慮がなされていた。

(6) 環境保全措置の見直し及び予測評価

景観に係る事後調査の結果、環境保全のための目標を満足しており、環境保全措置の効果が認められているため、環境保全措置の見直しは行わない。

(7) 事後調査計画の見直し

環境保全のための目標を達成したため、事後調査計画の見直しは行わず、評価書の事後調査のとおり、景観に係る事後調査を本年度で終了する。

9. 総合的所見

9-1 環境保全に関する目標の達成状況（存在・供用による影響（施設の稼働））

（1）大気質

環境影響評価において予測された最大着地濃度地点付近において、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、一酸化窒素、二酸化窒素、ダイオキシン類、塩化水素及び水銀の測定を行った。環境保全措置として、環境への負荷を低減し、排ガス濃度が適正状態にあることを監視し、適正な排ガス処理と運転管理を行うなどの対策を実施したことにより、大気質の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（2）騒音

対象事業実施区域周辺及び敷地境界において、総合騒音及び特定騒音（事業所騒音）の測定を行った。環境保全措置として、低騒音型の機器の採用や音源への防音対策などを実施したことにより、総合騒音及び特定騒音の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（3）振動

対象事業実施区域周辺及び敷地境界において、総合振動及び特定振動（事業所振動）の測定を行った。環境保全措置として、低振動型の回転式破砕機の採用や制振構造の採用などを実施したことにより、総合振動及び特定振動の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（4）低周波音

対象事業実施区域周辺及び敷地境界において、低周波音の測定を行った。環境保全措置として、低周波音発生機器を屋内に設置し、防振対策等を実施したことにより、低周波音の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（5）悪臭

環境影響評価において予測された最大着地濃度地点付近及び敷地境界において、臭気指数及び特定悪臭物質濃度の測定を行った。環境保全措置として、適切な排出ガス処理の実施、外部への漏洩対策、洗車時の臭気の飛散防止対策、悪臭漏洩の監視などを実施したことにより、悪臭の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（6）水象

対象事業実施区域内の観測井において、地下水位の観測を行った。環境保全措置として、ボイラ方式の採用による地下水取水量の最小化、雨水排水の地下浸透、敷地内への緑地帯の設置などを実施したことにより、観測井の地下水位に大きな変化はなく安定しており、水象の環境保全に関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

（7）土壌汚染

環境影響評価において予測された最大着地濃度地点付近において、土壌中のダイオキシン類濃度の測定を行った。環境保全措置として、環境への負荷を低減し、排ガス濃度が適正状態にあることを監視し、適正な排ガス処理と運転管理を行うなどの対策を実施したことにより、土壌汚染の環境保全に

関する目標を満足する結果となった。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

(8) 植物

対象事業実施区域内において、アオガヤツリ播種による保全措置を実施し、生育状況の確認を行った。播種したアオガヤツリの開花・結実が確認され、対象事業実施区域内で継代的に生育していく可能性が認められた。これらにより、植物への影響については、環境への緩和に適合するものと評価した。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

(9) 動物

存在・供用時における施設の稼働による動物への影響を対象とし、対象事業実施区域及び周辺で確認されたハヤブサ及びコウフオカモノアラガイについて生息状況を調査した。

ハヤブサについては、対象事業実施区域付近の人工構造物はほとんど利用しなくなったが、周辺地域での行動は確認されており、生息状況に与えた影響は小さいと判断された。

コウフオカモノアラガイについては、残置する自然緑地で生息が確認され、また対象事業実施区域外の比較的広範囲に生息していることが確認されたことから、個体群への影響はほとんどないと判断された。

これらにより、動物への影響については、環境の緩和に適合するものとなったと評価した。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

(10) 景観

対象事業実施区域周辺の建築物等の存在及び緑化による景観への影響について調査した。施設色彩等への配慮、施設形状等の検討、周辺計画と調和した緑化の実施により、周辺からの見え方は違和感の少ないものとなっており、環境保全目標を満足したと評価した。事後調査計画及び環境保全措置の見直しは行わない。

9-2 供用開始後の環境保全措置に関する状況

供用開始後の環境保全措置の実施状況は、表 9-1(1)～(3)に示すとおりである。

9-3 今後の事後調査予定

予定した工事中及び供用後の事後調査は終了し、事後調査計画の見直しも行わないため、対象事業に係る事後調査は全て終了した。

表 9-1(1) 供用開始後の環境保全措置の実施状況 (1 / 3)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
				種類	実施内容	実施状況
1 大 気 質	(1) ごみ搬入車両等の走行	ごみ搬入車両等走行ルート	搬入時間の分散	低減	焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は午前と午後を設定することで、搬入時間の分散を図る	・焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は8:30~12:00及び13:00~16:30として います。 ・収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を、今後指導します。 ・収集業者に対して、待車中は暖機運転を行わないよう今後指導します。
			交通規制の遵守	低減	収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を指導する	
		対象事業実施区域	暖機運転（アイドリング）の低減	低減	収集業者に対して、待車中は暖機運転を行わないよう指導する	
	(2) 焼却施設の稼働	対象事業実施区域	排ガス濃度の低減	低減	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定し、これを遵守することで環境への負荷を低減する	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定するとともに、これが遵守されるよう 定期的な排ガス測定を行います。 ・排出ガス濃度が適正状態にあることを監視します。 ・排出ガス濃度が適正状態にあることを監視します。 ・排出ガス濃度が適正状態にあることを監視します。 ・排出ガス濃度が適正状態にあることを監視します。
			排ガス濃度の監視	低減	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視する 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉2ヶ月に1回以上 水銀：各炉4ヶ月に1回以上 ダイオキシン類：各炉6ヶ月に1回以上	
			適正な排ガス処理の実施	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施する	
			適正な運転管理の実施	低減	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行う	
(3) 廃棄物の搬出・処理	対象事業実施区域	場内での焼却残渣の積込	低減	焼却残渣の車両への積込は、施設建屋内で行う	・焼却残渣の車両への積込は、施設建屋内で行っています。 ・焼却残渣の搬出は、天蓋付搬出車両で行っています。	
		天蓋付搬出車両の使用	低減	焼却残渣の搬出は、天蓋付搬出車両で行う		
2 騒 音	(1) ごみ搬入車両の走行	ごみ搬入車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は午前と午後を設定することで、搬入時間の分散を図る	・焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は8:30~12:00及び13:00~16:30として います。 ・収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を、今後指導します。
			交通規制の遵守	低減	収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の遵守を指導する	
	(2) 施設の稼働	対象事業実施区域	低騒音型の設備機器の使用	低減	低騒音型の機器を積極的に採用し、排風機、プロア等の設備には消音器を取り付け、蒸気復水器については、防音壁の設置、ケーシングの補強やラギング等の防音措置を講じる	・低騒音型の機器を採用し、排風機、プロアに消音器を取り付けました。 ・蒸気復水器は、防音壁の設置、ケーシングの補強やラギング等の防音措置を講 じました。 ・排風機、プロア、蒸気タービンは防音構造の室内に収納しました。
騒音の大きい機器の屋内配置			低減	著しい騒音の発生する機械設備は必要に応じて防音構造の室内に収納する		
3 振 動	(1) ごみ搬入車両の走行	ごみ搬入車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は午前と午後を設定することで、搬入時間の分散を図る	・焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は8:30~12:00及び13:00~16:30として います。 ・収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を、今後指導します。
			交通規制の遵守	低減	収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の遵守を指導する	
	(2) 施設の稼働	対象事業実施区域	低振動型の設備機器の使用	低減	低振動型の機器を積極的に採用する	・低振動型の回転式破砕機を採用しました。 ・蒸気タービン発電機には独立基礎を、タービンバイパス消音器には防振装置を 採用しました。
			制振構造等の採用	低減	独立基礎等の制振構造の採用、防振装置を設ける等、施設への振動の伝搬を防止する措置を講じる	
4 低 周 波 音	(1) 施設の稼働に伴う低周波音	対象事業実施区域	低周波音発生機器の屋内への配置	低減	タービンや発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機等の低周波音が発生する可能性がある機器は、室内に設置し、開口部が閉じた状態で稼働するよう努める	・蒸気タービン、発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機を室内に設置し、開口部 が閉じた状態で稼働させています。 ・低周波音が発生する可能性がある押込送風機等には、防振ゴムによる防振対策 を行いました。
			設備機器の防振対策	低減	低周波音が発生する可能性がある機器は、防振ゴムの設置等の防振対策を行う	
5 悪 臭	(1) 廃棄物搬入車両の走行に伴う悪臭	ごみ搬入車両走行ルート	収集業者の車両の洗車の徹底	低減	可燃ごみを収集するバックカー車の洗車を徹底するよう指導する	・可燃ごみを収集するバックカー車の洗車を徹底するよう指導しています。
	(2) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭	対象事業実施区域	適切な排出ガス処理の実施	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理を実施する	・ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備（乾式）、窒素酸化物除去設 備、ダイオキシン類除去設備（粉末活性炭噴霧方式）を設け、適正な排ガス処理 を実施しています。
			(3) 廃棄物の搬出・処理焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩	対象事業実施区域	ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	低減
	プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置	低減			プラットホーム出入口扉にはエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩することを防ぐ	・プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩す ることを防いでいます。
	全炉休止時に使用する脱臭装置	低減			全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ	・全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、 ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ構造としています。
	ごみピット内を負圧に保持	低減			ごみピット内は常に負圧とし、臭気を含んでいるごみピット内の空気への外部への漏洩を防止する	・ごみピット内は常に負圧とし、ごみピット内の空気への外部への漏洩を防止して います。
	気密性を高めた建物構造	低減			特にプラットホームやごみピットの屋根や外壁の気密性を高めた建物構造とし、臭気の漏洩を防止する	・プラットホーム及びごみピットの屋根、外壁の気密性を高くし、臭気の漏洩を 防止しています。
	廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施	低減			洗車場を設け、臭いの元となる車体に付着したごみ等を洗車することで除去し、臭気の飛散を防止する	・洗車場を設け、搬入車両に付着したごみ等を洗車して除去し、臭気の飛散を防 止しています。
悪臭漏洩の監視	低減	定期的な臭気測定（年1回）を行うことで、悪臭漏洩を監視する	・定期的な臭気測定（年1回）を行うことで、悪臭漏洩を監視します。			

【環境保全措置の種類】

回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

表 9-1(2) 供用開始後の環境保全措置の実施状況 (2 / 3)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
				種類	実施内容	実施状況
6 水 象	(1) 存在・供用による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	施設設計にあたっては掘削面積及び掘削深度の最小化を図る	・掘削面積及び掘削深度を最小化した設計としました。
			地下水取水量の最小化	低減	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることで、地下水の取水量が減少する	・排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わったことで、地下水の取水量の減少が期待されます。
			雨水排水の地下浸透	低減	雨水排水は原則として地下浸透とし、地下水の涵養を妨げない	・地下水の涵養を妨げないよう、雨水排水は地下浸透しています。
			緑地面積の確保	低減	緑化率を敷地面積に対して20%以上とし、蒸発散面積を確保する	・緑化率は敷地面積に対して22.56%としました。
7 土 壤 汚 染	(1) 焼却施設の稼働	対象事業実施区域	排ガス濃度の低減	低減	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定し、これを遵守することで環境への負荷を低減する	法規制値より厳しい公害防止基準値を設定するとともに、これが遵守されるよう定期的な排ガス測定を行います。
			排ガス濃度の監視	低減	排出ガス濃度が適正状態にあることを監視する 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉2ヶ月に1回以上 水銀：各炉4ヶ月に1回以上 ダイオキシン類：各炉6ヶ月に1回以上	・排出ガス濃度が適正状態にあることを監視します。 硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素：各炉2ヶ月に1回以上 水銀：各炉4ヶ月に1回以上 ダイオキシン類：各炉6ヶ月に1回以上
			適正な排ガス処理の実施	低減	ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備(乾式)、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備(粉末活性炭噴霧方式)を設け、適正な排ガス処理を実施する	・ろ過式集じん器、塩化水素・硫黄酸化物除去設備(乾式)、窒素酸化物除去設備、ダイオキシン類除去設備(粉末活性炭噴霧方式)を設け、適正な排ガス処理を実施しています。
			適正な運転管理の実施	低減	設備の定期点検を行い、適正な運転管理を行う	・設備の定期点検を行い、適正な運転管理をしていきます。
	(2) 焼却処理残渣の排出・処理	対象事業実施区域	場内での焼却処理残渣の積込	低減	焼却処理残渣の車両への積込みは、施設建屋内で行う	・焼却処理残渣の車両への積込は、施設建屋内で行っています。
			天蓋付搬出車両の使用	低減	焼却処理残渣の搬出は、天蓋付搬出車両で行う	・焼却処理残渣の搬出は、天蓋付搬出車両で行っています。
8 地 盤 沈 下	(1) 施設の稼働による影響	対象事業実施区域	地下水取水量の低減	低減	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることで、地下水の取水量が減少する	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わったことで、地下水の取水量の減少が期待されます。
9 植 物	(1) 存在・供用時の緑化による植物への影響	対象事業実施区域	周辺環境に配慮した緑化	低減	敷地内の緑化は、周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする	・工場棟建屋の周辺に高木(ケヤキ等)・中木(イロハモミジ)・低木(アオキ)・灌木(サツキ)・芝張り植栽を行いました。
			緑化率の確保	低減	緑化率は、敷地面積に対して20%以上とする	・緑化率は敷地面積に対して22.56%としました。
			緑地の管理	低減	施設の維持管理の一環として、緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を行う	・緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を実施します。
	(2) 存在・供用時の施設の稼働による植物への影響	対象事業実施区域	排水の無放流	回避	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とすることにより、場外への排水を行わない	・プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透としました。
地下水取水量の最小化			低減	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることで、地下水の取水量が減少する	・排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わったことで、地下水の取水量の減少が期待されます。	
10 動 物	(1) 存在・供用時の緑化による動物への影響	対象事業実施区域	周辺環境に配慮した緑化	低減	敷地内の緑化は、周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする	・工場棟建屋の周辺に高木(ケヤキ等)・中木(イロハモミジ)・低木(アオキ)・灌木(サツキ)・芝張り植栽を行いました。
			緑化率の確保	低減	緑化率は、敷地面積に対して20%以上とする	・緑化率は敷地面積に対して22.56%としました。
			緑地の管理	低減	施設の維持管理の一環として、緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を行う	・緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を実施します。
	(2) 存在・供用時の施設の稼働による動物への影響	対象事業実施区域	排水の無放流	回避	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とすることにより、場外への排水を行わない	・プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透としました。
地下水取水量の最小化			低減	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることで、地下水の取水量が減少する	・排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わったことで、地下水の取水量の減少が期待されます。	
11 生 態 系	(1) 存在・供用時の緑化による動物への影響	対象事業実施区域	周辺環境に配慮した緑化	低減	敷地内の緑化は、周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする	・工場棟建屋の周辺に高木(ケヤキ等)・中木(イロハモミジ)・低木(アオキ)・灌木(サツキ)・芝張り植栽を行いました。
			緑化率の確保	低減	緑化率は、敷地面積に対して20%以上とする	・緑化率は敷地面積に対して22.56%としました。
			緑地の管理	低減	施設の維持管理の一環として、緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を行う	・緑地の管理を行い、侵入した外来種の駆除を実施します。
	(2) 存在・供用時の施設の稼働による動物への影響	対象事業実施区域	排水の無放流	回避	プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透とすることにより、場外への排水を行わない	・プラント用水は無放流、生活排水は下水道接続、場内の雨水は地下浸透としました。
地下水取水量の最小化			低減	排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わることで、地下水の取水量が減少する	・排ガス処理が水噴霧からボイラ方式に変わったことで、地下水の取水量の減少が期待されます。	
		対象事業実施区域	夜間照明拡散の低減	低減	夜間照明の器具にはルーバーを取り付ける等、光の照射範囲を限定し周辺への光漏れを低減する。場外の夜間照明は最小限とし、可能な限りセンサー式照明を用いるなど照明使用時間を短縮する。工場棟及び管理棟のブラインド等により窓からの光漏れを最小限とする	・夜間照明は光の照射範囲を限定されるものを採用しました。場外の夜間照明は最小限とし、センサー式照明を用いて照明使用時間を短縮を図っています。また、ブラインドにより窓からの光漏れを最小限としています。

【環境保全措置の種類】
 回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

表 9-1(3) 供用開始後の環境保全措置の実施状況 (3 / 3)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			
				種類	実施内容	実施状況	
景観	(1) 建築物・工作物等の存在に伴う景観資源・構成要素及び主要な景観	対象事業実施区域	施設色彩等への配慮	低減	げばげばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周囲の景観と調和した色調とする	・旧焼却施設及び隣接する余熱利用施設「あづみ野ランド」と統一感のある落ち着いたデザイン、色調としました。	
			施設形状等の検討	低減	煙突にあっては、施設周辺の景観に配慮して計画する	・煙突は旧焼却施設と似た違和感のないデザインを採用しました。	
			周辺景観と調和した緑化の実施	低減	周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする	・工場棟建屋の周辺に高木（ケヤキ等）・中木（イロハモミジ）・低木（アオキ）・灌木（サツキ）・芝張り植栽を行いました。	
			敷地南西側に位置しているあづみ野ランド等周辺建物と調和するような緑地帯を設けるなど、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮する	低減	敷地南西側に位置している「あづみ野ランド」と統一感のあるデザインとし、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮しました。		
13 触れ合い活動の場	(1) 建築物・工作物等の存在	対象事業実施区域	施設色彩等への配慮	低減	げばげばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周囲の景観と調和した色調とする	・旧焼却施設及び隣接する余熱利用施設「あづみ野ランド」と統一感のある落ち着いたデザイン、色調としました。	
			施設形状等の検討	低減	煙突にあっては、施設周辺の景観に配慮して計画する	・煙突は旧焼却施設と似た違和感のないデザインを採用しました。	
			周辺景観と調和した緑化の実施	低減	周辺環境や景観に配慮し、工場棟建屋の周辺に高木・中木・低木・灌木・芝張り等の植栽をする	・工場棟建屋の周辺に高木（ケヤキ等）・中木（イロハモミジ）・低木（アオキ）・灌木（サツキ）・芝張り植栽を行いました。	
				敷地南西側に位置しているあづみ野ランド等周辺建物と調和するような緑地帯を設けるなど、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮する。	低減	敷地南西側に位置している「あづみ野ランド」と統一感のあるデザインとし、圧迫感を軽減し周辺環境・景観に配慮しました。	
	(2) ごみ搬入車両の走行	ごみ搬入車両の走行ルート	搬入時間の分散	低減	焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は午前と午後を設定することで、搬入時間の分散を図る	・焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は8:30～12:00及び13:00～16:30としています。	
			交通規制の遵守	低減	収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の遵守を指導する	・収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を、今後指導します。	
	(3) 施設の稼働に伴う騒音、振動、低周波音及び悪臭	対象事業実施区域	低騒音型の設備機器の使用	低減	低騒音型の機器を積極的に採用し、排風機、プロア等の設備には消音器を取り付ける	・低騒音型の機器を採用し、排風機、プロアに消音器を取り付けました。	
			騒音の大きい機器の屋内配置	低減	著しい騒音の発生する機械設備は必要に応じて防音構造の室内に収納する	・排風機、プロア、蒸気タービンは防音構造の室内に収納しました。	
			制振構造等の採用	低減	独立基礎等の制振構造の採用、防振装置を設ける等、施設への振動の伝播を防止する措置を講じる	・蒸気タービン発電機には独立基礎を、タービンバイパス消音器には防振装置を採用しました。	
			低周波音発生機器の屋内への配置	低減	タービンや発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機等の低周波音が発生する可能性がある機器は、室内に設置し、開口部が閉じた状態で稼働するよう努める	・蒸気タービン、発電機、空気圧縮機、破砕機、選別機を室内に設置し、開口部が閉じた状態で稼働させています。	
			ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	低減	臭気を含んでいるごみピット内の空気は燃焼用空気として使用し、臭気を高熱で分解する	・ごみピット内の空気は燃焼用空気として使用し、臭気を高熱で分解しています。	
			プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置	低減	プラットホーム出入口扉にはエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩することを防ぐ	・プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設け、工場内の臭気が外部へ漏洩することを防いでいます。	
全炉休止時に使用する脱臭装置			低減	全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ	・全炉休止時はごみピット内空気を脱臭装置に送り、臭気を処理するとともに、ごみピット内を負圧に保ち漏えいを防ぐ構造としています。		
ごみピット内を負圧に保持			低減	ごみピット内は常に負圧とし、臭気を含んでいるごみピット内の空気への漏洩を防止する	・ごみピット内は常に負圧とし、ごみピット内の空気への漏洩を防止しています。		
気密性を高めた建物構造			低減	特にプラットホームやごみピットの屋根や外壁の気密性を高めた建物構造とし、臭気の漏洩を防止する	・プラットホーム及びごみピットの屋根、外壁の気密性を高し、臭気の漏洩を防止しています。		
廃棄物搬入車両の駐車場の設置と洗車の実施			低減	洗車場を設け、臭いの元となる車体に付着したごみ等を洗車することで除去し、臭気の飛散を防止する	・洗車場を設け、搬入車両に付着したごみ等を洗車して除去し、臭気の飛散を防止しています。		
		悪臭漏洩の監視	低減	定期的な臭気測定（年1回）を行うことで、悪臭漏洩を監視する	・定期的な臭気測定（年1回）を行うことで、悪臭漏洩を監視します。		
14 廃棄物等	(1) 供用時における廃棄物	対象事業実施区域	ごみ減量化	低減	組織市町村と連携しつつ、住民・事業者の協力を得て「発生抑制」、「排出抑制」、「再使用」、「再生利用」の4Rを推進する	・今後も組織市町村と連携しつつ、住民・事業者の協力を得て「発生抑制」、「排出抑制」、「再使用」、「再生利用」の4Rを推進していきます。	
			分別による資源の再利用	低減	焼却残渣等から選別できる金属は資源として有効利用する	・ストーカ式焼却炉を採用したため、焼却残渣中の金属の有効利用はできませんが、不燃物処理施設において鉄、アルミの分別・再利用を行っています。	
			焼却残渣の適正処分	低減	ストーカ式では焼却灰と飛灰を、流動床式では飛灰と不燃物をそれぞれ適正に埋立処分または資源化する	・ストーカ式焼却炉であり、焼却灰及び飛灰は適正に埋立処分を行っています。	
			灰の飛散防止	低減	飛灰は薬剤処理により安定化した上で、施設建屋内で搬出車両に積込を行う	・飛灰は薬剤処理により安定化し、施設建屋内で搬出車両に積込を行っています。	
15 温室効果ガス等	(1) 自動車交通の発生に伴う温室効果ガスの発生	ごみ搬入車両等の走行ルート	搬入時間の分散	低減	焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は午前と午後を設定することで、搬入時間の分散を図り、待車時間を短縮する	・焼却施設及び不燃物処理施設の搬入時間は8:30～12:00及び13:00～16:30としています。	
			交通規制の遵守	低減	収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の遵守を指導する	・収集業者に対して、速度や積載量等の交通規制の順守を、今後指導します。	
			暖機運転（アイドリング）の低減	低減	収集業者に対して、待車中は暖機運転を行わないよう指導する	・収集業者に対して、待車中は暖機運転を行わないよう今後指導します。	
	(2) 施設の稼働に伴う温室効果ガスの発生	対象事業実施区域	ごみ減量化	低減	組織市町村と連携しつつ、住民・事業者の協力を得て「発生抑制」、「排出抑制」、「再使用」、「再生利用」の4Rを推進する	・今後も組織市町村と連携しつつ、住民・事業者の協力を得て「発生抑制」、「排出抑制」、「再使用」、「再生利用」の4Rを推進していきます。	
			熱回収による高効率発電	低減	廃棄物の焼却に伴い排出される熱を回収し、発電を行うことで、外部から供給される電力の削減または売電による電力供給を行う	・焼却に伴い排出される熱を利用して蒸気タービン発電機で発電を行い、外部から供給される電力の削減及び売電による電力供給を行っています。	

【環境保全措置の種類】
 回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

9-3 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況は、表 9-2 に示すとおりである。

表 9-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事に関連する部分について、原文)	事業者の見解 (工事に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全 措置	環境保全措置		
					種類	実施内容	実施状況
全般	施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。	安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。供用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。	-	-	-	ホームページで工事の進捗状況を公表します。	ホームページで工事の進捗状況を公表しました。
水象	地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。	区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも 20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないよう十分に配慮します。	対象事業 実施区域	水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮	低減	敷地面積に対して緑地面積を 20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。	実施設計で緑地面積を 20%以上確保しており、その計画に沿って施工しました。外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、その計画に沿って施工しました。
	事業実施区域は地下水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水位が安定した渇水期に実施すること。	地下水への対策としてプラットホームを 3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水位が安定した渇水期に開始するよう計画します。	対象事業 実施区域	掘削深度を小さくする 渇水期に掘削を開始	低減	プラットホームを 3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水が安定した渇水期に実施します。地盤改良（スーパーラップルエルニード工法）により排水にたよらない掘削方法を実施します。	プラットホームを 3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画としています。掘削は地下水が安定した渇水期に開始しました。地盤改良（スーパーラップルエルニード工法）により排水にたよらない掘削方法を実施しました。
動物	コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイマイの生息地に移殖を行うことを検討すること。	コウフオカモノアラガイについて、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移殖適地を検討し、移殖を行います。	対象事業 実施区域	生息地の改変回避または移殖	低減	緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。	コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置する施設計画とし、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しました。
景観	事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。	幹線道路や周辺の道路、あづみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。	対象事業 実施区域	形状・意匠・色彩に配慮	低減	曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。	左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工をしました。

【環境保全措置の種類】

- 回避：全部または一部を行わないこと等により、影響を回避する。
- 最小化：実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
- 低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

10. 事後調査の総括

事後調査の総括を表 10-1～表 10-9 に示す。

表 10-1 事後調査の総括（大気質）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																		
大気質	<p>（1）一般環境大気質</p> <p>調査地点（5 地点）での、四季における環境大気の測定結果を下表に示す。二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、ダイオキシン類及び微小粒子状物質の年間平均値は、環境基準値を下回っていた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定項目（単位）</th> <th>年間平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄 (ppm)</td> <td>0.000～0.001</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質 (mg/m³)</td> <td>0.009～0.015</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素 (ppm)</td> <td>0.005～0.007</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類 (pg-TEQ/m³)</td> <td>0.0087～0.0115</td> </tr> <tr> <td>降下ばいじん (g/m²/30 日)</td> <td>1.14～2.46</td> </tr> <tr> <td>塩化水素 (ppm)</td> <td>0.0006 未満</td> </tr> <tr> <td>水銀 (μg/m³)</td> <td>0.001～0.003</td> </tr> <tr> <td>微小粒子状物質 (μg/m³)</td> <td>10.0</td> </tr> </tbody> </table>	測定項目（単位）	年間平均値	二酸化硫黄 (ppm)	0.000～0.001	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.009～0.015	二酸化窒素 (ppm)	0.005～0.007	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0087～0.0115	降下ばいじん (g/m ² /30 日)	1.14～2.46	塩化水素 (ppm)	0.0006 未満	水銀 (μg/m ³)	0.001～0.003	微小粒子状物質 (μg/m ³)	10.0	<p>【工事】</p> <p>（1）工事関係車両の走行に伴う大気質（予測地点：沿道 A～C）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th rowspan="2">環境基準 (環境保全目標)</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>日平均値の年間 98% 値又は年間 2% 除外値</th> <th>日平均値の最高値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>ppm</td> <td>0.032</td> <td>0.004</td> <td>1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>mg/m³</td> <td>0.036</td> <td>0.023</td> <td>1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であること。</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）建設機械の稼働に伴う大気質（最大着地濃度地点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>環境保全目標</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>降下ばいじん</td> <td>g/m²/30 日</td> <td>0.91～1.49</td> <td>3.18</td> <td>生活環境に著しい影響を与えないこと。 (=10g/m²/30 日以下)</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	予測結果	事後調査結果	環境基準 (環境保全目標)	評価	日平均値の年間 98% 値又は年間 2% 除外値	日平均値の最高値	二酸化窒素	ppm	0.032	0.004	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。	○	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.036	0.023	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であること。	○	項目	単位	予測結果	事後調査結果	環境保全目標	評価	降下ばいじん	g/m ² /30 日	0.91～1.49	3.18	生活環境に著しい影響を与えないこと。 (=10g/m ² /30 日以下)	○	<p>【工事】</p> <p>（1）工事関係車両の走行に伴う大気質</p> <ul style="list-style-type: none"> 搬入時間の分散 交通規制の遵守 暖機運転（アイドリング）の低減 工事用出入口の路面洗浄 工事用車両荷台のシート覆い <p>（2）建設機械稼働に伴う大気質</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事用仮囲いの設置 排出ガス対策型機械の使用 建設機械稼働時間の抑制 工事区域への散水 	<p>【工事】</p> <p>なし</p>																																
	測定項目（単位）	年間平均値																																																																																				
二酸化硫黄 (ppm)	0.000～0.001																																																																																					
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.009～0.015																																																																																					
二酸化窒素 (ppm)	0.005～0.007																																																																																					
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0087～0.0115																																																																																					
降下ばいじん (g/m ² /30 日)	1.14～2.46																																																																																					
塩化水素 (ppm)	0.0006 未満																																																																																					
水銀 (μg/m ³)	0.001～0.003																																																																																					
微小粒子状物質 (μg/m ³)	10.0																																																																																					
項目	単位	予測結果	事後調査結果	環境基準 (環境保全目標)	評価																																																																																	
		日平均値の年間 98% 値又は年間 2% 除外値	日平均値の最高値																																																																																			
二酸化窒素	ppm	0.032	0.004	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。	○																																																																																	
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.036	0.023	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であること。	○																																																																																	
項目	単位	予測結果	事後調査結果	環境保全目標	評価																																																																																	
降下ばいじん	g/m ² /30 日	0.91～1.49	3.18	生活環境に著しい影響を与えないこと。 (=10g/m ² /30 日以下)	○																																																																																	
		<p>【存在・供用】</p> <p>（1）施設の稼働に伴う大気質（長期平均濃度、最大着地濃度地点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">予測結果 最大着地濃度地点</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> <th rowspan="2">環境基準及び指針値 (環境保全目標)</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>穂高クンセター 南西側</th> <th>穂高クンセター 東側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>ppm</td> <td>0.00243 注1)</td> <td>0.001 注4)</td> <td>0.001 注4)</td> <td>日平均値 0.04ppm 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>ppm</td> <td>0.02213 注2)</td> <td>0.005 注4)</td> <td>0.006 注4)</td> <td>日平均値 0.04ppm 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>mg/m³</td> <td>0.0360 注1)</td> <td>0.017 注4)</td> <td>0.018 注4)</td> <td>日平均値 0.10mg/m³ 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>pg-TEQ/m³</td> <td>0.04622 注3)</td> <td>0.0042 注5)</td> <td>0.0033 注5)</td> <td>年平均値 0.6pg-TEQ/m³ 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水銀</td> <td>μg/m³</td> <td>0.00307 注3)</td> <td>0.002 注5)</td> <td>0.003 注5)</td> <td>年平均値 0.04μg/m³ 以下</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 日平均値の年間 2% 除外値の予測結果。注 2) 日平均値の年間 98% 値の予測結果。注 3) 年平均値の予測結果。 注 4) 事後調査測定期間中の日平均値の最高値。注 5) 事後調査測定期間中の期間最高値。</p> <p>（短期高濃度、接地逆転層崩壊時）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> <th rowspan="2">環境基準及び指針値 (環境保全目標)</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>1 時間値 環境濃度</th> <th>穂高クンセター 南西側</th> <th>穂高クンセター 東側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>ppm</td> <td>0.0109 注1)</td> <td>0.002 注2)</td> <td>0.002 注2)</td> <td>1 時間値 0.1ppm 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>ppm</td> <td>0.0230 注1)</td> <td>0.009 注2)</td> <td>0.012 注2)</td> <td>1 時間値 0.1ppm 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>mg/m³</td> <td>0.0246 注1)</td> <td>0.048 注2)</td> <td>0.046 注2)</td> <td>1 時間値 0.20mg/m³ 以下</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>ppm</td> <td>0.0085 注1)</td> <td>0.001 未満注3)</td> <td>0.001 未満注3)</td> <td>1 時間値 0.02ppm 以下</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 1 時間値の最高値の予測結果。注 2) 事後調査測定期間中の 1 時間値の最高値。 注 3) 事後調査測定期間中の測定値の最高値（日平均値）。</p>	項目	単位	予測結果 最大着地濃度地点	事後調査結果		環境基準及び指針値 (環境保全目標)	評価	穂高クンセター 南西側	穂高クンセター 東側	二酸化硫黄	ppm	0.00243 注1)	0.001 注4)	0.001 注4)	日平均値 0.04ppm 以下	○	二酸化窒素	ppm	0.02213 注2)	0.005 注4)	0.006 注4)	日平均値 0.04ppm 以下	○	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0360 注1)	0.017 注4)	0.018 注4)	日平均値 0.10mg/m ³ 以下	○	ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.04622 注3)	0.0042 注5)	0.0033 注5)	年平均値 0.6pg-TEQ/m ³ 以下	○	水銀	μg/m ³	0.00307 注3)	0.002 注5)	0.003 注5)	年平均値 0.04μg/m ³ 以下	○	項目	単位	予測結果	事後調査結果		環境基準及び指針値 (環境保全目標)	評価	1 時間値 環境濃度	穂高クンセター 南西側	穂高クンセター 東側	二酸化硫黄	ppm	0.0109 注1)	0.002 注2)	0.002 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下	○	二酸化窒素	ppm	0.0230 注1)	0.009 注2)	0.012 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下	○	浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0246 注1)	0.048 注2)	0.046 注2)	1 時間値 0.20mg/m ³ 以下	○	塩化水素	ppm	0.0085 注1)	0.001 未満注3)	0.001 未満注3)	1 時間値 0.02ppm 以下	○	<p>【存在・供用】</p> <p>（1）ごみ搬入車両等の走行に伴う大気質</p> <ul style="list-style-type: none"> 搬入時間の分散 交通規制の遵守 暖機運転（アイドリング）の低減 <p>（2）施設の稼働に伴う大気質</p> <ul style="list-style-type: none"> 排ガス濃度の低減 排ガス濃度の監視 適切な排出ガス処理の実施 適正な運転管理の実施 	<p>【存在・供用】</p> <p>なし</p>
項目	単位	予測結果 最大着地濃度地点				事後調査結果				環境基準及び指針値 (環境保全目標)	評価																																																																											
			穂高クンセター 南西側	穂高クンセター 東側																																																																																		
二酸化硫黄	ppm	0.00243 注1)	0.001 注4)	0.001 注4)	日平均値 0.04ppm 以下	○																																																																																
二酸化窒素	ppm	0.02213 注2)	0.005 注4)	0.006 注4)	日平均値 0.04ppm 以下	○																																																																																
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0360 注1)	0.017 注4)	0.018 注4)	日平均値 0.10mg/m ³ 以下	○																																																																																
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.04622 注3)	0.0042 注5)	0.0033 注5)	年平均値 0.6pg-TEQ/m ³ 以下	○																																																																																
水銀	μg/m ³	0.00307 注3)	0.002 注5)	0.003 注5)	年平均値 0.04μg/m ³ 以下	○																																																																																
項目	単位	予測結果	事後調査結果		環境基準及び指針値 (環境保全目標)	評価																																																																																
		1 時間値 環境濃度	穂高クンセター 南西側	穂高クンセター 東側																																																																																		
二酸化硫黄	ppm	0.0109 注1)	0.002 注2)	0.002 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下	○																																																																																
二酸化窒素	ppm	0.0230 注1)	0.009 注2)	0.012 注2)	1 時間値 0.1ppm 以下	○																																																																																
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0246 注1)	0.048 注2)	0.046 注2)	1 時間値 0.20mg/m ³ 以下	○																																																																																
塩化水素	ppm	0.0085 注1)	0.001 未満注3)	0.001 未満注3)	1 時間値 0.02ppm 以下	○																																																																																

表 10-2 事後調査の総括（騒音）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																																																																																										
騒音	<p>（１）環境騒音</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺の調査地点（３地点）での、環境騒音の調査結果を下表に示す。</p> <p>環境騒音調査結果（等価騒音レベル L_{Aeq}）</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地点番号</th> <th rowspan="2">調査地点</th> <th rowspan="2">調査時期</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 1</td> <td rowspan="2">西側敷地境界</td> <td>夏季</td> <td>51</td> <td>45</td> <td>50</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>50</td> <td>40</td> <td>46</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 2</td> <td rowspan="2">南東側敷地境界</td> <td>夏季</td> <td>48</td> <td>45</td> <td>47</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>47</td> <td>43</td> <td>47</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合騒音 No. 3</td> <td rowspan="2">西側民家付近</td> <td>夏季</td> <td>56</td> <td>52</td> <td>58</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>54</td> <td>49</td> <td>57</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> <p>環境騒音調査結果（時間率騒音レベル L_{A5}）</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地点番号</th> <th rowspan="2">調査時期</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>朝</th> <th>昼間</th> <th>朝</th> <th>昼間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 1</td> <td>夏季</td> <td>58</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>54</td> <td>50</td> <td>43</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 2</td> <td>夏季</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地点番号</th> <th rowspan="2">調査時期</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>夕</th> <th>夜間</th> <th>夕</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 1</td> <td>夏季</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>51</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>52</td> <td>41</td> <td>46</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 2</td> <td>夏季</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>49</td> <td>45</td> <td>48</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>	地点番号	調査地点	調査時期	平日		休日		昼間	夜間	昼間	夜間	特定騒音 No. 1	西側敷地境界	夏季	51	45	50	44	冬季	50	40	46	41	特定騒音 No. 2	南東側敷地境界	夏季	48	45	47	45	冬季	47	43	47	43	総合騒音 No. 3	西側民家付近	夏季	56	52	58	52	冬季	54	49	57	52	地点番号	調査時期	平日		休日		朝	昼間	朝	昼間	特定騒音 No. 1	夏季	58	51	49	53	冬季	54	50	43	49	特定騒音 No. 2	夏季	48	49	48	48	冬季	50	49	47	50	地点番号	調査時期	平日		休日		夕	夜間	夕	夜間	特定騒音 No. 1	夏季	53	46	51	47	冬季	52	41	46	43	特定騒音 No. 2	夏季	49	46	48	46	冬季	49	45	48	44	<p>【工事】</p> <p>建設機械の稼働に伴う建設作業騒音</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測値</th> <th>事後調査結果</th> <th>環境基準もしくは規制基準（環境保全目標）</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定騒音 No. 1</td> <td>63</td> <td>69</td> <td rowspan="2">75 以下</td> <td rowspan="3">○</td> </tr> <tr> <td>特定騒音 No. 2</td> <td>67</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>総合騒音 No. 3</td> <td>62</td> <td>58</td> <td>65 以下^{注)}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 総合騒音 No. 3 の目標値は、騒音に係る環境基準以下（B 類型、道路に面する地域）に設定</p> <p>【存在・供用】</p> <p>施設の稼働騒音</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測値</th> <th>事後調査結果^{注1)}</th> <th>環境保全に関する目標</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 1</td> <td>昼間 52</td> <td>59 (57)</td> <td rowspan="2">昼間：65 以下 朝・夕：65 以下 夜間：55 以下</td> <td rowspan="2">○</td> </tr> <tr> <td>夜間 49</td> <td>47 (49)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特定騒音 No. 2</td> <td>昼間 53</td> <td>55 (56)</td> <td rowspan="2">昼間：65 以下 夜間：60 以下^{注2)}</td> <td rowspan="2">○^{注3)}</td> </tr> <tr> <td>夜間 49</td> <td>50 (47)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合騒音 No. 3</td> <td>昼間 58</td> <td>56 (55)</td> <td rowspan="2">昼間：65 以下 夜間：60 以下^{注2)}</td> <td rowspan="2">○^{注4)}</td> </tr> <tr> <td>夜間 52</td> <td>50 (51)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) () なし：1 炉稼働時、() あり：2 炉稼働時 注 2) 総合騒音 No. 3 の目標値は、騒音に係る環境基準以下（B 類型、道路に面する地域）に設定 注 3) 西側隣接道路 交通騒音の施設西壁面での反射音による影響が加味。施設の稼働騒音の寄与は小さいと推定される。 注 4) 施設南東側 不燃物処理施設からの影響が加味。施設の稼働騒音の寄与は小さいと推定される。</p>	予測地点	予測値	事後調査結果	環境基準もしくは規制基準（環境保全目標）	評価	特定騒音 No. 1	63	69	75 以下	○	特定騒音 No. 2	67	67	総合騒音 No. 3	62	58	65 以下 ^{注)}	予測地点	予測値	事後調査結果 ^{注1)}	環境保全に関する目標	評価	特定騒音 No. 1	昼間 52	59 (57)	昼間：65 以下 朝・夕：65 以下 夜間：55 以下	○	夜間 49	47 (49)	特定騒音 No. 2	昼間 53	55 (56)	昼間：65 以下 夜間：60 以下 ^{注2)}	○ ^{注3)}	夜間 49	50 (47)	総合騒音 No. 3	昼間 58	56 (55)	昼間：65 以下 夜間：60 以下 ^{注2)}	○ ^{注4)}	夜間 52	50 (51)	<p>【工事】</p> <p>建設機械稼働に伴う建設作業騒音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工所用仮囲いの設置 ・低騒音型・低振動型建設機械の使用 ・建設機械の稼働時間の分散 ・建設機械の稼働時間の抑制 <p>【存在・供用】</p> <p>施設の稼働騒音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型の設備機器の使用 ・騒音の大きい機器の屋内配置 	<p>【工事】</p> <p>なし</p> <p>【存在・供用】</p> <p>なし</p>
	地点番号				調査地点	調査時期	平日		休日																																																																																																																																																					
昼間		夜間	昼間	夜間																																																																																																																																																										
特定騒音 No. 1	西側敷地境界	夏季	51	45	50	44																																																																																																																																																								
		冬季	50	40	46	41																																																																																																																																																								
特定騒音 No. 2	南東側敷地境界	夏季	48	45	47	45																																																																																																																																																								
		冬季	47	43	47	43																																																																																																																																																								
総合騒音 No. 3	西側民家付近	夏季	56	52	58	52																																																																																																																																																								
		冬季	54	49	57	52																																																																																																																																																								
地点番号	調査時期	平日		休日																																																																																																																																																										
		朝	昼間	朝	昼間																																																																																																																																																									
特定騒音 No. 1	夏季	58	51	49	53																																																																																																																																																									
	冬季	54	50	43	49																																																																																																																																																									
特定騒音 No. 2	夏季	48	49	48	48																																																																																																																																																									
	冬季	50	49	47	50																																																																																																																																																									
地点番号	調査時期	平日		休日																																																																																																																																																										
		夕	夜間	夕	夜間																																																																																																																																																									
特定騒音 No. 1	夏季	53	46	51	47																																																																																																																																																									
	冬季	52	41	46	43																																																																																																																																																									
特定騒音 No. 2	夏季	49	46	48	46																																																																																																																																																									
	冬季	49	45	48	44																																																																																																																																																									
予測地点	予測値	事後調査結果	環境基準もしくは規制基準（環境保全目標）	評価																																																																																																																																																										
特定騒音 No. 1	63	69	75 以下	○																																																																																																																																																										
特定騒音 No. 2	67	67																																																																																																																																																												
総合騒音 No. 3	62	58	65 以下 ^{注)}																																																																																																																																																											
予測地点	予測値	事後調査結果 ^{注1)}	環境保全に関する目標	評価																																																																																																																																																										
特定騒音 No. 1	昼間 52	59 (57)	昼間：65 以下 朝・夕：65 以下 夜間：55 以下	○																																																																																																																																																										
	夜間 49	47 (49)																																																																																																																																																												
特定騒音 No. 2	昼間 53	55 (56)	昼間：65 以下 夜間：60 以下 ^{注2)}	○ ^{注3)}																																																																																																																																																										
	夜間 49	50 (47)																																																																																																																																																												
総合騒音 No. 3	昼間 58	56 (55)	昼間：65 以下 夜間：60 以下 ^{注2)}	○ ^{注4)}																																																																																																																																																										
	夜間 52	50 (51)																																																																																																																																																												

表 10-3 事後調査の総括（振動）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																																																
振動	<p>(1) 環境振動</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺の調査地点(3地点)での、環境振動の調査結果を下表に示す。</p> <p>環境振動調査結果 (時間率振動レベル L_{10} の時間区分平均値) 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地点番号</th> <th rowspan="2">調査時期</th> <th colspan="2">平日</th> <th colspan="2">休日</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">No. 1</td> <td>夏季</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td>夏季</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> <td><25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td>夏季</td> <td>39</td> <td><32</td> <td>38</td> <td><30</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>37</td> <td>31</td> <td>36</td> <td><30</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25~120dB)未満であることを示す。 注2) L_{10}の時間区分平均値は、1時間ごとの測定値の算術平均であり、「<25」の時間帯がある場合は便宜上「25」として計算し、時間区分平均値に「<」を付している。</p>	地点番号	調査時期	平日		休日		昼間	夜間	昼間	夜間	No. 1	夏季	<25	<25	<25	<25	冬季	<25	<25	<25	<25	No. 2	夏季	<25	<25	<25	<25	冬季	<25	<25	<25	<25	No. 3	夏季	39	<32	38	<30	冬季	37	31	36	<30	<p>【工事】 建設機械の稼働に伴う建設作業振動 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>暗振動</th> <th>建設作業振動</th> <th>予測値</th> <th>事後調査結果</th> <th>規制基準等(環境保全目標)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定振動 No. 1</td> <td><25</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>38</td> <td rowspan="2">75 以下</td> <td rowspan="3">○</td> </tr> <tr> <td>特定振動 No. 2</td> <td><25</td> <td>43</td> <td>43</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>総合振動 No. 3</td> <td>39</td> <td>34</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>55 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>【存在・供用】 施設の稼働振動 単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>時間区分</th> <th>暗振動</th> <th>施設稼働振動</th> <th>予測値</th> <th>事後調査結果^{注1)}</th> <th>規制基準等(環境保全目標)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">特定振動 No. 1</td> <td>昼間</td> <td><25</td> <td>43</td> <td>43</td> <td>32(31)</td> <td rowspan="2">昼間 65 以下 夜間 60 以下</td> <td rowspan="4">○</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td><25</td> <td>43</td> <td>43</td> <td>29(27)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特定振動 No. 2</td> <td>昼間</td> <td><25</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>33(32)</td> <td rowspan="2">55 以下^{注2)}</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td><25</td> <td>46</td> <td>46</td> <td><25(27)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合振動 No. 3</td> <td>昼間</td> <td>39</td> <td>25</td> <td>39</td> <td>36(37)</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td><32</td> <td>23</td> <td>33</td> <td>32(31)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) ()なし：1 炉稼働時、()あり：2 炉稼働時 注2) 振動の感覚閾値</p>	予測地点	暗振動	建設作業振動	予測値	事後調査結果	規制基準等(環境保全目標)	評価	特定振動 No. 1	<25	56	56	38	75 以下	○	特定振動 No. 2	<25	43	43	35	総合振動 No. 3	39	34	40	41	55 以下	予測地点	時間区分	暗振動	施設稼働振動	予測値	事後調査結果 ^{注1)}	規制基準等(環境保全目標)	評価	特定振動 No. 1	昼間	<25	43	43	32(31)	昼間 65 以下 夜間 60 以下	○	夜間	<25	43	43	29(27)	特定振動 No. 2	昼間	<25	60	60	33(32)	55 以下 ^{注2)}	夜間	<25	46	46	<25(27)	総合振動 No. 3	昼間	39	25	39	36(37)	夜間	<32	23	33	32(31)	<p>【工事】 建設機械稼働に伴う建設作業振動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型・低振動型建設機械の使用 ・建設機械の稼働時間の分散 ・建設機械の稼働時間の抑制 <p>【存在・供用】 施設の稼働振動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低振動型の設備機器の使用 ・制振構造等の採用 	<p>【工事】 なし</p> <p>【存在・供用】 なし</p>
	地点番号			調査時期	平日		休日																																																																																																													
昼間		夜間	昼間		夜間																																																																																																															
No. 1	夏季	<25	<25	<25	<25																																																																																																															
	冬季	<25	<25	<25	<25																																																																																																															
No. 2	夏季	<25	<25	<25	<25																																																																																																															
	冬季	<25	<25	<25	<25																																																																																																															
No. 3	夏季	39	<32	38	<30																																																																																																															
	冬季	37	31	36	<30																																																																																																															
予測地点	暗振動	建設作業振動	予測値	事後調査結果	規制基準等(環境保全目標)	評価																																																																																																														
特定振動 No. 1	<25	56	56	38	75 以下	○																																																																																																														
特定振動 No. 2	<25	43	43	35																																																																																																																
総合振動 No. 3	39	34	40	41	55 以下																																																																																																															
予測地点	時間区分	暗振動	施設稼働振動	予測値	事後調査結果 ^{注1)}	規制基準等(環境保全目標)	評価																																																																																																													
特定振動 No. 1	昼間	<25	43	43	32(31)	昼間 65 以下 夜間 60 以下	○																																																																																																													
	夜間	<25	43	43	29(27)																																																																																																															
特定振動 No. 2	昼間	<25	60	60	33(32)	55 以下 ^{注2)}																																																																																																														
	夜間	<25	46	46	<25(27)																																																																																																															
総合振動 No. 3	昼間	39	25	39	36(37)																																																																																																															
	夜間	<32	23	33	32(31)																																																																																																															

表 10-4 事後調査の総括（低周波音・悪臭）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																							
低周波音	<p>低周波音レベル</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺の調査地点（3 地点）での、低周波音の調査結果を下表に示す。</p> <p>低周波音調査結果（G 特性調査）</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地点番号</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="4">夏季（平日、休日）、冬季（平日、休日）の最大値</th> </tr> <tr> <th>朝 6 時 ～8 時</th> <th>昼間 8 時 ～18 時</th> <th>夕方 18 時 ～21 時</th> <th>夜間 21 時 ～6 時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">No. 1</td> <td>L_{Gmax}</td> <td>96.1</td> <td>107.6</td> <td>96.9</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>L_{Geq}</td> <td>74.7</td> <td>79.1</td> <td>75.6</td> <td>71.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 2</td> <td>L_{Gmax}</td> <td>75.4</td> <td>83.0</td> <td>80.3</td> <td>84.7</td> </tr> <tr> <td>L_{Geq}</td> <td>68.2</td> <td>71.1</td> <td>69.9</td> <td>67.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">No. 3</td> <td>L_{Gmax}</td> <td>89.8</td> <td>95.6</td> <td>97.4</td> <td>93.7</td> </tr> <tr> <td>L_{Geq}</td> <td>71.0</td> <td>78.8</td> <td>72.3</td> <td>68.3</td> </tr> </tbody> </table>	地点番号	項目	夏季（平日、休日）、冬季（平日、休日）の最大値				朝 6 時 ～8 時	昼間 8 時 ～18 時	夕方 18 時 ～21 時	夜間 21 時 ～6 時	No. 1	L _{Gmax}	96.1	107.6	96.9	95.5	L _{Geq}	74.7	79.1	75.6	71.7	No. 2	L _{Gmax}	75.4	83.0	80.3	84.7	L _{Geq}	68.2	71.1	69.9	67.6	No. 3	L _{Gmax}	89.8	95.6	97.4	93.7	L _{Geq}	71.0	78.8	72.3	68.3	<p>【存在・供用】</p> <p>施設の稼働に伴う低周波音</p> <p>施設の稼働による低周波音予測結果（G 特性音圧レベル）</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況値 ① (dB)</th> <th>予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)</th> <th>低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)</th> <th>事後調査 結果^{注)}</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No. 1</td> <td>72～79</td> <td>72～79</td> <td>0</td> <td>69～76 (75～79)</td> <td rowspan="3">○</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>68～71</td> <td>68～72</td> <td>0～1</td> <td>66～70 (68～71)</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>68～79</td> <td>68～79</td> <td>0</td> <td>64～72 (69～72)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) () なし：1 炉稼働時、() あり：2 炉稼働時</p> <p>施設の稼働による低周波音予測結果 (低周波音圧レベル 1～80Hz；平坦特性)</p> <p style="text-align: right;">単位：dB</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>現況値 ① (dB)</th> <th>予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)</th> <th>低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)</th> <th>事後調査 結果^{注)}</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No. 1</td> <td>99～108</td> <td>99～108</td> <td>0</td> <td>83～91 (87～93)</td> <td rowspan="3">○</td> </tr> <tr> <td>No. 2</td> <td>73～81</td> <td>73～81</td> <td>0～1</td> <td>52～63 (53～66)</td> </tr> <tr> <td>No. 3</td> <td>73～89</td> <td>73～89</td> <td>0</td> <td>64～78 (67～77)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) () なし：1 炉稼働時、() あり：2 炉稼働時</p>	予測地点	現況値 ① (dB)	予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)	低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)	事後調査 結果 ^{注)}	評価	No. 1	72～79	72～79	0	69～76 (75～79)	○	No. 2	68～71	68～72	0～1	66～70 (68～71)	No. 3	68～79	68～79	0	64～72 (69～72)	予測地点	現況値 ① (dB)	予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)	低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)	事後調査 結果 ^{注)}	評価	No. 1	99～108	99～108	0	83～91 (87～93)	○	No. 2	73～81	73～81	0～1	52～63 (53～66)	No. 3	73～89	73～89	0	64～78 (67～77)	<p>【存在・供用】</p> <p>施設の稼働に伴う低周波音</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低周波音発生機器の屋内への配置 ・設備機器の防振対策 	<p>【存在・供用】</p> <p>なし</p>
	地点番号			項目	夏季（平日、休日）、冬季（平日、休日）の最大値																																																																																						
朝 6 時 ～8 時		昼間 8 時 ～18 時	夕方 18 時 ～21 時		夜間 21 時 ～6 時																																																																																						
No. 1	L _{Gmax}	96.1	107.6	96.9	95.5																																																																																						
	L _{Geq}	74.7	79.1	75.6	71.7																																																																																						
No. 2	L _{Gmax}	75.4	83.0	80.3	84.7																																																																																						
	L _{Geq}	68.2	71.1	69.9	67.6																																																																																						
No. 3	L _{Gmax}	89.8	95.6	97.4	93.7																																																																																						
	L _{Geq}	71.0	78.8	72.3	68.3																																																																																						
予測地点	現況値 ① (dB)	予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)	低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)	事後調査 結果 ^{注)}	評価																																																																																						
No. 1	72～79	72～79	0	69～76 (75～79)	○																																																																																						
No. 2	68～71	68～72	0～1	66～70 (68～71)																																																																																							
No. 3	68～79	68～79	0	64～72 (69～72)																																																																																							
予測地点	現況値 ① (dB)	予測地点 における 低周波音圧 レベル ② (dB)	低周波音圧 レベル の変化量 (② - ①) (dB)	事後調査 結果 ^{注)}	評価																																																																																						
No. 1	99～108	99～108	0	83～91 (87～93)	○																																																																																						
No. 2	73～81	73～81	0～1	52～63 (53～66)																																																																																							
No. 3	73～89	73～89	0	64～78 (67～77)																																																																																							
悪臭	<p>悪臭調査結果</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺の調査地点での悪臭調査（臭気指数（6 地点）及び特定悪臭物質濃度（2 地点））を実施した。</p> <p>特定悪臭物質濃度はアセトアルデヒドが定量下限値と同等値で検出された以外は、いずれも項目も定量下限値未満であった。</p> <p>臭気指数はいずれの地点も、安曇野市が条例で定める規制値未満であった。</p>	<p>【存在・供用】</p> <p>(1) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設定気象条件</th> <th>臭気指数</th> <th>環境保全 目標</th> <th>事後調査 結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大気安定度不安定時</td> <td>10 未満</td> <td rowspan="4">10 未満</td> <td rowspan="4">南西側 11 東側 10 未満</td> <td rowspan="4">○^{注)}</td> </tr> <tr> <td>上層逆転時</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>接地逆転層崩壊時</td> <td>10 未満</td> </tr> <tr> <td>ダウンウォッシュ時</td> <td>10 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 南西側の臭気は周辺農地刈草起因の「蒸れた草のにおい」であり、施設起因ではない。</p> <p>(2) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>臭気指数</th> <th>環境保全 目標</th> <th>事後調査 結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象事業実施区域 敷地境界線上</td> <td>15 未満</td> <td>15 未満</td> <td>風上 10 未満 風下 10 未満</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	設定気象条件	臭気指数	環境保全 目標	事後調査 結果	評価	大気安定度不安定時	10 未満	10 未満	南西側 11 東側 10 未満	○ ^{注)}	上層逆転時	10 未満	接地逆転層崩壊時	10 未満	ダウンウォッシュ時	10 未満	予測地点	臭気指数	環境保全 目標	事後調査 結果	評価	対象事業実施区域 敷地境界線上	15 未満	15 未満	風上 10 未満 風下 10 未満	○	<p>【存在・供用】</p> <p>(1) 廃棄物搬入車両の走行に伴う悪臭の漏洩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集業者の車両の洗車の徹底 <p>(2) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な排出ガス処理の実施 <p>(3) 焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみピット内空気を燃焼用空気に使用 ・プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置 ・全炉休止時に使用する脱臭装置 ・ごみピット内を負圧に保持 ・気密性を高めた建物構造 ・廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施 ・悪臭漏洩の監視 	<p>【存在・供用】</p> <p>なし</p>																																																													
設定気象条件	臭気指数	環境保全 目標	事後調査 結果	評価																																																																																							
大気安定度不安定時	10 未満	10 未満	南西側 11 東側 10 未満	○ ^{注)}																																																																																							
上層逆転時	10 未満																																																																																										
接地逆転層崩壊時	10 未満																																																																																										
ダウンウォッシュ時	10 未満																																																																																										
予測地点	臭気指数	環境保全 目標	事後調査 結果	評価																																																																																							
対象事業実施区域 敷地境界線上	15 未満	15 未満	風上 10 未満 風下 10 未満	○																																																																																							

表 10-5 事後調査の総括（水質）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果							環境保全措置	環境保全措置の見直し																																
水質	<p>(1) 河川水質</p> <p>対象事業実施区域周辺の調査地点（4地点）において、2季もしくは4季に河川水質調査を実施した。</p> <p>①浮遊物質質量(SS)</p> <p>対象事業実施区域下流河川(No.1)での浮遊物質質量は、平常時最大で5mg/L、降雨時最大で28mg/L（周辺の田からの放流の影響とみられる110mg/Lは除く）であった。</p> <p>②生活環境項目</p> <p>No.1地点において、水素イオン濃度(pH)は7.3～7.5、生物化学的酸素要求量(BOD)は0.7～1.7mg/Lであった。</p> <p>③健康項目、ダイオキシン類</p> <p>No.1地点において、健康項目及びダイオキシン類については、すべての項目で環境基準値を下回っていた。</p> <p>(2) 土質</p> <p>対象事業実施区域の表土を用いた沈降試験の結果、浮遊物質質量(SS)は攪拌直後2,000mg/Lが、8時間後には3mg/Lまで減少した。沈降速度の近似式は以下で表せる。</p> $C = 128.82X^{-0.531}$ <p>C：浮遊物質濃度(mg/L)、X：滞留時間(min)</p>	<p>【工事】</p> <p>(1) 降雨時における土地造成、掘削、舗装・コンクリート工事の影響</p> <p>(2) 降雨時の舗装・コンクリート工事に伴う河川水質への影響</p> <p>排水が生じない工法を採用したため、周辺河川水の後調査を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">現地調査結果 (降雨時) =予測値</th> <th rowspan="2">工事中の排水</th> <th rowspan="2">当初予測値</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> <th rowspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>工事区域横 河川水</th> <th>赤川 下流 河川水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浮遊物質質量</td> <td>mg/L</td> <td>28</td> <td>50</td> <td>28</td> <td>8.6～18</td> <td>16～32^{注)}</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">pH</td> <td>降雨時</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7.0～7.1</td> <td>7.0</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>平常時</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7.2</td> <td>7.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 対象事業実施区域からの排水が無く、予測値超過は降雨時の自然的要因によるもの。</p>							項目	単位	現地調査結果 (降雨時) =予測値	工事中の排水	当初予測値	事後調査結果		評価	工事区域横 河川水	赤川 下流 河川水	浮遊物質質量	mg/L	28	50	28	8.6～18	16～32 ^{注)}	○	pH	降雨時	—	—	—	7.0～7.1	7.0	—	平常時	—	—	—	7.2	7.2	<p>【工事】</p> <p>(1) 降雨時における土地造成、掘削、舗装・コンクリート工事の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沈砂池の設置 ・雨水排水の濁りの監視 ・凝集剤による土壌の沈殿促進 <p>(2) 降雨時の舗装・コンクリート工事に伴う河川水質への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ排水の中和及び流出防止 	<p>【工事】</p> <p>(1) 降雨時における土地造成、掘削、舗装・コンクリート工事の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸透貯留池の設置 ・場内浸透 <p>(2) 降雨時の舗装・コンクリート工事に伴う河川水質への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水が生じない工法を採用したため、環境保全措置を実施しなかった。
		項目	単位	現地調査結果 (降雨時) =予測値	工事中の排水	当初予測値	事後調査結果							評価																												
							工事区域横 河川水	赤川 下流 河川水																																		
		浮遊物質質量	mg/L	28	50	28	8.6～18	16～32 ^{注)}	○																																	
pH	降雨時	—	—	—	7.0～7.1	7.0	—																																			
	平常時	—	—	—	7.2	7.2																																				

表 10-6 事後調査の総括（水象）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果				環境保全措置	環境保全措置の見直し
水象	<p>(1) 湧水の分布 対象事業実施区域周辺には湧水の湧出場所が多くみられ、わさび田の水に利用されている。</p> <p>(2) 地下水の利用状況 対象事業実施区域周辺では、既存の焼却施設の他に隣接する生コン製造工場が地下水を利用している。</p> <p>(3) 地下水位 対象事業実施区域の観測井の地下水位の年平均は標高水位で 520.01m、年間の変動幅は 1.71m であった。 地下水位は日変動しており昼間に水位が低下し、夜間に上昇する傾向がみられる。この傾向は既存の焼却施設の地下水利用状況と概ね一致している。</p> <p>(4) 水面標高 水面標高の変動をみると、すべての地点で豊水期と渇水期で標高差がみられる。地下水位と水面標高の関係をみると、対象事業実施区域の地下水位よりも低い水面標高の河川がみられる。</p> <p>(5) ボーリング調査結果 ボーリング調査結果から、対象事業実施区域の地質は砂質土、礫質土で構成されており、全体的に透水層となっており、地下水量も非常に豊富であると考えられる。</p>	<p>【工事】 掘削に伴う水象（地下水位）への影響</p>				<p>【工事】 掘削に伴う水象（地下水位）への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 掘削面積、掘削深度の最小化 適切な掘削方法の検討 適切な掘削時期の検討 	<p>【工事】 なし</p>
		項目	予測結果	事後調査結果	評価		
		水象	工事中の掘削による地下水位への影響は小さい	わさび田周辺の水面標高や流況に大きな変化はなく、地下水位は安定している	○		

表 10-6 事後調査の総括（土壌汚染）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し									
土壌汚染	<p>土壌汚染結果</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺（計 5 地点）における、土壌汚染に係る環境基準項目及びダイオキシン類の調査結果は、すべての項目で環境基準値を下回っていた。</p>	<p>【工事】</p> <p>工事中の掘削によって発生する残土等</p> <table border="1" data-bbox="896 323 1748 537"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土壌汚染</td> <td>掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わない見通しであることから、周辺への影響はない</td> <td>掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わなかったことから、周辺への影響はない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測結果	事後調査結果	評価	土壌汚染	掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わない見通しであることから、周辺への影響はない	掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わなかったことから、周辺への影響はない	○	<p>【工事】</p> <p>工事中の掘削によって発生する残土等</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設発生土の全量再利用 	<p>【工事】</p> <p>なし</p>	
	項目	予測結果	事後調査結果	評価									
土壌汚染	掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わない見通しであることから、周辺への影響はない	掘削工事によって発生する残土は、すべて場内で再利用し、場外への搬出を行わなかったことから、周辺への影響はない	○										
	<p>【存在・供用】</p> <p>焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる土壌中のダイオキシン類濃度</p> <p style="text-align: right;">単位：pg-TEQ/g</p> <table border="1" data-bbox="869 884 1757 1008"> <thead> <tr> <th>予測地点</th> <th>予測値(寄与率)^{注1)}</th> <th>環境保全目標(環境基準)</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大着地濃度地点</td> <td>12.2602 (2.17%)</td> <td>1,000 以下</td> <td>南西側 2.9 東側 66</td> <td>○^{注2)}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 最大着地濃度地点の現況の土壌中ダイオキシン類濃度は測定していないため、今回調査を行った地点の中で、濃度が最小と最大の値を計算に用いた。</p> <p>注 2) 東側は、かつて農地に使用されていた除草剤 CNP 及び PCP の影響であり焼却施設起因ではない。</p>	予測地点	予測値(寄与率) ^{注1)}	環境保全目標(環境基準)	事後調査結果	評価	最大着地濃度地点	12.2602 (2.17%)	1,000 以下	南西側 2.9 東側 66	○ ^{注2)}	<p>【存在・供用】</p> <p>(1) 焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる土壌中のダイオキシン類濃度</p> <ul style="list-style-type: none"> 排ガス濃度の低減 排ガス濃度の監視 適正な排出ガス処理の実施 適正な運転管理の実施 <p>(2) 廃棄物の排出・処理による影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 場内での焼却処理残渣の積込み 天蓋付き搬出車両の使用 	<p>【存在・供用】</p> <p>なし</p>
予測地点	予測値(寄与率) ^{注1)}	環境保全目標(環境基準)	事後調査結果	評価									
最大着地濃度地点	12.2602 (2.17%)	1,000 以下	南西側 2.9 東側 66	○ ^{注2)}									

表 10-7 事後調査の総括（植物）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																																													
植物	<p>(1) 植物相 現地調査の結果、確認した種は 96 科 435 種。</p> <p>(2) 植生 現地調査の結果、以下の植物群落を確認された。</p> <table border="1" data-bbox="320 411 765 751"> <thead> <tr> <th>調査地点番号</th> <th>群落名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ヤナギ高木群落</td></tr> <tr><td>2</td><td>ハリエンジュ群落</td></tr> <tr><td>3</td><td>ヨシ群落</td></tr> <tr><td>4</td><td>ツルヨシ群落</td></tr> <tr><td>5</td><td>カワラヨモギ群落</td></tr> <tr><td>6</td><td>沈水植物群落</td></tr> <tr><td>7</td><td>路傍・空き地雑草群落</td></tr> <tr><td>8</td><td>クズ群落</td></tr> <tr><td>9</td><td>畑雑草群落</td></tr> <tr><td>10</td><td>水田雑草群落</td></tr> <tr><td>11</td><td>放棄水田雑草群落</td></tr> </tbody> </table> <p>(3) 注目すべき植物種 現地調査の結果、以下の注目すべき植物種が確認された。</p> <table border="1" data-bbox="240 886 804 1688"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>科名</th> <th>和名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トクサ科</td><td>イヌスギナ</td></tr> <tr><td>2</td><td>アカザ科</td><td>カワラアカザ</td></tr> <tr><td>3</td><td rowspan="2">キンポウゲ科</td><td>センニンソウ</td></tr> <tr><td>4</td><td>バイカモ</td></tr> <tr><td>5</td><td>ユキノシタ科</td><td>ヤブサンザシ</td></tr> <tr><td>6</td><td rowspan="3">マメ科</td><td>クサネム</td></tr> <tr><td>7</td><td>サイカチ</td></tr> <tr><td>8</td><td>ヤハズソウ</td></tr> <tr><td>9</td><td>ミカン科</td><td>キハダ</td></tr> <tr><td>10</td><td>ドクウツギ科</td><td>ドクウツギ</td></tr> <tr><td>11</td><td>クロウメモドキ科</td><td>クマヤナギ</td></tr> <tr><td>12</td><td>ウリ科</td><td>スズメウリ</td></tr> <tr><td>13</td><td>リンドウ科</td><td>アケボノソウ</td></tr> <tr><td>14</td><td>クマツヅラ科</td><td>クマツヅラ</td></tr> <tr><td>15</td><td>シソ科</td><td>メハジキ</td></tr> <tr><td>16</td><td>キク科</td><td>カワラニガナ</td></tr> <tr><td>17</td><td>オモダカ科</td><td>オモダカ</td></tr> <tr><td>18</td><td>ヒルムシロ科</td><td>ヤナギモ</td></tr> <tr><td>19</td><td>イグサ科</td><td>ハリコウガイゼキショウ</td></tr> <tr><td>20</td><td>イネ科</td><td>ヒエガエリ</td></tr> <tr><td>21</td><td>ウキクサ科</td><td>ヒメウキクサ</td></tr> <tr><td>22</td><td>ミクリ科</td><td>ミクリ属</td></tr> <tr><td>23</td><td rowspan="2">カヤツリグサ科</td><td>ヒナガヤツリ</td></tr> <tr><td>24</td><td>アオガヤツリ</td></tr> <tr><td>25</td><td>ラン科</td><td>ネジバナ</td></tr> <tr><td colspan="3">合計 21 科 25 種</td></tr> </tbody> </table> <p>(4) 注目すべき個体、集団及び個体群 現地調査の結果、注目すべき個体、集団及び個体群は確認されなかった。</p>	調査地点番号	群落名	1	ヤナギ高木群落	2	ハリエンジュ群落	3	ヨシ群落	4	ツルヨシ群落	5	カワラヨモギ群落	6	沈水植物群落	7	路傍・空き地雑草群落	8	クズ群落	9	畑雑草群落	10	水田雑草群落	11	放棄水田雑草群落	No.	科名	和名	1	トクサ科	イヌスギナ	2	アカザ科	カワラアカザ	3	キンポウゲ科	センニンソウ	4	バイカモ	5	ユキノシタ科	ヤブサンザシ	6	マメ科	クサネム	7	サイカチ	8	ヤハズソウ	9	ミカン科	キハダ	10	ドクウツギ科	ドクウツギ	11	クロウメモドキ科	クマヤナギ	12	ウリ科	スズメウリ	13	リンドウ科	アケボノソウ	14	クマツヅラ科	クマツヅラ	15	シソ科	メハジキ	16	キク科	カワラニガナ	17	オモダカ科	オモダカ	18	ヒルムシロ科	ヤナギモ	19	イグサ科	ハリコウガイゼキショウ	20	イネ科	ヒエガエリ	21	ウキクサ科	ヒメウキクサ	22	ミクリ科	ミクリ属	23	カヤツリグサ科	ヒナガヤツリ	24	アオガヤツリ	25	ラン科	ネジバナ	合計 21 科 25 種			<p>【工事】 土地造成及び掘削等の建設作業に伴う注目すべき種に対する影響</p> <table border="1" data-bbox="902 319 1860 567"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植物</td> <td>・クマツヅラは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい。</td> <td>・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査で事後調査計画では調査対象としなかったが、変更区域内で確認されたため調査を実施した。生育場所が工事に伴う変更にあたる場所にあたるため、種子を採取し試験播種を実施した。</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測結果	事後調査結果	評価	植物	・クマツヅラは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい。	・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査で事後調査計画では調査対象としなかったが、変更区域内で確認されたため調査を実施した。生育場所が工事に伴う変更にあたる場所にあたるため、種子を採取し試験播種を実施した。	○	<p>【工事】 土地造成及び掘削等の建設作業に伴う注目すべき種に対する影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事用仮囲いの設置 ・工事区域への散水 ・沈砂池の設置 ・アルカリ排水の中和及び流出防止 ・掘削面積、掘削深度の最小化 ・適切な掘削方法の検討 ・生育地の保全の検討 ・個体の移植・播種 ・草地環境の維持 	<p>【工事】 なし</p>
	調査地点番号	群落名																																																																																																															
1	ヤナギ高木群落																																																																																																																
2	ハリエンジュ群落																																																																																																																
3	ヨシ群落																																																																																																																
4	ツルヨシ群落																																																																																																																
5	カワラヨモギ群落																																																																																																																
6	沈水植物群落																																																																																																																
7	路傍・空き地雑草群落																																																																																																																
8	クズ群落																																																																																																																
9	畑雑草群落																																																																																																																
10	水田雑草群落																																																																																																																
11	放棄水田雑草群落																																																																																																																
No.	科名	和名																																																																																																															
1	トクサ科	イヌスギナ																																																																																																															
2	アカザ科	カワラアカザ																																																																																																															
3	キンポウゲ科	センニンソウ																																																																																																															
4		バイカモ																																																																																																															
5	ユキノシタ科	ヤブサンザシ																																																																																																															
6	マメ科	クサネム																																																																																																															
7		サイカチ																																																																																																															
8		ヤハズソウ																																																																																																															
9	ミカン科	キハダ																																																																																																															
10	ドクウツギ科	ドクウツギ																																																																																																															
11	クロウメモドキ科	クマヤナギ																																																																																																															
12	ウリ科	スズメウリ																																																																																																															
13	リンドウ科	アケボノソウ																																																																																																															
14	クマツヅラ科	クマツヅラ																																																																																																															
15	シソ科	メハジキ																																																																																																															
16	キク科	カワラニガナ																																																																																																															
17	オモダカ科	オモダカ																																																																																																															
18	ヒルムシロ科	ヤナギモ																																																																																																															
19	イグサ科	ハリコウガイゼキショウ																																																																																																															
20	イネ科	ヒエガエリ																																																																																																															
21	ウキクサ科	ヒメウキクサ																																																																																																															
22	ミクリ科	ミクリ属																																																																																																															
23	カヤツリグサ科	ヒナガヤツリ																																																																																																															
24		アオガヤツリ																																																																																																															
25	ラン科	ネジバナ																																																																																																															
合計 21 科 25 種																																																																																																																	
項目	予測結果	事後調査結果	評価																																																																																																														
植物	・クマツヅラは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい。	・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査で事後調査計画では調査対象としなかったが、変更区域内で確認されたため調査を実施した。生育場所が工事に伴う変更にあたる場所にあたるため、種子を採取し試験播種を実施した。	○																																																																																																														
		<p>【存在・供用】 施設の稼働に伴う注目すべき種に対する影響</p> <table border="1" data-bbox="902 1117 1860 1428"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植物</td> <td>・クマツヅラでは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい</td> <td>・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため移植（播種）を実施した。その結果、生育はやや不良でバッタの被害が見られたものの、開花・結実していることから、草地として管理しゆくことにより、継代的に生育してゆくものと考えられる。</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測結果	事後調査結果	評価	植物	・クマツヅラでは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい	・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため移植（播種）を実施した。その結果、生育はやや不良でバッタの被害が見られたものの、開花・結実していることから、草地として管理しゆくことにより、継代的に生育してゆくものと考えられる。	○	<p>【存在・供用】 施設の稼働、夜間照明に伴う注目すべき種に対する影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水の無放流 ・地下水取水量の最小化 ・アルカリ排水の中和及び流出防止 ・生育地の保全の検討 ・個体の移植・播種 ・草地環境の維持 ・夜間照明拡散の低減 	<p>【存在・供用】 なし</p>																																																																																																					
項目	予測結果	事後調査結果	評価																																																																																																														
植物	・クマツヅラでは、工事により、調査地域内で確認された生育地が消失することから、直接的影響は大きい	・クマツヅラは、草地環境を維持するため、適切な草刈りを行った。 ・アオガヤツリは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため移植（播種）を実施した。その結果、生育はやや不良でバッタの被害が見られたものの、開花・結実していることから、草地として管理しゆくことにより、継代的に生育してゆくものと考えられる。	○																																																																																																														

表 10-8 事後調査の総括（動物）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果	環境保全措置	環境保全措置の見直し																																																																																
動物	<p>（１）動物相 現地調査の結果、下表の動物種が確認された。</p> <table border="1" data-bbox="240 365 834 663"> <thead> <tr> <th>調査項目</th> <th>目</th> <th>科</th> <th>種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>哺乳類</td><td>5</td><td>7</td><td>10</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>15</td><td>31</td><td>72</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>17</td><td>202</td><td>686</td></tr> <tr><td>陸産貝類</td><td>2</td><td>11</td><td>22</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>11</td><td>18</td><td>22</td></tr> </tbody> </table> <p>（２）注目すべき動物種 現地調査により確認された動物種のうち、注目すべき種は下表のとおりであった。</p> <table border="1" data-bbox="240 842 834 1140"> <thead> <tr> <th>調査項目</th> <th>目</th> <th>科</th> <th>種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>哺乳類</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>6</td><td>7</td><td>11</td></tr> <tr><td>爬虫類</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>両生類</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>昆虫類</td><td>8</td><td>23</td><td>28</td></tr> <tr><td>陸産貝類</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>魚類</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>底生動物</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	調査項目	目	科	種	哺乳類	5	7	10	鳥類	15	31	72	爬虫類	1	1	3	両生類	2	4	6	昆虫類	17	202	686	陸産貝類	2	11	22	魚類	4	5	10	底生動物	11	18	22	調査項目	目	科	種	哺乳類	0	0	0	鳥類	6	7	11	爬虫類	0	0	0	両生類	2	2	3	昆虫類	8	23	28	陸産貝類	1	3	3	魚類	4	4	4	底生動物	3	4	5	<p>【工事】 掘削等の建設作業に伴う注目すべき種に対する影響</p> <table border="1" data-bbox="899 365 2122 961"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは当初、調査範囲内で飛翔、休息、採餌、営巣及び繁殖行動が見られたが、事後調査2ヶ年目以降は飛翔、休息、採餌が見られたのみで、営巣及び繁殖活動が確認されなかった。予測のとおり工事による影響はないと判断する。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査3ヶ年目に確認された。事業対象実施区域の周辺地域で営巣、育雛が確認された。工事による影響はないと判断する。 ・ヒメカメムシは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため変更区域で確認された個体を残置する自然緑地に移殖した。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類が草地で確認された。施設設計の段階で自然緑地として残置することとした。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で多い個体数が確認されたが、保全のための移殖は不要と判断した。 </td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測結果	事後調査結果	評価	動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは当初、調査範囲内で飛翔、休息、採餌、営巣及び繁殖行動が見られたが、事後調査2ヶ年目以降は飛翔、休息、採餌が見られたのみで、営巣及び繁殖活動が確認されなかった。予測のとおり工事による影響はないと判断する。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査3ヶ年目に確認された。事業対象実施区域の周辺地域で営巣、育雛が確認された。工事による影響はないと判断する。 ・ヒメカメムシは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため変更区域で確認された個体を残置する自然緑地に移殖した。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類が草地で確認された。施設設計の段階で自然緑地として残置することとした。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で多い個体数が確認されたが、保全のための移殖は不要と判断した。 	○	<p>【工事】 掘削等の建設作業に伴う注目すべき種に対する影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音発生の低減 ・振動発生の低減 ・沈砂池の設置 ・アルカリ排水の中和及び流出防止 ・掘削面積、掘削深度の最小化 ・適切な掘削方法の検討 ・生息地の保全の検討 ・個体の移殖 	<p>【工事】 なし</p>
	調査項目	目	科	種																																																																																
哺乳類	5	7	10																																																																																	
鳥類	15	31	72																																																																																	
爬虫類	1	1	3																																																																																	
両生類	2	4	6																																																																																	
昆虫類	17	202	686																																																																																	
陸産貝類	2	11	22																																																																																	
魚類	4	5	10																																																																																	
底生動物	11	18	22																																																																																	
調査項目	目	科	種																																																																																	
哺乳類	0	0	0																																																																																	
鳥類	6	7	11																																																																																	
爬虫類	0	0	0																																																																																	
両生類	2	2	3																																																																																	
昆虫類	8	23	28																																																																																	
陸産貝類	1	3	3																																																																																	
魚類	4	4	4																																																																																	
底生動物	3	4	5																																																																																	
項目	予測結果	事後調査結果	評価																																																																																	
動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは当初、調査範囲内で飛翔、休息、採餌、営巣及び繁殖行動が見られたが、事後調査2ヶ年目以降は飛翔、休息、採餌が見られたのみで、営巣及び繁殖活動が確認されなかった。予測のとおり工事による影響はないと判断する。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査3ヶ年目に確認された。事業対象実施区域の周辺地域で営巣、育雛が確認された。工事による影響はないと判断する。 ・ヒメカメムシは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で確認されたため、保全のため変更区域で確認された個体を残置する自然緑地に移殖した。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類が草地で確認された。施設設計の段階で自然緑地として残置することとした。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、工事時の事後調査で多い個体数が確認されたが、保全のための移殖は不要と判断した。 	○																																																																																	
<p>【存在・供用】 施設の稼働、夜間照明に伴う注目すべき種に対する影響</p> <table border="1" data-bbox="899 1052 2122 1444"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>予測結果</th> <th>事後調査結果</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは事業対象実施区域から1km以上離れた場所で雌雄同時に滞在、摂食が確認されたが、繁殖には至らなかった。周辺地域を含めた生息状況には大きな変化はないと判断した。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、営巣、育雛が確認されていたが、繁殖が中断されたとみられる。施設供用による影響はないと判断する。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類の生息が維持されていることを確認した。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査でも対象事業実施区域内にて確認されている。 </td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	予測結果	事後調査結果	評価	動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは事業対象実施区域から1km以上離れた場所で雌雄同時に滞在、摂食が確認されたが、繁殖には至らなかった。周辺地域を含めた生息状況には大きな変化はないと判断した。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、営巣、育雛が確認されていたが、繁殖が中断されたとみられる。施設供用による影響はないと判断する。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類の生息が維持されていることを確認した。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査でも対象事業実施区域内にて確認されている。 	○	<p>【存在・供用】 施設の稼働、夜間照明に伴う注目すべき種に対する影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水の無放流 ・地下水取水量の最小化 ・夜間照明拡散の低減 	<p>【存在・供用】 なし</p>																																																																										
項目	予測結果	事後調査結果	評価																																																																																	
動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは影響予測に不確実性がある。 ・コウフオカモノアラガイは、個体の移殖による環境安全措置を行うものの、効果の不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサは事業対象実施区域から1km以上離れた場所で雌雄同時に滞在、摂食が確認されたが、繁殖には至らなかった。周辺地域を含めた生息状況には大きな変化はないと判断した。 ・オオタカは、事後調査計画では調査対象としなかったが、営巣、育雛が確認されていたが、繁殖が中断されたとみられる。施設供用による影響はないと判断する。 ・コウフオカモノアラガイとは同定していないが、オカモノアラガイ類の生息が維持されていることを確認した。 ・カタママイマイは、事後調査計画では調査対象としなかったが、事後調査でも対象事業実施区域内にて確認されている。 	○																																																																																	

表 10-9 事後調査の総括（景観）

項目	現況調査結果	予測結果及び事後調査結果				環境保全措置	環境保全措置の見直し																																							
景観	<p>(1) 景観資源及び構成要素</p> <p>①地形的特徴 対象事業実施区域は、犀川、万水川、穂高川及び高瀬川の合流地点に位置している。北、東、南の三方を河川に囲まれており、河畔林によって対象事業実施区域への眺望が遮られている。</p> <p>②植生・土地利用の状況 対象事業実施区域は、現状でグラウンド等として利用されている。対象事業実施区域と道路を隔てた隣接地に穂高クリーンセンター（現焼却施設）が位置しているほか、周辺には穂高クリーンセンター（し尿処理場）や工場が存在している。</p> <p>(2) 主要な景観の状況</p> <table border="1" data-bbox="219 699 1032 1934"> <thead> <tr> <th data-bbox="219 699 344 762">調査地点</th> <th data-bbox="344 699 1032 762">主要な景観の状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="219 762 344 972">安曇橋</td> <td data-bbox="344 762 1032 972">近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は、安曇橋を南の方角に向かう際に南東の方角に視野に入る。対象事業実施区域とは河川及び河畔林によって隔てられているが、低木が多く秋季及び冬季においても見通しに大きな変化はない。現焼却施設の煙突から低層階まで視認できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="219 972 344 1161">犀川橋</td> <td data-bbox="344 972 1032 1161">近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は南西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="219 1161 344 1371">御宝田遊水池</td> <td data-bbox="344 1161 1032 1371">白鳥、その他様々な水鳥が飛来する池があり、その奥に犀川が流れ、河畔林が広がっている。また、北アルプスが南北に連なっており、眺望地点としての価値が高い場所となっている。対象事業実施区域は西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="219 1371 344 1602">大王わさび農場</td> <td data-bbox="344 1371 1032 1602">春季から秋季にかけて多くの人が訪れる観光地である。調査地点は駐車場の手前に位置し、訪問者の多くが来訪時に通過する地点である。対象事業実施区域との間に万水川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできない。落葉により、対象事業実施区域までの見通しがよくなる。現焼却施設は、春季から秋季にかけて、煙突のみ視認できるが、冬季には建物の一部も視認できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="219 1602 344 1759">早春賦歌碑</td> <td data-bbox="344 1602 1032 1759">春季に多くの人が訪れる観光地である。対象事業実施区域との間に穂高川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="219 1759 344 1934">長峰山展望台</td> <td data-bbox="344 1759 1032 1934">正面に北アルプス、眼下に安曇野が広がっており、安曇野屈指の眺望地点となっている。対象事業実施区域までは距離があり、また遮るものがないため、年間を通じて見通しに大きな変化はない。対象事業実施区域及び現焼却施設のほぼ全域を俯瞰することができる。</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点	主要な景観の状況	安曇橋	近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は、安曇橋を南の方角に向かう際に南東の方角に視野に入る。対象事業実施区域とは河川及び河畔林によって隔てられているが、低木が多く秋季及び冬季においても見通しに大きな変化はない。現焼却施設の煙突から低層階まで視認できる。	犀川橋	近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は南西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。	御宝田遊水池	白鳥、その他様々な水鳥が飛来する池があり、その奥に犀川が流れ、河畔林が広がっている。また、北アルプスが南北に連なっており、眺望地点としての価値が高い場所となっている。対象事業実施区域は西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。	大王わさび農場	春季から秋季にかけて多くの人が訪れる観光地である。調査地点は駐車場の手前に位置し、訪問者の多くが来訪時に通過する地点である。対象事業実施区域との間に万水川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできない。落葉により、対象事業実施区域までの見通しがよくなる。現焼却施設は、春季から秋季にかけて、煙突のみ視認できるが、冬季には建物の一部も視認できる。	早春賦歌碑	春季に多くの人が訪れる観光地である。対象事業実施区域との間に穂高川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。	長峰山展望台	正面に北アルプス、眼下に安曇野が広がっており、安曇野屈指の眺望地点となっている。対象事業実施区域までは距離があり、また遮るものがないため、年間を通じて見通しに大きな変化はない。対象事業実施区域及び現焼却施設のほぼ全域を俯瞰することができる。	<p>【存在・供用】 建築物等の存在及び緑化による景観への影響</p> <table border="1" data-bbox="1032 363 2436 1934"> <thead> <tr> <th data-bbox="1032 363 1110 489">予測地点</th> <th data-bbox="1110 363 1730 489">予測結果</th> <th data-bbox="1730 363 2350 489">事後調査結果</th> <th data-bbox="2350 363 2436 489">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1032 489 1110 762">安曇橋</td> <td data-bbox="1110 489 1730 762">計画施設の煙突及び建物の北面及び西面が視認される。計画施設手前側には工場があるが高さはなく、計画施設建屋が隠れるのはわずかな部分である。計画施設周辺には既存焼却施設や工場などの構造物がみられるが、建物が大きく、また既存焼却施設よりも距離が近くなることから、現況の景観を変化させると予測される。</td> <td data-bbox="1730 489 2350 762">河川内の樹木の成長により、部分的に対象事業実施区域方向の見通しが遮られる状況となっているため、場所を南にずらして撮影した。旧施設及び新施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも手前にあるため、煙突は高く見え、建屋が大きいため視野に占める割合が増加する。形状、色調が旧施設と類似しているため、予測結果と比較して違和感はいささか小さい。</td> <td data-bbox="2350 489 2436 762">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1032 762 1110 993">犀川橋</td> <td data-bbox="1110 762 1730 993">計画施設の煙突及び建物の北面、東面が視認される。既存焼却施設の陰に位置するため、既存焼却施設の存在下では計画施設建屋の多くの部分が隠れる。計画施設周辺には焼却施設以外の人工物はほとんど見えないが、視野全体に占める割合は大きくない。計画施設の建設により現況の景観は変化するが、その程度は小さく、また、既存焼却施設の解体後には現況の景観と同等となると予測される。</td> <td data-bbox="1730 762 2350 993">旧施設及び新施設の両方について、煙突及び建屋の上半分が視認できる。視認できるが、新施設は旧施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも奥にあるため、建屋は旧施設より大きいものの視野に占める割合に大きな変化はなく、また煙突は低く見える。形状、色調も旧施設と類似しており、違和感はいささか小さい。</td> <td data-bbox="2350 762 2436 993">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1032 993 1110 1266">御宝田遊水池</td> <td data-bbox="1110 993 1730 1266">既存焼却施設及び計画施設について、夏季に視認できるのは主に両施設の煙突であり、冬季には建屋の北面及び東面の一部が視認されやすくなる。計画施設が建設され両施設が同時に存在する期間は、視認できる煙突が一時的に2本となり、特に北アルプスの眺望については現況と変化する。既存焼却施設の解体後は、視認できる煙突が1本となり、実際の煙突高は同じであるため、距離が遠くなるためやや低く見えることになり、現況の景観と概ね同等となると予測される。</td> <td data-bbox="1730 993 2350 1266">旧施設は煙突と建屋の一部が視認できるが、河畔林の樹木の成長により、冬季においても建屋はほとんど視認できなくなった。新施設は旧焼却施設よりも奥にあり、また河畔林の樹木の成長によって建屋は冬季においても視認できない。また煙突も低く見えるため、旧施設解体後は景観への影響は小さくなる。</td> <td data-bbox="2350 993 2436 1266">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1032 1266 1110 1518">大王わさび農場</td> <td data-bbox="1110 1266 1730 1518">計画施設の煙突及び南面が視認される。夏季には万水川堤防の樹林により計画施設の大部分が隠れるが、冬季には見える範囲が拡大する。大王わさび農場に向かう観光客が通過する地点であるが、計画施設は進行方向に対して真横に位置するため、視野に入る可能性は低く、見える範囲が拡大する冬季には観光客が少ないため、景観は変化するが、その影響は限定的と予測される。</td> <td data-bbox="1730 1266 2350 1518">新施設の見え方予測通り、旧施設よりも見える部分が大きくなる。樹木の成長と、建屋の形状、色調により、建屋の見える範囲が予測より狭くなっている。煙突の見え方は、旧施設と同様である。</td> <td data-bbox="2350 1266 2436 1518">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1032 1518 1110 1728">早春賦歌碑</td> <td data-bbox="1110 1518 1730 1728">計画施設の煙突及び南面、西面が視認される。計画施設は既存焼却施設より手前に位置するため、視野全体に占める割合が大きくなる。ただし、北アルプス、わさび畑、桜並木といった景観要素は北西から南東の範囲（計画施設に向かって左～後～右）に位置するため、これらの景観要素を見る際には計画施設は視界に入らず、その影響は限定的と予測される。</td> <td data-bbox="1730 1518 2350 1728">旧施設は煙突と建屋のごく一部が視認できる状況であったが、樹木の成長により、新施設も夏季には建屋がほとんど視認できない。新施設は旧焼却施設よりも手前にあるため、煙突はわずかに高く見えるものの、旧施設と大差がない。</td> <td data-bbox="2350 1518 2436 1728">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1032 1728 1110 1934">長峰山展望台</td> <td data-bbox="1110 1728 1730 1934">計画施設の煙突及び建物の屋根、東面、南面のほか、ストックヤード及び破砕施設が視認される。時季の違いで計画施設の視認できる範囲に大きな違いはない。事業実施区域までの距離が離れているため、視野全体に占める割合はごくわずかである。遠景として安曇野の眺望の一部となり、北アルプスの眺望を阻害することはないため、現況の景観が大きく変化することはないと予測される。</td> <td data-bbox="1730 1728 2350 1934">対象事業実施区域は遠景となり、旧施設は目立たないが、新施設も同様である。新施設は形状、色調も旧施設と類似しており、違和感も小さい。</td> <td data-bbox="2350 1728 2436 1934">○</td> </tr> </tbody> </table>	予測地点	予測結果	事後調査結果	評価	安曇橋	計画施設の煙突及び建物の北面及び西面が視認される。計画施設手前側には工場があるが高さはなく、計画施設建屋が隠れるのはわずかな部分である。計画施設周辺には既存焼却施設や工場などの構造物がみられるが、建物が大きく、また既存焼却施設よりも距離が近くなることから、現況の景観を変化させると予測される。	河川内の樹木の成長により、部分的に対象事業実施区域方向の見通しが遮られる状況となっているため、場所を南にずらして撮影した。旧施設及び新施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも手前にあるため、煙突は高く見え、建屋が大きいため視野に占める割合が増加する。形状、色調が旧施設と類似しているため、予測結果と比較して違和感はいささか小さい。	○	犀川橋	計画施設の煙突及び建物の北面、東面が視認される。既存焼却施設の陰に位置するため、既存焼却施設の存在下では計画施設建屋の多くの部分が隠れる。計画施設周辺には焼却施設以外の人工物はほとんど見えないが、視野全体に占める割合は大きくない。計画施設の建設により現況の景観は変化するが、その程度は小さく、また、既存焼却施設の解体後には現況の景観と同等となると予測される。	旧施設及び新施設の両方について、煙突及び建屋の上半分が視認できる。視認できるが、新施設は旧施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも奥にあるため、建屋は旧施設より大きいものの視野に占める割合に大きな変化はなく、また煙突は低く見える。形状、色調も旧施設と類似しており、違和感はいささか小さい。	○	御宝田遊水池	既存焼却施設及び計画施設について、夏季に視認できるのは主に両施設の煙突であり、冬季には建屋の北面及び東面の一部が視認されやすくなる。計画施設が建設され両施設が同時に存在する期間は、視認できる煙突が一時的に2本となり、特に北アルプスの眺望については現況と変化する。既存焼却施設の解体後は、視認できる煙突が1本となり、実際の煙突高は同じであるため、距離が遠くなるためやや低く見えることになり、現況の景観と概ね同等となると予測される。	旧施設は煙突と建屋の一部が視認できるが、河畔林の樹木の成長により、冬季においても建屋はほとんど視認できなくなった。新施設は旧焼却施設よりも奥にあり、また河畔林の樹木の成長によって建屋は冬季においても視認できない。また煙突も低く見えるため、旧施設解体後は景観への影響は小さくなる。	○	大王わさび農場	計画施設の煙突及び南面が視認される。夏季には万水川堤防の樹林により計画施設の大部分が隠れるが、冬季には見える範囲が拡大する。大王わさび農場に向かう観光客が通過する地点であるが、計画施設は進行方向に対して真横に位置するため、視野に入る可能性は低く、見える範囲が拡大する冬季には観光客が少ないため、景観は変化するが、その影響は限定的と予測される。	新施設の見え方予測通り、旧施設よりも見える部分が大きくなる。樹木の成長と、建屋の形状、色調により、建屋の見える範囲が予測より狭くなっている。煙突の見え方は、旧施設と同様である。	○	早春賦歌碑	計画施設の煙突及び南面、西面が視認される。計画施設は既存焼却施設より手前に位置するため、視野全体に占める割合が大きくなる。ただし、北アルプス、わさび畑、桜並木といった景観要素は北西から南東の範囲（計画施設に向かって左～後～右）に位置するため、これらの景観要素を見る際には計画施設は視界に入らず、その影響は限定的と予測される。	旧施設は煙突と建屋のごく一部が視認できる状況であったが、樹木の成長により、新施設も夏季には建屋がほとんど視認できない。新施設は旧焼却施設よりも手前にあるため、煙突はわずかに高く見えるものの、旧施設と大差がない。	○	長峰山展望台	計画施設の煙突及び建物の屋根、東面、南面のほか、ストックヤード及び破砕施設が視認される。時季の違いで計画施設の視認できる範囲に大きな違いはない。事業実施区域までの距離が離れているため、視野全体に占める割合はごくわずかである。遠景として安曇野の眺望の一部となり、北アルプスの眺望を阻害することはないため、現況の景観が大きく変化することはないと予測される。	対象事業実施区域は遠景となり、旧施設は目立たないが、新施設も同様である。新施設は形状、色調も旧施設と類似しており、違和感も小さい。	○	<p>【存在・供用】 建築物等の存在及び緑化による景観への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設色彩等への配慮 ・施設形状等の検討 ・周辺景観と調和した緑化の実施 	<p>【存在・供用】 なし</p>
	調査地点	主要な景観の状況																																												
	安曇橋	近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は、安曇橋を南の方角に向かう際に南東の方角に視野に入る。対象事業実施区域とは河川及び河畔林によって隔てられているが、低木が多く秋季及び冬季においても見通しに大きな変化はない。現焼却施設の煙突から低層階まで視認できる。																																												
	犀川橋	近隣住民が通勤や買い物などで日常的に通行している地点である。対象事業実施区域は南西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。																																												
	御宝田遊水池	白鳥、その他様々な水鳥が飛来する池があり、その奥に犀川が流れ、河畔林が広がっている。また、北アルプスが南北に連なっており、眺望地点としての価値が高い場所となっている。対象事業実施区域は西の方角にあたるが、対象事業実施区域との間に河畔林が広がっており、直接視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。																																												
	大王わさび農場	春季から秋季にかけて多くの人が訪れる観光地である。調査地点は駐車場の手前に位置し、訪問者の多くが来訪時に通過する地点である。対象事業実施区域との間に万水川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできない。落葉により、対象事業実施区域までの見通しがよくなる。現焼却施設は、春季から秋季にかけて、煙突のみ視認できるが、冬季には建物の一部も視認できる。																																												
	早春賦歌碑	春季に多くの人が訪れる観光地である。対象事業実施区域との間に穂高川が流れており、その堤防沿いの樹林によって対象事業実施区域はほとんど視認することはできず、落葉後も状況は大きく変わらない。現焼却施設の煙突及び建物の一部が視認できる。																																												
	長峰山展望台	正面に北アルプス、眼下に安曇野が広がっており、安曇野屈指の眺望地点となっている。対象事業実施区域までは距離があり、また遮るものがないため、年間を通じて見通しに大きな変化はない。対象事業実施区域及び現焼却施設のほぼ全域を俯瞰することができる。																																												
	予測地点	予測結果	事後調査結果	評価																																										
	安曇橋	計画施設の煙突及び建物の北面及び西面が視認される。計画施設手前側には工場があるが高さはなく、計画施設建屋が隠れるのはわずかな部分である。計画施設周辺には既存焼却施設や工場などの構造物がみられるが、建物が大きく、また既存焼却施設よりも距離が近くなることから、現況の景観を変化させると予測される。	河川内の樹木の成長により、部分的に対象事業実施区域方向の見通しが遮られる状況となっているため、場所を南にずらして撮影した。旧施設及び新施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも手前にあるため、煙突は高く見え、建屋が大きいため視野に占める割合が増加する。形状、色調が旧施設と類似しているため、予測結果と比較して違和感はいささか小さい。	○																																										
犀川橋	計画施設の煙突及び建物の北面、東面が視認される。既存焼却施設の陰に位置するため、既存焼却施設の存在下では計画施設建屋の多くの部分が隠れる。計画施設周辺には焼却施設以外の人工物はほとんど見えないが、視野全体に占める割合は大きくない。計画施設の建設により現況の景観は変化するが、その程度は小さく、また、既存焼却施設の解体後には現況の景観と同等となると予測される。	旧施設及び新施設の両方について、煙突及び建屋の上半分が視認できる。視認できるが、新施設は旧施設のいずれも煙突から低層階まで視認できる。新施設は旧施設よりも奥にあるため、建屋は旧施設より大きいものの視野に占める割合に大きな変化はなく、また煙突は低く見える。形状、色調も旧施設と類似しており、違和感はいささか小さい。	○																																											
御宝田遊水池	既存焼却施設及び計画施設について、夏季に視認できるのは主に両施設の煙突であり、冬季には建屋の北面及び東面の一部が視認されやすくなる。計画施設が建設され両施設が同時に存在する期間は、視認できる煙突が一時的に2本となり、特に北アルプスの眺望については現況と変化する。既存焼却施設の解体後は、視認できる煙突が1本となり、実際の煙突高は同じであるため、距離が遠くなるためやや低く見えることになり、現況の景観と概ね同等となると予測される。	旧施設は煙突と建屋の一部が視認できるが、河畔林の樹木の成長により、冬季においても建屋はほとんど視認できなくなった。新施設は旧焼却施設よりも奥にあり、また河畔林の樹木の成長によって建屋は冬季においても視認できない。また煙突も低く見えるため、旧施設解体後は景観への影響は小さくなる。	○																																											
大王わさび農場	計画施設の煙突及び南面が視認される。夏季には万水川堤防の樹林により計画施設の大部分が隠れるが、冬季には見える範囲が拡大する。大王わさび農場に向かう観光客が通過する地点であるが、計画施設は進行方向に対して真横に位置するため、視野に入る可能性は低く、見える範囲が拡大する冬季には観光客が少ないため、景観は変化するが、その影響は限定的と予測される。	新施設の見え方予測通り、旧施設よりも見える部分が大きくなる。樹木の成長と、建屋の形状、色調により、建屋の見える範囲が予測より狭くなっている。煙突の見え方は、旧施設と同様である。	○																																											
早春賦歌碑	計画施設の煙突及び南面、西面が視認される。計画施設は既存焼却施設より手前に位置するため、視野全体に占める割合が大きくなる。ただし、北アルプス、わさび畑、桜並木といった景観要素は北西から南東の範囲（計画施設に向かって左～後～右）に位置するため、これらの景観要素を見る際には計画施設は視界に入らず、その影響は限定的と予測される。	旧施設は煙突と建屋のごく一部が視認できる状況であったが、樹木の成長により、新施設も夏季には建屋がほとんど視認できない。新施設は旧焼却施設よりも手前にあるため、煙突はわずかに高く見えるものの、旧施設と大差がない。	○																																											
長峰山展望台	計画施設の煙突及び建物の屋根、東面、南面のほか、ストックヤード及び破砕施設が視認される。時季の違いで計画施設の視認できる範囲に大きな違いはない。事業実施区域までの距離が離れているため、視野全体に占める割合はごくわずかである。遠景として安曇野の眺望の一部となり、北アルプスの眺望を阻害することはないため、現況の景観が大きく変化することはないと予測される。	対象事業実施区域は遠景となり、旧施設は目立たないが、新施設も同様である。新施設は形状、色調も旧施設と類似しており、違和感も小さい。	○																																											

資料編

調査結果集

1. 大気質.....	資-1
(1) 大気質現地調査結果.....	資-1
(2) 地上気象調査結果.....	資-25
2. 騒音.....	資-33
(1) 特定騒音.....	資-33
(2) 総合騒音.....	資-37
3. 振動.....	資-39
(1) 特定振動.....	資-39
(2) 総合振動.....	資-43
4. 低周波音.....	資-45
5. 水象.....	資-57
6. 悪臭.....	資-63
(1) 特定悪臭物質.....	資-63
(2) 臭気指数.....	資-65
7. 土壌汚染.....	資-69

1. 大気質

(1) 大気質現地調査結果

大気質の調査結果を次に示す。

表 二酸化硫黄(NO₂)の調査結果
 測定期間：令和3年7月30日～8月5日
 測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
9	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
10	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
11	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
12	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002
15	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002
16	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 二酸化硫黄(NO₂)の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
9	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
10	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
11	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
12	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
15	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
16	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 二酸化硫黄(NO₂)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
9	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
10	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.002	<0.001	<0.001
11	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	<0.001	<0.001
12	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001
15	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001
16	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 二酸化硫黄(NO₂)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
9	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
10	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001
11	<0.001	<0.001	0.002	0.002	0.002	<0.001	0.002
12	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.002	<0.001	0.002
13	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.002
14	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.002	<0.001	0.002
15	<0.001	<0.001	0.001	0.002	0.002	<0.001	0.002
16	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.002	<0.001	0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 浮遊粒子状物質 (SPM) の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：mg/m³

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	0.002	0.006	0.011	0.008	0.024	0.015	0.021
2	0.009	0.012	0.019	0.011	0.027	0.011	0.016
3	0.010	0.007	0.008	0.007	0.023	0.005	0.017
4	0.010	0.015	0.017	0.011	0.020	0.008	0.018
5	0.013	0.007	0.017	0.011	0.018	0.005	0.016
6	0.028	0.004	0.023	0.017	0.021	0.017	0.018
7	<0.001	0.010	0.003	<0.001	0.014	<0.001	0.010
8	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	0.005	<0.001	0.012
9	0.011	<0.001	0.009	<0.001	<0.001	0.007	<0.001
10	0.016	0.002	0.015	0.013	0.013	0.008	0.016
11	0.015	0.011	0.016	0.015	0.011	0.005	0.017
12	0.016	0.010	0.016	0.014	0.007	0.005	0.014
13	0.014	0.012	0.016	0.014	0.004	0.007	0.017
14	0.015	0.015	0.016	0.015	0.010	0.011	0.022
15	0.012	0.017	0.019	0.015	0.006	0.009	0.023
16	0.013	0.014	0.018	0.016	0.007	0.010	0.015
17	0.017	0.016	0.012	0.031	0.007	0.014	0.016
18	0.042	0.018	0.015	0.021	0.008	0.017	0.019
19	0.025	0.015	0.048	0.020	0.007	0.019	0.022
20	0.008	0.032	0.013	0.021	0.008	0.021	0.020
21	0.010	0.025	0.011	0.023	0.008	0.018	0.019
22	0.012	0.015	0.010	0.021	0.009	0.019	0.020
23	0.007	0.009	0.015	0.017	0.012	0.035	0.017
24	0.010	0.019	0.013	0.020	0.015	0.037	0.017

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 浮遊粒子状物質 (SPM) の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：mg/m³

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	0.001	0.007	0.010	0.010	0.017	0.006	0.020
2	0.008	0.005	0.009	0.008	0.021	0.008	0.015
3	0.009	0.005	0.008	0.009	0.021	0.008	0.022
4	0.012	0.009	0.011	0.007	0.020	0.004	0.017
5	0.010	0.006	0.017	0.007	0.022	0.007	0.024
6	0.011	0.013	0.016	0.009	0.016	0.008	0.022
7	0.012	0.014	0.006	0.005	0.022	0.010	0.010
8	0.012	0.013	0.009	0.008	0.025	0.011	0.010
9	0.015	0.003	0.008	0.012	0.005	<0.001	0.008
10	0.015	<0.001	0.010	0.010	0.007	<0.001	0.015
11	0.014	0.002	0.013	0.011	<0.001	0.019	0.009
12	0.014	0.010	0.014	0.012	0.005	0.007	0.017
13	0.013	0.014	0.010	0.010	0.009	0.007	0.018
14	0.013	0.012	0.012	0.013	0.013	0.008	0.020
15	0.010	0.016	0.017	0.010	0.014	0.008	0.022
16	0.014	0.014	0.017	0.046	0.011	0.013	0.016
17	0.021	0.015	0.008	0.021	0.005	0.029	0.038
18	0.039	0.017	0.019	0.024	0.010	0.038	0.030
19	0.015	0.021	0.011	0.027	0.006	0.030	0.020
20	0.009	0.017	0.010	0.020	0.021	0.030	0.020
21	0.007	0.012	0.005	0.030	0.022	0.023	0.019
22	0.009	0.016	0.006	0.032	0.011	0.037	0.016
23	0.012	0.011	0.008	0.009	0.005	0.031	0.015
24	0.007	0.013	0.008	0.027	0.011	0.016	0.010

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 浮遊粒子状物質 (SPM) の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：mg/m³

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	0.007	0.010	0.008	0.009	0.013	0.012	0.015
2	0.008	0.008	0.006	0.006	0.014	0.011	0.014
3	0.011	0.010	0.011	0.008	0.012	0.007	0.014
4	0.007	0.008	0.006	0.007	0.009	0.012	0.011
5	0.008	0.009	0.009	0.008	0.009	0.016	0.010
6	0.006	0.009	0.005	0.010	0.011	0.017	0.013
7	0.007	0.008	0.009	0.005	0.013	0.019	0.012
8	0.008	0.002	0.008	0.006	0.019	0.022	0.008
9	0.005	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.020	0.002
10	0.005	0.007	0.008	0.008	0.013	0.014	0.015
11	0.003	0.004	0.003	0.009	0.006	0.013	0.012
12	0.005	0.003	0.005	0.005	0.011	0.005	0.009
13	0.009	0.003	0.003	<0.001	0.007	0.006	0.008
14	0.009	0.003	0.005	0.004	0.011	0.004	0.013
15	0.008	0.005	0.005	0.008	0.011	0.007	0.011
16	0.004	0.002	0.003	0.006	0.013	0.009	0.012
17	0.005	0.008	0.004	0.006	0.012	0.001	0.008
18	0.005	0.018	0.011	0.018	0.010	0.015	0.013
19	0.005	0.009	0.011	0.013	0.018	0.019	0.021
20	<0.001	0.007	0.010	0.017	0.021	0.015	0.024
21	0.006	0.006	0.007	0.014	0.019	0.014	0.019
22	0.004	0.007	0.009	0.019	0.018	0.020	0.019
23	0.005	0.004	0.008	0.020	0.009	0.017	0.022
24	0.009	0.010	0.008	0.019	0.014	0.014	0.022

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 浮遊粒子状物質 (SPM) の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：mg/m³

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	0.006	0.006	0.003	0.009	0.008	0.008	0.012
2	0.006	0.004	0.005	0.007	0.008	0.010	0.010
3	0.005	0.005	0.004	0.007	0.008	0.010	0.010
4	0.006	0.004	0.006	0.006	0.006	0.015	0.009
5	0.006	0.006	0.007	0.005	0.007	0.019	0.010
6	0.006	0.006	0.009	0.003	0.010	0.018	0.010
7	0.003	0.009	0.008	0.006	0.008	0.020	0.010
8	0.008	0.007	0.008	0.011	0.013	0.022	0.014
9	0.007	0.010	0.013	0.017	0.014	0.016	0.023
10	0.009	0.005	0.011	0.014	0.016	0.015	0.022
11	0.010	0.002	0.008	0.012	0.016	0.013	0.017
12	0.004	0.005	0.004	0.009	0.009	0.009	0.008
13	0.009	0.005	0.009	0.010	0.014	0.011	0.013
14	0.007	0.004	0.002	0.006	0.014	0.007	0.013
15	0.003	0.002	<0.001	0.006	0.012	0.008	0.005
16	0.001	0.003	0.001	0.002	0.010	0.009	0.008
17	0.005	0.002	0.004	0.001	0.006	0.005	0.007
18	0.003	0.003	0.005	0.005	0.006	0.008	0.009
19	0.004	0.003	0.007	0.008	0.010	0.011	0.015
20	0.002	0.003	0.010	0.010	0.007	0.010	0.016
21	0.004	0.006	0.009	0.010	0.009	0.010	0.017
22	0.005	0.004	0.006	0.008	0.007	0.014	0.017
23	0.005	0.004	0.006	0.008	0.007	0.011	0.014
24	0.003	0.004	0.007	0.009	0.006	0.010	0.015

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 一酸化窒素(NO)の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	<0.001	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.001
2	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002
3	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.003
4	0.001	0.003	0.003	0.002	0.002	0.003	0.003
5	0.002	0.002	0.004	0.004	0.002	0.005	0.004
6	0.003	0.002	0.005	0.004	0.003	0.004	0.004
7	0.003	0.002	0.004	0.004	0.002	0.004	0.004
8	0.004	0.002	0.003	0.003	0.003	0.005	0.003
9	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004	0.003
10	0.001	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
11	<0.001	0.002	0.002	0.001	0.002	0.001	0.002
12	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001	0.002	0.003
13	0.002	<0.001	0.002	0.001	0.001	0.002	0.003
14	0.002	0.001	0.002	0.002	<0.001	0.003	0.006
15	0.004	0.001	0.002	0.002	0.001	0.006	0.009
16	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.008	0.005
17	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.006	0.002
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.002	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	0.001	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001	0.001
21	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
22	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	<0.001	0.001
23	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	<0.001	0.001
24	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	0.001	0.002

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 一酸化窒素(NO)の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	<0.001	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	0.002	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	0.002	0.002	<0.001	<0.001	<0.001
6	<0.001	0.001	0.003	0.002	<0.001	0.002	<0.001
7	0.001	0.002	0.004	0.002	<0.001	0.006	0.001
8	0.002	0.001	0.001	0.002	<0.001	0.005	<0.001
9	0.001	0.002	0.001	0.001	0.002	0.002	<0.001
10	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001
11	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
12	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
15	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
16	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 一酸化窒素(NO)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	0.001	0.001	0.002	0.002	<0.001	0.003
9	<0.001	0.002	0.002	0.004	0.003	<0.001	0.003
10	0.001	0.001	0.002	0.004	0.002	<0.001	0.004
11	<0.001	<0.001	0.001	0.003	0.001	<0.001	0.003
12	<0.001	<0.001	0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
15	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
16	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 一酸化窒素(NO)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
2	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
3	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
4	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
5	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
6	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
7	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
8	<0.001	0.003	0.002	0.004	0.004	<0.001	0.003
9	<0.001	0.004	0.004	0.007	0.005	<0.001	0.004
10	0.001	0.001	0.003	0.004	0.003	<0.001	0.005
11	0.002	<0.001	0.003	0.002	0.001	<0.001	0.004
12	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001
13	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
14	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
15	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
16	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
17	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
18	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
19	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
20	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
21	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
22	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
23	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
24	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 二酸化窒素(NO₂)の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	0.006	0.004	0.005	0.004	0.006	0.004	0.003
2	0.007	0.005	0.006	0.004	0.005	0.004	0.003
3	0.006	0.004	0.004	0.003	0.005	0.004	0.004
4	0.007	0.004	0.005	0.003	0.006	0.004	0.004
5	0.007	0.004	0.004	0.003	0.006	0.004	0.004
6	0.006	0.003	0.004	0.003	0.007	0.003	0.004
7	0.003	0.002	0.003	0.003	0.006	0.002	0.003
8	0.004	0.002	0.002	0.003	0.005	0.003	0.003
9	0.004	0.002	0.002	0.003	0.003	0.004	0.004
10	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.004
11	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.004
12	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.003
13	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002	0.002	0.003
14	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
15	0.002	0.002	0.001	0.003	0.002	0.002	0.003
16	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004
17	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003
18	0.002	0.002	0.002	0.003	0.003	0.002	0.004
19	0.002	0.002	0.003	0.004	0.003	0.002	0.004
20	0.003	0.003	0.004	0.004	0.003	0.003	0.005
21	0.003	0.003	0.003	0.005	0.004	0.003	0.005
22	0.004	0.005	0.003	0.005	0.003	0.003	0.005
23	0.004	0.005	0.003	0.005	0.004	0.003	0.005
24	0.004	0.005	0.004	0.005	0.005	0.003	0.005

表 二酸化窒素(NO₂)の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	0.005	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003
2	0.004	0.003	0.003	0.003	0.004	0.004	0.003
3	0.005	0.003	0.004	0.003	0.003	0.005	0.004
4	0.005	0.003	0.004	0.002	0.004	0.004	0.004
5	0.004	0.003	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004
6	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004	0.003	0.004
7	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.003	0.004
8	0.004	0.002	0.002	0.002	0.004	0.004	0.002
9	0.003	0.003	0.002	0.003	0.004	0.003	0.002
10	0.002	0.004	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003
11	0.001	0.002	0.002	0.003	0.004	0.002	0.002
12	0.001	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002
13	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
14	0.001	0.002	0.001	0.003	0.002	0.001	0.002
15	0.001	0.002	0.001	0.003	0.004	0.001	0.002
16	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002	0.001	0.002
17	0.002	0.002	0.001	0.002	0.001	0.002	0.003
18	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004
19	0.003	0.001	0.003	0.002	0.002	0.002	0.004
20	0.003	0.003	0.004	0.002	0.002	0.003	0.004
21	0.003	0.003	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003
22	0.004	0.004	0.004	0.004	0.005	0.003	0.003
23	0.004	0.003	0.003	0.004	0.004	0.003	0.003
24	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004	0.002	0.003

表 二酸化窒素(NO₂)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	0.002	0.004	0.004	0.004	0.007	0.005	0.004
2	0.001	0.003	0.005	0.004	0.006	0.004	0.004
3	0.002	0.002	0.005	0.005	0.005	0.003	0.005
4	0.002	0.003	0.003	0.004	0.005	0.003	0.003
5	0.002	0.002	0.005	0.004	0.005	0.002	0.004
6	0.003	0.003	0.004	0.009	0.006	0.003	0.007
7	0.004	0.005	0.004	0.007	0.007	0.003	0.008
8	0.005	0.007	0.008	0.009	0.007	0.003	0.008
9	0.005	0.005	0.006	0.009	0.007	0.003	0.007
10	0.005	0.003	0.005	0.008	0.005	0.003	0.009
11	0.003	0.002	0.003	0.006	0.003	0.003	0.007
12	0.003	0.001	0.002	0.004	0.002	0.003	0.003
13	0.003	0.001	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002
14	0.003	0.001	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002
15	0.005	0.001	<0.001	0.002	0.003	0.002	0.002
16	0.002	0.001	<0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
17	0.004	0.002	<0.001	0.001	0.003	0.001	0.002
18	0.002	0.002	0.002	0.003	0.003	0.002	0.003
19	0.002	0.002	0.003	0.003	0.004	0.002	0.003
20	0.002	0.003	0.004	0.006	0.007	0.002	0.005
21	0.003	0.003	0.004	0.008	0.007	0.002	0.006
22	0.003	0.003	0.005	0.008	0.007	0.004	0.007
23	0.002	0.003	0.004	0.008	0.004	0.005	0.006
24	0.003	0.005	0.005	0.008	0.005	0.004	0.007

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 二酸化窒素(NO₂)の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：ppm

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	0.002	0.002	0.005	0.008	0.007	0.002	0.005
2	0.001	0.003	0.006	0.009	0.006	0.002	0.004
3	0.001	0.002	0.006	0.008	0.008	0.002	0.004
4	0.002	0.002	0.006	0.008	0.008	0.002	0.004
5	0.002	0.003	0.006	0.011	0.008	0.002	0.008
6	0.002	0.008	0.006	0.010	0.009	0.003	0.007
7	0.002	0.009	0.008	0.011	0.010	0.003	0.009
8	0.002	0.010	0.009	0.012	0.009	0.003	0.009
9	0.003	0.007	0.007	0.010	0.008	0.003	0.008
10	0.004	0.003	0.006	0.008	0.006	0.003	0.011
11	0.004	0.001	0.005	0.006	0.004	0.003	0.008
12	0.002	0.001	0.002	0.004	0.003	0.003	0.004
13	0.003	0.001	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003
14	0.003	0.001	0.001	0.001	0.003	0.002	0.002
15	0.003	0.001	<0.001	0.001	0.003	0.002	0.002
16	0.003	0.001	<0.001	0.001	0.003	0.002	0.002
17	0.003	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002
18	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003
19	0.002	0.002	0.004	0.003	0.004	0.002	0.003
20	0.002	0.002	0.004	0.005	0.004	0.002	0.003
21	0.002	0.002	0.005	0.005	0.004	0.002	0.006
22	0.002	0.003	0.006	0.006	0.004	0.004	0.005
23	0.002	0.004	0.008	0.006	0.003	0.003	0.006
24	0.002	0.005	0.008	0.006	0.003	0.004	0.006

備考) <0.001は、測定下限値未満を示す。

表 環境大気中ダイオキシン類の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

C18088001A:穂高クリーンセンター 南西側

(20 °C, 101.3 kPa)

同族体・異性体		実測濃度 pg/m ³	試料における 定量下限 pg/m ³	試料における 検出下限 pg/m ³	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/m ³
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	0.73	0.0018	0.0005	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	0.17	0.0018	0.0005	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.0018	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.0016	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.001)	0.004	0.001	0.1	0.0001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.010	0.006	0.002	0.01	0.00010
	OCDD	0.063	0.009	0.003	0.0003	0.0000189
PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	0.0033	0.0023	0.0007	-	-
	2,3,7,8-TeCDF	(0.0021)	0.0023	0.0007	0.1	0.00021
	1,2,3,7,8-PeCDF	(0.0013)	0.0024	0.0007	0.03	0.000039
	2,3,4,7,8-PeCDF	(0.002)	0.004	0.001	0.3	0.0006
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	(0.002)	0.004	0.001	0.1	0.0002
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.002)	0.005	0.001	0.1	0.0002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.002)	0.004	0.001	0.1	0.0002
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.006	0.005	0.001	0.01	0.00006
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.005	0.001	0.01	0.000005
	OCDF	(0.005)	0.010	0.003	0.0003	0.0000015
PCDDs	TeCDDs	0.92	-	-	-	-
	PeCDDs	0.042	-	-	-	-
	HxCDDs	0.026	-	-	-	-
	HpCDDs	0.023	-	-	-	-
	OCDD	0.063	-	-	-	-
Total PCDDs		1.1	-	-	-	0.00082
PCDFs	TeCDFs	0.15	-	-	-	-
	PeCDFs	0.056	-	-	-	-
	HxCDFs	0.019	-	-	-	-
	HpCDFs	0.009	-	-	-	-
	OCDF	0.005	-	-	-	-
Total PCDFs		0.23	-	-	-	0.0016
Total (PCDDs+PCDFs)		1.3	-	-	-	0.0024
DL-PCBs	#81 3,4,4',5'-TeCB	0.011	0.004	0.001	0.0003	0.0000033
	#77 3,3',4,4'-TeCB	0.23	0.005	0.002	0.0001	0.000023
	#126 3,3',4,4',5'-PeCB	0.017	0.006	0.002	0.1	0.0017
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	ND	0.006	0.002	0.03	0.00003
	#123 2',3,4,4',5'-PeCB	0.029	0.006	0.002	0.00003	0.0000087
	#118 2,3',4,4',5'-PeCB	1.2	0.007	0.002	0.00003	0.000036
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	0.43	0.004	0.001	0.00003	0.0000129
	#114 2,3,4,4',5'-PeCB	0.038	0.005	0.001	0.00003	0.00000114
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	0.029	0.003	0.001	0.00003	0.0000087
	#156 2,3,3',4,4',5'-HxCB	0.048	0.006	0.002	0.00003	0.00000144
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	0.014	0.007	0.002	0.00003	0.00000042
	#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	(0.002)	0.005	0.001	0.00003	0.0000006
	non-ortho DL-PCBs	0.26	-	-	-	0.0018
mono-ortho DL-PCBs	1.8	-	-	-	0.000054	
Total DL-PCBs		2.1	-	-	-	0.0018
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		3.4	-	-	-	0.0042

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5'-PeCB(#114)は3,3',4,5,5'-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中のNDは検出下限未満である。

④ 毒性等量は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の1/2の値を用いて算出した値である。

試料採取量 1007.8 m³ (20 °C, 101.3 kPa)

表 環境大気中ダイオキシン類の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

C18088002A:穂高クリーンセンター 東側

(20 °C, 101.3 kPa)

同族体・異性体		実測濃度 pg/m ³	試料における 定量下限 pg/m ³	試料における 検出下限 pg/m ³	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/m ³
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	0.40	0.0018	0.0005	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	0.092	0.0018	0.0005	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.0018	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,7,8-PeCDD	(0.0007)	0.0016	0.0005	1	0.0007
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.007	0.006	0.002	0.01	0.00007
	OCDD	0.049	0.009	0.003	0.0003	0.0000147
PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	0.0037	0.0023	0.0007	-	-
	2,3,7,8-TeCDF	(0.0017)	0.0023	0.0007	0.1	0.00017
	1,2,3,7,8-PeCDF	(0.0012)	0.0024	0.0007	0.03	0.000036
	2,3,4,7,8-PeCDF	(0.001)	0.004	0.001	0.3	0.0003
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	(0.001)	0.004	0.001	0.1	0.0001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.001)	0.005	0.001	0.1	0.0001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.001)	0.004	0.001	0.1	0.0001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.004)	0.005	0.001	0.01	0.00004
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.005	0.001	0.01	0.000005
	OCDF	(0.004)	0.010	0.003	0.0003	0.0000012
	PCDDs	TeCDDs	0.50	-	-	-
PeCDDs		0.022	-	-	-	-
HxCDDs		0.010	-	-	-	-
HpCDDs		0.016	-	-	-	-
OCDD		0.049	-	-	-	-
Total PCDDs		0.60	-	-	-	0.0012
PCDFs	TeCDFs	0.11	-	-	-	-
	PeCDFs	0.037	-	-	-	-
	HxCDFs	0.012	-	-	-	-
	HpCDFs	0.006	-	-	-	-
	OCDF	0.004	-	-	-	-
	Total PCDFs	0.17	-	-	-	0.00090
Total (PCDDs+PCDFs)		0.77	-	-	-	0.0021
DL-PCBs	#81 3,4,4',5-TeCB	0.012	0.004	0.001	0.0003	0.0000036
	#77 3,3',4,4'-TeCB	0.23	0.005	0.002	0.0001	0.000023
	#126 3,3',4,4',5-PeCB	0.010	0.006	0.002	0.1	0.0010
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	ND	0.006	0.002	0.03	0.00003
	#123 2',3,4,4',5-PeCB	0.025	0.006	0.002	0.00003	0.0000075
	#118 2,3',4,4',5-PeCB	1.1	0.007	0.002	0.00003	0.000033
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	0.36	0.004	0.001	0.00003	0.0000108
	#114 2,3,4,4',5-PeCB	0.032	0.005	0.001	0.00003	0.0000096
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	0.024	0.003	0.001	0.00003	0.0000072
	#156 2,3,3',4,4',5-HxCB	0.044	0.006	0.002	0.00003	0.0000132
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	0.010	0.007	0.002	0.00003	0.0000030
	#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	(0.002)	0.005	0.001	0.00003	0.0000006
	non-ortho DL-PCBs	0.25	-	-	-	0.0011
mono-ortho DL-PCBs	1.6	-	-	-	0.000048	
Total DL-PCBs		1.9	-	-	-	0.0011
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		2.6	-	-	-	0.0032

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5-PeCB(#114)は3,3',4,5,5'-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中の ND は検出下限未満である。

④ 毒性等量は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の 1/2 の値を用いて算出した値である。

試料採取量 1007.5 m³ (20 °C, 101.3 kPa)

表 環境大気中ダイオキシン類の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

C23017003A:穂高クリーンセンター 南西側

(20 °C, 101.3 kPa)

同族体・異性体		実測濃度 pg/m ³	試料における 定量下限 pg/m ³	試料における 検出下限 pg/m ³	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/m ³
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	0.10	0.0018	0.0005	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	0.024	0.0018	0.0005	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.0018	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.0016	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.007	0.006	0.002	0.01	0.00007
	OCDD	0.027	0.009	0.003	0.0003	0.0000081
PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	0.0052	0.0023	0.0007	-	-
	2,3,7,8-TeCDF	0.0033	0.0023	0.0007	0.1	0.00033
	1,2,3,7,8-PeCDF	0.0039	0.0024	0.0007	0.03	0.000117
	2,3,4,7,8-PeCDF	(0.003)	0.004	0.001	0.3	0.0009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	0.004	0.004	0.001	0.1	0.0004
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.004)	0.005	0.001	0.1	0.0004
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.004)	0.004	0.001	0.1	0.0004
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.011	0.005	0.001	0.01	0.00011
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	(0.002)	0.005	0.001	0.01	0.00002
	OCDF	0.010	0.010	0.003	0.0003	0.0000030
PCDDs	TeCDDs	0.12	-	-	-	-
	PeCDDs	0.017	-	-	-	-
	HxCDDs	0.011	-	-	-	-
	HpCDDs	0.015	-	-	-	-
	OCDD	0.027	-	-	-	-
	Total PCDDs	0.19	-	-	-	0.00073
PCDFs	TeCDFs	0.12	-	-	-	-
	PeCDFs	0.061	-	-	-	-
	HxCDFs	0.030	-	-	-	-
	HpCDFs	0.020	-	-	-	-
	OCDF	0.010	-	-	-	-
	Total PCDFs	0.24	-	-	-	0.0027
Total (PCDDs+PCDFs)		0.44	-	-	-	0.0035
DL-PCBs	#81 3,4,4',5'-TeCB	(0.002)	0.004	0.001	0.0003	0.0000006
	#77 3,3',4,4'-TeCB	0.024	0.005	0.002	0.0001	0.0000024
	#126 3,3',4,4',5'-PeCB	(0.003)	0.006	0.002	0.1	0.0003
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	ND	0.006	0.002	0.03	0.00003
	#123 2',3,4,4',5'-PeCB	(0.004)	0.006	0.002	0.00003	0.0000012
	#118 2,3',4,4',5'-PeCB	0.13	0.007	0.002	0.00003	0.0000039
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	0.035	0.004	0.001	0.00003	0.00000105
	#114 2,3,4,4',5'-PeCB	0.006	0.005	0.001	0.00003	0.0000018
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	0.003	0.003	0.001	0.00003	0.0000009
	#156 2,3,3',4,4',5'-HxCB	(0.006)	0.006	0.002	0.00003	0.0000018
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	ND	0.007	0.002	0.00003	0.0000003
#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	(0.001)	0.005	0.001	0.00003	0.0000003	
non-ortho DL-PCBs	0.029	-	-	-	0.00033	
mono-ortho DL-PCBs	0.18	-	-	-	0.000056	
Total DL-PCBs		0.21	-	-	-	0.00034
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.65	-	-	-	0.0038

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5'-PeCB(#114)は3,3',4,4',5'-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中のNDは検出下限未満である。

④ 毒性等量は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の1/2の値を用いて算出した値である。

試料採取量 1007.8 m³ (20 °C, 101.3 kPa)

表 環境大気中ダイオキシン類の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

C23017004A:穂高クリーンセンター 東側

(20 °C, 101.3 kPa)

同族体・異性体		実測濃度 pg/m ³	試料における 定量下限 pg/m ³	試料における 検出下限 pg/m ³	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/m ³
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	0.047	0.0018	0.0005	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	0.012	0.0018	0.0005	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.0018	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.0016	0.0005	1	0.00025
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.001)	0.004	0.001	0.1	0.0001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.007	0.006	0.002	0.01	0.00007
	OCDD	0.033	0.009	0.003	0.0003	0.0000099
PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	0.0030	0.0023	0.0007	-	-
	2,3,7,8-TeCDF	(0.0020)	0.0023	0.0007	0.1	0.00020
	1,2,3,7,8-PeCDF	(0.0011)	0.0024	0.0007	0.03	0.000033
	2,3,4,7,8-PeCDF	(0.003)	0.004	0.001	0.3	0.0009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	(0.003)	0.004	0.001	0.1	0.0003
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.003)	0.005	0.001	0.1	0.0003
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.004	0.001	0.1	0.00005
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.004)	0.004	0.001	0.1	0.0004
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	0.010	0.005	0.001	0.01	0.00010
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	(0.003)	0.005	0.001	0.01	0.00003
	OCDF	0.013	0.010	0.003	0.0003	0.0000039
PCDDs	TeCDDs	0.062	-	-	-	-
	PeCDDs	0.013	-	-	-	-
	HxCDDs	0.016	-	-	-	-
	HpCDDs	0.016	-	-	-	-
	OCDD	0.033	-	-	-	-
	Total PCDDs	0.14	-	-	-	0.00078
PCDFs	TeCDFs	0.083	-	-	-	-
	PeCDFs	0.043	-	-	-	-
	HxCDFs	0.024	-	-	-	-
	HpCDFs	0.020	-	-	-	-
	OCDF	0.013	-	-	-	-
	Total PCDFs	0.18	-	-	-	0.0023
Total (PCDDs+PCDFs)		0.32	-	-	-	0.0031
DL-PCBs	#81 3,4,4',5'-TeCB	(0.002)	0.004	0.001	0.0003	0.0000006
	#77 3,3',4,4'-TeCB	0.019	0.005	0.002	0.0001	0.0000019
	#126 3,3',4,4',5'-PeCB	(0.002)	0.006	0.002	0.1	0.0002
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	ND	0.006	0.002	0.03	0.00003
	#123 2',3,4,4',5'-PeCB	(0.003)	0.006	0.002	0.00003	0.0000009
	#118 2,3',4,4',5'-PeCB	0.10	0.007	0.002	0.00003	0.0000030
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	0.030	0.004	0.001	0.00003	0.0000090
	#114 2,3,4,4',5'-PeCB	(0.004)	0.005	0.001	0.00003	0.0000012
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	(0.002)	0.003	0.001	0.00003	0.0000006
	#156 2,3,3',4,4',5'-HxCB	(0.005)	0.006	0.002	0.00003	0.0000015
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	ND	0.007	0.002	0.00003	0.0000003
#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	(0.001)	0.005	0.001	0.00003	0.0000003	
non-ortho DL-PCBs	0.023	-	-	-	0.00023	
mono-ortho DL-PCBs	0.15	-	-	-	0.000044	
Total DL-PCBs		0.17	-	-	-	0.00024
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		0.50	-	-	-	0.0033

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5'-PeCB(#114)は3,3',4,4',5'-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中の ND は検出下限未満である。

④ 毒性等量は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の 1/2 の値を用いて算出した値である。

試料採取量 1008.0 m³ (20 °C, 101.3 kPa)

表 塩化水素の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 南西側	2021年7月30日	10:30	～	2021年7月31日	10:20	0.1未満
	2021年7月31日	10:30	～	2021年8月1日	10:20	0.1未満
	2021年8月1日	10:30	～	2021年8月2日	10:20	0.1未満
	2021年8月2日	10:30	～	2021年8月3日	10:20	0.1未満
	2021年8月3日	10:30	～	2021年8月4日	10:20	0.1未満
	2021年8月4日	10:30	～	2021年8月5日	10:20	0.1未満
	2021年8月5日	10:30	～	2021年8月6日	10:20	0.2
定量下限値					0.1	

表 塩化水素の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 東側	2021年7月30日	11:30	～	2021年7月31日	11:20	0.1未満
	2021年7月31日	11:30	～	2021年8月1日	11:20	0.1未満
	2021年8月1日	11:30	～	2021年8月2日	11:20	0.1未満
	2021年8月2日	11:30	～	2021年8月3日	11:20	0.1未満
	2021年8月3日	11:30	～	2021年8月4日	11:20	0.1未満
	2021年8月4日	11:30	～	2021年8月5日	11:20	0.1未満
	2021年8月5日	11:30	～	2021年8月6日	11:20	0.1未満
定量下限値					0.1	

表 塩化水素の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 南西側	2022年2月22日	10:30	～	2022年2月23日	10:20	0.1未満
	2022年2月23日	10:30	～	2022年2月24日	10:20	0.1未満
	2022年2月24日	10:30	～	2022年2月25日	10:20	0.1未満
	2022年2月25日	10:30	～	2022年2月26日	10:20	0.1未満
	2022年2月26日	10:30	～	2022年2月27日	10:20	0.1未満
	2022年2月27日	10:30	～	2022年2月28日	10:20	0.1未満
	2022年2月28日	10:30	～	2022年3月1日	10:20	0.1未満
定量下限値					0.1	

表 塩化水素の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 東側	2022年2月22日	11:30	～	2022年2月23日	11:20	0.1未満
	2022年2月23日	11:30	～	2022年2月24日	11:20	0.1未満
	2022年2月24日	11:30	～	2022年2月25日	11:20	0.1未満
	2022年2月25日	11:30	～	2022年2月26日	11:20	0.1未満
	2022年2月26日	11:30	～	2022年2月27日	11:20	0.1未満
	2022年2月27日	11:30	～	2022年2月28日	11:20	0.1未満
	2022年2月28日	11:30	～	2022年3月1日	11:20	0.2
定量下限値					0.1	

表 水銀の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 南西側	2021年7月30日	10:30	～	2021年7月31日	10:20	0.002
	2021年7月31日	10:30	～	2021年8月1日	10:20	0.002
	2021年8月1日	10:30	～	2021年8月2日	10:20	0.002
	2021年8月2日	10:30	～	2021年8月3日	10:20	0.002
	2021年8月3日	10:30	～	2021年8月4日	10:20	0.002
	2021年8月4日	10:30	～	2021年8月5日	10:20	0.002
	2021年8月5日	10:30	～	2021年8月6日	10:20	0.001
定量下限値					0.001	

表 水銀の調査結果

測定期間：令和3年7月30日～8月6日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 東側	2021年7月30日	11:30	～	2021年7月31日	11:20	0.003
	2021年7月31日	11:30	～	2021年8月1日	11:20	0.002
	2021年8月1日	11:30	～	2021年8月2日	11:20	0.002
	2021年8月2日	11:30	～	2021年8月3日	11:20	0.002
	2021年8月3日	11:30	～	2021年8月4日	11:20	0.001
	2021年8月4日	11:30	～	2021年8月5日	11:20	0.002
	2021年8月5日	11:30	～	2021年8月6日	11:20	0.002
定量下限値					0.001	

表 水銀の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 南西側	2022年2月22日	10:30	～	2022年2月23日	10:20	0.001
	2022年2月23日	10:30	～	2022年2月24日	10:20	0.001
	2022年2月24日	10:30	～	2022年2月25日	10:20	0.001
	2022年2月25日	10:30	～	2022年2月26日	10:20	0.001
	2022年2月26日	10:30	～	2022年2月27日	10:20	0.002
	2022年2月27日	10:30	～	2022年2月28日	10:20	0.002
	2022年2月28日	10:30	～	2022年3月1日	10:20	0.002
定量下限値					0.001	

表 水銀の調査結果

測定期間：令和4年2月22日～3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点名	調査期間				計量結果	
穂高クリーンセンター 東側	2022年2月22日	11:30	～	2022年2月23日	11:20	0.002
	2022年2月23日	11:30	～	2022年2月24日	11:20	0.001
	2022年2月24日	11:30	～	2022年2月25日	11:20	0.001
	2022年2月25日	11:30	～	2022年2月26日	11:20	0.002
	2022年2月26日	11:30	～	2022年2月27日	11:20	0.002
	2022年2月27日	11:30	～	2022年2月28日	11:20	0.002
	2022年2月28日	11:30	～	2022年3月1日	11:20	0.002
定量下限値					0.001	

(2) 地上気象調査結果

地上気象の観測結果を次に示す。

表 大気質測定時の地上気象観測結果 (風向)

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：16方位

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	WSW	N	C	NNE	N	NNE	NNE
2	W	C	C	N	NNE	NNE	N
3	S	NNE	WSW	N	NNE	N	NNE
4	W	C	C	C	N	N	N
5	N	WNW	NE	C	C	N	N
6	NW	C	C	N	NNE	NE	N
7	SSE	N	NNE	NNW	N	ESE	NNE
8	N	C	N	E	C	SW	NE
9	NNW	NNE	SE	WSW	SSE	WNW	NE
10	ENE	N	SSE	N	SW	N	NNW
11	NNW	NNW	SSW	W	SE	NNW	NNE
12	NE	N	SSW	W	SSW	NW	WSW
13	ENE	NE	S	ENE	WNW	NNW	E
14	N	NNE	N	WNW	SW	NNW	NNW
15	N	NE	NE	WNW	S	NNE	NNE
16	N	NNW	ENE	E	S	NNW	NE
17	NE	NNE	NW	ESE	S	NE	NW
18	W	N	S	ENE	S	NNE	N
19	NE	NNE	C	ESE	S	NNW	NNE
20	C	N	WSW	ESE	W	N	NNE
21	SE	WNW	C	WNW	W	NNE	N
22	C	N	C	NNW	ENE	N	N
23	NW	NNW	C	E	NNE	NNE	NNE
24	C	C	C	NNE	N	NW	N
最多風向	N	N	N,NE,S SSW,WSW	N	S	N,NNE	N,NNE

※"C"は、calm(静穏)で、風速が0.2m/s以下を表す。

表 大気質測定時の地上気象観測結果（風向）

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：16方位

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	NNE	NNE	NNW	NNW	NNE	NNE	N
2	NNE	NNE	NNW	NNE	ENE	ENE	NNE
3	NNE	N	NNW	N	NE	NE	NNE
4	E	NNE	WSW	S	NNE	S	N
5	NNE	NNE	N	ENE	NNE	SSW	E
6	NE	N	WNW	NNE	NNE	S	N
7	N	ESE	N	NNE	NNE	SSW	NE
8	NNW	ESE	NE	E	ESE	SSW	ENE
9	NW	NNE	SE	ESE	ENE	S	SSW
10	S	NNE	WSW	WNW	E	S	S
11	SE	NNW	NNW	WNW	SSW	S	NNE
12	S	N	SSW	N	WNW	S	WNW
13	SSW	N	WNW	ENE	NNW	N	NW
14	NW	NNE	NNE	NNE	WNW	NNE	N
15	NNE	N	NNE	ENE	WNW	N	NNE
16	N	NE	NNE	NNE	N	NNE	N
17	NNE	NE	NE	ENE	NNE	N	ENE
18	N	NE	NE	ENE	NNE	NE	ENE
19	NNW	NNE	N	NNW	NE	ENE	NNE
20	NE	NE	NW	NE	NNE	NE	NNE
21	N	N	WNW	N	NNE	NNE	N
22	NNE	NW	NE	NNE	NE	NNE	NNW
23	NNE	N	N	NW	NNE	NW	NE
24	NNE	NNW	ENE	C	NNE	ENE	NE
最多風向	NNE	NNE	N,NE,NNW	NNE	NNE	S	N,NNE

※"C"は、calm(静穏)で、風速が0.2m/s以下を表す。

表 大気質測定時の地上気象観測結果（風速）

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：m/s

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	0.5	0.3	0.2	0.9	1.7	1.1	1.8
2	0.5	0.0	0.2	0.9	1.3	1.4	1.2
3	0.4	1.2	0.3	2.0	1.2	1.1	1.4
4	0.4	0.2	0.2	0.2	1.2	1.2	1.6
5	0.6	0.8	0.9	0.0	0.2	1.3	1.5
6	0.7	0.0	0.1	0.7	1.5	1.5	1.6
7	0.4	1.3	0.5	0.6	1.7	0.9	1.5
8	0.7	0.1	0.7	0.9	0.0	0.5	1.4
9	0.9	0.8	0.8	0.5	2.0	0.6	0.9
10	1.2	0.7	1.5	0.7	0.6	0.9	1.1
11	1.5	1.5	0.9	0.5	1.6	0.9	1.2
12	1.9	1.7	0.8	0.6	1.2	1.1	1.0
13	1.4	2.1	0.9	0.7	0.6	0.8	1.3
14	1.8	2.8	1.6	0.6	0.6	2.0	1.4
15	2.1	3.1	2.9	0.4	1.1	1.8	1.9
16	2.2	1.8	4.4	2.0	2.5	1.8	2.0
17	4.4	2.8	1.7	3.7	2.5	3.7	0.6
18	0.3	3.0	0.4	3.4	1.8	3.2	1.6
19	1.2	1.5	0.0	3.8	3.0	1.5	1.7
20	0.1	0.6	0.7	3.0	0.6	1.3	1.7
21	1.0	0.4	0.1	0.6	0.3	1.5	1.7
22	0.0	0.8	0.1	0.8	0.7	1.6	1.7
23	0.5	0.9	0.1	1.1	1.6	1.6	1.5
24	0.1	0.0	0.0	1.1	1.5	1.0	1.5
最高値	4.4	3.1	4.4	3.8	3.0	3.7	2.0
最低値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6
平均値	1.0	1.2	0.8	1.2	1.3	1.4	1.5

表 大気質測定時の地上気象観測結果（風速）

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位:m/s

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	2.4	1.0	0.6	0.3	2.0	1.7	0.8
2	2.5	2.0	0.8	1.5	1.3	1.4	1.8
3	1.3	1.8	0.8	1.2	1.1	1.9	1.1
4	0.5	1.5	0.4	1.6	1.2	3.5	1.6
5	1.2	1.6	0.9	0.8	0.8	2.9	1.0
6	1.3	1.1	0.5	1.3	1.1	4.4	1.4
7	1.6	0.6	1.1	1.1	1.6	4.3	1.1
8	1.2	1.2	1.3	1.6	1.1	5.9	1.2
9	0.9	1.5	1.0	1.1	0.9	5.9	1.7
10	0.8	2.0	0.8	0.8	0.9	4.8	1.4
11	1.2	2.6	1.4	1.1	0.9	4.1	0.9
12	1.3	3.5	1.5	1.6	1.3	2.3	1.2
13	1.2	3.6	1.2	2.0	1.2	3.4	1.1
14	1.5	4.5	2.3	1.6	0.9	3.2	1.7
15	4.3	4.1	3.0	2.1	1.2	3.4	2.9
16	2.7	3.6	3.0	3.3	3.5	4.2	3.6
17	2.2	3.7	2.7	3.9	4.0	3.5	3.8
18	3.4	2.9	2.9	3.7	2.6	2.1	3.2
19	1.0	2.2	1.5	1.1	1.2	3.1	2.3
20	2.4	2.3	0.6	1.3	1.8	3.4	1.4
21	1.6	1.5	0.7	1.3	1.2	2.2	1.1
22	2.2	0.9	0.6	1.2	2.1	2.0	0.4
23	1.3	1.3	1.1	0.5	1.8	0.9	1.7
24	1.5	1.1	0.7	0.1	1.9	1.2	1.1
最高値	4.3	4.5	3.0	3.9	4.0	5.9	3.8
最低値	0.5	0.6	0.4	0.1	0.8	0.9	0.4
平均値	1.7	2.2	1.3	1.5	1.6	3.2	1.6

表 大気質測定時の地上気象観測結果（気温）

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：℃

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	20.1	21.0	21.6	20.4	22.7	21.5	24.0
2	19.3	20.7	21.4	20.1	22.7	21.4	23.7
3	19.3	20.6	20.8	19.9	22.7	21.1	23.6
4	19.2	20.7	20.4	19.5	22.7	21.0	23.5
5	19.3	20.7	21.0	19.6	22.5	20.7	23.3
6	19.5	20.7	21.6	19.8	22.8	21.4	23.5
7	21.8	22.2	22.6	21.4	23.7	23.2	25.1
8	23.4	22.5	24.4	23.1	24.9	26.0	27.1
9	26.0	25.3	27.2	24.4	28.0	27.2	29.0
10	27.4	25.9	28.3	26.7	29.2	28.6	30.7
11	28.7	28.4	29.7	28.2	30.9	30.4	31.8
12	30.1	29.7	30.2	29.3	31.8	31.8	32.9
13	31.6	30.2	31.4	30.6	30.8	32.9	33.5
14	31.8	30.4	32.3	30.9	29.8	33.7	34.2
15	31.4	30.7	31.9	32.2	30.2	33.9	33.2
16	29.3	29.7	28.5	30.7	31.5	32.9	31.6
17	24.5	29.0	26.1	30.0	30.5	31.7	29.0
18	21.8	28.1	20.8	28.6	29.2	29.8	27.9
19	22.0	22.9	21.1	28.2	28.7	28.1	26.4
20	21.8	22.4	21.0	27.7	25.5	27.0	24.9
21	21.5	22.0	20.8	25.2	23.5	26.8	24.0
22	21.3	22.4	20.4	24.1	22.9	24.9	23.1
23	21.2	22.1	20.5	24.5	22.6	24.5	22.5
24	21.1	22.1	19.9	23.7	21.9	24.1	21.9
最高値	31.8	30.7	32.3	32.2	31.8	33.9	34.2
最低値	19.2	20.6	19.9	19.5	21.9	20.7	21.9
平均値	23.9	24.6	24.3	25.4	26.3	26.9	27.1

表 大気質測定時の地上気象観測結果（気温）

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：℃

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	-3.9	-4.9	-6.2	-6.5	-3.7	-0.6	-3.2
2	-3.8	-5.1	-6.6	-7.2	-4.7	-0.7	-3.5
3	-4.0	-5.1	-7.1	-7.6	-4.9	0.3	-3.8
4	-4.5	-5.0	-7.6	-8.5	-5.2	4.5	-3.9
5	-4.5	-5.1	-7.5	-8.4	-6.0	4.2	-5.2
6	-4.3	-5.7	-7.7	-8.9	-6.1	3.9	-4.7
7	-3.9	-6.6	-7.6	-8.8	-6.5	4.3	-5.5
8	-3.4	-4.6	-6.4	-6.4	-4.8	4.7	-2.9
9	-3.0	-2.5	-4.2	-4.0	-1.7	5.4	0.6
10	-2.5	0.1	-0.6	-0.3	1.4	5.6	3.4
11	-1.5	1.7	0.4	4.0	4.5	5.0	5.2
12	0.2	2.2	2.7	5.8	6.1	8.0	9.1
13	0.8	3.0	3.6	6.7	8.9	8.2	10.2
14	0.4	2.6	3.2	7.6	10.6	8.7	11.5
15	-1.2	1.9	3.1	7.0	10.8	7.9	11.1
16	-0.9	1.0	2.6	6.7	10.4	6.7	10.0
17	-1.2	-0.3	1.1	4.8	8.0	5.2	8.1
18	-2.3	-1.5	-0.3	2.8	5.4	3.3	6.8
19	-2.7	-2.3	-1.1	1.3	3.2	1.8	5.8
20	-3.1	-3.0	-2.7	-0.3	1.1	1.2	4.1
21	-3.1	-3.4	-3.7	-1.2	0.1	0.6	2.5
22	-3.8	-4.4	-4.5	-2.2	-0.6	-1.2	1.7
23	-4.1	-4.8	-4.9	-3.1	-0.8	-1.8	0.6
24	-4.7	-5.4	-6.6	-3.3	-1.1	-3.3	-0.1
最高値	0.8	3.0	3.6	7.6	10.8	8.7	11.5
最低値	-4.7	-6.6	-7.7	-8.9	-6.5	-3.3	-5.5
平均値	-2.7	-2.4	-2.9	-1.3	1.0	3.4	2.4

表 大気質測定時の地上気象観測結果（湿度）

測定期間：令和3年7月30日～8月5日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：%

月日 時	7月30日 (金)	7月31日 (土)	8月1日 (日)	8月2日 (月)	8月3日 (火)	8月4日 (水)	8月5日 (木)
1	85	100	98	100	93	95	96
2	90	100	98	100	93	94	96
3	90	100	99	100	93	96	96
4	94	99	100	100	93	95	96
5	96	100	99	100	96	96	96
6	96	99	97	100	94	93	95
7	83	94	90	96	89	88	89
8	75	95	81	86	88	74	80
9	72	80	68	79	70	74	75
10	64	78	65	73	69	72	62
11	61	64	61	72	63	63	61
12	56	63	63	71	59	57	60
13	57	63	61	65	64	55	55
14	51	60	53	57	67	55	50
15	53	59	56	54	64	51	53
16	62	62	67	63	57	53	57
17	84	63	68	62	55	61	68
18	99	67	99	65	60	68	76
19	98	91	99	67	61	75	78
20	99	96	99	68	75	80	83
21	99	98	100	82	87	81	86
22	99	96	100	88	89	93	88
23	100	97	100	84	91	96	89
24	100	98	99	89	93	97	90
最高値	100	100	100	100	96	97	96
最低値	51	59	53	54	55	51	50
平均値	82	84	84	80	78	78	78

表 大気質測定時の地上気象観測結果（湿度）

測定期間：令和4年2月22日～2月28日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

単位：%

月日 時	2月22日 (火)	2月23日 (水)	2月24日 (木)	2月25日 (金)	2月26日 (土)	2月27日 (日)	2月28日 (月)
1	76	88	88	83	86	78	88
2	76	88	89	85	89	75	92
3	81	88	89	87	87	65	86
4	84	87	88	91	92	43	90
5	84	87	90	89	91	50	92
6	84	88	88	87	90	48	91
7	83	91	89	89	95	54	91
8	89	84	82	81	86	59	84
9	87	74	78	71	76	59	70
10	84	57	65	48	56	64	60
11	70	48	56	43	39	74	46
12	64	49	43	37	37	42	33
13	64	45	42	30	29	46	32
14	76	48	31	32	27	44	31
15	85	53	33	28	30	31	32
16	76	54	34	34	30	38	35
17	74	58	45	44	38	49	42
18	79	62	53	53	46	63	47
19	84	66	64	65	57	67	55
20	76	73	73	75	69	70	65
21	77	78	74	80	75	72	72
22	81	87	80	80	75	84	78
23	82	86	79	79	79	89	83
24	87	89	84	89	80	85	84
最高値	89	91	90	91	95	89	92
最低値	64	45	31	28	27	31	31
平均値	79	72	68	66	65	60	66

2. 騒音

(1) 特定騒音

特定騒音の調査結果を次に示す。

表 特定騒音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日～1月26日
 測定場所：No.1 西側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.1 西側敷地境界					
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率騒音レベル			最大値 L_{Amax}	等価騒音レベル L_{Aeq}
			L_{A5}	L_{A50}	L_{A95}		
2022年1月26日	朝	6:00～6:10	47	44	42	49	45
		7:00～7:10	59	57	56	59	57
2022年1月25日	昼間	8:00～8:10	58	54	49	59	54
		9:00～9:10	58	55	51	59	55
		10:00～10:10	57	51	48	59	52
		11:00～11:10	57	52	45	59	53
		12:00～12:10	58	50	44	59	53
		13:00～13:10	56	51	47	58	52
		14:00～14:10	56	53	50	56	53
	15:00～15:10	59	54	47	61	55	
	16:00～16:10	59	52	50	60	54	
	17:00～17:10	55	51	47	56	52	
	夕	18:00～18:10	58	51	46	58	53
19:00～19:10		54	48	45	56	50	
20:00～20:10		55	47	44	56	50	
夜間	21:00～21:10	51	44	43	53	46	
	22:00～22:10	47	44	42	48	44	
	23:00～23:10	44	42	42	45	43	
	0:00～0:10	43	42	41	45	42	
2022年1月26日	夜間	1:00～1:10	43	42	41	44	42
		2:00～2:10	43	42	41	45	42
		3:00～3:10	43	42	41	45	42
		4:00～4:10	43	42	41	44	42
		5:00～5:10	43	42	41	45	42

備考1) 計量結果を「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」により評価する場合は L_{A5} の値を用います。

備考2) 計量結果を「環境基準」と参考比較する場合は L_{Aeq} の値を用います。(正式な評価はできません。)

表 特定騒音の調査結果

測定期間：令和4年1月25日～1月26日

測定場所：No.2 南東側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.2 南東側敷地境界					
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率騒音レベル			最大値 L_{Amax}	等価騒音レベル L_{Aeq}
			L_{A5}	L_{A50}	L_{A95}		
2022年1月26日	朝	6:00～6:10	50	49	49	53	50
		7:00～7:10	53	52	51	56	52
2022年1月25日	昼間	8:00～8:10	52	51	50	55	51
		9:00～9:10	55	53	52	58	54
		10:00～10:10	54	53	52	56	53
		11:00～11:10	55	53	52	58	53
		12:00～12:10	52	52	51	56	52
		13:00～13:10	54	52	51	57	53
		14:20～14:30	55	53	50	60	53
		15:00～15:10	52	51	49	55	51
		16:00～16:10	52	51	50	55	51
		17:00～17:10	53	52	51	55	52
	夕	18:00～18:10	50	50	49	53	50
19:00～19:10		50	50	49	53	50	
20:00～20:10		51	50	49	52	50	
2022年1月26日	夜間	21:00～21:10	51	50	49	53	50
		22:00～22:10	50	50	49	53	50
		23:00～23:10	50	50	49	53	50
		0:00～0:10	50	50	49	52	50
		1:00～1:10	50	50	49	53	50
		2:00～2:10	50	49	49	52	49
		3:00～3:10	50	50	49	53	50
4:00～4:10	50	50	49	54	50		
		5:00～5:10	50	50	48	53	49

備考1) 計量結果を「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」により評価する場合は L_{A5} の値を用います。

備考2) 計量結果を「環境基準」と参考比較する場合は L_{Aeq} の値を用います。(正式な評価はできません。)

表 特定騒音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日～4月13日
 測定場所：No.1 西側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.1 西側敷地境界					
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率騒音レベル			最大値 L_{Amax}	等価騒音レベル L_{Aeq}
			L_{A5}	L_{A50}	L_{A95}		
2022年4月13日	朝	6:00～6:10	49	48	47	51	48
		7:00～7:10	57	56	54	58	56
2022年4月12日	昼間	8:00～8:10	56	52	50	57	53
		9:00～9:10	55	52	52	57	53
		10:00～10:10	55	51	47	58	51
		11:00～11:10	56	49	47	57	52
		12:00～12:10	50	48	46	52	48
		13:00～13:10	54	49	46	54	50
		14:00～14:10	52	50	47	53	50
		15:00～15:10	54	52	45	55	52
		16:00～16:10	50	48	46	53	48
		17:00～17:10	54	47	45	55	49
	夕	18:00～18:10	52	48	47	53	49
19:00～19:10		52	49	48	53	49	
20:00～20:10		52	48	47	52	49	
夜間	21:00～21:10	48	46	46	49	47	
	22:00～22:10	48	47	46	49	47	
	23:00～23:10	47	47	46	48	47	
2022年4月13日	夜間	0:00～0:10	48	47	46	49	47
		1:00～1:10	47	46	46	48	46
		2:00～2:10	48	47	46	49	47
		3:00～3:10	47	47	46	49	47
		4:00～4:10	47	47	46	48	47
		5:00～5:10	49	47	47	50	47

備考1) 計量結果を「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」により評価する場合は L_{A5} の値を用います。

備考2) 計量結果を「環境基準」と参考比較する場合は L_{Aeq} の値を用います。(正式な評価はできません。)

表 特定騒音の調査結果

測定期間：令和4年4月12日～4月13日

測定場所：No.2 南東側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.2 南東側敷地境界					
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率騒音レベル			最大値 L_{Amax}	等価騒音レベル L_{Aeq}
			L_{A5}	L_{A50}	L_{A95}		
2022年4月13日	朝	6:00～6:10	47	46	45	49	46
		7:00～7:10	48	47	46	50	47
2022年4月12日	昼間	8:00～8:10	52	51	50	53	51
		9:00～9:10	55	54	53	57	54
		10:00～10:10	54	53	52	56	53
		11:00～11:10	56	54	54	58	55
		12:00～12:10	46	45	44	47	45
		13:00～13:10	55	54	53	56	54
		14:00～14:10	54	53	52	56	53
		15:00～15:10	54	53	53	56	54
	16:00～16:10	46	45	44	47	45	
	17:00～17:10	46	45	43	48	45	
	夕	18:00～18:10	46	45	44	48	45
19:00～19:10		46	45	44	48	45	
20:00～20:10		46	44	44	47	45	
2022年4月13日	夜間	21:00～21:10	46	45	44	46	45
		22:00～22:10	46	45	44	48	45
		23:00～23:10	46	46	45	48	46
		0:00～0:10	46	45	45	48	45
		1:00～1:10	46	45	45	49	45
		2:00～2:10	46	45	44	48	45
		3:00～3:10	46	45	45	48	45
4:00～4:10	46	46	45	47	46		
5:00～5:10	47	46	45	49	46		

備考1) 計量結果を「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」により評価する場合は L_{A5} の値を用います。

備考2) 計量結果を「環境基準」と参考比較する場合は L_{Aeq} の値を用います。(正式な評価はできません。)

(2) 総合騒音

総合騒音の調査結果を次に示す。

表 総合騒音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日～1月26日
 測定場所：No.3 西側民家付近

調査場所		No.3 西側民家付近												
調査年月日		2022年1月25日(火) ～ 2022年1月26日(水)												
基準時間帯	日付	観測時間	騒音実測時間		有効実測時間(分) t	等価騒音レベル (dB) L _{Aeq,1h}	騒音レベルの 最大値 (dB) L _{Amax}	時間率騒音レベル (dB)					基準時間帯平均	
			開始時間	終了時間				L _{A5,1h}	L _{A10,1h}	L _{A50,1h}	L _{A90,1h}	L _{A95,1h}	騒音レベル(dB)**	
													等価騒音レベル	時間率騒音レベル
昼間	1/26	6～7	6:00	7:00	58	55.5	73.7	60.5	58.1	51.1	42.6	41.4	L _{Aeq,16h} 56	L _{A50,16h} 51
		7～8	7:00	8:00	60	55.7	72.3	60.8	58.3	52.3	47.8	46.7		
		8～9	8:00	9:00	58	57.2	76.6	62.9	60.0	52.8	46.3	45.0		
	1/25	9～10	9:00	10:00	58	57.8	73.7	63.7	61.0	54.3	47.9	46.4		
		10～11	10:00	11:00	60	56.9	74.0	63.1	59.6	51.6	45.5	44.4		
		11～12	11:00	12:00	60	57.0	72.5	63.3	60.4	52.4	45.6	44.3		
		12～13	12:00	13:00	59	55.0	72.2	60.3	57.6	49.2	43.0	42.2		
		13～14	13:00	14:00	59	56.8	74.6	63.1	60.1	52.3	47.0	46.2		
		14～15	14:00	15:00	60	57.7	72.9	64.6	61.7	52.8	47.7	46.4		
		15～16	15:00	16:00	57	57.5	77.3	63.0	60.4	54.0	48.4	47.3		
		16～17	16:00	17:00	59	57.1	76.5	62.4	59.7	53.7	49.0	48.0		
		17～18	17:00	18:00	60	55.5	72.9	59.9	58.2	53.1	47.3	45.9		
		18～19	18:00	19:00	58	54.8	73.6	59.3	57.6	51.2	45.6	44.5		
		19～20	19:00	20:00	59	53.5	73.7	58.8	56.8	48.9	43.5	42.5		
20～21	20:00	21:00	59	53.6	74.6	58.9	56.4	47.5	42.8	42.0				
21～22	21:00	22:00	58	52.1	71.6	58.1	55.2	46.0	41.7	41.0				
夜間	1/25	22～23	22:00	23:00	59	50.3	70.4	56.0	52.3	42.7	40.2	39.9	L _{Aeq,8h} 50	L _{A50,8h} 41
		23～0	23:00	0:00	59	50.3	74.8	54.3	49.6	41.4	39.9	39.6		
	1/26	0～1	0:00	1:00	59	50.6	75.4	54.4	49.8	41.1	39.5	39.2		
		1～2	1:00	2:00	59	48.9	76.2	51.6	47.2	40.4	39.1	38.9		
		2～3	2:00	3:00	60	49.1	73.8	52.6	47.8	40.3	39.1	38.9		
		3～4	3:00	4:00	60	48.5	74.7	50.8	46.5	40.3	39.2	39.0		
		4～5	4:00	5:00	60	50.6	73.8	54.6	50.4	40.9	39.2	38.9		
		5～6	5:00	6:00	59	52.6	75.1	57.3	53.5	42.8	39.8	39.5		

※ 基準時間帯平均騒音レベルは、等価騒音レベルがエネルギー平均、時間率騒音レベルが算術平均です。

$$L_{Aeq}(エネルギー平均) = 10 \cdot \log \{ 1/n \times (10^{L_1/10} + 10^{L_2/10} + \dots + 10^{L_n/10}) \}$$

表 総合騒音の調査結果

測定期間：令和4年4月12日～4月13日

測定場所：No.3 西側民家付近

調査場所		No.3 西側民家付近												
調査年月日		2022年4月12日(火) ～ 2022年4月13日(水)												
基準時間帯	日付	観測時間	騒音実測時間		有効実測時間 (分) <i>t</i>	等価騒音レベル (dB) <i>L_{Aeq,1h}</i>	騒音レベルの 最大値 (dB) <i>L_{Amax}</i>	時間率騒音レベル (dB)					基準時間帯平均	
			開始時間	終了時間				<i>L_{A5,1h}</i>	<i>L_{A10,1h}</i>	<i>L_{A50,1h}</i>	<i>L_{A90,1h}</i>	<i>L_{A95,1h}</i>	騒音レベル(dB)*	
													等価騒音レベル	時間率騒音レベル
昼間	4/13	6～7	6:00	7:00	60	55.9	78.1	61.1	58.5	51.2	46.8	46.0	<i>L_{Aeq,16h}</i> 55	<i>L_{A50,16h}</i> 51
		7～8	7:00	8:00	58	55.4	72.6	60.4	58.2	52.5	48.3	47.3		
		8～9	8:00	9:00	58	55.9	71.4	61.6	58.9	51.6	46.0	45.1		
	4/12	9～10	9:00	10:00	58	56.0	73.9	62.0	58.8	51.4	46.1	45.4		
		10～11	10:00	11:00	59	56.0	80.8	61.9	58.7	51.2	46.1	45.4		
		11～12	11:00	12:00	58	55.3	74.6	61.1	58.0	50.6	45.6	44.8		
		12～13	12:00	13:00	58	54.4	79.6	59.6	57.1	49.4	44.9	44.4		
		13～14	13:00	14:00	60	55.1	73.7	60.7	57.7	50.1	45.1	44.5		
		14～15	14:00	15:00	60	55.2	75.3	60.8	57.7	50.2	44.8	44.1		
		15～16	15:00	16:00	60	54.9	73.1	60.2	57.8	50.6	45.4	44.6		
		16～17	16:00	17:00	59	54.9	79.4	59.6	57.3	50.1	44.8	44.1		
		17～18	17:00	18:00	58	56.3	74.8	60.6	58.9	53.3	47.8	46.5		
		18～19	18:00	19:00	59	54.7	71.2	59.1	57.6	52.2	47.6	46.9		
		19～20	19:00	20:00	59	54.4	71.2	59.4	57.5	50.7	46.8	46.2		
20～21	20:00	21:00	59	53.1	72.0	58.4	56.2	49.5	45.6	45.1				
21～22	21:00	22:00	60	52.7	73.6	58.1	55.2	47.6	44.9	44.5				
夜間	4/12	22～23	22:00	23:00	60	51.7	73.1	56.9	53.6	46.6	44.6	44.3	<i>L_{Aeq,8h}</i> 51	<i>L_{A50,8h}</i> 46
		23～0	23:00	0:00	60	50.6	70.9	55.2	51.7	45.5	44.4	44.2		
	4/13	0～1	0:00	1:00	60	50.9	75.9	54.6	51.3	45.3	44.0	43.7		
		1～2	1:00	2:00	60	49.8	72.9	52.6	49.5	45.1	44.1	43.9		
		2～3	2:00	3:00	60	50.9	73.7	54.7	50.8	45.2	44.4	44.2		
		3～4	3:00	4:00	60	49.9	73.4	52.9	49.7	45.1	44.1	44.0		
		4～5	4:00	5:00	60	51.5	76.7	55.0	51.5	45.6	44.4	44.2		
5～6	5:00	6:00	60	53.5	77.8	57.9	55.1	48.0	45.4	45.1				

※ 基準時間帯平均騒音レベルは、等価騒音レベルがエネルギー平均、時間率騒音レベルが算術平均です。

$$L_{Aeq}(エネルギー平均) = 10 \cdot \log(1/n \times (10^{L_{1/10}} + 10^{L_{2/10}} + \dots + 10^{L_{n/10}}))$$

3. 振動

(1) 特定振動

特定振動の調査結果を次に示す。

表 特定振動の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日～1月26日
 測定場所：No.1 西側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.1 西側敷地境界				
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル			
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀	
2022年1月26日	昼間	7:00～7:10	28	26	<25	
		8:00～8:10	32	26	<25	
2022年1月25日		9:00～9:10	32	28	<25	
		10:00～10:10	30	27	<25	
		11:00～11:10	30	26	<25	
		12:00～12:10	30	<25	<25	
		13:00～13:10	31	29	27	
		14:00～14:10	31	27	<25	
		15:00～15:10	31	26	<25	
		16:00～16:10	29	<25	<25	
		17:00～17:10	26	<25	<25	
		18:00～18:10	27	<25	<25	
2022年1月25日	夜間	19:00～19:10	29	<25	<25	
		20:00～20:10	<25	<25	<25	
		21:00～21:10	<25	<25	<25	
		22:00～22:10	<25	<25	<25	
		23:00～23:10	<25	<25	<25	
		2022年1月26日	0:00～0:10	<25	<25	<25
			1:00～1:10	<25	<25	<25
			2:00～2:10	<25	<25	<25
			3:00～3:10	<25	<25	<25
			4:00～4:10	<25	<25	<25
5:00～5:10			<25	<25	<25	
6:00～6:10			25	<25	<25	

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

表 特定振動の調査結果

測定期間：令和4年1月25日～1月26日

測定場所：No.2 南東側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.2 南東側敷地境界			
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル		
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀
2022年1月26日	昼間	7:00～7:10	26	<25	<25
		8:00～8:10	27	<25	<25
2022年1月25日		9:00～9:10	33	28	<25
		10:00～10:10	30	25	<25
		11:00～11:10	33	<25	<25
		12:00～12:10	<25	<25	<25
		13:00～13:10	32	30	26
		14:20～14:30	31	27	<25
		15:00～15:10	30	25	<25
		16:00～16:10	27	<25	<25
		17:00～17:10	<25	<25	<25
		18:00～18:10	<25	<25	<25
2022年1月25日	夜間	19:00～19:10	<25	<25	<25
		20:00～20:10	<25	<25	<25
		21:00～21:10	<25	<25	<25
		22:00～22:10	<25	<25	<25
		23:00～23:10	<25	<25	<25
2022年1月26日		0:00～0:10	<25	<25	<25
		1:00～1:10	<25	<25	<25
		2:00～2:10	<25	<25	<25
		3:00～3:10	<25	<25	<25
		4:00～4:10	<25	<25	<25
		5:00～5:10	<25	<25	<25
		6:00～6:10	<25	<25	<25

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

表 特定振動の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日～4月13日
 測定場所：No.1 西側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.1 西側敷地境界				
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル			
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀	
2022年4月13日	昼間	7:00～7:10	30	28	27	
		8:00～8:10	30	27	26	
2022年4月12日		9:00～9:10	29	27	26	
		10:00～10:10	27	26	<25	
		11:00～11:10	30	28	25	
		12:00～12:10	27	<25	<25	
		13:00～13:10	31	26	<25	
		14:00～14:10	27	<25	<25	
		15:00～15:10	29	26	<25	
		16:00～16:10	27	<25	<25	
		17:00～17:10	26	<25	<25	
		18:00～18:10	27	25	<25	
2022年4月12日	夜間	19:00～19:10	26	25	<25	
		20:00～20:10	27	25	<25	
		21:00～21:10	26	25	<25	
		22:00～22:10	26	25	<25	
		23:00～23:10	26	25	<25	
		2022年4月13日	0:00～0:10	26	25	<25
			1:00～1:10	26	<25	<25
			2:00～2:10	26	26	<25
			3:00～3:10	26	25	<25
			4:00～4:10	26	25	<25
5:00～5:10			26	26	<25	
6:00～6:10			26	25	<25	

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

表 特定振動の調査結果

測定期間：令和4年4月12日～4月13日

測定場所：No.2 南東側敷地境界

単位：dB

測定地点名称		No.2 南東側敷地境界			
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル		
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀
2022年4月13日	昼間	7:00～7:10	28	<25	<25
		8:00～8:10	30	28	26
2022年4月12日		9:00～9:10	28	26	<25
		10:00～10:10	29	26	<25
		11:00～11:10	32	27	<25
		12:00～12:10	26	<25	<25
		13:00～13:10	28	26	<25
		14:00～14:10	27	<25	<25
		15:00～15:10	30	26	<25
		16:00～16:10	27	<25	<25
		17:00～17:10	26	<25	<25
		18:00～18:10	27	<25	<25
2022年4月12日	夜間	19:00～19:10	26	<25	<25
		20:00～20:10	26	<25	<25
		21:00～21:10	27	<25	<25
		22:00～22:10	26	<25	<25
		23:00～23:10	26	<25	<25
2022年4月13日		0:00～0:10	26	<25	<25
		1:00～1:10	26	<25	<25
		2:00～2:10	26	<25	<25
		3:00～3:10	25	<25	<25
		4:00～4:10	25	<25	<25
		5:00～5:10	25	<25	<25
		6:00～6:10	27	<25	<25

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

(2) 総合振動

総合振動の調査結果を次に示す。

表 総合振動の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日～1月26日
 測定場所：No.3 西側民家付近

単位：dB

測定地点名称		No.3 西側民家付近						
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル			L ₁₀ の時間区分平均値		
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀			
2022年1月26日	昼間	7:00～7:10	31	<25	<25	33		
		8:00～8:10	35	26	<25			
2022年1月25日		9:00～9:10	36	27	<25			
		10:00～10:10	34	26	<25			
11:00～11:10		36	27	<25				
12:00～12:10		33	<25	<25				
13:00～13:10		35	27	<25				
14:00～14:10		34	26	<25				
15:00～15:10		34	27	<25				
16:00～16:10		32	<25	<25				
17:00～17:10		32	<25	<25				
18:00～18:10		28	<25	<25				
2022年1月25日		夜間	19:00～19:10	28	<25		<25	27
			20:00～20:10	31	<25		<25	
	21:00～21:10		26	<25	<25			
	22:00～22:10		30	<25	<25			
	23:00～23:10		26	<25	<25			
2022年1月26日	0:00～0:10		<25	<25	<25			
	1:00～1:10		<25	<25	<25			
	2:00～2:10		<25	<25	<25			
	3:00～3:10		<25	<25	<25			
	4:00～4:10		<25	<25	<25			
	5:00～5:10		28	<25	<25			
6:00～6:10	32		<25	<25				

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

表 総合振動の調査結果

測定期間：令和4年4月12日～4月13日

測定場所：No.3 西側民家付近

単位：dB

測定地点名称		No.3 西側民家付近				
測定年月日	時間区分	測定時間	時間率振動レベル			L ₁₀ の時間区分平均値
			L ₁₀	L ₅₀	L ₉₀	
2022年4月13日	昼間	7:00～7:10	33	<25	<25	34
		8:00～8:10	33	26	<25	
2022年4月12日		9:00～9:10	37	29	<25	
		10:00～10:10	35	<25	<25	
		11:00～11:10	34	27	<25	
		12:00～12:10	30	<25	<25	
		13:00～13:10	36	26	<25	
		14:00～14:10	36	26	<25	
		15:00～15:10	34	27	<25	
		16:00～16:10	33	<25	<25	
		17:00～17:10	33	<25	<25	
		18:00～18:10	30	<25	<25	
2022年4月12日	夜間	19:00～19:10	28	<25	<25	27
		20:00～20:10	30	<25	<25	
		21:00～21:10	30	<25	<25	
		22:00～22:10	26	<25	<25	
		23:00～23:10	26	<25	<25	
2022年4月13日		0:00～0:10	26	<25	<25	
		1:00～1:10	<25	<25	<25	
		2:00～2:10	26	<25	<25	
		3:00～3:10	<25	<25	<25	
		4:00～4:10	26	<25	<25	
		5:00～5:10	26	<25	<25	
		6:00～6:10	31	<25	<25	

備考1)「<25」は振動レベル計の測定レベル範囲(25～120dB)未満であることを示します。

4. 低周波音

低周波音の調査結果を次に示す。

表 低周波音の調査結果
測定期間：令和4年1月25日9時～20時
測定場所：No.1 西側敷地境界

測定場所	No.1 西側敷地境界											
	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	89	75	92	76	94	77	93	75	91	76	99
1Hz	104	89	105	88	100	89	100	88	98	84	101	87
1.25Hz	99	87	99	86	98	86	99	87	97	82	105	88
1.6Hz	96	83	95	83	96	84	99	85	95	79	107	88
2Hz	95	80	95	79	98	81	96	81	95	76	105	83
2.5Hz	89	75	91	75	89	74	95	77	93	73	104	81
3.15Hz	85	69	89	70	86	70	95	74	92	71	102	78
4Hz	83	66	85	73	89	69	96	72	86	69	102	77
5Hz	81	62	83	73	84	65	92	70	84	65	102	77
6.3Hz	73	60	84	69	84	64	88	66	85	64	99	74
8Hz	76	59	80	62	82	63	85	63	80	62	92	69
10Hz	77	58	76	60	78	61	75	58	80	62	85	64
12.5Hz	77	59	82	62	76	61	77	59	80	63	83	63
16Hz	76	61	78	62	83	63	78	59	83	64	85	65
20Hz	78	63	81	63	82	66	81	63	75	62	82	63
25Hz	80	64	81	63	84	66	86	64	76	62	83	65
31.5Hz	82	65	80	63	83	66	86	65	76	63	86	66
40Hz	90	69	85	67	79	66	80	64	84	66	83	66
50Hz	88	69	85	66	80	67	81	65	87	68	77	65
63Hz	81	68	85	68	89	70	79	63	90	69	83	67
80Hz	82	64	87	63	82	65	85	65	83	64	83	65

測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	90	74	92	76	93	76	93	72	94	73	90
1Hz	97	85	93	83	99	85	94	84	97	85	97	84
1.25Hz	97	83	95	83	100	84	97	83	95	84	94	83
1.6Hz	98	81	91	80	99	81	95	81	93	81	93	80
2Hz	91	76	94	78	92	76	88	75	93	77	90	76
2.5Hz	87	72	93	75	89	72	89	70	88	71	86	69
3.15Hz	84	69	92	73	87	69	79	63	80	63	78	62
4Hz	82	67	90	70	88	67	77	60	76	60	75	57
5Hz	84	66	90	69	84	65	72	56	73	56	69	53
6.3Hz	78	64	86	67	85	65	72	57	74	57	64	55
8Hz	78	62	81	65	84	64	68	55	78	57	66	54
10Hz	74	61	84	64	85	62	73	54	75	55	66	53
12.5Hz	76	60	83	63	83	61	78	56	72	54	72	54
16Hz	76	60	77	62	82	62	81	58	79	58	74	55
20Hz	77	61	80	63	82	63	79	58	80	59	81	59
25Hz	80	62	81	63	81	63	82	60	83	63	75	57
31.5Hz	82	65	76	62	78	64	79	61	94	69	71	57
40Hz	85	66	77	65	85	67	86	66	85	64	71	59
50Hz	85	67	79	66	83	67	82	65	84	65	83	62
63Hz	86	68	80	67	84	67	79	62	81	64	83	66
80Hz	84	66	77	64	88	67	78	59	94	70	90	68

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日21時～26日8時
 測定場所：No.1 西側敷地境界

測定場所	No.1 西側敷地境界											
	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	92	71	93	72	91	70	88	69	79	64	91
1Hz	97	81	94	79	95	78	97	78	99	78	99	79
1.25Hz	95	79	95	79	95	77	93	76	95	75	95	76
1.6Hz	91	77	95	77	99	77	92	73	92	72	94	74
2Hz	92	74	91	72	94	72	91	71	91	69	92	71
2.5Hz	87	67	86	66	89	66	88	67	88	66	89	66
3.15Hz	80	61	78	58	85	61	82	60	83	60	82	58
4Hz	75	55	76	55	76	52	74	51	75	52	73	51
5Hz	73	52	68	52	72	51	70	50	68	47	70	50
6.3Hz	77	56	69	55	72	55	68	56	60	55	77	57
8Hz	76	55	69	53	64	53	69	53	63	52	77	55
10Hz	70	52	70	53	72	52	65	51	64	50	69	51
12.5Hz	72	54	82	58	75	55	70	52	66	50	76	55
16Hz	75	56	79	58	81	59	74	54	66	51	79	56
20Hz	82	60	82	60	75	55	73	55	65	52	77	56
25Hz	78	57	84	61	75	55	83	61	64	50	78	56
31.5Hz	78	57	75	56	71	54	74	53	69	51	75	54
40Hz	83	61	75	58	75	55	71	53	77	55	79	58
50Hz	81	62	84	63	78	59	80	59	66	54	70	55
63Hz	78	61	74	59	87	64	77	58	73	58	70	57
80Hz	83	61	80	58	75	56	69	51	84	60	69	52

測定日	2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	87	67	82	65	89	70	91	74	91	73	90
1Hz	96	76	99	80	96	78	96	82	97	87	100	90
1.25Hz	91	72	98	79	93	76	95	81	98	85	100	88
1.6Hz	91	71	95	76	92	74	94	78	96	82	96	85
2Hz	90	68	93	72	91	71	91	74	91	78	92	81
2.5Hz	83	62	90	67	84	64	86	68	86	71	90	75
3.15Hz	74	53	83	60	77	56	81	62	82	66	84	69
4Hz	67	46	73	52	66	49	77	57	84	65	83	64
5Hz	67	48	66	47	74	51	68	53	78	60	84	62
6.3Hz	64	55	70	55	71	55	78	57	79	60	84	62
8Hz	59	52	71	53	67	53	74	55	78	58	74	58
10Hz	62	51	70	51	71	54	70	54	79	58	73	57
12.5Hz	60	50	65	50	74	55	80	59	73	56	76	58
16Hz	63	50	64	51	77	57	78	59	78	59	79	61
20Hz	70	53	68	53	77	58	80	62	78	60	80	63
25Hz	81	58	67	51	74	56	78	61	82	63	77	63
31.5Hz	64	49	80	57	75	57	81	62	76	62	80	64
40Hz	61	50	80	57	72	56	84	63	83	65	84	66
50Hz	77	57	65	55	78	60	81	62	86	69	85	67
63Hz	64	56	75	58	81	63	82	66	84	68	86	68
80Hz	70	50	81	59	73	55	85	65	83	64	88	66

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日9時～20時
 測定場所：No.2 南東側敷地境界

測定場所	No.2 南東側敷地境界											
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)
G	80	71	77	69	82	71	75	68	87	70	77	69
1Hz	64	53	58	48	70	58	71	58	68	56	74	63
1.25Hz	67	52	62	48	69	56	71	56	69	56	73	63
1.6Hz	63	50	58	46	69	55	67	54	70	55	72	61
2Hz	64	50	61	48	71	55	67	54	66	53	71	59
2.5Hz	62	51	58	49	67	54	68	54	65	52	68	58
3.15Hz	62	50	56	48	65	53	68	53	65	51	69	56
4Hz	59	49	54	47	69	52	64	51	62	50	72	56
5Hz	60	51	59	50	67	53	60	50	59	50	68	54
6.3Hz	61	54	59	51	66	53	60	51	63	52	65	54
8Hz	64	55	60	54	69	55	61	53	67	54	66	54
10Hz	68	58	65	57	79	61	62	55	66	57	64	56
12.5Hz	69	56	68	55	71	57	59	53	76	58	63	55
16Hz	69	58	67	56	70	58	60	54	77	57	64	56
20Hz	67	58	64	56	67	57	65	55	71	56	66	56
25Hz	70	57	67	56	68	56	62	56	70	58	65	56
31.5Hz	65	57	71	56	68	56	59	54	72	58	65	57
40Hz	66	60	67	58	68	58	60	56	70	60	70	59
50Hz	72	66	71	67	69	67	68	66	71	66	71	60
63Hz	71	63	69	63	67	63	65	62	66	62	64	58
80Hz	64	56	66	56	71	56	58	55	64	57	70	54

測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
G	80	71	85	72	76	69	72	66	72	66	72	66
1Hz	89	74	94	77	84	69	79	63	73	57	57	47
1.25Hz	89	73	89	75	80	67	81	62	71	56	56	46
1.6Hz	89	72	84	73	78	65	77	60	68	54	52	45
2Hz	87	70	83	71	75	63	73	58	65	51	54	46
2.5Hz	85	68	83	70	72	61	71	56	62	51	58	48
3.15Hz	82	66	82	68	75	61	67	54	64	51	57	47
4Hz	78	65	83	67	72	59	67	53	64	51	54	46
5Hz	76	63	80	65	71	58	67	52	62	50	57	47
6.3Hz	74	62	79	64	69	57	64	54	64	53	59	52
8Hz	73	61	76	63	73	57	64	54	60	54	58	53
10Hz	71	60	77	63	70	57	61	55	61	54	60	54
12.5Hz	72	60	76	61	65	54	59	52	57	52	57	52
16Hz	68	57	74	59	63	54	59	53	61	53	59	53
20Hz	65	56	71	58	60	55	60	53	58	53	59	53
25Hz	65	59	67	57	61	55	57	51	59	52	56	51
31.5Hz	65	57	73	56	67	60	57	52	59	52	60	51
40Hz	66	59	77	63	71	63	57	51	57	51	58	51
50Hz	67	62	66	62	76	65	63	61	64	61	64	61
63Hz	65	59	65	58	78	69	62	58	63	58	64	59
80Hz	66	57	62	52	69	62	52	49	62	49	58	49

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日21時～26日8時
 測定場所：No.2 南東側敷地境界

測定場所	No.2 南東側敷地境界											
	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)
	G	71	66	71	66	71	66	70	66	71	66	71
1Hz	63	50	61	47	61	48	60	48	52	44	59	48
1.25Hz	65	50	62	46	57	46	59	48	52	43	59	47
1.6Hz	66	49	60	45	53	45	60	47	52	44	55	46
2Hz	68	49	57	45	53	45	60	47	52	44	56	47
2.5Hz	62	48	56	46	54	46	62	48	56	46	57	47
3.15Hz	58	48	53	45	58	46	59	48	54	45	54	47
4Hz	62	48	60	46	63	47	62	48	53	45	56	47
5Hz	65	50	64	47	72	51	65	49	54	47	58	48
6.3Hz	61	53	59	53	60	53	60	53	61	53	60	52
8Hz	58	54	58	53	59	53	58	53	59	53	60	53
10Hz	61	54	60	54	60	54	60	54	60	54	59	54
12.5Hz	57	51	61	52	60	52	59	52	57	51	57	52
16Hz	60	53	60	53	59	53	58	53	58	53	59	53
20Hz	59	53	58	53	59	53	58	53	58	53	58	53
25Hz	55	51	57	52	57	51	57	51	56	51	56	51
31.5Hz	55	51	58	51	59	51	57	51	62	51	62	51
40Hz	57	50	57	51	57	50	56	50	56	50	57	51
50Hz	63	60	63	60	62	60	60	57	63	60	62	59
63Hz	63	58	63	59	62	58	63	58	62	58	62	58
80Hz	54	49	54	49	51	49	51	48	52	48	51	48

測定日	2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	70	66	68	66	71	66	71	66	73	69	73
1Hz	58	45	57	47	55	45	51	42	48	41	59	54
1.25Hz	55	44	58	47	54	44	50	42	50	41	58	53
1.6Hz	55	44	56	45	57	44	50	42	48	41	53	51
2Hz	54	44	55	46	55	45	52	43	52	43	53	50
2.5Hz	53	46	57	46	54	47	53	46	53	46	56	52
3.15Hz	54	46	55	46	56	46	53	45	52	45	54	49
4Hz	50	44	55	46	53	45	51	45	52	45	58	48
5Hz	55	46	55	46	60	47	53	47	56	48	57	49
6.3Hz	58	53	59	53	58	52	58	53	58	52	60	51
8Hz	58	53	59	54	59	53	59	53	60	53	58	53
10Hz	60	54	60	54	61	54	60	54	60	55	60	55
12.5Hz	56	51	56	51	58	52	59	52	57	52	57	54
16Hz	58	53	57	53	60	53	59	53	60	53	62	56
20Hz	58	53	56	52	58	53	58	53	61	56	61	55
25Hz	57	51	53	51	55	51	59	51	68	61	61	56
31.5Hz	57	51	59	51	57	51	60	51	63	58	67	63
40Hz	57	51	53	50	54	50	59	51	64	56	68	57
50Hz	60	57	63	59	64	60	62	57	69	62	66	66
63Hz	63	59	64	59	62	58	62	58	68	60	64	63
80Hz	53	50	51	48	53	49	56	49	65	53	54	56

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日9時～20時
 測定場所：No.3 西側民家付近

測定場所	No.3 西側民家付近											
	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	83	71	84	70	83	72	83	70	85	71	85
1Hz	64	51	65	53	74	59	71	57	82	66	81	70
1.25Hz	63	50	66	51	70	57	66	55	80	64	82	68
1.6Hz	61	49	62	49	68	55	67	54	77	62	81	67
2Hz	63	50	59	48	65	54	64	52	74	60	81	66
2.5Hz	64	49	62	48	69	54	63	51	72	58	75	64
3.15Hz	65	48	57	47	65	51	60	50	70	57	74	63
4Hz	63	48	61	47	64	51	62	49	70	56	76	62
5Hz	58	47	67	50	63	51	61	48	69	55	71	61
6.3Hz	63	50	69	50	68	51	60	50	67	54	70	60
8Hz	62	50	61	50	62	52	59	49	67	53	68	58
10Hz	66	52	68	52	69	54	68	52	75	56	67	57
12.5Hz	70	54	72	54	73	56	71	54	72	58	71	57
16Hz	68	57	70	55	69	57	71	55	74	59	75	58
20Hz	72	58	74	58	72	60	71	58	71	58	75	58
25Hz	75	59	69	57	71	59	72	58	72	58	72	58
31.5Hz	71	59	71	59	76	61	74	59	72	59	74	60
40Hz	70	60	75	61	72	60	71	58	71	61	71	61
50Hz	78	63	75	61	73	62	72	60	81	63	72	61
63Hz	73	65	78	63	77	65	72	59	82	64	76	63
80Hz	70	57	73	57	67	56	73	56	71	57	70	56

測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25	
	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	85	72	86	77	80	69	80	66	81	65	81
1Hz	88	75	89	79	78	66	76	63	71	57	56	45
1.25Hz	89	74	92	77	82	66	74	62	70	55	55	44
1.6Hz	88	74	89	77	80	64	74	61	69	54	55	43
2Hz	83	71	88	76	77	63	72	60	64	52	53	42
2.5Hz	83	70	86	74	76	61	69	58	64	51	53	43
3.15Hz	79	68	83	73	75	61	69	57	61	49	53	42
4Hz	78	66	82	72	72	59	69	57	62	47	57	43
5Hz	76	66	83	71	71	58	67	55	61	46	54	43
6.3Hz	77	65	79	70	72	57	66	54	57	49	57	49
8Hz	77	63	79	68	70	55	64	52	57	48	64	49
10Hz	77	62	78	67	67	53	61	51	57	48	63	49
12.5Hz	73	61	75	66	68	54	65	50	60	48	69	51
16Hz	74	59	74	64	66	54	66	52	66	51	64	51
20Hz	69	57	72	62	69	56	67	53	65	53	70	54
25Hz	71	58	69	62	72	59	67	54	66	54	71	54
31.5Hz	73	61	68	60	74	59	75	57	84	61	71	55
40Hz	69	59	70	61	71	62	77	60	73	59	66	54
50Hz	72	60	73	62	75	63	71	59	73	59	76	57
63Hz	80	63	72	64	77	62	65	58	69	59	82	63
80Hz	82	62	75	59	79	61	70	52	76	56	82	60

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年1月25日21時～26日8時
 測定場所：No.3 西側民家付近

測定場所	No.3 西側民家付近											
	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定日	2022/1/25		2022/1/25		2022/1/25		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	78	65	83	67	86	66	82	63	73	60	78
1Hz	69	58	72	60	60	48	66	53	66	50	61	49
1.25Hz	68	57	70	58	59	45	65	50	64	48	56	46
1.6Hz	69	56	69	57	57	44	65	50	62	46	56	44
2Hz	68	54	66	55	55	44	66	49	57	44	53	43
2.5Hz	65	53	66	54	59	43	60	46	58	43	53	42
3.15Hz	66	51	64	52	58	42	56	44	56	42	51	41
4Hz	61	49	62	50	64	43	59	43	57	41	50	40
5Hz	60	48	62	48	63	45	56	43	52	42	54	43
6.3Hz	58	50	60	50	60	49	54	49	55	48	56	48
8Hz	56	48	58	48	59	48	56	47	56	47	56	47
10Hz	55	47	61	49	64	48	64	48	56	46	56	47
12.5Hz	56	47	69	52	67	51	68	50	58	46	66	50
16Hz	63	50	72	52	76	54	71	51	62	46	65	49
20Hz	68	54	69	53	72	52	64	49	59	48	64	51
25Hz	71	53	79	58	71	52	70	52	57	47	67	50
31.5Hz	64	53	67	53	69	52	67	51	61	49	69	51
40Hz	75	57	67	53	67	51	62	48	64	49	76	56
50Hz	73	57	75	58	69	55	69	54	58	51	61	52
63Hz	66	58	71	57	79	60	69	57	65	56	62	56
80Hz	69	54	63	48	71	50	62	46	68	50	65	47

測定日	2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26		2022/1/26	
	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	80	63	70	60	83	66	85	69	78	67	83
1Hz	56	46	62	51	57	45	55	43	58	43	62	48
1.25Hz	55	45	64	49	58	44	56	42	56	43	58	48
1.6Hz	55	44	60	48	55	43	53	41	56	44	56	46
2Hz	56	44	61	46	59	43	53	40	57	43	56	46
2.5Hz	52	42	58	45	60	42	56	42	53	43	56	46
3.15Hz	53	41	58	43	55	41	55	41	55	43	58	45
4Hz	53	40	56	43	60	43	53	42	55	44	57	45
5Hz	53	41	53	42	58	44	55	44	57	45	55	45
6.3Hz	52	48	55	48	63	49	58	50	60	49	58	49
8Hz	51	47	54	47	58	48	57	49	58	49	62	50
10Hz	55	46	55	46	67	51	64	50	64	50	65	51
12.5Hz	55	45	56	45	70	52	68	53	69	51	65	53
16Hz	53	45	56	46	74	53	76	56	65	52	68	56
20Hz	68	51	57	49	72	53	71	56	64	54	72	59
25Hz	73	53	59	47	65	51	71	56	70	57	71	58
31.5Hz	56	48	67	52	65	52	79	59	69	61	70	59
40Hz	63	48	67	50	67	53	79	60	74	60	74	60
50Hz	73	54	65	52	75	57	75	59	82	67	76	61
63Hz	62	56	63	56	76	60	69	59	78	61	74	61
80Hz	60	45	65	49	65	49	77	58	69	58	72	56

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日9時～20時
 測定場所：No.1 西側敷地境界

測定場所	No.1 西側敷地境界											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	96	80	106	82	94	79	89	77	92	78	93
1Hz	108	91	104	89	104	89	101	87	103	89	104	90
1.25Hz	101	88	106	88	100	87	97	85	100	87	103	88
1.6Hz	101	85	109	88	98	85	97	83	99	86	104	87
2Hz	99	83	106	85	97	81	92	79	102	82	98	82
2.5Hz	103	81	103	81	93	76	88	73	98	78	97	78
3.15Hz	99	77	99	77	86	71	84	67	92	73	91	73
4Hz	96	74	104	79	88	69	83	65	93	71	92	70
5Hz	92	71	95	71	89	68	78	61	87	66	92	69
6.3Hz	88	68	96	71	84	65	82	62	83	64	87	66
8Hz	86	66	95	71	79	63	77	59	83	63	76	62
10Hz	83	64	94	69	80	63	71	57	77	61	78	61
12.5Hz	81	65	93	69	82	64	79	61	78	63	78	63
16Hz	85	67	91	68	84	67	77	64	77	65	81	66
20Hz	83	67	94	69	80	66	78	64	80	66	83	67
25Hz	83	67	92	68	82	67	81	65	84	65	84	67
31.5Hz	81	65	90	67	84	67	76	64	78	65	83	67
40Hz	81	67	87	67	83	69	80	66	80	68	83	68
50Hz	87	68	84	66	84	69	78	66	83	69	80	66
63Hz	89	70	86	69	91	70	87	66	90	68	82	66
80Hz	80	64	95	72	81	66	84	65	85	66	82	64

測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	92	78	104	81	98	78	90	76	88	76	96
1Hz	103	89	104	88	96	86	94	84	96	84	103	85
1.25Hz	100	87	104	87	97	84	97	84	99	83	104	85
1.6Hz	98	84	104	85	95	82	92	81	97	81	99	82
2Hz	96	80	101	81	91	78	89	77	94	77	96	78
2.5Hz	95	75	101	78	86	73	85	72	88	74	95	74
3.15Hz	90	71	94	73	78	67	83	67	85	71	88	67
4Hz	86	67	100	76	75	64	80	64	86	69	95	70
5Hz	81	62	97	73	73	62	83	64	82	68	91	66
6.3Hz	80	62	89	69	74	62	82	63	80	66	87	63
8Hz	81	61	90	68	74	60	78	61	82	65	87	63
10Hz	85	62	95	69	70	59	75	59	80	63	84	61
12.5Hz	78	62	94	69	76	61	77	61	76	62	85	63
16Hz	80	65	92	68	83	64	80	63	72	64	83	64
20Hz	78	65	88	67	88	66	76	63	75	62	82	62
25Hz	75	64	82	65	79	64	82	65	76	63	81	63
31.5Hz	77	65	84	65	78	64	80	65	78	63	83	63
40Hz	87	68	85	67	81	66	78	66	83	65	82	64
50Hz	83	68	80	67	84	67	84	67	80	64	82	65
63Hz	81	66	85	68	79	65	93	70	81	62	80	63
80Hz	83	65	79	63	76	61	78	62	75	60	73	59

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日21時～13日8時
 測定場所：No.1 西側敷地境界

測定場所	No.1 西側敷地境界											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	93	77	91	76	82	74	87	75	89	74	85
1Hz	101	84	101	84	97	81	99	82	95	78	104	84
1.25Hz	99	82	102	84	95	79	100	82	99	79	103	83
1.6Hz	99	81	103	83	93	76	96	78	97	77	100	81
2Hz	96	78	99	79	93	73	93	75	91	73	96	78
2.5Hz	91	73	96	75	88	66	88	69	87	67	95	75
3.15Hz	83	65	90	70	83	60	84	63	79	61	91	70
4Hz	81	61	86	64	79	56	78	57	75	56	82	62
5Hz	80	59	84	62	83	59	77	57	70	56	76	58
6.3Hz	80	61	77	60	79	59	72	59	75	59	71	59
8Hz	74	58	73	58	73	57	71	57	71	57	71	57
10Hz	76	58	78	58	70	56	63	56	73	57	68	56
12.5Hz	83	62	77	60	66	58	68	58	77	59	71	59
16Hz	82	64	77	63	70	62	77	62	78	63	73	62
20Hz	81	63	76	62	68	61	74	61	75	61	73	61
25Hz	82	64	82	64	69	62	72	63	71	60	72	62
31.5Hz	79	63	79	63	68	61	73	62	74	60	73	62
40Hz	84	64	81	62	75	60	69	59	75	59	69	59
50Hz	81	65	79	64	79	62	74	62	66	60	74	62
63Hz	82	63	84	64	76	61	81	61	72	60	82	62
80Hz	85	62	76	57	75	57	71	55	76	56	78	59

測定日	2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	92	75	93	76	93	75	91	76	93	76	96
1Hz	96	80	98	79	96	82	101	87	98	88	98	89
1.25Hz	100	79	99	80	99	82	102	87	99	87	100	87
1.6Hz	96	77	98	79	101	82	99	85	97	84	95	84
2Hz	92	72	91	73	97	77	97	82	93	80	92	80
2.5Hz	88	66	86	68	93	72	93	78	87	74	86	74
3.15Hz	81	61	80	61	88	67	88	71	82	67	79	67
4Hz	85	61	75	57	82	62	82	66	82	62	80	63
5Hz	81	59	75	56	79	59	83	63	74	58	78	61
6.3Hz	79	59	72	58	75	59	77	61	73	59	75	60
8Hz	72	57	74	57	76	58	78	60	75	57	74	59
10Hz	74	57	76	58	77	58	80	59	80	59	79	60
12.5Hz	80	60	78	60	81	61	72	60	81	60	90	66
16Hz	84	63	76	63	83	63	77	63	81	63	82	64
20Hz	81	62	81	63	78	62	79	63	77	63	81	64
25Hz	79	61	84	63	77	61	81	64	80	65	85	65
31.5Hz	74	61	80	63	74	61	79	62	83	66	84	65
40Hz	80	60	77	60	76	60	76	61	79	67	82	67
50Hz	78	63	78	61	83	63	85	65	83	67	85	68
63Hz	71	59	77	59	76	59	80	63	88	69	86	68
80Hz	71	55	70	55	71	55	83	64	81	66	81	64

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日9時～20時
 測定場所：No.2 南東側敷地境界

測定場所	No.2 南東側敷地境界											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)
	G	81	73	77	72	81	73	80	70	75	72	76
1Hz	66	54	70	55	73	59	68	57	74	60	78	64
1.25Hz	66	53	69	54	73	58	70	56	71	59	76	62
1.6Hz	65	52	67	52	73	57	66	55	71	57	76	61
2Hz	62	52	62	50	73	54	67	54	69	56	74	60
2.5Hz	64	54	65	51	65	54	63	53	69	55	72	59
3.15Hz	62	51	60	49	65	52	62	52	68	55	71	58
4Hz	60	51	61	50	64	52	64	51	65	53	70	56
5Hz	60	53	61	53	62	54	63	53	68	55	70	57
6.3Hz	63	57	63	56	61	56	62	56	65	57	70	58
8Hz	62	57	65	56	65	56	64	55	62	57	68	57
10Hz	65	57	62	57	65	57	64	56	62	57	67	57
12.5Hz	66	57	62	56	66	57	61	53	62	56	65	56
16Hz	68	59	66	58	71	59	64	56	61	57	65	58
20Hz	71	60	66	59	67	61	69	57	63	59	64	59
25Hz	66	62	65	61	66	62	62	57	66	61	66	61
31.5Hz	69	62	64	61	71	63	64	56	65	61	65	62
40Hz	78	63	67	62	74	63	63	53	67	62	65	62
50Hz	68	64	68	63	74	64	59	55	68	63	66	63
63Hz	67	64	67	64	68	64	63	58	66	63	66	63
80Hz	68	65	68	64	74	64	60	49	67	64	68	64

測定場所	No.2 南東側敷地境界											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)
	G	80	72	75	70	82	69	77	69	85	71	75
1Hz	70	57	74	58	84	69	87	70	91	77	86	68
1.25Hz	71	57	73	57	85	68	88	69	92	76	85	66
1.6Hz	69	54	72	54	82	67	85	68	90	74	77	63
2Hz	70	54	68	53	81	65	84	66	88	72	76	61
2.5Hz	70	55	66	53	78	63	82	65	84	71	80	60
3.15Hz	71	54	62	51	76	62	83	64	81	68	77	58
4Hz	68	53	62	51	74	60	82	63	81	67	75	57
5Hz	69	54	60	53	75	60	78	61	79	66	75	56
6.3Hz	66	56	60	55	70	59	73	61	77	65	72	58
8Hz	65	56	61	55	71	59	69	59	78	63	65	57
10Hz	67	57	61	56	72	58	69	58	77	61	67	56
12.5Hz	64	56	59	53	74	56	68	55	76	59	64	53
16Hz	69	58	61	56	68	56	63	56	72	58	62	55
20Hz	69	60	64	57	67	56	63	56	68	57	60	55
25Hz	67	61	64	57	59	54	59	54	69	55	59	54
31.5Hz	67	62	64	55	59	55	59	55	66	55	59	54
40Hz	68	62	63	53	55	51	59	52	62	52	57	52
50Hz	67	63	59	55	58	54	58	54	60	55	58	55
63Hz	67	63	63	57	62	56	63	57	65	59	65	59
80Hz	67	64	63	50	53	49	52	49	55	49	54	48

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日21時～13日8時
 測定場所：No.2 南東側敷地境界

測定場所	No.2 南東側敷地境界											
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)
G	72	69	72	68	72	68	72	68	72	68	72	69
1Hz	55	41	51	42	48	39	49	39	55	44	50	41
1.25Hz	52	43	54	43	47	40	48	40	56	44	56	43
1.6Hz	51	43	52	43	49	41	47	41	53	43	53	42
2Hz	53	45	55	44	49	42	50	43	52	44	51	43
2.5Hz	54	46	55	47	52	45	52	45	53	45	53	45
3.15Hz	52	45	53	45	54	45	52	45	52	45	52	45
4Hz	55	48	60	48	63	48	58	48	55	47	62	48
5Hz	58	51	64	52	64	52	61	52	60	51	65	52
6.3Hz	63	57	62	57	62	57	62	57	61	56	61	56
8Hz	62	56	61	56	61	56	61	56	61	56	61	56
10Hz	62	55	61	55	60	55	60	55	60	55	61	56
12.5Hz	60	53	60	53	58	53	59	53	58	53	57	52
16Hz	61	56	60	55	60	55	60	55	60	56	60	56
20Hz	60	56	59	55	61	55	60	55	59	55	60	55
25Hz	59	54	59	55	59	55	59	55	59	55	60	55
31.5Hz	61	54	62	54	60	54	58	54	57	53	61	54
40Hz	59	51	57	51	56	51	58	51	58	51	54	51
50Hz	58	54	57	54	57	54	58	54	57	54	57	54
63Hz	64	57	63	57	63	57	62	57	63	57	63	57
80Hz	55	48	51	48	51	48	51	48	50	48	53	48

測定日	2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
G	73	68	73	68	71	68	72	68	72	69	75	71
1Hz	59	43	52	41	52	41	60	46	60	46	59	47
1.25Hz	63	44	50	41	53	41	56	45	59	45	59	46
1.6Hz	54	42	50	41	50	41	58	46	59	46	57	45
2Hz	53	43	49	42	52	43	58	45	59	45	58	46
2.5Hz	52	44	53	45	52	44	56	46	58	46	56	47
3.15Hz	52	45	52	45	52	45	56	46	56	46	53	46
4Hz	54	47	54	47	53	47	57	47	53	47	54	47
5Hz	57	51	57	51	58	51	57	51	58	50	58	51
6.3Hz	61	56	62	57	62	57	62	57	62	57	63	57
8Hz	60	56	60	56	61	56	60	56	61	56	62	56
10Hz	60	55	62	55	61	55	61	55	61	55	62	56
12.5Hz	58	52	62	53	61	53	58	53	59	53	62	54
16Hz	63	55	60	55	59	55	61	56	60	55	62	57
20Hz	60	55	60	55	59	54	60	55	59	55	64	58
25Hz	59	55	59	55	60	56	59	54	63	58	66	58
31.5Hz	57	53	60	53	59	53	60	52	62	56	66	59
40Hz	56	51	56	51	57	51	56	51	65	55	69	59
50Hz	59	54	57	54	59	54	59	54	73	59	76	69
63Hz	62	57	64	58	63	58	64	58	75	62	77	69
80Hz	50	48	50	48	50	48	55	48	62	51	60	54

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日9時～20時
 測定場所：No.3 西側民家付近

測定場所	No.3 西側民家付近											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
測定時間帯	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
開始時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00	
終了時間	9:10		10:10		11:10		12:10		13:10		14:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
G	86	73	84	72	88	73	82	71	84	72	86	73
1Hz	73	61	71	54	76	62	74	61	75	59	79	63
1.25Hz	70	58	64	52	71	60	73	60	75	58	74	61
1.6Hz	70	56	62	51	71	58	71	57	70	55	76	59
2Hz	69	55	63	50	69	56	71	56	70	55	71	56
2.5Hz	69	53	62	49	71	55	67	54	71	54	67	54
3.15Hz	65	51	59	48	67	54	65	52	69	52	66	53
4Hz	64	51	61	49	66	53	66	52	66	51	64	53
5Hz	62	53	60	52	62	53	64	53	65	53	65	53
6.3Hz	67	54	62	53	63	54	61	53	63	53	64	53
8Hz	64	55	60	54	61	55	63	54	62	54	66	54
10Hz	66	55	66	54	73	56	62	54	65	55	67	55
12.5Hz	78	59	72	55	72	56	63	53	75	57	70	56
16Hz	73	60	74	58	71	59	67	57	72	59	73	59
20Hz	71	60	72	59	73	60	71	59	72	60	75	60
25Hz	71	61	71	61	83	63	73	61	71	61	73	62
31.5Hz	72	61	74	60	72	61	67	59	68	60	79	62
40Hz	71	61	73	61	74	62	71	60	73	64	74	63
50Hz	71	62	70	61	78	64	74	61	77	62	74	62
63Hz	81	65	75	62	74	63	74	62	77	63	74	62
80Hz	69	57	79	61	68	57	74	56	78	58	69	56

測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12	
	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
測定時間帯	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
開始時間	15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
終了時間	15:10		16:10		17:10		18:10		19:10		20:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
G	81	72	83	72	84	72	81	70	84	73	82	70
1Hz	68	52	72	61	83	70	83	67	87	75	78	63
1.25Hz	66	52	71	60	86	69	76	64	89	74	77	61
1.6Hz	66	51	71	58	80	68	80	63	85	72	71	59
2Hz	64	48	68	56	83	67	78	62	86	71	72	58
2.5Hz	62	48	70	56	83	65	75	60	86	70	72	58
3.15Hz	61	47	66	53	76	63	73	58	79	68	69	56
4Hz	58	48	66	53	74	62	70	57	80	67	67	55
5Hz	57	51	64	53	71	60	67	57	78	66	67	55
6.3Hz	57	52	62	53	70	59	64	55	76	65	66	55
8Hz	63	54	63	54	75	59	66	55	77	64	66	55
10Hz	70	55	64	54	69	57	64	54	73	62	68	55
12.5Hz	67	55	69	55	71	56	67	54	74	60	74	56
16Hz	69	58	68	57	68	57	70	56	72	59	71	56
20Hz	70	60	72	59	74	59	69	57	72	58	67	57
25Hz	69	60	72	60	74	61	71	60	69	60	70	60
31.5Hz	67	61	72	60	70	59	65	59	67	58	75	59
40Hz	72	62	81	62	71	60	68	60	74	60	72	58
50Hz	76	62	73	61	74	61	73	61	69	59	73	59
63Hz	76	63	76	63	73	62	80	63	68	59	72	60
80Hz	76	59	75	57	67	55	66	54	63	52	64	52

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

表 低周波音の調査結果
 測定期間：令和4年4月12日21時～13日8時
 測定場所：No.3 西側民家付近

測定場所	No.3 西側民家付近											
	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定日	2022/4/12		2022/4/12		2022/4/12		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
測定時間帯	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
開始時間	21:00		22:00		23:00		0:00		1:00		2:00	
終了時間	21:10		22:10		23:10		0:10		1:10		2:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	80	70	79	70	77	69	79	69	75	68	81
1Hz	53	40	56	42	50	41	48	37	68	50	55	40
1.25Hz	52	40	54	42	51	41	48	36	68	49	52	38
1.6Hz	57	41	55	42	49	39	50	38	68	48	48	38
2Hz	54	42	60	42	49	40	47	39	61	45	49	39
2.5Hz	53	43	55	42	50	41	49	40	60	44	49	40
3.15Hz	51	43	54	42	49	42	50	41	56	43	48	41
4Hz	55	47	56	46	52	46	52	46	57	46	54	46
5Hz	58	51	58	52	59	51	57	51	57	50	57	51
6.3Hz	58	52	57	52	58	53	57	52	58	52	58	52
8Hz	60	54	60	54	60	54	58	54	58	53	60	54
10Hz	66	54	61	53	61	53	59	53	59	53	60	53
12.5Hz	70	54	63	53	65	52	60	52	63	52	65	53
16Hz	68	56	68	55	65	55	61	55	62	55	70	56
20Hz	68	57	68	56	64	56	69	56	63	55	69	56
25Hz	69	60	71	60	67	61	64	60	62	58	70	59
31.5Hz	64	57	68	57	65	57	62	57	61	55	69	57
40Hz	75	59	67	56	64	56	61	55	69	54	63	55
50Hz	73	60	72	59	64	59	65	59	63	55	68	57
63Hz	71	61	71	59	68	60	73	60	64	59	72	59
80Hz	69	53	69	51	70	52	63	50	63	50	66	52

測定日	2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13		2022/4/13	
	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
測定時間帯	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
開始時間	3:00		4:00		5:00		6:00		7:00		8:00	
終了時間	3:10		4:10		5:10		6:10		7:10		8:10	
特性及び 中心周波数	最大値 (dB)	パワー平均値 (dB)										
	G	79	69	80	69	79	69	84	70	80	70	79
1Hz	56	44	54	40	53	40	60	44	62	47	59	49
1.25Hz	59	43	52	39	50	39	57	43	60	45	57	48
1.6Hz	55	42	49	39	48	39	58	43	56	45	59	48
2Hz	57	42	47	39	51	40	59	43	56	46	63	48
2.5Hz	56	42	47	40	51	40	62	44	55	44	62	47
3.15Hz	54	42	52	41	55	41	57	44	54	44	60	46
4Hz	53	46	54	45	53	46	60	46	56	46	60	48
5Hz	56	51	60	50	61	50	56	50	58	49	58	51
6.3Hz	57	52	59	52	58	52	58	52	56	51	58	52
8Hz	59	53	62	53	60	53	59	53	63	52	60	53
10Hz	64	53	67	54	66	54	63	53	62	53	62	54
12.5Hz	68	53	66	53	66	54	69	54	65	54	69	56
16Hz	67	55	70	56	66	55	73	57	69	56	66	57
20Hz	66	56	66	56	65	56	70	57	68	57	67	58
25Hz	63	58	67	58	70	58	72	60	68	61	67	59
31.5Hz	62	56	64	56	65	56	70	57	71	59	70	61
40Hz	68	55	64	54	77	58	69	56	74	63	75	61
50Hz	72	58	68	56	76	59	74	59	71	61	73	62
63Hz	65	59	68	60	67	60	69	60	72	63	76	63
80Hz	60	50	57	49	62	50	71	56	77	59	73	57

備考) G特性：ISO-7196に定められた周波数補正回路G特性で重みをつけた音圧レベル

5. 水象

地下水位の調査結果を次に示す。

表 地下水位の調査結果（4、5月）

測定期間：令和3年4月1日～5月31日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	4月1日	519.99	0.0
	4月2日	519.99	0.0
	4月3日	519.99	0.0
	4月4日	520.00	0.0
	4月5日	520.03	1.0
	4月6日	520.02	0.0
	4月7日	520.02	0.0
	4月8日	520.01	0.0
	4月9日	520.00	0.0
	4月10日	519.99	0.0
	4月11日	519.98	0.0
	4月12日	519.98	0.0
	4月13日	519.97	1.0
	4月14日	519.99	1.5
	4月15日	520.00	0.0
	4月16日	519.99	0.0
	4月17日	520.02	46.0
	4月18日	520.07	3.5
	4月19日	520.04	0.0
	4月20日	520.02	0.0
	4月21日	520.00	0.0
	4月22日	520.00	0.0
	4月23日	520.00	0.0
	4月24日	520.00	0.0
	4月25日	520.00	0.0
	4月26日	520.00	0.0
	4月27日	520.00	0.0
	4月28日	520.00	0.0
	4月29日	520.04	25.5
	4月30日	520.08	1.0
最高		520.08	—
最低		519.97	—

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	5月1日	520.05	5.5
	5月2日	520.06	1.0
	5月3日	520.04	0.0
	5月4日	520.03	0.0
	5月5日	520.03	0.0
	5月6日	520.04	0.0
	5月7日	520.04	0.0
	5月8日	520.03	0.0
	5月9日	520.03	0.0
	5月10日	520.03	0.0
	5月11日	520.03	0.0
	5月12日	520.03	0.0
	5月13日	520.03	0.0
	5月14日	520.03	0.0
	5月15日	520.04	0.0
	5月16日	520.05	4.5
	5月17日	520.13	17.5
	5月18日	520.23	1.5
	5月19日	520.20	0.5
	5月20日	520.19	17.5
	5月21日	520.40	45.5
	5月22日	520.30	0.0
	5月23日	520.19	0.0
	5月24日	520.15	0.0
	5月25日	520.13	1.0
	5月26日	520.12	0.0
	5月27日	520.14	26.5
	5月28日	520.13	0.5
	5月29日	520.11	0.0
	5月30日	520.10	0.0
	5月31日	520.08	0.0
最高		520.40	—
最低		520.03	—

表 地下水位の調査結果 (6、7月)

測定期間：令和3年6月1日～7月31日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	6月1日	520.08	0.0
	6月2日	520.07	0.0
	6月3日	520.08	0.0
	6月4日	520.11	24.5
	6月5日	520.11	0.5
	6月6日	520.09	0.0
	6月7日	520.08	0.0
	6月8日	520.06	0.0
	6月9日	520.05	0.0
	6月10日	520.05	0.0
	6月11日	520.05	0.0
	6月12日	520.04	0.0
	6月13日	520.06	7.5
	6月14日	520.08	29.5
	6月15日	520.07	4.0
	6月16日	520.06	14.0
	6月17日	520.08	8.0
	6月18日	520.06	0.0
	6月19日	520.07	9.0
	6月20日	520.09	0.5
	6月21日	520.06	0.0
	6月22日	520.06	0.0
	6月23日	520.06	4.5
	6月24日	520.05	0.5
	6月25日	520.05	0.5
	6月26日	520.05	5.0
	6月27日	520.07	12.5
	6月28日	520.06	16.0
	6月29日	520.15	24.0
	6月30日	520.10	0.0
最高		520.15	—
最低		520.04	—

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	7月1日	520.08	4.0
	7月2日	520.09	46.0
	7月3日	520.17	2.5
	7月4日	520.10	6.0
	7月5日	520.17	9.0
	7月6日	520.19	0.0
	7月7日	520.19	3.0
	7月8日	520.13	4.5
	7月9日	520.15	28.5
	7月10日	520.16	2.0
	7月11日	520.14	5.0
	7月12日	520.13	7.0
	7月13日	520.13	11.0
	7月14日	520.12	0.0
	7月15日	520.12	1.5
	7月16日	520.11	0.0
	7月17日	520.08	0.0
	7月18日	520.07	0.0
	7月19日	520.06	0.0
	7月20日	520.05	0.0
	7月21日	520.05	0.0
	7月22日	520.04	0.0
	7月23日	520.04	0.0
	7月24日	520.04	0.0
	7月25日	520.04	0.0
	7月26日	520.02	0.0
	7月27日	520.03	1.5
	7月28日	520.03	0.0
	7月29日	520.03	0.0
	7月30日	520.04	39.5
	7月31日	520.10	0.5
最高		520.19	—
最低		520.02	—

表 地下水位の調査結果 (8、9月)

測定期間：令和3年8月1日～9月30日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	8月1日	520.07	4.5
	8月2日	520.05	0.0
	8月3日	520.03	0.0
	8月4日	520.01	0.0
	8月5日	520.01	0.0
	8月6日	520.01	0.0
	8月7日	520.01	0.0
	8月8日	520.01	0.0
	8月9日	520.06	31.5
	8月10日	520.14	0.5
	8月11日	520.10	0.0
	8月12日	520.07	0.5
	8月13日	520.19	64.5
	8月14日	520.68	93.5
	8月15日	520.82	30.0
	8月16日	520.40	0.0
	8月17日	520.32	17.5
	8月18日	520.32	5.5
	8月19日	520.29	0.0
	8月20日	520.23	0.0
	8月21日	520.21	0.5
	8月22日	520.19	2.0
	8月23日	520.18	5.5
	8月24日	520.17	0.5
	8月25日	520.19	1.5
	8月26日	520.17	0.0
	8月27日	520.15	0.0
	8月28日	520.14	0.0
	8月29日	520.14	0.0
	8月30日	520.14	0.0
	8月31日	520.14	0.0
最高		520.82	—
最低		520.01	—

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	9月1日	520.14	4.0
	9月2日	520.19	27.5
	9月3日	520.16	2.0
	9月4日	520.18	20.0
	9月5日	520.18	0.5
	9月6日	520.15	0.0
	9月7日	520.13	0.0
	9月8日	520.14	4.5
	9月9日	520.20	18.5
	9月10日	520.16	0.0
	9月11日	520.15	0.5
	9月12日	520.14	0.0
	9月13日	520.13	0.0
	9月14日	520.12	0.0
	9月15日	520.12	0.0
	9月16日	520.11	0.0
	9月17日	520.10	0.5
	9月18日	520.10	6.5
	9月19日	520.09	0.5
	9月20日	520.09	0.0
	9月21日	520.08	0.0
	9月22日	520.08	7.5
	9月23日	520.09	0.0
	9月24日	520.08	0.0
	9月25日	520.08	0.0
	9月26日	520.09	19.5
	9月27日	520.08	0.5
	9月28日	520.07	0.0
	9月29日	520.07	0.0
	9月30日	520.06	0.0
最高		520.20	—
最低		520.06	—

表 地下水位の調査結果（10、11月）

測定期間：令和3年10月1日～11月30日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)	年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	10月1日	520.04	0.0	令和3年	11月1日	519.99	0.0
	10月2日	520.04	0.0		11月2日	519.99	0.0
	10月3日	520.03	0.0		11月3日	519.99	0.0
	10月4日	520.03	0.0		11月4日	519.99	0.0
	10月5日	520.02	0.0		11月5日	519.99	0.0
	10月6日	520.02	0.0		11月6日	519.98	0.0
	10月7日	520.02	0.0		11月7日	519.98	0.0
	10月8日	520.00	0.0		11月8日	519.98	0.0
	10月9日	520.01	0.0		11月9日	520.00	17.5
	10月10日	520.00	0.0		11月10日	519.99	0.5
	10月11日	520.00	0.0		11月11日	519.99	0.0
	10月12日	520.01	0.0		11月12日	519.99	0.0
	10月13日	520.01	6.0		11月13日	519.98	0.0
	10月14日	520.00	0.0		11月14日	519.98	0.0
	10月15日	520.00	0.0		11月15日	519.98	0.0
	10月16日	519.99	0.0		11月16日	519.98	0.0
	10月17日	520.02	10.5		11月17日	519.98	0.0
	10月18日	520.01	0.0		11月18日	519.98	0.0
	10月19日	520.00	0.0		11月19日	519.97	0.0
	10月20日	520.01	4.0		11月20日	519.97	0.0
	10月21日	520.00	0.0		11月21日	519.97	0.0
	10月22日	520.00	1.5		11月22日	519.99	19.0
	10月23日	520.00	0.0		11月23日	519.99	0.5
	10月24日	519.99	0.0		11月24日	519.97	0.0
	10月25日	519.99	7.0		11月25日	519.97	0.0
	10月26日	520.03	19.0		11月26日	519.97	0.0
	10月27日	520.00	0.0		11月27日	519.97	0.0
	10月28日	520.00	0.0		11月28日	519.96	0.0
	10月29日	520.00	0.0		11月29日	519.96	0.0
	10月30日	519.99	0.0		11月30日	519.96	0.0
	10月31日	519.99	0.0				
	最高	520.04	—		最高	520.00	—
	最低	519.99	—		最低	519.96	—

表 地下水位の調査結果 (12、1月)

測定期間：令和3年12月1日～令和4年1月31日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)	年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和3年	12月1日	520.02	27.0	令和4年	1月1日	519.95	0.0
	12月2日	519.99	0.0		1月2日	519.95	0.0
	12月3日	519.98	0.0		1月3日	519.95	0.0
	12月4日	519.97	0.0		1月4日	519.95	0.0
	12月5日	519.97	0.0		1月5日	519.95	0.0
	12月6日	519.97	4.0		1月6日	519.95	0.0
	12月7日	519.99	22.0		1月7日	519.95	0.0
	12月8日	520.03	10.0		1月8日	519.95	0.0
	12月9日	520.00	0.0		1月9日	519.95	0.0
	12月10日	519.98	0.0		1月10日	519.95	0.0
	12月11日	519.98	0.0		1月11日	519.95	3.5
	12月12日	519.98	0.0		1月12日	519.95	0.0
	12月13日	519.98	0.0		1月13日	519.95	3.0
	12月14日	519.97	0.0		1月14日	519.95	1.0
	12月15日	519.97	0.0		1月15日	519.94	0.0
	12月16日	519.97	0.0		1月16日	519.95	0.0
	12月17日	519.98	5.0		1月17日	519.95	0.5
	12月18日	519.97	0.0		1月18日	519.94	0.0
	12月19日	519.97	0.0		1月19日	519.94	0.0
	12月20日	519.97	0.0		1月20日	519.94	0.0
	12月21日	519.96	0.0		1月21日	519.94	0.0
	12月22日	519.96	0.0		1月22日	519.94	0.0
	12月23日	519.96	0.0		1月23日	519.94	0.0
	12月24日	519.96	0.0		1月24日	519.94	0.0
	12月25日	519.96	0.5		1月25日	519.94	0.0
	12月26日	519.96	0.0		1月26日	519.94	0.0
	12月27日	519.95	0.0		1月27日	519.94	0.0
	12月28日	519.96	0.0		1月28日	519.94	0.0
	12月29日	519.95	0.0		1月29日	519.94	0.0
	12月30日	519.96	1.5		1月30日	519.94	0.0
	12月31日	519.96	1.0		1月31日	519.94	0.0
	最高	520.03	—		最高	519.95	—
	最低	519.95	—		最低	519.94	—

表 地下水位の調査結果 (2、3月)

測定期間：令和4年2月1日～3月31日

測定場所：観測井

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和4年	2月1日	519.93	0.0
	2月2日	519.93	0.0
	2月3日	519.93	0.0
	2月4日	519.93	0.0
	2月5日	519.93	0.5
	2月6日	519.93	1.5
	2月7日	519.93	0.0
	2月8日	519.93	0.0
	2月9日	519.93	0.0
	2月10日	519.93	10.0
	2月11日	519.94	0.0
	2月12日	519.93	0.0
	2月13日	519.93	3.5
	2月14日	519.94	1.0
	2月15日	519.93	0.0
	2月16日	519.93	1.0
	2月17日	519.93	0.0
	2月18日	519.93	0.0
	2月19日	519.93	5.5
	2月20日	519.94	2.5
	2月21日	519.93	0.0
	2月22日	519.93	0.0
	2月23日	519.93	0.0
	2月24日	519.93	0.0
	2月25日	519.93	0.0
	2月26日	519.93	0.0
	2月27日	519.93	0.0
	2月28日	519.93	0.0
最高		519.94	—
最低		519.93	—

年月日		観測井 標高(m)	日降水量 (mm)
令和4年	3月1日	519.93	0.0
	3月2日	519.93	0.0
	3月3日	519.93	0.0
	3月4日	519.93	0.0
	3月5日	519.93	0.0
	3月6日	519.93	0.0
	3月7日	519.93	0.0
	3月8日	519.93	0.0
	3月9日	519.93	0.0
	3月10日	519.92	0.0
	3月11日	519.92	0.0
	3月12日	519.92	0.0
	3月13日	519.93	0.0
	3月14日	519.95	0.5
	3月15日	519.97	5.0
	3月16日	519.97	0.0
	3月17日	519.97	0.0
	3月18日	519.97	35.0
	3月19日	520.00	2.5
	3月20日	519.98	0.0
	3月21日	519.98	0.0
	3月22日	519.98	6.5
	3月23日	519.98	0.5
	3月24日	519.97	0.0
	3月25日	519.96	0.0
	3月26日	519.97	10.5
	3月27日	520.01	0.0
	3月28日	519.99	0.0
	3月29日	519.99	0.0
	3月30日	519.99	0.0
	3月31日	519.99	0.0
最高		520.01	—
最低		519.92	—

6. 悪臭

(1) 特定悪臭物質

特定悪臭物質（22 物質）の調査結果を次に示す。

表 悪臭（特定悪臭物質）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：対象事業実施区域 風上

単位：ppm

計量項目	計量結果	計量方法
アンモニア	0.2 未満	環境庁告示第9号 別表第1
メチルメルカプタン	0.0002 未満	環境庁告示第9号 別表第2
硫化水素	0.0002 未満	
硫化メチル	0.0002 未満	
二硫化メチル	0.0002 未満	
トリメチルアミン	0.001 未満	
アセトアルデヒド	0.01 未満	環境庁告示第9号 別表第4
プロピオンアルデヒド	0.02 未満	
ノルマルブチルアルデヒド	0.003 未満	
イソブチルアルデヒド	0.008 未満	
ノルマルバレールアルデヒド	0.004 未満	
イソバレールアルデヒド	0.001 未満	
イソブタノール	0.05 未満	
酢酸エチル	0.3 未満	環境庁告示第9号 別表第6
メチルイソブチルケトン	0.2 未満	
トルエン	0.9 未満	環境庁告示第9号 別表第7
スチレン	0.01 未満	
キシレン	0.1 未満	
プロピオン酸	0.0001 未満	環境庁告示第9号 別表第8
ノルマル酪酸	0.0001 未満	
ノルマル吉草酸	0.0001 未満	
イソ吉草酸	0.0001 未満	

< 気象状況 >

観測地点	観測時刻	天候	気温 (℃)	湿度 (%)	風向 (16方位)	風速 (m/s)	気圧 (kPa)
対象事業実施区域 風上	12:57	晴れ	31.8	49	北～北西	1.7	95.0

表 悪臭（特定悪臭物質）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：対象事業実施区域 風下

単位：ppm

計量項目	計量結果	計量方法
アンモニア	0.2 未満	環境庁告示第9号 別表第1
メチルメルカプタン	0.0002 未満	環境庁告示第9号 別表第2
硫化水素	0.0002 未満	
硫化メチル	0.0002 未満	
二硫化メチル	0.0002 未満	
トリメチルアミン	0.001 未満	
アセトアルデヒド	0.01 未満	環境庁告示第9号 別表第4
プロピオンアルデヒド	0.02 未満	
ノルマルブチルアルデヒド	0.003 未満	
イソブチルアルデヒド	0.008 未満	
ノルマルバレルアルデヒド	0.004 未満	
イソバレルアルデヒド	0.001 未満	
イソブタノール	0.05 未満	
酢酸エチル	0.3 未満	環境庁告示第9号 別表第6
メチルイソブチルケトン	0.2 未満	
トルエン	0.9 未満	
スチレン	0.01 未満	
キシレン	0.1 未満	
プロピオン酸	0.0001 未満	環境庁告示第9号 別表第8
ノルマル酪酸	0.0001 未満	
ノルマル吉草酸	0.0001 未満	
イソ吉草酸	0.0001 未満	

< 気象状況 >

観測地点	観測時刻	天候	気温 (℃)	湿度 (%)	風向 (16方位)	風速 (m/s)	気圧 (kPa)
対象事業実施区域 風下	11:54	晴れ	30.6	50	北～北西	0.6	95.1

(2) 臭気指数

臭気指数の調査結果を次に示す。

表 悪臭（臭気指数）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：対象事業実施区域 風上

業 種	サービス業その他 (ごみ焼却場)	試 料 名 称	環境試料
調 査 地 点	対象事業実施区域 風上		
パネルが感じた臭質	特定できない		
試 料 採 取 日	2021年8月30日	判 定 試 験 日	2021年8月30日
試 料 採 取 時 刻	12:45	判 定 試 験 時 刻	16:27
試 料 採 取 者	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)	オ ペ レ ー タ	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)

臭気指数(臭気濃度)	10 未 満 (10 未 満)				
原試料注入量 (ml)	300				
希 積 倍 数 (M)	10				
回 数	1	2	3		
パ ネ ル	A	○	○	×	
	B	○	○	○	
	C	○	×	○	
	D	×	○	○	
	E	×	×	×	
	F	×	×	○	
正 解 数 (a) ○	3	3	4		
不正解数 (b) ×	3	3	2		
男：4名 女：2名	平均正解率(r_1): 0.56		平均正解率(r_0):		

表 悪臭（臭気指数）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：対象事業実施区域 風下

業 種	サービス業その他 (ごみ焼却場)	試 料 名 称	環境試料
調 査 地 点	対象事業実施区域 風下		
パネルが感じた臭質	特定できない		
試料採取日	2021年8月30日	判定試験日	2021年8月30日
試料採取時刻	11:53	判定試験時刻	17:19
試料採取者	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)	オペレータ	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)

臭気指数(臭気濃度)	10 未満 (10 未満)							
原試料注入量 (ml)	300							
希釈倍数 (M)	10							
回数	1	2	3					
パ ネ ル	A	○	×	×				
	B	×	×	×				
	C	○	×	×				
	D	○	○	○				
	E	○	○	×				
	F	×	×	○				
正解数 (a) ○	4	2	2					
不正解数 (b) ×	2	4	4					
男：4名 女：2名	平均正解率(r_1): 0.44			平均正解率(r_0):				

表 悪臭（臭気指数）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

業種	サービス業その他 (ごみ焼却場)	試料名称	環境試料
調査地点	穂高クリーンセンター南西側		
パネルが感じた臭質	特定できない		
試料採取日	2021年8月30日	判定試験日	2021年8月30日
試料採取時刻	9:56	判定試験時刻	16:00
試料採取者	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)	オペレータ	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)

臭気指数(臭気濃度)		11			13					
原試料注入量 (ml)		300			30					
希釈倍数 (M)		10			100					
回数		1	2	3	1	2	3			
パネル	A	○	×	○	×	×	×			
	B	×	○	×	×	×	○			
	C	○	○	○	○	×	○			
	D	○	○	×	×	○	×			
	E	○	○	×	×	×	×			
	F	×	×	○	×	×	○			
正解数 (a) ○		4	4	3	1	1	3			
不正解数 (b) ×		2	2	3	5	5	3			
男：4名 女：2名		平均正解率(r_1): 0.61			平均正解率(r_0): 0.28					

表 悪臭（臭気指数）の調査結果

測定期間：令和3年8月30日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

業 種	サービス業その他 (ごみ焼却場)	試 料 名 称	環境試料
調 査 地 点	穂高クリーンセンター 東側		
パネルが感じた臭質	特定できない		
試 料 採 取 日	2021年8月30日	判 定 試 験 日	2021年8月30日
試 料 採 取 時 刻	10:20	判 定 試 験 時 刻	17:07
試 料 採 取 者	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)	オ ペ レ ー タ	高木 孝幸 (臭気判定士 第 3083C)

臭気指数(臭気濃度)	10 未 満 (10 未 満)									
原 試 料 注 入 量 (ml)	300									
希 積 倍 数 (M)	10									
回 数	1	2	3							
パ ネ ル	A	○	×	×						
	B	×	×	×						
	C	×	○	×						
	D	○	○	○						
	E	×	×	○						
	F	○	○	×						
正 解 数 (a) ○	3	3	2							
不 正 解 数 (b) ×	3	3	4							
男：4名 女：2名	平均正解率(r_1): 0.44			平均正解率(r_0):						

7. 土壌汚染

土壌汚染の調査結果を次に示す。

表 土壌（ダイオキシン類）の調査結果

測定期間：令和4年3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター南西側

C23017001S:穂高クリーンセンター 南西側

同族体・異性体		実測濃度 pg/g (乾重あたり)	試料における 定量下限 pg/g (乾重あたり)	試料における 検出下限 pg/g (乾重あたり)	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/g (乾重あたり)	参考値 pg-TEQ/g (乾重あたり)
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	290	0.6	0.2	-	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	98	0.6	0.2	-	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.6	0.2	1	0	0.1
	1,2,3,7,8-PeCDD	0.7	0.6	0.2	1	0.7	0.7
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	(1.0)	1.1	0.3	0.1	0	0.10
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	2.4	0.9	0.3	0.1	0.24	0.24
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	2.1	1.0	0.3	0.1	0.21	0.21
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	68	1.2	0.3	0.01	0.68	0.68
	OCDD	1100	1.9	0.6	0.0003	0.33	0.33
	PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	(0.6)	0.7	0.2	-	-
2,3,7,8-TeCDF		(0.5)	0.7	0.2	0.1	0	0.05
1,2,3,7,8-PeCDF		(0.4)	0.6	0.2	0.03	0	0.012
2,3,4,7,8-PeCDF		0.6	0.6	0.2	0.3	0.18	0.18
1,2,3,4,7,8-HxCDF		1.2	0.9	0.3	0.1	0.12	0.12
1,2,3,6,7,8-HxCDF		(0.8)	1.0	0.3	0.1	0	0.08
1,2,3,7,8,9-HxCDF		(0.4)	1.1	0.3	0.1	0	0.04
2,3,4,6,7,8-HxCDF		1.5	0.9	0.3	0.1	0.15	0.15
1,2,3,4,6,7,8-HpCDF		6.1	0.9	0.3	0.01	0.061	0.061
1,2,3,4,7,8,9-HpCDF		1.1	1.1	0.3	0.01	0.011	0.011
OCDF	16	2.1	0.6	0.0003	0.0048	0.0048	
PCDDs	TeCDDs	400	-	-	-	-	-
	PeCDDs	50	-	-	-	-	-
	HxCDDs	22	-	-	-	-	-
	HpCDDs	120	-	-	-	-	-
	OCDD	1100	-	-	-	-	-
	Total PCDDs	1700	-	-	-	2.2	2.4
PCDFs	TeCDFs	23	-	-	-	-	-
	PeCDFs	14	-	-	-	-	-
	HxCDFs	15	-	-	-	-	-
	HpCDFs	16	-	-	-	-	-
	OCDF	16	-	-	-	-	-
	Total PCDFs	83	-	-	-	0.53	0.71
Total (PCDDs+PCDFs)		1800	-	-	-	2.7	3.1
DL-PCBs	#81 3,4,4',5-TeCB	(0.3)	1.0	0.3	0.0003	0	0.00009
	#77 3,3',4,4'-TeCB	4.3	0.8	0.3	0.0001	0.00043	0.00043
	#126 3,3',4,4',5-PeCB	2.2	0.9	0.3	0.1	0.22	0.22
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	(0.5)	1.1	0.3	0.03	0	0.015
	#123 2',3,4,4',5-PeCB	1.1	0.5	0.1	0.00003	0.000033	0.000033
	#118 2,3',4,4',5-PeCB	18	0.9	0.3	0.00003	0.00054	0.00054
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	10	0.6	0.2	0.00003	0.00030	0.00030
	#114 2,3,4,4',5-PeCB	0.28	0.20	0.06	0.00003	0.0000084	0.0000084
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	3.1	0.3	0.1	0.00003	0.000093	0.000093
	#156 2,3,3',4,4',5-HxCB	4.2	1.0	0.3	0.00003	0.000126	0.000126
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	2.0	1.0	0.3	0.00003	0.000060	0.000060
	#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	(1.0)	1.1	0.3	0.00003	0	0.000030
	non-ortho DL-PCBs	7.4	-	-	-	0.22	0.24
mono-ortho DL-PCBs	40	-	-	-	0.0012	0.0012	
Total DL-PCBs		48	-	-	-	0.22	0.24
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		1800	-	-	-	2.9	3.3

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5-PeCB(#114)は3,3',4,4',5-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中のNDは検出下限未満である。

④ 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出した値であり、参考値は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の1/2の値を用いて算出した値である。

強熱減量 (3.1%)

水分含量 (0.7%)

表 土壌（ダイオキシン類）の調査結果

測定期間：令和4年3月1日

測定場所：穂高クリーンセンター東側

C23017002S:穂高クリーンセンター 東側

同族体・異性体		実測濃度 pg/g (乾重あたり)	試料における 定量下限 pg/g (乾重あたり)	試料における 検出下限 pg/g (乾重あたり)	TEF*	毒性等量 pg-TEQ/g (乾重あたり)	参考値 pg-TEQ/g (乾重あたり)
PCDDs	1,3,6,8-TeCDD	7500	0.7	0.2	-	-	-
	1,3,7,9-TeCDD	2800	0.7	0.2	-	-	-
	2,3,7,8-TeCDD	2.0	0.7	0.2	1	2.0	2.0
	1,2,3,7,8-PeCDD	19	0.5	0.2	1	19	19
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	27	0.9	0.3	0.1	2.7	2.7
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	61	1.1	0.3	0.1	6.1	6.1
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	56	1.3	0.4	0.1	5.6	5.6
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	1600	1.3	0.4	0.01	16	16
	OCDD	27000	1.6	0.5	0.0003	8.1	8.1
PCDFs	1,2,7,8-TeCDF	2.6	0.6	0.2	-	-	-
	2,3,7,8-TeCDF	2.1	0.6	0.2	0.1	0.21	0.21
	1,2,3,7,8-PeCDF	2.1	0.6	0.2	0.03	0.063	0.063
	2,3,4,7,8-PeCDF	3.9	0.5	0.2	0.3	1.17	1.17
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	10	0.8	0.2	0.1	1.0	1.0
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	6.5	0.9	0.3	0.1	0.65	0.65
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	(0.4)	1.1	0.3	0.1	0	0.04
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	14	0.9	0.3	0.1	1.4	1.4
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	80	1.2	0.3	0.01	0.80	0.80
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	16	1.2	0.3	0.01	0.16	0.16
	OCDF	320	1.8	0.5	0.0003	0.096	0.096
	PCDDs	TeCDDs	10000	-	-	-	-
PeCDDs		1100	-	-	-	-	-
HxCDDs		520	-	-	-	-	-
HpCDDs		3000	-	-	-	-	-
OCDD		27000	-	-	-	-	-
Total PCDDs	41000	-	-	-	60	60	
PCDFs	TeCDFs	410	-	-	-	-	-
	PeCDFs	130	-	-	-	-	-
	HxCDFs	140	-	-	-	-	-
	HpCDFs	280	-	-	-	-	-
	OCDF	320	-	-	-	-	-
	Total PCDFs	1300	-	-	-	5.5	5.6
Total (PCDDs+PCDFs)		43000	-	-	-	65	65
DL-PCBs	#81 3,4,4',5'-TeCB	2.3	1.0	0.3	0.0003	0.00069	0.00069
	#77 3,3',4,4'-TeCB	26	1.0	0.3	0.0001	0.0026	0.0026
	#126 3,3',4,4',5'-PeCB	5.3	0.8	0.3	0.1	0.53	0.53
	#169 3,3',4,4',5,5'-HxCB	1.8	1.1	0.3	0.03	0.054	0.054
	#123 2',3,4,4',5'-PeCB	3.3	1.2	0.4	0.00003	0.000099	0.000099
	#118 2,3',4,4',5'-PeCB	80	1.3	0.4	0.00003	0.00240	0.00240
	#105 2,3,3',4,4'-PeCB	55	1.3	0.4	0.00003	0.00165	0.00165
	#114 2,3,4,4',5'-PeCB	2.1	1.4	0.4	0.00003	0.000063	0.000063
	#167 2,3',4,4',5,5'-HxCB	6.0	1.2	0.4	0.00003	0.000180	0.000180
	#156 2,3,3',4,4',5'-HxCB	13	1.8	0.5	0.00003	0.00039	0.00039
	#157 2,3,3',4,4',5'-HxCB	5.0	1.3	0.4	0.00003	0.000150	0.000150
	#189 2,3,3',4,4',5,5'-HpCB	2.8	1.2	0.4	0.00003	0.000084	0.000084
	non-ortho DL-PCBs	35	-	-	-	0.59	0.59
mono-ortho DL-PCBs	170	-	-	-	0.0050	0.0050	
Total DL-PCBs		200	-	-	-	0.59	0.59
Total (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)		43000	-	-	-	66	66

* TEF: Toxicity Equivalency Factor, 毒性等価係数(WHO-TEF(2006))

備考: ① 2,3,4,6,7,8-HxCDFは1,2,3,6,8,9-HxCDFと、2,3,4,4',5'-PeCB(#114)は3,3',4,5,5'-PeCB(#127)とクロマトグラム上で分離できていないため、それらを含んだ濃度である。

② 異性体の実測濃度中の括弧付きの数値は検出下限以上定量下限未満の濃度を示す。

③ 実測濃度中のNDは検出下限未満である。

④ 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出した値であり、参考値は、検出下限以上の実測濃度はそのままの値を用い、検出下限未満の実測濃度は検出下限の1/2の値を用いて算出した値である。

強熱減量 (9.1%)

水分含量 (1.9%)